

(様式 4)

一般社団法人 薬学教育評価機構

(調 書)

薬学教育評価 基礎資料

(平成 2 6 年 5 月 1 日現在)

東京理科大学薬学部

「基礎資料」作成上の注意事項

- 1 記述の対象となる年度が提示されていない場合は、自己点検・評価対象年度の5月1日現在の数値を記述してください。平成27年度に第三者評価を受ける大学の場合は、自己点検・評価対象年度の平成26年5月1日となります。
- 2 記述に際し、各シートの[注]を確認し、作成してください。
- 3 各シートの表中の表記例は、消去して作成してください。また、各シートに付されている[注]は消去しないでください。
- 4 各表に記入する数値について小数点以下の端数が出る場合、特に指示のない限り小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで表示してください。
- 5 説明を付す必要があると思われるものについては、備考欄に記述するか、欄外に大学独自の注をつけて説明を記してください。
- 6 提出形態について
 - ・基本的にA4判で作成してください。
 - ・表紙および目次を作成し、全体に通しページを付してください。
 - ・両面印刷して加除が可能な体裁でファイル綴じにした印刷物を提出してください。
 - ・カラー表記のあるページは、カラーで印刷してください。
 - ・PDFファイルに変換したデータを自己点検・評価書と同じCD-Rに保存してください。

薬学教育評価 基礎資料

(目次)

	資料概要	ページ
基礎資料 1	学年別授業科目	1
基礎資料 2	修学状況（在籍学生数・休学退学者数・学士課程修了状況）	1 1
基礎資料 3	薬学教育モデル・コアカリキュラム等のSBOsに該当する科目	1 4
基礎資料 4	カリキュラムマップ	7 0
基礎資料 5	語学教育の要素	8 0
基礎資料 6	4 年次の実務実習事前学習スケジュール	8 1
基礎資料 7	学生受入状況について	8 2
基礎資料 8	教員・事務職員数	8 3
基礎資料 9	専任教員年齢構成	8 4
基礎資料10	専任教員の担当授業科目および時間数	8 6
基礎資料11	卒業研究の配属状況	9 3
基礎資料12	講義室等の数と面積	9 4
基礎資料13	学生閲覧室等の規模	9 5
基礎資料14	図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況	9 6
基礎資料15	専任教員の教育・研究業績	9 7

		1 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数 薬学科受講者数(全体数)	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	英語表現1		前期・後期	36-37	3	110 (110)	コ	S		2
	英語読解1		前期・後期	29-34	3	95 (95)	コ			2
	(択)Aドイツ語1		前期・後期	25	1	25 (25)	コ			2
	(択)Aドイツ語2		前期・後期	25	1	25 (25)	コ			2
	(択)Aフランス語1		前期・後期	27	1	27 (56)	コ			2
	(択)Aフランス語2		前期・後期	23	1	23 (51)	コ			2
	(択)A中国語1		前期・後期	57	1	57 (57)	コ			2
	(択)A中国語2		前期・後期	56	1	56 (56)	コ			2
	(択)English Communication A		前期・後期	1	1	1 (13)	コ			2
	(択)倫理学1		前期	106	1	106 (106)	コ			2
	(択)倫理学2		後期	106	1	106 (106)	コ			2
	(択)心理学1		前期	106	1	106 (106)	コ			2
	(択)心理学2		後期	108	1	108 (108)	コ			2
	(択)経済学1		前期	9	1	9 (19)	コ	S		2
	(択)経済学2		後期	6	1	6 (15)	コ	S		2
	(択)社会学1		前期	5	1	5 (7)	コ			2
	(択)社会学2		後期	4	1	4 (7)	コ			2
	(択)健康・スポーツ科学		後期	35	1	35 (55)	コ			2
	(択)健康スポーツ(実技)1		前期	88	1	88 (208)			他	1
	(択)健康スポーツ(実技)2		後期	84	1	84 (196)			他	1
	(択)シーズンスポーツ(実技)		野外授業	1	1	1 (1)			他	1
	(択)セミナーハウス特別講義(1・2年次同時開講)		集中	11-27	2	38 (56)	コ	S		2
薬学専門教育	基礎生化学		前期	110	1	110 (110)	コ			1
	早期体験学習		前期・後期	110	1	110 (110)		S		1
	ヒューマンイズム・薬学入門1		前期	110	1	110 (252)		S		2
	薬系実験安全学		前期	117	1	117 (261)	コ			1
	(択)数学1		前期	3	1	3 (6)	コ			2
	(択)物理学1		前期	105	1	105 (105)	コ			2
	(択)生物学1		前期	34	1	34 (149)	コ			1
	(択)数学2		後期	2	1	2 (7)	コ			2
	(択)物理学2		後期	59	1	59 (59)	コ			2
	(択)生命科学概論		後期	107	1	107 (245)	コ			2
	薬用植物学		前期	111	1	111 (111)	コ			2
	基礎化学		前期	111	1	111 (254)	コ			2
	有機化学1		前期	125	1	125 (125)	コ			2
	薬品物理化学1		後期	110	1	110 (110)	コ			2
	分析化学1		後期	113	1	113 (113)	コ			2
	有機化学2		後期	110	1	110 (110)	コ			2
	機能形態学1		後期	110	1	110 (250)	コ			2
	生化学1		後期	110	1	110 (117)	コ			2
実習	機能形態学実習		前期	4-5	1	110 (250)				1
	薬用植物学実習		前期	4	1	110 (131)				1
	分析化学実習1		後期	2-3	1	110 (250)				1
演習	情報処理・演習2		後期	110	1	110 (110)				2
	情報処理・演習1		前期	110	1	110 (110)				2
	有機化学1演習		前期	125	1	125 (125)				1
	有機化学2演習		後期	7-110	1	117 (277)				1
単位数の合計							(必須科目)			45
							(選択科目)			37
							合計			82

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S その他=他

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。

- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。

- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育

教養教育科目

語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力 を身につけるための科目

「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1 - 2) 学年別授業科目

		2 年 次								
		科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数 薬学科受講者数(全体数)	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	英語表現2	前期・後期	29-31	3	91 (91)	コ	S		2	
	英語読解2	前期・後期	29-34	3	95 (95)	コ			2	
	(択)Bドイツ語	前期・後期	2	1	2 (3)	コ			2	
	(択)Bフランス語	前期・後期	2	1	2 (3)	コ			2	
	(択)English Communication B	前期・後期	2	1	2 (4)	コ			2	
	(択)English Communication C	集中				コ			2	
	(択)哲学1	前期	1	2	2 (11)	コ			2	
	(択)哲学2	後期				コ			2	
	(択)科学史1	前期	0	1	0 (6)	コ			2	
	(択)科学史2	後期				コ			2	
	(択)法学1	前期	10	1	10 (30)	コ			2	
	(択)法学2	後期	3	1	3 (15)	コ			2	
	(択)スポーツ方法(実技)1	前期	31	1	31 (85)			他	1	
	(択)スポーツ方法(実技)2	後期	26	1	26 (71)			他	1	
	(択)シーズンスポーツ(実技)	野外授業						他	1	
(択)セミナーハウス特別講義(1・2年次同時開講)	集中	11-27	2	38 (56)	コ	S		2		
薬学専門教育	ヒューマニズム・薬学入門2	前期	101	1	101 (115)	コ	S		2	
	(択)統計学・推計学	前期	95	1	95 (195)	コ			2	
	(択)薬学史	前期	13	1	13 (28)	コ			2	
	分析化学2	前期	97	1	97 (195)	コ			2	
	生薬学	前期	104	1	104 (147)	コ			2	
	機能形態学2	前期	99	1	99 (203)	コ			2	
	有機化学3	前期	109	1	109 (109)	コ			2	
	薬品物理化学2	前期	95	1	95 (193)	コ			2	
	生化学2	前期	98	1	98 (203)	コ			2	
	微生物学1	前期	95	1	95 (194)	コ			2	
	スペクトル解析	後期	103	1	103 (103)	コ			2	
	漢方概論	後期	95	1	95 (172)	コ			2	
	分子生物学	後期	95	1	95 (192)	コ			2	
	微生物学2	後期	97	1	97 (200)	コ			2	
	栄養と健康	後期	96	1	96 (186)	コ			2	
	病態と疾病(総論)	後期	96	1	96 (186)	コ			2	
	薬理学総論	後期	96	1	96 (196)	コ			2	
	(択)実践社会薬学(2・3・4年次同時開講)	前期	30	1	30 (30)	コ			2	
	(択)薬品物理化学3	後期	96	1	96 (195)	コ			2	
	(択)有機合成化学1	後期	98	1	98 (197)	コ			2	
実習	有機化学実習	前期	2	1	94 (189)				1	
	生物化学実習1	前期	4	1	95 (192)				1	
	(択)分析化学実習2	後期	4-7	1	37 (78)				1	
	(択)生物化学実習2	後期	4	1	58 (112)				1	
演習										
単位数の合計							(必須科目)			42
							(選択科目)			31
							合計			73

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S その他=他

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義=コ、 PBL/SGD=S

医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力 を身につけるための科目

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1－3) 学年別授業科目

	3 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修有数 薬学科受講 者数(全体 数)	授業方法			単位数
教養教育・語学教育	(択)English Communication C	集中				コ			2
	(択)実践薬学英語	前期	4	1	4 (8)	コ			1
薬学専門教育	放射化学	前期	102	1	102 (211)	コ			2
	医薬化学	前期	100	1	100 (207)	コ			2
	医薬品情報学	前期	96	1	96 (127)	コ			2
	免疫学	前期	96	1	96 (200)	コ			2
	薬理学1	前期	96	1	96 (200)	コ			2
	薬剤学	前期	97	1	97 (201)	コ			2
	生活環境と健康	前期	97	1	97 (186)	コ			2
	薬物治療学1	前期	97	1	97 (194)	コ			2
	疾病と病態1	前期	97	1	97 (141)	コ			2
	天然物化学	前期	101	1	101 (206)	コ			2
	疾病と病態2	後期	97	1	97 (124)	コ			2
	薬物動態学	後期	97	1	97 (202)	コ			2
	薬理学2	後期	98	1	98 (205)	コ			2
	製剤学	後期	98	1	98 (205)	コ			2
	化学物質の生体影響	後期	97	1	97 (165)	コ			2
	薬物治療学2	後期	97	1	97 (148)	コ			2
	(択)実践社会薬学 (2・3・4年次同時開講)	前期	30	1	30 (30)	コ			2
	(択)有機合成化学2	前期	48	1	48 (133)	コ			2
	(択)分子情報化学・演習1	前期	82	1	82 (167)	コ			2
	(択)生体機能化学	前期	72	1	72 (176)	コ			2
	(択)分子細胞生物学	前期	36	1	36 (105)	コ			2
	(択)生物統計学	前期	23	1	23 (64)	コ			2
	(択)コミュニケーション入門	後期	44	1	44 (44)	コ	S		2
	(択)薬効物理化学	後期	11	1	11 (20)	コ			2
	(択)創薬化学	後期	64	1	64 (138)	コ			2
	(択)天然物薬品学	後期	8	1	8 (113)	コ			2
	(択)界面化学	後期	43	1	43 (91)	コ			2
	(択)毒性学	後期	20	1	20 (45)	コ			2
	実習	薬品物理化学実習	前期	4-7	1	96 (200)			
薬剤学実習		前期	2-4	1	96 (132)				1
薬理学実習		後期	4	1	96 (140)				1
(択)天然物化学実習		前期	2-3	1	7 (19)				1
(択)放射性医薬品学実習		後期	6-8	1	9 (29)				1
(択)医薬品合成化学実習		後期	2	1	11 (67)				1
演習	(択)薬学情報科学・演習	後期	73	1	73 (73)				2
	(択)分子情報化学・演習2	後期	20	1	20 (62)				2
単位数の合計						(必須科目)			38
						(選択科目)			31
						合計			69

(凡例)

講義=コ PBL/SGD=S その他=他

[注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。

2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

4 実習は1組（実習グループ）の人数を記入してください。

5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。

「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S

6 行は適宜加除し、記入してください。

(基礎資料 1－4) 学年別授業科目

	4 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数 薬学科受講者数(全体数)	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	調剤学1	前期	80	1	80 (84)	コ			2
	調剤学2	前期	80	1	80 (84)	コ			2
	ファーマコインフォマティクス	前期	79	1	79 (158)	コ			2
	コミュニケーション論	前期	78	1	78 (82)	コ	S		2
	薬物代謝学	前期	78	1	78 (82)	コ			1
	処方解析概論	前期	78	1	78 (81)	コ			1
	感染症・がんの治療薬	前期	79	1	79 (82)	コ			2
	患者情報	前期	77	1	77 (79)	コ	S		1
	集団の健康と疾病予防	前期	79	1	79 (83)	コ			2
	薬剤師と社会	前期	78	1	78 (82)	コ			2
	薬剤師と法律	前期	84	1	84 (87)	コ			2
	医療の倫理	後期	80	1	80 (84)	コ			2
	薬物治療の個別化	後期	81	1	81 (84)	コ			2
	セルフメディケーションとOCT	後期	80	1	80 (83)	コ	S		1
	(択)実践社会薬学 (2・3・4年次同時開講)	前期	30	1	30 (30)	コ			2
	(択)DDS	前期	16	1	16 (20)	コ			1
	(択)医薬品分析学	後期	7	1	7 (9)	コ			2
	(択)特別講義1	後期	51	1	51 (52)	コ			1
	(択)バイオインフォマティクス	後期	6	1	6 (110)	コ			2
実習	衛生薬学実習	前期	2-3	1	78 (82)				1
	医療薬学実習	後期	2-8	1	80 (86)				5
演習									
単位数の合計						(必須科目)			30
						(選択科目)			8
						合計			38

(凡例)

講義＝コ PBL/SGD＝S その他＝他

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1－5) 学年別授業科目

	5 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修有数 薬学科受講 者数(全体 数)	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	医薬品の開発	前期	77	1	77 (81)	コ			1
	最新薬剤師業務	後期	77	1	77 (77)	コ	S		2
	薬学総合研究	前期・後期	1-7	24	77 (77)	コ	S		
	(択)実践EBM	前期	5	1	5 (5)	コ	S		1
	(択)創薬ゲノム科学	後期	0	1	0 (106)	コ			2
	(択)患者心理・カウンセリング	後期	5	1	5 (5)	コ	S		1
実習	病院実習	前期・後期	4-40	3	79 (79)				10
	薬局実習	前期・後期	1-41	3	78 (78)				10
演習	医療統計と演習	前期	78	1	78 (81)				2
単位数の合計						(必須科目)			25
						(選択科目)			4
						合計			29

(凡例)

講義＝コ PBL/SGD＝S その他＝他

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマニズム教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定して作成してください。
「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S
6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1－6) 学年別授業科目

	6 年 次								
	科目名	前期・後期	1クラスあたりの人数	開講クラス数	履修者数 薬学科受講者数(全体数)	授業方法			単位数
教養教育・語学教育									
薬学専門教育	薬学総合研究	前期・後期	1-8	22	74 (74)	コ			6
	特別講義2	後期	86	1	86 (86)	コ			3
	(択)がんの診断と治療	前期	0	1	0 (53)	コ			2
	(択)薬物治療最前線	前期	11	1	11 (11)	コ	S		1
	(択)ゲノムインフォマティクス	前期	0	1	0 (2)	コ			2
実習									
演習	(択)薬学総合演習	前期	1-8	7	27 (27)				2
単位数の合計						(必須科目)			9
						(選択科目)			7
						合計			16

(凡例)

講義＝コ PBL/SGD＝S その他＝他

- [注] 1 教養教育・語学教育は、基本的に履修者がいる科目について記入してください。
- 2 上記の「科目の識別」にそって、該当する科目に「色」を付してください。

ヒューマンズ教育・医療倫理教育
教養教育科目
語学教育科目
医療安全教育科目
生涯学習の意欲醸成科目
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目

- 3 選択科目については、頭に「(択)」と記してください。
- 4 実習は1組(実習グループ)の人数を記入してください。
- 5 表には下の「授業方法」にそって、主な方法を最大3種類まで記入してください。下記の2つ以外は、大学独自で凡例を設定してください。
- 「授業方法」の表記：講義＝コ、 PBL/SGD＝S
- 6 行は適宜加減し、記入してください。

(基礎資料 1－7) 学年別授業科目

(基礎資料1－1)から(基礎資料1－6)までの結果から下記の(1)および(2)を記入してください。

(1) 下表の「合計科目数」および「単位数」を記入してください。

科目の識別	合計科目数	合計単位数
ヒューマニズム教育・医療倫理教育	29	75
教養教育科目	23	40
語学教育科目	17	33
医療安全教育科目	11	38
生涯学習の意欲醸成科目	5	9
コミュニケーション能力および自己表現能力を身につけるための科目	7	15

(2) 学年別授業科目の表から前期と後期の単数を合算して記入してください。

学 年	単位数		
	必須科目	選択科目	合計
1 年 次	45	37	82
2 年 次	42	31	73
3 年 次	38	31	69
4 年 次	30	8	38
5 年 次	25	4	29
6 年 次	9	7	16
合計	189	118	307

(基礎資料 2 - 1) 在籍学生数

			1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	5 年次	6 年次	合計	
入学年度 における	入学定員数		100	100	80	80	80	80	520	A
	編入定員数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	B
	入学者数		109	94	104	79	86	75	547	
基準日 における	各学年の在籍学生数		111	96	99	85	77	86	554	C
	編入学生数（内）※		0	0	0	0	0	4	4	D
	留年者数（内）		2	4	5	9	3	19	42	
	留年者の 入学年度	平成21年度	0	0	0	1	2	－	3	
		平成22年度	0	0	0	6	－	－	6	
		平成23年度	0	0	4	－	－	－	4	
		平成24年度	1	4	－	－	－	－	5	
		平成25年度	1	－	－	－	－	－	1	
		平成26年度	－	－	－	－	－	－	0	
C／（A＋B）			#VALUE!	※ 編入生すべての編入した学年を、別添でご提出ください。						
D／B			#VALUE!							

- [注] 1 「C / (A + B)」と「D / B」については、小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2位まで表示してください。
- 2 「編入学生数（内）」および「留年者数（内）」は、「各学年の在籍学生数」の内数を記入してください。
- 3 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

	平成21年度				平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度			
総在籍 学生数	359				428				507				530				544				554			
	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数	休学 者数	留年 者数	退学 者数	編入学 者数
1 年次	2	7	5	0	0	2	2	0	0	5	4	0	0	1	3	0	1	5	1	0	2	2	0	0
2 年次	1	4	3	0	0	7	4	0	0	0	2	0	0	3	1	0	0	3	2	0	1	4	0	0
3 年次	0	4	1	0	0	4	1	0	0	11	1	4	0	5	1	0	0	4	1	0	0	5	0	0
4 年次	0	-	0	4	2	4	3	0	1	7	0	0	1	10	0	4	3	7	1	0	3	9	0	0
5 年次	-	-	-	-	0	-	0	4	0	2	1	0	0	7	0	0	0	7	0	4	0	3	0	0
6 年次	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	0	4	0	0	0	0	0	7	0	0	12	19	0	4
合計	3	15	9	4	2	17	10	4	1	25	8	8	1	26	5	4	4	33	5	4	18	42	0	4

[注] 平成26年度以外は年度末の現状を記入してください。

(基礎資料2-3) 学士課程修了状況

		平成23年度 (平成24年3月卒業)	平成24年度 (平成25年3月卒業)	平成25年度 (平成26年3月卒業)	平成26年度 (平成27年3月卒業)	平成27年度 (平成28年3月卒業)	平成28年度 (平成29年3月卒業)	入学者総数		卒業率 (%)
卒業生総数		74 名	78 名	99 名	82 名	名	名			
卒業生の 入学年度 内訳	平成18年度入学者	70 名	2 名	名	名	名	名	平成18年度	80 名	87.5%
	平成19年度入学者	名	76 名	5 名	2 名	名	名	平成19年度	93 名	81.7%
	平成20年度入学者	4 名	名	94 名	14 名	名	名	平成20年度	127 名	74.0%
	平成21年度入学者	名	名	名	66 名	名	名	平成21年度	75 名	88.0%
	平成22年度入学者	名	名	名	名	名	名	平成22年度	86 名	0.0%
	平成23年度入学者	名	名	名	4 名	名	名	平成23年度	79 名	0.0%

（基礎資料３－１）薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

【注】 １ 薬学教育モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名を実施学年の欄に記入してください。
２ 同じ科目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

薬学教育モデル・コアカリキュラム（ＳＢＯs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
A 全学年を通して：ヒューマニズムについて学ぶ						
（１）生と死						
【生命の尊厳】						
１）人の誕生、成長、加齢、死の意味を考察し、討議する。（知識・態度）	生命科学概論、 ヒューマニズム・薬 学入門１、 薬系実験安全学		薬効物理学	医療の倫理		
２）誕生に関わる倫理的問題（生殖技術、クローン技術、出生前診断など）の概略と問題点を説明できる。						
３）医療に関わる倫理的問題を列挙し、その概略と問題点を説明できる。						
４）死に関わる倫理的問題（安楽死、尊厳死、脳死など）の概略と問題点を説明できる。						
５）自らの体験を通して、生命の尊さと医療の関わりについて討議する。（態度）						
【医療の目的】						
１）予防、治療、延命、QOLについて説明できる。	ヒューマニズム・薬 学入門１			薬物治療の個別化、 医療薬学実習、 医療の倫理		
【先進医療と生命倫理】						
１）医療の進歩（遺伝子診断、遺伝子治療、移植・再生医療、難病治療など）に伴う生命観の変遷を概説できる。	ヒューマニズム・薬 学入門１			薬物治療の個別化、 医療薬学実習、 医療の倫理		
（２）医療の担い手としてのこころ構え						
【社会の期待】						
１）医療の担い手として、社会のニーズに常に目を向ける。（態度）	ヒューマニズム・薬 学入門１	実践社会薬学		医療薬学実習、 医療の倫理、 調剤学2		
２）医療の担い手として、社会のニーズに対応する方法を提案する。（知識・態度）						
３）医療の担い手にふさわしい態度を示す。（態度）						
【医療行為に関わるこころ構え】						
１）ヘルシンキ宣言の内容を概説できる。	ヒューマニズム・薬 学入門１		医薬品情報学	医療の倫理		
２）医療の担い手が守るべき倫理規範を説明できる。						
３）インフォームド・コンセントの定義と必要性を説明できる。					患者心理とカウンセ リング	
４）患者の基本的権利と自己決定権を尊重する。（態度）						
５）医療事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）					医療の倫理、 調剤学２	

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【研究活動に求められるこころ構え】						
１）研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。	ヒューマニズム・薬学入門 1			薬物治療の個別化、医療の倫理		
２）研究者に求められる自立した態度を身につける。（態度）						
３）他の研究者の意見を理解し、討論する能力を身につける。（態度）						
【医薬品の創製と供給に関わるこころ構え】						
１）医薬品の創製と供給が社会に及ぼす影響に常に目を向ける。（態度）	ヒューマニズム・薬学入門 1			医療の倫理		
２）医薬品の使用に関わる事故回避の重要性を自らの言葉で表現する。（態度）				医療の倫理、調剤学 2		
【自己学習・生涯学習】						
１）医療に関わる諸問題から、自ら課題を見出し、それを解決する能力を醸成する。（知識・技能・態度）	ヒューマニズム・薬学入門 1			医療の倫理		
２）医療の担い手として、生涯にわたって自ら学習する大切さを認識する。（態度）				医療薬学実習、医療の倫理、コミュニケーション論		
（３）信頼関係の確立を目指して						
【コミュニケーション】						
１）言語的および非言語的コミュニケーションの方法を概説できる。			コミュニケーション入門	医療薬学実習、医療の倫理、コミュニケーション論		
２）意思、情報の伝達に必要な要素を列挙できる。						
３）相手の立場、文化、習慣などによって、コミュニケーションのあり方が異なることを例示できる。						
【相手の気持ちに配慮する】						
１）対人関係に影響を及ぼす心理的要因を概説できる。			コミュニケーション入門	医療薬学実習、医療の倫理、コミュニケーション論		
２）相手の心理状態とその変化に配慮し、適切に対応する。（知識・態度）						
３）対立意見を尊重し、協力してよりよい解決法を見出すことができる。（技能）						
【患者の気持ちに配慮する】						
１）病気が患者に及ぼす心理的影響について説明できる。			コミュニケーション入門	医療薬学実習、医療の倫理、コミュニケーション論		
２）患者の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）					患者心理とカウンセリング	
３）患者の家族の心理状態を把握し、配慮する。（知識・態度）						
４）患者やその家族の持つ価値観が多様であることを認識し、柔軟に対応できるよう努力する。（態度）			コミュニケーション入門		患者心理とカウンセリング	
５）不自由体験などの体験学習を通して、患者の気持ちについて討議する。（知識・態度）			コミュニケーション入門			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【チームワーク】						
1）チームワークの重要性を例示して説明できる。	ヒューマニズム・薬学入門 1			医療薬学実習、医療の倫理、コミュニケーション論、患者情報		
2）チームに参加し、協調的態度で役割を果たす。（態度）				医療薬学実習、医療の倫理、コミュニケーション論		
3）自己の能力の限界を認識し、必要に応じて他者に援助を求める。（態度）						
【地域社会の人々との信頼関係】						
1）薬の専門家と地域社会の関わりを列挙できる。	ヒューマニズム・薬学入門 1			医療薬学実習、医療の倫理		
2）薬の専門家に対する地域社会のニーズを収集し、討議する。（態度）				医療薬学実習		
B イントロダクション						
（1）薬学への招待						
【薬学の歴史】						
1）薬学の歴史的な流れと医療において薬学が果たしてきた役割を概説できる。		ヒューマニズム・薬学入門 2		医療薬学実習		
2）薬剤師の誕生と変遷の歴史を概説できる。						
【薬剤師の活動分野】						
1）薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。		ヒューマニズム・薬学入門 2				
2）薬剤師と共に働く医療チームの職種を挙げ、その仕事を概説できる。	ヒューマニズム・薬学入門 1			調剤学 2		
3）医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。						
4）医薬品の創製における薬剤師の役割について概説できる。		ヒューマニズム・薬学入門 2				
5）疾病の予防および健康管理における薬剤師の役割について概説できる。						
【薬について】						
1）「薬とは何か」を概説できる。		ヒューマニズム・薬学入門 2				
2）薬の発見の歴史を具体例を挙げて概説できる。						
3）化学物質が医薬品として治療に使用されるまでの流れを概説できる。						
4）種々の剤形とその使い方について概説できる。						
5）一般用医薬品と医療用医薬品の違いを概説できる。						
【現代社会と薬学との接点】						
1）先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。		ヒューマニズム・薬学入門 2		薬物治療の個別化		
2）麻薬、大麻、覚せい剤などを乱用することによる健康への影響を概説できる。						
3）薬害について具体例を挙げ、その背景を概説できる。						
【日本薬局方】						
1）日本薬局方の意義と内容について概説できる。	ヒューマニズム・薬学入門 1	ヒューマニズム・薬学入門 2		薬物治療の個別化		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【総合演習】						
1）医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（態度）		ヒューマニズム・薬学入門2		医療薬学実習		
2）身近な医薬品を日本薬局方などを用いて調べる。（技能）						
（2）早期体験学習						
1）病院における薬剤師および他の医療スタッフの業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。	早期体験学習					
2）開局薬剤師の業務を見聞し、その重要性について自分の意見をまとめ、発表する。（知識・態度）						
3）製薬企業および保健衛生、健康に関わる行政機関の業務を見聞し、社会において果たしている役割について討議する。（知識・態度）						
4）保健、福祉の重要性を具体的な体験に基づいて発表する。（知識・態度）						
C 薬学専門教育						
【物理系薬学を学ぶ】						
C1 物質の物理的性質						
（1）物質の構造						
【化学結合】						
1）化学結合の成り立ちについて説明できる。	薬品物理化学1、 有機化学1、 基礎化学、 有機化学1 演習					
2）軌道の混成について説明できる。						
3）分子軌道の基本概念を説明できる。						
4）共役や共鳴の概念を説明できる。	有機化学1、 基礎化学、 有機化学1 演習					
【分子間相互作用】						
1）静電相互作用について例を挙げて説明できる。	薬品物理化学1、 有機化学1、 基礎化学、 有機化学1 演習					
2）ファンデルワールス力について例を挙げて説明できる。						
3）双極子間相互作用について例を挙げて説明できる。						
4）分散力について例を挙げて説明できる。						
5）水素結合について例を挙げて説明できる。						
6）電荷移動について例を挙げて説明できる。	薬品物理化学1、 基礎化学					
7）疎水性相互作用について例を挙げて説明できる。	薬品物理化学1、 有機化学1、 基礎化学、 創薬化学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【原子・分子】						
1）電磁波の性質および物質との相互作用を説明できる。	薬品物理化学 1					
2）分子の振動、回転、電子遷移について説明できる。						
3）スピンとその磁気共鳴について説明できる。						
4）分子の分極と双極子モーメントについて説明できる。	薬品物理化学 1、 基礎化学、 有機化学 1、 有機化学 1 演習					
5）代表的な分光スペクトルを測定し、構造との関連を説明できる。（知識・技能）	薬品物理化学実習					
6）偏光および旋光性について説明できる。	有機化学 1、有機化学 1 演習					
7）散乱および干渉について説明できる。	薬品物理化学 1					
8）結晶構造と回折現象について説明できる。	薬品物理化学 1					
【放射線と放射能】						
1）原子の構造と放射壊変について説明できる。	薬系実験安全学		放射科学			
2）電離放射線の種類を列挙し、それらの物質との相互作用について説明できる。						
3）代表的な放射性核種の物理的性質について説明できる。						
4）核反応および放射平衡について説明できる。						
5）放射線の測定原理について説明できる。			放射科学、 放射性医薬品学実習			
（2）物質の状態Ⅰ						
【総論】						
1）ファンデルワールスの状態方程式について説明できる。	薬品物理化学 1	薬品物理化学 2				
2）気体の分子運動とエネルギーの関係について説明できる。						
3）エネルギーの量子化とボルツマン分布について説明できる。						
【エネルギー】						
1）系、外界、境界について説明できる。	薬品物理化学 1	薬品物理化学 2	薬効物理化学			
2）状態関数の種類と特徴について説明できる。						
3）仕事および熱の概念を説明できる。			薬効物理化学			
4）定容熱容量および定圧熱容量について説明できる。						
5）熱力学第一法則について式を用いて説明できる。						
6）代表的な過程（変化）における熱と仕事を計算できる。（知識・技能）			薬効物理化学			
7）エンタルピーについて説明できる。						
8）代表的な物理変化、化学変化に伴う標準エンタルピー変化を説明し、計算できる。（知識・技能）						
9）標準生成エンタルピーについて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【自発的な変化】						
1）エントロピーについて説明できる。	薬品物理化学 1、 有機化学 1、 有機化学 1 演習	薬品物理化学 2				
2）熱力学第二法則について説明できる。	薬品物理化学 1					
3）代表的な物理変化、化学変化に伴うエントロピー変化を計算できる。（知識、技能）						
4）熱力学第三法則について説明できる。						
5）自由エネルギーについて説明できる。			薬品物理化学 1、 有機化学 1、 有機化学 1 演習	薬効物理化学		
6）熱力学関数の計算結果から、自発的な変化の方向と程度を予測できる。（知識、技能）	薬品物理化学 1					
7）自由エネルギーの圧力と温度による変化を、式を用いて説明できる。						
8）自由エネルギーと平衡定数の温度依存性（van’ t Hoff の式）について説明できる。						
9）共役反応について例を挙げて説明できる。				薬効物理化学		
（3）物質の状態 II						
【物理平衡】						
1）相変化に伴う熱の移動（Clausius-Clapeyron の式など）について説明できる。	薬系実験安全学	薬品物理化学 2	薬効物理化学			
2）相平衡と相律について説明できる。						
3）代表的な状態図（一分系、二成分系、三成分系相図）について説明できる。						
4）物質の溶解平衡について説明できる。						
5）溶液の束一的性質（浸透圧、沸点上昇、凝固点降下など）について説明できる。			薬効物理化学			
6）界面における平衡について説明できる。			薬剤学、 薬効物理化学			
7）吸着平衡について説明できる。	薬品物理化学実習		薬品物理化学実習、 薬効物理化学			
8）代表的な物理平衡を観測し、平衡定数を求めることができる。（技能）		薬品物理化学 2	薬効物理化学			
【溶液の化学】						
1）化学ポテンシャルについて説明できる。	基礎化学	薬品物理化学 2				
2）活量と活量係数について説明できる。						
3）平衡と化学ポテンシャルの関係を説明できる。			薬効物理化学			
4）電解質のモル伝導度の濃度変化を説明できる。						
5）イオンの輸率と移動度について説明できる。						
6）イオン強度について説明できる。						
7）電解質の活量係数の濃度依存性（Debye-Hückel の式）について説明できる。						
【電気化学】						
1）代表的な化学電池の種類とその構成について説明できる。	分析化学 1、 基礎化学	薬理学総論				
2）標準電極電位について説明できる。	基礎化学					
3）起電力と標準自由エネルギー変化の関係を説明できる。						
4）Nernst の式が誘導できる。	分析化学 1					
5）濃淡電池について説明できる。						
6）膜電位と能動輸送について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）物質の変化						
【反応速度】						
１）反応次数と速度定数について説明できる。	基礎化学	薬品物理化学 3				
２）微分型速度式を積分型速度式に変換できる。（知識・技能）						
３）代表的な反応次数の決定法を列挙し、説明できる。						
４）代表的な(擬)一次反応の反応速度を測定し、速度定数を求めることができる。（技能）						
５）代表的な複合反応（可逆反応、平行反応、連続反応など）の特徴について説明できる。						
６）反応速度と温度との関係（Arrheniusの式）を説明できる。						
７）衝突理論について概説できる。						
８）遷移状態理論について概説できる。						
９）代表的な触媒反応（酸・塩基触媒反応など）について説明できる。			薬効物理化学			
10) 酵素反応、およびその拮抗阻害と非拮抗阻害の機構について説明できる。	生化学 1					
【物質の移動】						
１）拡散および溶解速度について説明できる。		薬品物理化学 3	薬剤学、 薬効物理化学			
２）沈降現象について説明できる。						
３）流動現象および粘度について説明できる。						
G2 化学物質の分析						
（１）化学平衡						
【酸と塩基】						
１）酸・塩基平衡を説明できる。	分析化学 1、 基礎化学、 有機化学 1、 有機化学 1 演習	薬品物理化学 3				
２）溶液の水素イオン濃度（pH）を測定できる。（技能）						
３）溶液のpHを計算できる。（知識・技能）	分析化学 1、 基礎化学					
４）緩衝作用について具体例を挙げて説明できる。						
５）代表的な緩衝液の特徴とその調製法を説明できる。						
６）化学物質のpHによる分子形、イオン形の変化を説明できる。						
【各種の化学平衡】						
１）錯体・キレート生成平衡について説明できる。	分析化学 1					
２）沈殿平衡（溶解度と溶解度積）について説明できる。		薬品物理化学 2				
３）酸化還元電位について説明できる。	分析化学 1、 基礎化学					
４）酸化還元平衡について説明できる。	基礎化学					
５）分配平衡について説明できる。	分析化学 1	薬品物理化学 2				
６）イオン交換について説明できる。		分析化学 2				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）化学物質の検出と定量						
【定性試験】						
１）代表的な無機イオンの定性反応を説明できる。		分析化学 2				
２）日本薬局方収載の代表的な医薬品の確認試験を列挙し、その内容を説明できる。				医薬品分析学		
３）日本薬局方収載の代表的な医薬品の純度試験を列挙し、その内容を説明できる。	分析化学実習 1					
【定量の基礎】						
１）実験値を用いた計算および統計処理ができる。（技能）	分析化学 1、 分析化学実習 1					
２）医薬品分析法のバリデーションについて説明できる。	分析化学 1					
３）日本薬局方収載の重量分析法の原理および操作法を説明できる。						
４）日本薬局方収載の容量分析法について列挙できる。						
５）日本薬局方収載の生物学的定量法の特徴を説明できる。		分析化学 2				
【容量分析】						
１）中和滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。	分析化学 1					
２）非水滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
３）キレート滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
４）沈殿滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
５）酸化還元滴定の原理、操作法および応用例を説明できる。						
６）電気滴定（電位差滴定、電気伝導度滴定など）の原理、操作法および応用例を説明できる。						
７）日本薬局方収載の代表的な医薬品の容量分析を実施できる。（技能）		分析化学実習 1				
【金属元素の分析】						
１）原子吸光光度法の原理、操作法および応用例を説明できる。		分析化学 2		医薬品分析学		
２）発光分析法の原理、操作法および応用例を説明できる。						
【クロマトグラフィー】						
１）クロマトグラフィーの種類を列挙し、それぞれの特徴と分離機構を説明できる。		分析化学 2		医薬品分析学		
２）クロマトグラフィーで用いられる代表的な検出法と装置を説明できる。						
３）薄層クロマトグラフィー、液体クロマトグラフィーなどのクロマトグラフィーを用いて代表的な化学物質を分離分析できる。（知識・技能）	分析化学実習 1	分析化学実習 2、 分析化学 2				
（３）分析技術の臨床応用						
【分析の準備】						
１）代表的な生体試料について、目的に即した前処理と適切な取扱いができる。（技能）	分析化学 1	分析化学実習 2、 分析化学 2				
２）臨床分析における精度管理および標準物質の意義を説明できる。		分析化学 2				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【分析技術】						
1）臨床分析の分野で用いられる代表的な分析法を列挙できる。		分析化学 2				
2）免疫反応を用いた分析法の原理、実施法および応用例を説明できる。			免疫学、 放射科学			
3）酵素を用いた代表的な分析法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）	分析化学実習 1					
4）電気泳動法の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）						
5）代表的なセンサーを列挙し、原理および応用例を説明できる。						
6）代表的なドライケミストリーについて概説できる。						
7）代表的な画像診断技術（X線検査、CTスキャン、MRI、超音波、核医学検査など）について概説できる。			放射科学			がんの診断と治療
8）画像診断薬（造影剤、放射性医薬品など）について概説できる。						
9）薬学領域で緊用されるその他の分析技術（バイオイメージング、マイクロチップなど）について概説できる。		分析化学 2				
【薬毒物の分析】						
1）毒物中毒における生体試料の取扱いについて説明できる。			毒性学			
2）代表的な中毒原因物質（乱用薬物を含む）のスクリーニング法を列挙し、説明できる。						
3）代表的な中毒原因物質を分析できる。（技能）						
C3 生体分子の姿・かたちをとらえる						
（1）生体分子を解析する手法						
【分光分析法】						
1）紫外可視吸光度測定法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。	分析化学実習 1	分析化学 2		医薬品分析学		
2）蛍光光度法の原理を説明し、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
3）赤外・ラマン分光スペクトルの原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
4）電子スピン共鳴（ESR）スペクトル測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。						
5）旋光度測定法（旋光分散）、円偏光二色性測定法の原理と、生体分子の解析への応用例について説明できる。				医薬品分析学		
6）代表的な生体分子（核酸、タンパク質）の紫外および蛍光スペクトルを測定し、構造上の特徴と関連付けて説明できる。（知識・技能）						
【核磁気共鳴スペクトル】						
1）核磁気共鳴スペクトル測定法の原理を説明できる。		スペクトル解析				
2）生体分子の解析への核磁気共鳴スペクトル測定法の応用例について説明できる。		スペクトル解析				
【質量分析】						
1）質量分析法の原理を説明できる。		分析化学 2、 スペクトル解析				
2）生体分子の解析への質量分析の応用例について説明できる。		分析化学 2				
【X線結晶解析】						
1）X線結晶解析の原理を概説できる。		スペクトル解析		薬物治療の個別化		
2）生体分子の解析へのX線結晶解析の応用例について説明できる。		スペクトル解析				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【相互作用の解析法】						
1) 生体分子間相互作用の解析法を概説できる。			生体機能化学			
(2) 生体分子の立体構造と相互作用						
【立体構造】						
1) 生体分子（タンパク質、核酸、脂質など）の立体構造を概説できる。			生体機能化学、 バイオインフォマ ティクス、 薬効物理化学			
2) タンパク質の立体構造の自由度について概説できる。			バイオインフォマ ティクス、 薬効物理化学			
3) タンパク質の立体構造を規定する因子（疎水性相互作用、静電相互作用、水素結合など）につい て、具体例を用いて説明できる。	生化学 1		生体機能化学、 バイオインフォマ ティクス			
4) タンパク質の折りたたみ過程について概説できる。			バイオインフォマ ティクス			
5) 核酸の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体機能化学			
6) 生体膜の立体構造を規定する相互作用について、具体例を挙げて説明できる。			生体機能化学、 薬効物理化学			
【相互作用】						
1) 鍵と鍵穴モデルおよび誘導適合モデルについて、具体例を挙げて説明できる。			生体機能化学、 薬効物理化学			
2) 転写・翻訳、シグナル伝達における代表的な生体分子間相互作用について、具体例を挙げて説明 できる。			生体機能化学			がんの診断と治療
3) 脂質の水中における分子集合構造（膜、ミセル、膜タンパク質など）について説明できる。	生化学 1					
4) 生体高分子と医薬品の相互作用における立体構造的要因の重要性を、具体例を挙げて説明できる。			生体機能化学、 薬効物理化学			
C4 化学物質の性質と反応						
(1) 化学物質の基本的性質						
【基本事項】						
1) 基本的な化合物を命名し、ルイス構造式で書くことができる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習					
2) 薬学領域で用いられる代表的化合物を慣用名で記述できる。						
3) 有機化合物の性質に及ぼす共鳴の影響について説明できる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習	有機合成化学 1	有機合成化学 2			
4) 有機反応における結合の開裂と生成の様式について説明できる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習					
5) 基本的な有機反応（置換、付加、脱離、転位）の特徴を概説できる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習、 基礎化学					
6) ルイス酸・塩基を定義することができる。						
7) 炭素原子を含む反応中間体（カルボカチオン、カルバニオン、ラジカル、カルベン）の構造と性質 を説明できる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習					
8) 反応の進行を、エネルギー図を用いて説明できる。						
9) 有機反応を、電子の動きを示す矢印を用いて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【有機化合物の立体構造】						
1）構造異性体と立体異性体について説明できる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習	有機合成化学 1				
2）キラリティーと光学活性を概説できる。						
3）エナンチオマーとジアステレオマーについて説明できる。						
4）ラセミ体とメソ化合物について説明できる。						
5）絶対配置の表示法を説明できる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習	有機合成化学 2				
6）Fischer 投影式とNewman 投影式を用いて有機化合物の構造を書くことができる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習					
7）エタンおよびブタンの立体配座と安定性について説明できる。						
【無機化合物】						
1）代表的な典型元素を列挙し、その特徴を説明できる。	基礎化学	有機合成化学 1				
2）代表的な遷移元素を列挙し、その特徴を説明できる。						
3）窒素酸化物の名称、構造、性質を列挙できる。						
4）イオウ、リン、ハロゲンの酸化物、オキシ化合物の名称、構造、性質を列挙できる。						
5）代表的な無機医薬品を列挙できる。			生体機能化学			
【錯体】						
1）代表的な錯体の名称、構造、基本的性質を説明できる。	基礎化学					
2）配位結合を説明できる。						
3）代表的なドナー原子、配位基、キレート試薬を列挙できる。						
4）錯体の安定度定数について説明できる。						
5）錯体の安定性に与える配位子の構造的要素（キレート効果）について説明できる。						
6）錯体の反応性について説明できる。						
7）医薬品として用いられる代表的な錯体を列挙できる。			生体機能化学			
（2）有機化合物の骨格						
【アルカン】						
1）基本的な炭化水素およびアルキル基をIUPACの規則に従って命名することができる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習					
2）アルカンの基本的な物性について説明できる。						
3）アルカンの構造異性体を図示し、その数を示すことができる。						
4）シクロアルカンの環の歪みを決定する要因について説明できる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習					
5）シクロヘキサンのいす形配座と舟形配座を図示できる。						
6）シクロヘキサンのいす形配座における水素の結合方向（アキシアル、エクアトリアル）を図示できる。						
7）置換シクロヘキサンの安定な立体配座を決定する要因について説明できる。		有機化学 1、 有機化学 1 演習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【アルケン・アルキンの反応性】						
1) アルケンへの代表的なシン型付加反応を列挙し、反応機構を説明できる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習	有機合成化学 1	有機合成化学 2			
2) アルケンへの臭素の付加反応の機構を図示し、反応の立体特異性（アンチ付加）を説明できる。						
3) アルケンへのハロゲン化水素の付加反応の位置選択性（Markovnikov 則）について説明できる。						
4) カルボカチオンの級数と安定性について説明できる。						
5) 共役ジエンへのハロゲンの付加反応の特徴について説明できる。						
6) アルケンの酸化的開裂反応を列挙し、構造解析への応用について説明できる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習	有機化学 3				
7) アルキンの代表的な反応を列挙し、説明できる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習					
【芳香族化合物の反応性】						
1) 代表的な芳香族化合物を列挙し、その物性と反応性を説明できる。	有機化学 1	有機合成化学 1				
2) 芳香族性（Hückel 則）の概念を説明できる。						
3) 芳香族化合物の求電子置換反応の機構を説明できる。	有機化学 2	有機化学 3、 有機合成化学 1				
4) 芳香族化合物の求電子置換反応の反応性および配向性に及ぼす置換基の効果を説明できる。						
5) 芳香族化合物の代表的な求核置換反応について説明できる。		有機化学 3				
(3) 官能基						
【概説】						
1) 代表的な官能基を列挙し、個々の官能基を有する化合物を IUPAC の規則に従って命名できる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習、 有機化学 2					
2) 複数の官能基を有する化合物を IUPAC の規則に従って命名できる。						
3) 生体内高分子と薬物の相互作用における各官能基の役割を説明できる。			医薬化学、 創薬化学			
4) 代表的な官能基の定性試験を実施できる。（技能）		有機化学実習				
5) 官能基の性質を利用した分離精製を実施できる。（技能）						
6) 日常生活で用いられる化学物質を官能基別に列挙できる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習、 有機化学 2					
【有機ハロゲン化合物】						
1) 有機ハロゲン化合物の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 2	有機合成化学 1				
2) 求核置換反応 (S_N1 および S_N2 反応) の機構について、立体化学を含めて説明できる。						
3) ハロゲン化アルキルの脱ハロゲン化水素の機構を図示し、反応の位置選択性（Saytzeff 則）を説明できる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習、 有機化学 2		有機合成化学 2			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【アルコール・フェノール・チオール】						
１）アルコール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 2	有機合成化学 1				
２）フェノール類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。		有機化学 3				
３）フェノール類、チオール類の抗酸化作用について説明できる。						
【エーテル】						
１）エーテル類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 2					
２）オキシラン類の開環反応における立体特異性と位置選択性を説明できる。		有機合成化学 1	有機合成化学 2			
【アルデヒド・ケトン・カルボン酸】						
１）アルデヒド類およびケトン類の性質と、代表的な求核付加反応を列挙し、説明できる。	有機化学 2		有機合成化学 2			
２）カルボン酸の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
３）カルボン酸誘導体（酸ハロゲン化物、酸無水物、エステル、アミド、ニトリル）の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。						
【アミン】						
１）アミン類の代表的な性質と反応を列挙し、説明できる。	有機化学 1					
２）代表的な生体内アミンを列挙し、構造式を書くことができる。			医薬化学			
【官能基の酸性度・塩基性度】						
１）アルコール、チオール、フェノール、カルボン酸などの酸性度を比較して説明できる。	有機化学 1、 有機化学 2					
２）アルコール、フェノール、カルボン酸、およびその誘導体の酸性度に影響を及ぼす因子を列挙し、説明できる。	有機化学 1					
３）含窒素化合物の塩基性度を説明できる。						
（４）化学物質の構造決定						
【総論】						
１）化学物質の構造決定に用いられる機器分析法の特徴を説明できる。		スペクトル解析				
【 ¹ H NMR】						
１）NMRスペクトルの概要と測定法を説明できる。	スペクトル解析					
２）化学シフトに及ぼす構造的要因を説明できる。						
３）有機化合物中の代表的な水素原子について、おおその化学シフト値を示すことができる。						
４）重水添加による重水素置換の方法と原理を説明できる。						
５） ¹ H NMRの積分値の意味を説明できる。						
６） ¹ H NMRシグナルが近接プロトンにより分裂（カップリング）する理由と、分裂様式を説明できる。						
７） ¹ H NMRのスピン結合定数から得られる情報を列挙し、その内容を説明できる。						
８）代表的化合物の部分構造を ¹ H NMR から決定できる。（技能）						
【 ¹³ C NMR】						
１） ¹³ C NMRの測定により得られる情報の概略を説明できる。	スペクトル解析					
２）代表的な構造中の炭素について、おおその化学シフト値を示すことができる。						
【IRスペクトル】						
１）IRスペクトルの概要と測定法を説明できる。	スペクトル解析					
２）IRスペクトル上の基本的な官能基の特性吸収を列挙し、帰属することができる。（知識・技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム (SBOs)	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【紫外可視吸収スペクトル】						
1) 化学物質の構造決定における紫外可視吸収スペクトルの役割を説明できる。		分析化学 2、 スペクトル解析				
【マスマスペクトル】						
1) マスマスペクトルの概要と測定法を説明できる。		分析化学 2、 スペクトル解析				
2) イオン化の方法を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
3) ピークの種類（基準ピーク、分子イオンピーク、同位体ピーク、フラグメントピーク）を説明ができる。						
4) 塩素原子や臭素原子を含む化合物のマスマスペクトルの特徴を説明できる。						
5) 代表的なフラグメンテーションについて概説できる。		スペクトル解析				
6) 高分解能マスマスペクトルにおける分子式の決定法を説明できる。		分析化学 2、 スペクトル解析				
7) 基本的な化合物のマスマスペクトルを解析できる。（技能）						
【比旋光度】						
1) 比旋光度測定法の概略を説明できる。	有機化学 1、 有機化学 1 演習					
2) 実測値を用いて比旋光度を計算できる。（技能）						
3) 比旋光度と絶対配置の関係を説明できる。						
4) 旋光分散と円二色性について、原理の概略と用途を説明できる。		スペクトル解析				
【総合演習】						
1) 代表的な機器分析法を用いて、基本的な化合物の構造決定ができる。（技能）		スペクトル解析				
C5 ターゲット分子の合成						
(1) 官能基の導入・変換						
1) アルケンの代表的な合成法について説明できる。	有機化学 2、 有機化学 1、 有機化学 1 演習					
2) アルキンの代表的な合成法について説明できる。						
3) 有機ハロゲン化合物の代表的な合成法について説明できる。	有機化学 2	有機合成化学 1				
4) アルコールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学 3、 有機合成化学 1				
5) フェノールの代表的な合成法について説明できる。		有機化学 3				
6) エーテルの代表的な合成法について説明できる。			有機合成化学 2			
7) アルデヒドおよびケトンの代表的な合成法について説明できる。		有機化学 3、 有機合成化学 1				
8) カルボン酸の代表的な合成法について説明できる。						
9) カルボン酸誘導体（エステル、アミド、ニトリル、酸ハロゲン化物、酸無水物）の代表的な合成法について説明できる。		有機合成化学 1				
10) アミンの代表的な合成法について説明できる。						
11) 代表的な官能基選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。		有機化学 3、 有機合成化学 1				
12) 代表的な官能基を他の官能基に変換できる。（技能）		有機合成化学 1、 有機化学実習				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）複雑な化合物の合成						
【炭素骨格の構築法】						
１）Diels-Alder反応の特徴を具体例を用いて説明できる。						
２）転位反応を用いた代表的な炭素骨格の構築法を列挙できる。						
３）代表的な炭素酸のpKaと反応性の関係を説明できる。	有機化学１、 有機化学１ 演習	有機化学３	有機合成化学２			
４）代表的な炭素-炭素結合生成反応（アルドール反応、マロン酸エステル合成、アセト酢酸エステル合成、Michael付加、Mannich反応、Grignard反応、Wittig反応など）について概説できる。	有機化学２					
【位置および立体選択性】						
１）代表的な位置選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。	有機化学２	有機化学３	有機合成化学２			
２）代表的な立体選択的反応を列挙し、その機構と応用例について説明できる。						
【保護基】						
１）官能基毎に代表的な保護基を列挙し、その応用例を説明できる。		有機化学３	有機合成化学２			
【光学活性化合物】						
１）光学活性化合物を得るための代表的な手法（光学分割、不斉合成など）を説明できる。	有機化学１、 有機化学１ 演習	有機合成化学１				
【総合演習】						
１）課題として与えられた化合物の合成法を立案できる。（知識・技能）	有機化学１、 有機化学１ 演習	有機化学３	有機合成化学２			
２）課題として与えられた医薬品を合成できる。（技能）		有機化学実習				
３）反応廃液を適切に処理する。（技能・態度）						
C6 生体分子・医薬品を化学で理解する						
（１）生体分子のコアとパーツ						
【生体分子の化学構造】						
１）タンパク質の高次構造を規定する結合（アミド基間の水素結合、ジスルフィド結合など）および相互作用について説明できる。	生化学１		生体機能化学、 医薬化学、 創薬化学			
２）糖類および多糖類の基本構造を概説できる。			医薬化学			
３）糖とタンパク質の代表的な結合様式を示すことができる。						
４）核酸の立体構造を規定する化学結合、相互作用について説明できる。			生体機能化学、 医薬化学			
５）生体膜を構成する脂質の化学構造の特徴を説明できる。						
【生体内で機能する複素環】						
１）生体内に存在する代表的な複素環化合物を列挙し、構造式を書くことができる。	生化学１		医薬化学			
２）核酸塩基の構造を書き、水素結合を形成する位置を示すことができる。			生体機能化学			
３）複素環を含む代表的な補酵素（フラビン、NAD、チアミン、ビリドキサル、葉酸など）の機能を化学反応性と関連させて説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【生体内で機能する錯体・無機化合物】						
１）生体内に存在する代表的な金属イオンおよび錯体の機能について説明できる。	基礎化学、 生化学 1					
２）活性酸素の構造、電子配置と性質を説明できる。						
３）一酸化窒素の電子配置と性質を説明できる。						
【化学から観る生体ダイナミクス】						
１）代表的な酵素の基質結合部位が有する構造上の特徴を具体例を挙げて説明できる。	生化学 1		生体機能化学、 医薬化学			
２）代表的な酵素（キモトリプシン、リボヌクレアーゼなど）の作用機構を分子レベルで説明できる。						
３）タンパク質リン酸化におけるATPの役割を化学的に説明できる。			生体機能化学			
（２）医薬品のコアとパーツ						
【医薬品のコンポーネント】						
１）代表的な医薬品のコア構造（ファーマコフォア）を指摘し、分類できる。			医薬化学、 創薬化学			
２）医薬品に含まれる代表的な官能基を、その性質によって分類し、医薬品の効果と結びつけて説明できる。						
【医薬品に含まれる複素環】						
１）医薬品として複素環化合物が繁用される根拠を説明できる。			医薬化学、 創薬化学			
２）医薬品に含まれる代表的な複素環化合物を指摘し、分類することができる。	有機化学 1	有機化学 3	医薬化学			
３）代表的な芳香族複素環化合物の性質を芳香族性と関連づけて説明できる。						
４）代表的芳香族複素環の求電子試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
５）代表的芳香族複素環の求核試薬に対する反応性および配向性について説明できる。						
【医薬品と生体高分子】						
１）生体高分子と非共有結合的に相互作用しうる官能基を列挙できる。			医薬化学、 創薬化学			
２）生体高分子と共有結合で相互作用しうる官能基を列挙できる。						
３）分子模型、コンピューターソフトなどを用いて化学物質の立体構造をシミュレートできる。 （知識・技能）			分子情報化学 2・演習			
【生体分子を模倣した医薬品】						
１）カテコールアミンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。			医薬化学			
２）アセチルコリンアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
３）ステロイドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
４）核酸アナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
５）ペプチドアナログの医薬品を列挙し、それらの化学構造を比較できる。						
【生体内分子と反応する医薬品】						
１）アルキル化剤とDNA塩基の反応を説明できる。			医薬化学、 創薬化学			がんの診断と治療
２）インターカレーターの作用機序を図示し、説明できる。						
３）β-ラクタムを持つ医薬品の作用機序を化学的に説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C7 自然が生み出す薬物						
（１）薬になる動植物						
【生薬とは何か】						
１）代表的な生薬を列挙し、その特徴を説明できる。		生薬学				
２）生薬の歴史について概説できる。	薬用植物学					
３）生薬の生産と流通について概説できる。						
【薬用植物】						
１）代表的な薬用植物の形態を観察する。（技能）	薬用植物学実習					
２）代表的な薬用植物の学名、薬用部位、薬効などを列挙できる。	薬用植物学	生薬学				
３）代表的な生薬の産地と基原植物の関係について、具体例を挙げて説明できる。						
４）代表的な薬用植物を形態が似ている植物と区別できる。（技能）	薬用植物学実習					
５）代表的な薬用植物に含有される薬効成分を説明できる。	薬用植物学	生薬学				
【植物以外の医薬資源】						
１）動物、鉱物由来の医薬品について具体例を挙げて説明できる。		生薬学				
【生薬成分の構造と生合成】						
１）代表的な生薬成分を化学構造から分類し、それらの生合成経路を概説できる。		生薬学	天然物化学			
２）代表的なテルペノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			天然物化学、 天然物薬品学			
３）代表的な強心配糖体の構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
４）代表的なアルカロイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
５）代表的なフラボノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
６）代表的なフェニルプロパノイドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。						
７）代表的なポリケチドの構造を生合成経路に基づいて説明し、その基原植物を挙げることができる。			天然物化学			
【農薬、香粧品としての利用】						
１）天然物質の農薬、香粧品などの原料としての有用性について、具体例を挙げて説明できる。		生薬学	天然物薬品学			
【生薬の同定と品質評価】						
１）日本薬局方の生薬総則および生薬試験法について説明できる。	薬用植物学実習	生薬学				
２）代表的な生薬を鑑別できる。（技能）		生薬学				
３）代表的な生薬の確認試験を実施できる。（技能）						
４）代表的な生薬の純度試験を実施できる。（技能）						
５）生薬の同定と品質評価法について概説できる。						
（２）薬の宝庫としての天然物						
【シーズの探索】						
１）医薬品として使われている天然有機化合物およびその誘導体を、具体例を挙げて説明できる。		生薬学	天然物薬品学			
２）シーズの探索に貢献してきた伝統医学、民族植物学を例示して概説できる。	薬用植物学					
３）医薬原料としての天然物質の資源確保に関して問題点を列挙できる。	薬用植物学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【天然物質の取扱い】						
１）天然物質の代表的な抽出法、分離精製法を列挙し、実施できる。（技能）			天然物化学実習、 天然物薬品学			
２）代表的な天然有機化合物の構造決定法について具体例を挙げて概説できる。			天然物薬品学			
【微生物が生み出す医薬品】						
１）抗生物質とは何かを説明し、化学構造に基づいて分類できる。			天然物薬品学			
【発酵による医薬品の生産】						
１）微生物による抗生物質（ペニシリン、ストレプトマイシンなど）生産の過程を概説できる。			天然物薬品学			
【発酵による有用物質の生産】						
１）微生物の生産する代表的な糖質、酵素を列挙し、利用法を説明できる。			天然物薬品学			
（３）現代医療の中の生薬・漢方薬						
【漢方医学の基礎】						
１）漢方医学の特徴について概説できる。		漢方概論				
２）漢方薬と民間薬、代替医療との相違について説明できる。						
３）漢方薬と西洋薬の基本的な利用法の違いを概説できる。			天然物薬品学			
４）漢方処方と「証」との関係について概説できる。						
５）代表的な漢方処方の適応症と配合生薬を説明できる。						
６）漢方処方に配合されている代表的な生薬を例示し、その有効成分を説明できる。						
７）漢方エキス製剤の特徴を煎液と比較して列挙できる。			天然物薬品学			
【漢方処方の応用】						
１）代表的な疾患に用いられる生薬及び漢方処方の応用、使用上の注意について概説できる。		漢方概論				
２）漢方薬の代表的な副作用や注意事項を説明できる。						
【生物系薬学を学ぶ】						
G8 生命体の成り立ち						
（１）ヒトの成り立ち						
【概論】						
１）ヒトの身体を構成する臓器の名称、形態および体内での位置を説明できる。	生命科学概論、 機能形態学 1、 機能形態学実習		免疫学			がんの診断と治療
２）ヒトの身体を構成する各臓器の役割分担について概説できる。						
【神経系】						
１）中枢神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生命科学概論、 機能形態学 1、 機能形態学実習					
２）体性神経系の構成と機能の概要を説明できる。	生命科学概論、 機能形態学 1					
３）自律神経系の構成と機能の概要を説明できる。						
【骨格系・筋肉系】						
１）主な骨と関節の名称を挙げ、位置を示すことができる。	生命科学概論、 機能形態学 1	機能形態学 2				
２）主な骨格筋の名称を挙げ、位置を示すことができる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【皮膚】						
1）皮膚について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論	機能形態学 2				
【循環器系】						
1）心臓について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論、 機能形態学実習	機能形態学 2	免疫学			がんの診断と治療
2）血管系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
3）リンパ系について機能と構造を関連づけて説明できる。						
【呼吸器系】						
1）肺、気管支について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論、 機能形態学 1、 機能形態学実習					がんの診断と治療
【消化器系】						
1）胃、小腸、大腸などの消化管について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論、 機能形態学実習	機能形態学 2				がんの診断と治療
2）肝臓、膵臓、胆嚢について機能と構造を関連づけて説明できる。			分子細胞生物学			
【泌尿器系】						
1）腎臓、膀胱などの泌尿器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論、 機能形態学実習	機能形態学 2				がんの診断と治療
【生殖器系】						
1）精巣、卵巣、子宮などの生殖器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論	機能形態学 2				がんの診断と治療
【内分泌系】						
1）脳下垂体、甲状腺、副腎などの内分泌系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論	機能形態学 2				
【感覚器系】						
1）眼、耳、鼻などの感覚器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論	機能形態学 2				
【血液・造血器系】						
1）骨髄、脾臓、胸腺などの血液・造血器系臓器について機能と構造を関連づけて説明できる。	生命科学概論、 機能形態学実習、 機能形態学 1		免疫学、 分子細胞生物学			
(2) 生命体の基本単位としての細胞						
【細胞と組織】						
1）細胞集合による組織構築について説明できる。	生命科学概論、 機能形態学実習、 機能形態学 1、 生物学	生化学 2	免疫学、 分子細胞生物学			がんの診断と治療
2）臓器、組織を構成する代表的な細胞の種類を列挙し、形態的および機能的特徴を説明できる。			免疫学			
3）代表的な細胞および組織を顕微鏡を用いて観察できる。（技能）	生命科学概論、 機能形態学実習、 生物学					

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【細胞膜】						
1）細胞膜の構造と性質について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 機能形態学 1、 生物学	生化学 2、 分子生物学	分子細胞生物学			
2）細胞膜を構成する代表的な生体分子を列挙し、その機能を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 生物学	分子生物学				
3）細胞膜を介した物質移動について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 機能形態学 1、 生物学					
【細胞内小器官】						
1）細胞内小器官（核、ミトコンドリア、小胞体、リソソーム、ゴルジ体、ペルオキシソームなど）の構造と機能を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 機能形態学 1、 生物学	生化学 2	分子細胞生物学			
【細胞の分裂と死】						
1）体細胞分裂の機構について説明できる。	生命科学概論、 機能形態学 1、 生物学	分子生物学、 機能生態学 2				がんの診断と治療
2）生殖細胞の分裂機構について説明できる。						
3）アポトーシスとネクローシスについて説明できる。	生命科学概論、 生物学	分子生物学、 疾病と病態（総論）	分子細胞生物学			がんの診断と治療
4）正常細胞とがん細胞の違いを対比して説明できる。						
【細胞間コミュニケーション】						
1）細胞間の接着構造、主な細胞接着分子の種類と特徴を説明できる。	生命科学概論、 生物学		分子細胞生物学			がんの診断と治療
2）主な細胞外マトリックス分子の種類、分布、性質を説明できる。						
（3）生体の機能調節						
【神経・筋の調節機構】						
1）神経系の興奮と伝導の調節機構を説明できる。	生命科学概論、 機能形態学 1	薬理学総論	分子細胞生物学			
2）シナプス伝達の調節機構を説明できる。						
3）神経系、感覚器を介するホメオスタシスの調節機構の代表例を列挙し、概説できる。						
4）筋収縮の調節機構を説明できる。						
【ホルモンによる調節機構】						
1）主要なホルモンの分泌機構および作用機構を説明できる。	生命科学概論	生化学 2、 機能形態学 2	分子細胞生物学			
2）血糖の調節機構を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【循環・呼吸系の調節機構】						
1）血圧の調節機構を説明できる。	生命科学概論、 機能形態学実習	機能形態学 2	薬理学 1			
2）肺および組織におけるガス交換を説明できる。	生命科学概論、 機能形態学 1					
3）血液凝固・線溶系の機構を説明できる。						
【体液の調節機構】						
1）体液の調節機構を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 機能形態学 1	機能形態学 2				
2）尿の生成機構、尿量の調節機構を説明できる。	生命科学概論	機能形態学 2	薬理学 1			
【消化・吸収の調節機構】						
1）消化、吸収における神経の役割について説明できる。	生命科学概論	機能形態学 2				
2）消化、吸収におけるホルモンの役割について説明できる。						
【体温の調節機構】						
1）体温の調節機構を説明できる。	生命科学概論	機能形態学 2				
（4）小さな生き物たち						
【総論】						
1）生態系の中での微生物の役割について説明できる。	生命科学概論	微生物学 1				
2）原核生物と真核生物の違いを説明できる。	生命科学概論、 生化学 1	生化学 2、 微生物学 1、 微生物学 2	分子細胞生物学			
【細菌】						
1）細菌の構造と増殖機構を説明できる。	生命科学概論	微生物学 1				
2）細菌の系統的分類について説明でき、主な細菌を列挙できる。						
3）グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌の違いを説明できる。						
4）マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、スピロヘータ、放線菌についてその特性を説明できる。						
5）腸内細菌の役割について説明できる。						
6）細菌の遺伝子伝達（接合、形質導入、形質転換）について説明できる。		微生物学 2				
【細菌毒素】						
1）代表的な細菌毒素の作用を説明できる。	生命科学概論	微生物学 1				
【ウイルス】						
1）代表的なウイルスの構造と増殖過程を説明できる。	生命科学概論	分子生物学、 微生物学 2	免疫学			がんの診断と治療
2）ウイルスの分類法について概説できる。						
3）代表的な動物ウイルスの培養法、定量法について説明できる。		分子生物学、 微生物学 2				
【真菌・原虫・その他の微生物】						
1）主な真菌の性状について説明できる。	生命科学概論	微生物学 2				
2）主な原虫、寄生虫の生活史について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【消毒と滅菌】						
1）滅菌、消毒、防腐および殺菌、静菌の概念を説明できる。	生命科学概論	微生物学 1		調剤学2 医療薬学実習		
2）主な消毒薬を適切に使用する。（技能・態度）（OSCEの対象）		生物化学実習 1				
3）主な滅菌法を実施できる。（技能）（OSCEの対象）						
【検出方法】						
1）グラム染色を実施できる。（技能）	生命科学概論	生物化学実習 1				
2）無菌操作を実施できる。（技能）						
3）代表的な細菌または真菌の分離培養、純培養を実施できる。（技能）						
4）細菌の同定に用いる代表的な試験法（生化学的性状試験、血清型別試験、分子生物学的試験）について説明できる。		微生物学 1				
5）代表的な細菌を同定できる。（技能）		生物化学実習 1				
C9 生命をミクロに理解する						
（1）細胞を構成する分子						
【脂質】						
1）脂質を分類し、構造の特徴と役割を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 基礎生化学					
2）脂肪酸の種類と役割を説明できる。						
3）脂肪酸の生合成経路を説明できる。						
4）コレステロールの生合成経路と代謝を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1					
【糖質】						
1）グルコースの構造、性質、役割を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 基礎生化学					
2）グルコース以外の代表的な単糖、および二糖の種類、構造、性質、役割を説明できる。						
3）代表的な多糖の構造と役割を説明できる。						
4）糖質の定性および定量試験法を実施できる。（技能）	生命科学概論					
【アミノ酸】						
1）アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 基礎生化学					
2）アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1					
3）アミノ酸の定性および定量試験法を実施できる。（技能）	生命科学概論					
【ビタミン】						
1）水溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質、補酵素や補欠分子として関与する生体内反応について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 基礎生化学					
2）脂溶性ビタミンを列挙し、各々の構造、基本的性質と生理機能を説明できる。						
3）ビタミンの欠乏と過剰による症状を説明できる。	生命科学概論、 基礎生化学					
（2）生命情報を担う遺伝子						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【ヌクレオチドと核酸】						
１）核酸塩基の代謝（生合成と分解）を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1		バイオインフォマ ティクス			
２）DNAの構造について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 基礎生化学		生体機能化学、 バイオインフォマ ティクス			
３）RNAの構造について説明できる。			バイオインフォマ ティクス			
【遺伝情報を担う分子】						
１）遺伝子発現に関するセントラルドグマについて概説できる。	生命科学概論	生化学 2	生体機能化学、 バイオインフォマ ティクス			
２）DNA鎖とRNA鎖の類似点と相違点を説明できる。						
３）ゲノムと遺伝子の関係を説明できる。		生化学 2	バイオインフォマ ティクス			がんの診断と治療
４）染色体の構造を説明できる。						
５）遺伝子の構造に関する基本的用語（プロモーター、エンハンサー、エキソン、イントロンなど）を説明できる。						
６）RNAの種類と働きについて説明できる。						
【転写と翻訳のメカニズム】						
１）DNAからRNAへの転写について説明できる。	生命科学概論	生化学 2、 分子生物学	バイオインフォマ ティクス			
２）転写の調節について、例を挙げて説明できる。		生化学 3、 分子生物学、 微生物学 2				
３）RNAのプロセッシングについて説明できる。		分子生物学				
４）RNAからタンパク質への翻訳の過程について説明できる。		生化学 2、 分子生物学	分子細胞生物学			
５）リボソームの構造と機能について説明できる。						
【遺伝子の複製・変異・修復】						
１）DNAの複製の過程について説明できる。	生命科学概論	生化学 2、 分子生物学、 微生物学 2				がんの診断と治療
２）遺伝子の変異（突然変異）について説明できる。			バイオインフォマ ティクス			
３）DNAの修復の過程について説明できる。						
【遺伝子多型】						
１）一塩基変異（SNPs）が機能におよぼす影響について概説できる。	生命科学概論					がんの診断と治療

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）生命活動を担うタンパク質						
【タンパク質の構造と機能】						
１）タンパク質の主要な機能を列挙できる。	生命科学概論、 生化学 1、 生物学		生体機能化学			
２）タンパク質の一次、二次、三次、四次構造を説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 生物学、 基礎生化学		生体機能化学、 バイオインフォマ ティクス			
３）タンパク質の機能発現に必要な翻訳後修飾について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 生物学					がんの診断と治療
【酵素】						
１）酵素反応の特性を一般的な化学反応と対比させて説明できる。	生命科学概論、 生化学 1、 生物学		生体機能化学			
２）酵素を反応様式により分類し、代表的なものについて性質と役割を説明できる。						
３）酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。						
４）酵素反応速度論について説明できる。						
５）代表的な酵素活性調節機構を説明できる。						
６）代表的な酵素の活性を測定できる。（技能）	生命科学概論、 生物学	生物化学実習 1				
【酵素以外の機能タンパク質】						
１）細胞内外の物質や情報の授受に必要なタンパク質（受容体、チャネルなど）の構造と機能を概説できる。	生命科学概論、 生物学		分子細胞生物学			がんの診断と治療
２）物質の輸送を担うタンパク質の構造と機能を概説できる。						
３）血漿リボタンパク質の種類と機能を概説できる。		機能形態学 2				
４）細胞内で情報を伝達する主要なタンパク質を列挙し、その機能を概説できる。		生化学 2				がんの診断と治療
５）細胞骨格を形成するタンパク質の種類と役割について概説できる。						
【タンパク質の取扱い】						
１）タンパク質の定性、定量試験法を実施できる。（技能）	生命科学概論、 生物学	生物化学実習 1				
２）タンパク質の分離、精製と分子量の測定法を説明し、実施できる。（知識・技能）		生物化学実習 1、 生化学実習 2				
３）タンパク質のアミノ酸配列決定法を説明できる。						
（４）生体エネルギー						
【栄養素の利用】						
１）食物中の栄養成分の消化・吸収、体内運搬について概説できる。	生命科学概論、 生化学 1	機能形態学 2				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【ATPの産生】						
1）ATPが高エネルギー化合物であることを、化学構造をもとに説明できる。	生命科学概論、 生化学 1					がんの診断と治療
2）解糖系について説明できる。						
3）クエン酸回路について説明できる。						
4）電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。						
5）脂肪酸のβ酸化反応について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1					がんの診断と治療
6）アセチルCoAのエネルギー代謝における役割を説明できる。						
7）エネルギー産生におけるミトコンドリアの役割を説明できる。						
8）ATP産生阻害物質を列挙し、その阻害機構を説明できる。						がんの診断と治療
9）ペントースリン酸回路の生理的役割を説明できる。						
10）アルコール発酵、乳酸発酵の生理的役割を説明できる。						
【飢餓状態と飽食状態】						
1）グリコーゲンの役割について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1					
2）糖新生について説明できる。						
3）飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。						
4）余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。	生命科学概論					
5）食餌性の血糖変動について説明できる。		機能形態学 2				
6）インスリンとグルカゴンの役割を説明できる。		生化学 2、 機能形態学 2				
7）糖から脂肪酸への合成経路を説明できる。						
8）ケト原性アミノ酸と糖原性アミノ酸について説明できる。	生命科学概論、 生化学 1					
（5）生理活性分子とシグナル分子						
【ホルモン】						
1）代表的なペプチド性ホルモンを挙げ、その産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。	生命科学概論	生化学 2、 機能形態学 2	分子細胞生物学			
2）代表的なアミノ酸誘導体ホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
3）代表的なステロイドホルモンを挙げ、その構造、産生臓器、生理作用および分泌調節機構を説明できる。						
4）代表的なホルモン異常による疾患を挙げ、その病態を説明できる。			分子細胞生物学、 疾病と病態1			
【オータコイドなど】						
1）エイコサノイドとはどのようなものか説明できる。	生命科学概論	生化学 2	分子細胞生物学			
2）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生合成経路を説明できる。						
3）代表的なエイコサノイドを挙げ、その生理的意義（生理活性）を説明できる。						
4）主な生理活性アミン（セロトニン、ヒスタミンなど）の生合成と役割について説明できる。						
5）主な生理活性ペプチド（アンギオテンシン、ブラジキニンなど）の役割について説明できる。						
6）一酸化窒素の生合成経路と生体内での役割を説明できる。		生化学 2、 機能形態学 2				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【神経伝達物質】						
１）モノアミン系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	生命科学概論、機能形態学 1	生化学 2	分子細胞生物学			
２）アミノ酸系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	生命科学概論					
３）ペプチド系神経伝達物質を列挙し、その生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。						
４）アセチルコリンの生合成経路、分解経路、生理活性を説明できる。	生命科学概論、機能形態学 1					
【サイトカイン・増殖因子・ケモカイン】						
１）代表的なサイトカインを挙げ、それらの役割を概説できる。	生命科学概論、機能形態学 1	生化学 2	免疫学、分子細胞生物学			がんの診断と治療
２）代表的な増殖因子を挙げ、それらの役割を概説できる。	生命科学概論					
３）代表的なケモカインを挙げ、それらの役割を概説できる。						
【細胞内情報伝達】						
１）細胞内情報伝達に関与するセカンドメッセンジャーおよびカルシウムイオンなどを、具体例を挙げて説明できる。	生命科学概論、機能形態学 1	生化学 2	分子細胞生物学			がんの診断と治療
２）細胞膜受容体からGタンパク系を介して細胞内へ情報を伝達する主な経路について概説できる。						
３）細胞膜受容体タンパク質などのリン酸化を介して情報を伝達する主な経路について概説できる。	生命科学概論					
４）代表的な細胞内（核内）受容体の具体例を挙げて説明できる。						
（6）遺伝子进行操作する						
【遺伝子操作の基本】						
１）組換えDNA技術の概要を説明できる。	生命科学概論	生物化学実習 1、生化学実習 2、微生物学 2	免疫学、分子細胞生物学			がんの診断と治療
２）細胞からDNAを抽出できる。（技能）		生化学実習 2	分子細胞生物学			
３）DNAを制限酵素により切断し、電気泳動法により分離できる。（技能）		生物化学実習 1、生化学実習 2				
４）組換えDNA実験指針を理解し守る。（態度）		生化学実習 2				
５）遺伝子取扱いに関する安全性と倫理について配慮する。（態度）						
【遺伝子のクローニング技術】						
１）遺伝子クローニング法の概要を説明できる。	生命科学概論	生物化学実習 1、生化学実習 2	分子細胞生物学			
２）cDNAとゲノミックDNAの違いについて説明できる。		生物化学実習 1、生化学実習 2	分子細胞生物学、バイオインフォマティクス			
３）遺伝子ライブラリーについて説明できる。		生化学 2	分子細胞生物学			
４）PCR法による遺伝子増幅の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）		生物化学実習 1、微生物学 2				
５）RNAの逆転写と逆転写酵素について説明できる。		生化学 2		分子細胞生物学、バイオインフォマティクス		
６）DNA塩基配列の決定法を説明できる。						
７）コンピューターを用いて特徴的な塩基配列を検索できる。（技能）		生物化学実習 1				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【遺伝子機能の解析技術】						
１）細胞（組織）における特定のDNAおよびRNAを検出する方法を説明できる。	生命科学概論	生化学２	分子細胞生物学			
２）外来遺伝子を細胞中で発現させる方法を概説できる。						
３）特定の遺伝子を導入した動物、あるいは特定の遺伝子を破壊した動物の作成法を概説できる。		生化学２、 微生物学２				
４）遺伝子工学の医療分野での応用について例を挙げて説明できる。						
C10 生体防御						
（１）身体をまもる						
【生体防御反応】						
１）自然免疫と獲得免疫の特徴とその違いを説明できる。	生命科学概論	生化学２	免疫学、 分子細胞生物学			がんの診断と治療
２）異物の侵入に対する物理的、生理的、化学的バリアーについて説明できる。	生命科学概論					
３）補体について、その活性化経路と機能を説明できる。						
４）免疫反応の特徴（自己と非自己、特異性、記憶）を説明できる。						がんの診断と治療
５）クローン選択説を説明できる。						
６）体液性免疫と細胞性免疫を比較して説明できる。	生命科学概論、 機能形態学１	生化学２				がんの診断と治療
【免疫を担当する組織・細胞】						
１）免疫に関与する組織と細胞を列挙できる。	生命科学概論、 機能形態学１	生化学２	免疫学、 分子細胞生物学			がんの診断と治療
２）免疫担当細胞の種類と役割を説明できる。						
３）食細胞が自然免疫で果たす役割を説明できる。	生命科学概論					
４）免疫反応における主な細胞間ネットワークについて説明できる。						
【分子レベルで見た免疫のしくみ】						
１）抗体分子の種類、構造、役割を説明できる。	生命科学概論		免疫学、 分子細胞生物学			がんの診断と治療
２）MHC抗原の構造と機能および抗原提示経路での役割について説明できる。						
３）T細胞による抗原の認識について説明できる。						
４）抗体分子およびT細胞抗原受容体の多様性を生み出す機構（遺伝子再構成）を概説できる。						
５）免疫系に関わる主なサイトカイン、ケモカインを挙げ、その作用を説明できる。	生命科学概論、 機能形態学１	生化学２				がんの診断と治療

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（２）免疫系の破綻・免疫系の応用						
【免疫系が関係する疾患】						
１）アレルギーについて分類し、担当細胞および反応機構を説明できる。	生命科学概論、機能形態学 1	疾病と病態（総論）	免疫学			
２）炎症の一般的症状、担当細胞および反応機構について説明できる。	生命科学概論					がんの診断と治療
３）代表的な自己免疫疾患の特徴と成因について説明できる。						
４）代表的な免疫不全症候群を挙げ、その特徴と成因を説明できる。						
【免疫応答のコントロール】						
１）臓器移植と免疫反応の関わり（拒絶反応、免疫抑制剤など）について説明できる。	生命科学概論		免疫学			
２）細菌、ウイルス、寄生虫などの感染症と免疫応答との関わりについて説明できる。						
３）腫瘍排除に關与する免疫反応について説明できる。					がんの診断と治療	
４）代表的な免疫賦活療法について概説できる。						
【予防接種】						
１）予防接種の原理とワクチンについて説明できる。	生命科学概論	微生物学 2	免疫学			
２）主なワクチン（生ワクチン、不活化ワクチン、トキソイド、混合ワクチン）について基本的特徴を説明できる。						がんの診断と治療
３）予防接種について、その種類と実施状況を説明できる。						
【免疫反応の利用】						
１）モノクローナル抗体とポリクローナル抗体の作製方法を説明できる。	生命科学概論		免疫学			がんの診断と治療
２）抗原抗体反応を利用した代表的な検査方法の原理を説明できる。						
３）沈降、凝集反応を利用して抗原を検出できる。（技能）						
４）ELISA法、ウエスタンブロット法などを用いて抗原を検出、判定できる。（技能）		生物化学実習 1				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）感染症にかかる						
【代表的な感染症】						
１）主なDNAウイルス（△サイトメガロウイルス、△EBウイルス、ヒトヘルペスウイルス、△アデノウイルス、△パルボウイルスB19、B型肝炎ウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学 2	免疫学			がんの診断と治療
２）主なRNAウイルス（△ポリオウイルス、△コクサッキーウイルス、△エコーウイルス、△ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、△麻疹ウイルス、△ムンプスウイルス）が引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
３）レトロウイルス（HIV、HTLV）が引き起こす疾患について概説できる。						
４）グラム陽性球菌（ブドウ球菌、レンサ球菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学 1				
５）グラム陰性球菌（淋菌、△髄膜炎菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
６）グラム陽性桿菌（破傷風菌、△ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、△ジフテリア菌、△炭疽菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
７）グラム陰性桿菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、△チフス菌、△ペスト菌、コレラ菌、△百日咳菌、腸炎ビブリオ菌、緑膿菌、△プルセラ菌、レジオネラ菌、△インフルエンザ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
８）グラム陰性スピリルム属病原菌（ヘリコバクター・ピロリ菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						がんの診断と治療
９）抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌）の細菌学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
10）スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアの微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。						
11）真菌（アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、△ムーコル）の微生物学的特徴とそれが引き起こす代表的な疾患について概説できる。		微生物学 2				
12）代表的な原虫、寄生虫の代表的な疾患について概説できる。						
13）プリオン感染症の病原体の特徴と発症機序について概説できる。		疾病と病態（総論）、微生物学 2				
【感染症の予防】						
１）院内感染について、発生要因、感染経路、原因微生物、およびその防止対策を概説できる。		微生物学 1				
【健康と環境】						
G11 健康						
（１）栄養と健康						
【栄養素】						
１）栄養素（三大栄養素、ビタミン、ミネラル）を列挙し、それぞれの役割について説明できる。		栄養と健康				
２）各栄養素の消化、吸収、代謝のプロセスを概説できる。		機能形態学 2、 栄養と健康				
３）脂質の体内運搬における血漿リポタンパク質の栄養学的意義を説明できる。						
４）食品中のタンパク質の栄養的な価値（栄養価）を説明できる。		栄養と健康				
５）エネルギー代謝に関わる基礎代謝量、呼吸商、エネルギー所要量の意味を説明できる。		機能形態学 2、 栄養と健康				
６）栄養素の栄養所要量の意義について説明できる。						
７）日本における栄養摂取の現状と問題点について説明できる。		栄養と健康				
８）栄養素の過不足による主な疾病を列挙し、説明できる。		栄養と健康				

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【食品の品質と管理】						
1）食品が腐敗する機構について説明できる。		栄養と健康				
2）油脂が変敗する機構を説明し、油脂の変質試験を実施できる。（知識・技能）						
3）食品の褐変を引き起こす主な反応とその機構を説明できる。						
4）食品の変質を防ぐ方法（保存法）を説明できる。						
5）食品成分由来の発がん物質を列挙し、その生成機構を説明できる。						
6）代表的な食品添加物を用途別に列挙し、それらの働きを説明できる。						
7）食品添加物の法的規制と問題点について説明できる。						
8）主な食品添加物の試験法を実施できる。（技能）						
9）代表的な保健機能食品を列挙し、その特徴を説明できる。						
10）遺伝子組換え食品の現状を説明し、その問題点について討議する。（知識・態度）						
【食中毒】						
1）食中毒の種類を列挙し、発生状況を説明できる。		栄養と健康				
2）代表的な細菌性・ウイルス性食中毒を列挙し、それらの原因となる微生物の性質、症状、原因食品および予防方法について説明できる。		栄養と健康、微生物学 1				
3）食中毒の原因となる自然毒を列挙し、その原因物質、作用機構、症状の特徴を説明できる。		栄養と健康				
4）代表的なマイコトキシンを列挙し、それによる健康障害について概説できる。						がんの診断と治療
5）化学物質（重金属、残留農薬など）による食品汚染の具体例を挙げ、ヒトの健康に及ぼす影響を説明できる。						
（2）社会・集団と健康						
【保健統計】						
1）集団の健康と疾病の現状を把握する上での人口統計の意義を概説できる。				集団の健康と疾病予防		
2）人口静態と人口動態について説明できる。						
3）国勢調査の目的と意義を説明できる。						
4）死亡に関する様々な指標の定義と意義について説明できる。						
5）人口の将来予測に必要な指標を列挙し、その意義について説明できる。						
【健康と疾病をめぐる日本の現状】						
1）死因別死亡率の変遷について説明できる。				集団の健康と疾病予防		がんの診断と治療
2）日本における人口の推移と将来予測について説明できる。						
3）高齢化と少子化によりもたらされる問題点を列挙し、討議する。（知識・態度）						
【疫学】						
1）疾病の予防における疫学の役割を説明できる。				集団の健康と疾病予防		
2）疫学の三要因（病因、環境要因、宿主要因）について説明できる。						
3）疫学の種類（記述疫学、分析疫学など）とその方法について説明できる。						
4）患者・対照研究の方法の概要を説明し、オッズ比を計算できる。（知識・技能）						
5）要因・対照研究（コホート研究）の方法の概要を説明し、相対危険度、寄与危険度を計算できる。（知識・技能）						
6）医薬品の作用・副作用の調査における疫学的手法の有用性を概説できる。						
7）疫学データを解釈する上での注意点を列挙できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）疾病の予防						
【健康とは】						
１）健康と疾病の概念の変遷と、その理由を説明できる。	生命科学概論			集団の健康と疾病予防		
２）世界保健機構（WHO）の役割について概説できる。		微生物学 2				
【疾病の予防とは】						
１）疾病の予防について、一次、二次、三次予防という言葉を用いて説明できる。	生命科学概論			集団の健康と疾病予防		
２）疾病の予防における予防接種の意義について説明できる。						
３）新生児マスキリングの意義について説明し、代表的な検査項目を列挙できる。						
４）疾病の予防における薬剤師の役割について討議する。（態度）						
【感染症の現状とその予防】						
１）現代における感染症（日和見感染、院内感染、国際感染症など）の特徴について説明できる。	生命科学概論	微生物学 2		集団の健康と疾病予防		
２）新興感染症および再興感染症について代表的な例を挙げて説明できる。						
３）一、二、三類感染症および代表的な四類感染症を列挙し、分類の根拠を説明できる。						
４）母子感染する疾患を列挙し、その予防対策について説明できる。						
５）性行為感染症を列挙し、その予防対策と治療について説明できる。						
６）予防接種法と結核予防法の定める定期予防接種の種類を挙げ、接種時期などを説明できる。						
【生活習慣病とその予防】						
１）生活習慣病の種類とその動向について説明できる。	生命科学概論	疾病と病態（総論）		集団の健康と疾病予防		がんの診断と治療
２）生活習慣病のリスク要因を列挙できる。						
３）食生活と喫煙などの生活習慣と疾病の関わりについて説明できる。						
【職業病とその予防】						
１）主な職業病を列挙し、その原因と症状を説明できる。	生命科学概論			集団の健康と疾病予防		がんの診断と治療
C12 環境						
（１）化学物質の生体への影響						
【化学物質の代謝・代謝的活性化】						
１）代表的な有害化学物質の吸収、分布、代謝、排泄の基本的なプロセスについて説明できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		化学物質の生体影響			がんの診断と治療
２）第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
３）第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる。						
【化学物質による発がん】						
１）発がん性物質などの代謝的活性化の機構を列挙し、その反応機構を説明できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		化学物質の生体影響			がんの診断と治療
２）変異原性試験（Ames試験など）の原理を説明し、実施できる。（知識・技能）				衛生薬学実習		
３）発がんのイニシエーションとプロモーションについて概説できる。		疾病と病態（総論）				
４）代表的ながん遺伝子とがん抑制遺伝子を挙げ、それらの異常とがん化との関連を説明できる。		生化学 2	化学物質の生体影響、 分子細胞生物学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【化学物質の毒性】						
1）化学物質の毒性を評価するための主な試験法を列挙し、概説できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		化学物質の生体影響			
2）肝臓、腎臓、神経などに特異的に毒性を示す主な化学物質を列挙できる。						
3）重金属、農薬、PCB、ダイオキシンなどの代表的な有害化学物質の急性毒性、慢性毒性の特徴について説明できる。						
4）重金属や活性酸素による障害を防ぐための生体防御因子について具体例を挙げて説明できる。						
5）毒性試験の結果を評価するのに必要な量-反応関係、閾値、無毒性量（NOAEL）などについて概説できる。						
6）化学物質の安全摂取量（1日許容摂取量など）について説明できる。						
7）有害化学物質による人体影響を防ぐための法的規制（化審法など）を説明できる。						
8）環境ホルモン（内分泌攪乱化学物質）が人の健康に及ぼす影響を説明し、その予防策を提案する。（態度）						
【化学物質による中毒と処置】						
1）代表的な中毒原因物質の解毒処置法を説明できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		化学物質の生体影響、 毒性学			
2）化学物質の中毒量、作用器官、中毒症状、救急処置法、解毒法を検索することができる。（技能）						
【電離放射線の生体への影響】						
1）人に影響を与える電離放射線の種類を列挙できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		放射科学			
2）電離放射線被曝における線量と生体損傷の関係を体外被曝と体内被曝に分けて説明できる。						
3）電離放射線および放射性核種の標的臓器・組織を挙げ、その感受性の差異を説明できる。						
4）電離放射線の生体影響に変化を及ぼす因子（酸素効果など）について説明できる。						
5）電離放射線を防御する方法について概説できる。						
6）電離放射線の医療への応用について概説できる。						
【非電離放射線の生体への影響】						
1）非電離放射線の種類を列挙できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		生活環境と健康			
2）紫外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
3）赤外線の種類を列挙し、その特徴と生体に及ぼす影響について説明できる。						
（2）生活環境と健康						
【地球環境と生態系】						
1）地球環境の成り立ちについて概説できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		生活環境と健康			
2）生態系の構成員を列挙し、その特徴と相互関係を説明できる。						
3）人の健康と環境の関係を人が生態系の一員であることをふまえて討議する。（態度）						
4）地球規模の環境問題の成因、人に与える影響について説明できる。						
5）食物連鎖を介した化学物質の生物濃縮について具体例を挙げて説明できる。						
6）化学物質の環境内動態と人の健康への影響について例を挙げて説明できる。						
7）環境中に存在する主な放射性核種（天然、人工）を挙げ、人の健康への影響について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【水環境】						
1）原水の種類を挙げ、特徴を説明できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		生活環境と健康			
2）水の浄化法について説明できる。						
3）水の塩素処理の原理と問題点について説明できる。						
4）水道水の水質基準の主な項目を列挙し、測定できる。（知識・技能）				衛生薬学実習		
5）下水処理および排水処理の主な方法について説明できる。						
6）水質汚濁の主な指標を水域ごとに列挙し、その意味を説明できる。						
7）DO、BOD、CODを測定できる。（技能）				衛生薬学実習		
8）富栄養化の原因とそれによってもたらされる問題点を挙げ、対策を説明できる。						
【大気環境】						
1）空気の成分を説明できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		生活環境と健康			
2）主な大気汚染物質を列挙し、その推移と発生源について説明できる。						
3）主な大気汚染物質の濃度を測定し、健康影響について説明できる。（知識・技能）				衛生薬学実習		
4）大気汚染に影響する気象要因（逆転層など）を概説できる。						
【室内環境】						
1）室内環境を評価するための代表的な指標を列挙し、測定できる。（知識・技能）	生命科学概論、 薬系実験安全学		生活環境と健康	衛生薬学実習		
2）室内環境と健康との関係について説明できる。						
3）室内環境の保全のために配慮すべき事項について説明できる。						
4）シックハウス症候群について概説できる。						
【廃棄物】						
1）廃棄物の種類を列挙できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		生活環境と健康			
2）廃棄物処理の問題点を列挙し、その対策を説明できる。						
3）医療廃棄物を安全に廃棄、処理する。（技能・態度）						
4）マニフェスト制度について説明できる。						
5）PRTR法について概説できる。						
【環境保全と法的規制】						
1）典型七公害とその現状、および四大公害について説明できる。	生命科学概論、 薬系実験安全学		生活環境と健康			
2）環境基本法の理念を説明できる。						
3）大気汚染を防止するための法規制について説明できる。						
4）水質汚濁を防止するための法規制について説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【薬と疾病】						
C13 薬の効くプロセス						
【薬の作用】						
1）薬物の用量と作用の関係を説明できる。		薬理学総論	薬剤学、 薬理学実習			
2）アゴニストとアンタゴニストについて説明できる。						
3）薬物の作用するしくみについて、受容体、酵素およびチャネルを例に挙げて説明できる。						
4）代表的な薬物受容体を列挙し、刺激あるいは阻害された場合の生理反応を説明できる。			薬理学実習			
5）薬物の作用発現に関連する代表的な細胞内情報伝達系を列挙し、活性化された場合の生理反応を説明できる。						
6）薬効に個人差が生じる要因を列挙できる。						
7）代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。			薬理学実習			
8）薬物依存性について具体例を挙げて説明できる。			薬理学 1			
【薬の運命】						
1）薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。		薬理学総論	薬理学実習	薬物治療の個別化、 医療薬学実習		
2）薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。						
3）経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。				薬物治療の個別化		
4）薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。						
5）生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。				薬物治療の個別化、 医療薬学実習		
【薬の副作用】						
1）薬物の主作用と副作用（有害作用）、毒性との関連について説明できる。		薬理学総論	疾病と病態 2	薬物治療の個別化、 患者情報		
2）副作用と有害事象の違いについて説明できる。				調剤学 2、 患者情報		
【動物実験】						
1）動物実験における倫理について配慮する。（態度）			薬理学実習			
2）代表的な実験動物を適正に取り扱うことができる。（技能）						
3）実験動物での代表的な薬物投与法を実施できる。（技能）						
（2）薬の効き方Ⅰ						
【中枢神経系に作用する薬】						
1）代表的な全身麻酔薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 1			
2）代表的な催眠薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）代表的な鎮痛薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学実習	薬理学 1、 薬理学 2			
4）代表的な中枢神経疾患（てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 1、 疾病と病態 1			
5）代表的な精神疾患（統合失調症、うつ病など）の治療薬を挙げ、その薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 1			
6）中枢神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。			薬理学実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【自律神経系に作用する薬】						
1）交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学総論				
2）副交感神経系に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）神経節に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4）自律神経系に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）△技能であるからCBTには馴染まない			薬理学実習			
【知覚神経系・運動神経系に作用する薬】						
1）知覚神経に作用する代表的な薬物（局所麻酔薬など）を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。		薬理学総論				
2）運動神経系に作用する代表的な薬物を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）知覚神経、運動神経に作用する代表的な薬物の効果を測定できる。（技能）			薬理学実習			
【循環器系に作用する薬】						
1）代表的な抗不整脈薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 1			
2）代表的な心不全治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）代表的な虚血性心疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
4）代表的な高血圧治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【呼吸器系に作用する薬】						
1）代表的な呼吸興奮薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
2）代表的な鎮咳・去痰薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）代表的な気管支喘息治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
1）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			薬理学 1、 薬理学 2			
（3）薬の効き方Ⅱ						
【ホルモンと薬】						
1）ホルモンの分泌異常に用いられる代表的治療薬の薬理作用、機序、主な副作用を説明できる。			薬理学 2			
2）代表的な糖質コルチコイド代用薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
3）代表的な性ホルモン代用薬および拮抗薬の薬理作用、機序、臨床応用および主な副作用について説明できる。						
【消化器系に作用する薬】						
1）代表的な胃・十二指腸潰瘍治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
2）その他の消化性疾患に対する代表的治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
3）代表的な催吐薬と制吐薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
4）代表的な肝臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
5）代表的な膵臓疾患治療薬を挙げ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【腎に作用する薬】						
1）利尿薬を作用機序別に分類し、臨床応用および主な副作用について説明できる。			薬理学 1			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【血液・造血管系に作用する薬】						
１）代表的な止血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
２）代表的な抗血栓薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
３）代表的な造血薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
【代謝系に作用する薬】						
１）代表的な糖尿病治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。			薬理学 2			
２）代表的な高脂血症治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
３）代表的な高尿酸血症・痛風治療薬を挙げ、作用機序と主な副作用について説明できる。						
４）カルシウム代謝調節・骨代謝に関連する代表的な治療薬をあげ、薬理作用、機序、主な副作用について説明できる。						
【炎症・アレルギーと薬】						
１）代表的な炎症治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。			免疫学 薬理学 2			
２）慢性関節リウマチの代表的な治療薬を挙げ、作用機序および主な副作用について説明できる。						
３）アレルギーの代表的な治療薬を挙げ、作用機序、臨床応用、および主な副作用について説明できる。						
【化学構造】						
１）上記の薬物のうち代表的なものについて基本構造を示すことができる。			免疫学 薬理学 2			
（４）薬物の臓器への到達と消失						
【吸収】						
１）薬物の主な吸収部位を列挙できる。			生化学 1 薬剤学	薬物治療の個別化		
２）消化管の構造、機能と薬物吸収の関係を説明できる。						
３）受動拡散（単純拡散）、促進拡散の特徴を説明できる。	生化学 1					
４）能動輸送の特徴を説明できる。						
５）非経口投与後の薬物吸収について部位別に説明できる。						
６）薬物の吸収に影響する因子を列挙し説明できる。						
【分布】						
到達目標：			薬剤学	薬物治療の個別化、 医療薬学実習		
１）薬物が生体内に取り込まれた後、組織間で濃度差が生じる要因を説明できる。						
２）薬物の脳への移行について、その機構と血液-脳関門の意義を説明できる。						
３）薬物の胎児への移行について、その機構と血液 - 胎盤関門の意義を説明できる。						
４）薬物の体液中での存在状態（血漿タンパク結合など）を組織への移行と関連づけて説明できる。						
５）薬物分布の変動要因（血流量、タンパク結合性、分布容積など）について説明できる。						
６）分布容積が著しく大きい代表的な薬物を列挙できる。						
７）代表的な薬物のタンパク結合能を測定できる。（技能）					薬物治療の個別化	

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【代謝】						
1）薬物分子の体内での化学的变化とそれが起こる部位を列挙して説明できる。			薬剤学、 薬物動態学	薬物治療の個別化、 薬物代謝学		がんの診断と治療
2）薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる。	機能形態学 1					
3）薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる。						
4）シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる。						
5）薬物の酸化反応について具体的な例を挙げて説明できる。			薬剤学			
6）薬物の還元・加水分解、抱合について具体的な例を挙げて説明できる。						
7）薬物代謝酵素の変動要因（誘導、阻害、加齢、SNPsなど）について説明できる。			薬物動態学			
8）初回通過効果について説明できる。		機能形態学 2				
9）肝および固有クリアランスについて説明できる。				薬物治療の個別化		
【排泄】						
1）腎における排泄機構について説明できる。		機能形態学 2	薬剤学	薬物治療の個別化		
2）腎クリアランスについて説明できる。						
3）糸球体ろ過速度について説明できる。						
4）胆汁中排泄について説明できる。						
5）腸肝循環を説明し、代表的な腸肝循環の薬物を列挙できる。						
6）唾液・乳汁中への排泄について説明できる。						
7）尿中排泄率の高い代表的な薬物を列挙できる。						
【相互作用】						
1）薬物動態に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。			薬物動態学	薬物治療の個別化、 薬物代謝学		
2）薬効に起因する相互作用の代表的な例を挙げ、回避のための方法を説明できる。						
（5）薬物動態の解析						
【薬動学】						
1）薬物動態に関わる代表的なパラメーターを列挙し、概説できる。			薬物動態学	医療薬学実習		
2）薬物の生物学的利用能の意味とその計算法を説明できる。						
3）線形1-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）			薬物動態学			
4）線形2-コンパートメントモデルを説明し、これに基づいた計算ができる。（知識・技能）						
5）線形コンパートメントモデルと非線形コンパートメントモデルの違いを説明できる。						
6）生物学的半減期を説明し、計算できる。（知識・技能）						
7）全身クリアランスについて説明し、計算できる。（知識・技能）						
8）非線形性の薬物動態について具体例を挙げて説明できる。						
9）モデルによらない薬物動態の解析法を列挙し説明できる。						
10）薬物の肝および腎クリアランスの計算ができる。（技能）						医療薬学実習、 薬物治療の個別化
11）点滴静注の血中濃度計算ができる。（技能）				医療薬学実習		
12）連続投与における血中濃度計算ができる。（技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【TDM（Therapeutic Drug Monitoring）】						
1）治療的薬物モニタリング（TDM）の意義を説明できる。			薬物動態学	医療薬学実習、 調剤学1、 薬物代謝学		
2）TDMが必要とされる代表的な薬物を列挙できる。						
3）薬物血中濃度の代表的な測定法を実施できる。（技能）			薬物動態学	調剤学1		
4）至適血中濃度を維持するための投与計画について、薬動学的パラメーターを用いて説明できる。				医療薬学実習、 薬物治療の個別化、 薬物代謝学		
5）代表的な薬物についてモデルデータから投与計画をシミュレートできる。（技能）				医療薬学実習、 薬物治療の個別化		
C14 薬物治療						
（1）体の変化を知る						
【症候】						
1）以下の症候について、生じる原因とそれらを伴う代表的疾患を説明できる。発熱、頭痛、発疹、黄疸、チアノーゼ、脱水、浮腫、悪心・嘔吐、嚥下障害、腹痛・下痢、便秘、腹部膨満、貧血、出血傾向、胸痛、心悸亢進・動悸、高血圧、低血圧、ショック、呼吸困難、咳、口渇、月経異常、痛み、意識障害、運動障害、知覚障害、記憶障害、しびれ、けいれん、血尿、頻尿、排尿障害、視力障害、聴力障害、めまい		疾病と病態（総論）				
【症候と臨床検査値】						
1）代表的な肝臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と病態（総論）	疾病と病態 1			
2）代表的な腎臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
3）代表的な呼吸機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。	機能形態学実習					
4）代表的な心臓機能検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
5）代表的な血液および血液凝固検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。		疾病と病態（総論）		疾病と病態 2		
6）代表的な内分泌・代謝疾患に関する検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。			疾病と病態 1			
7）感染時および炎症時に認められる代表的な臨床検査値の変動を述べることができる。		疾病と病態（総論）	疾病と病態 2			
8）悪性腫瘍に関する代表的な臨床検査を列挙し、推測される腫瘍部位を挙げることができる。						がんの診断と治療
9）尿および糞便を用いた代表的な臨床検査を列挙し、その検査値の異常から推測される主な疾病を挙げることができる。						
10）動脈血ガス分析の検査項目を列挙し、その検査値の臨床的意義を説明できる。						
11）代表的なバイタルサインを列挙できる。			疾病と病態 2	医療薬学実習		
（2）疾患と薬物治療（心臓疾患等）						
【薬物治療の位置づけ】						
1）代表的な疾患における薬物治療と非薬物治療（外科手術、食事療法など）の位置づけを説明できる。			薬物治療学 2、 薬物治療の個別化			がんの診断と治療
2）適切な治療薬の選択について、薬効薬理、薬物動態に基づいて判断できる。（知識・技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【心臓・血管系の疾患】						
１）心臓および血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			薬理学 1、 疾病と病態 1、 薬物治療学 1			
２）不整脈の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）心不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と病態（総論）				
４）高血圧の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				処方解析概論		
５）虚血性心疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
６）以下の疾患について概説できる。閉塞性動脈硬化症、心原性ショック						
【血液・造血管系の疾患】						
１）血液・造血管系における代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 2、 薬理学 2、 疾病と病態 2			
２）貧血の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2、 薬理学 2、 疾病と病態 2			
３）白血病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2、 免疫学、 薬理学 2、 疾病と病態 2			がんの診断と治療
４）播種性血管内凝固症候群（DIC）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。		疾病と病態（総論）	薬物治療学 2			
５）以下の疾患について概説できる。血友病、悪性リンパ腫、紫斑病、白血球減少症、血栓・塞栓			薬物治療学 2、 免疫学			がんの診断と治療
【消化器系疾患】						
１）消化器系の部位別（食道、胃・十二指腸、小腸・大腸、胆道、肝臓、膵臓）に代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 2、 薬理学 2、 疾病と病態 1			
２）消化性潰瘍の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				処方解析概論		
３）腸炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）肝炎・肝硬変の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2、 薬理学 2、 疾病と病態 1、 分子細胞生物学			
５）膵炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2、 薬理学 2、 疾病と病態 1			
６）以下の疾患について概説できる。食道癌、胃癌、肝癌、大腸癌、胃炎、薬剤性肝障害、胆石症、虫垂炎、クローン病			薬物治療学 2、 薬理学 2、 疾病と病態 2			がんの診断と治療
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）			薬物治療学 2	処方解析概論		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（３）疾患と薬物治療（腎臓疾患等）						
【腎臓・尿路の疾患】						
１）腎臓および尿路における代表的な疾患を挙げることができる。			薬理学 2、 疾病と病態 1、 薬物治療学 1			
２）腎不全の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）ネフローゼ症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患について概説できる。糸球体腎炎、糖尿病性腎症、尿路感染症、薬剤性腎症、尿路結石			疾病と病態 1 薬物治療学 1、 疾病と病態 2			
【生殖器疾患】						
１）男性および女性生殖器に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 1、 疾病と病態 2			
２）前立腺肥大症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬理学 2、 薬物治療学 1、 疾病と病態 2			
３）以下の疾患について概説できる。前立腺癌、異常妊娠、異常分娩、不妊、子宮癌、子宮内膜症			薬物治療学 1、 疾病と病態 2			がんの診断と治療
【呼吸器・胸部の疾患】						
１）肺と気道に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 2、 疾病と病態 1			
２）閉塞性気道疾患（気管支喘息、肺気腫）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）以下の疾患について概説できる。上気道炎（かぜ症候群）、インフルエンザ、慢性閉塞性肺疾患、肺炎、肺結核、肺癌、乳癌				処方解析概論		がんの診断と治療
【内分泌系疾患】						
１）ホルモンの産生臓器別に代表的な疾患を挙げることができる。		生化学 2	薬理学 2、 疾病と病態 1 薬物治療学 1			
２）甲状腺機能異常症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）クッシング症候群の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）尿崩症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）以下の疾患について概説できる。上皮小体機能異常症、アルドステロン症、アジソン病			疾病と病態 1、 薬物治療学 1			
【代謝性疾患】						
１）糖尿病とその合併症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2、 薬理学 2、 疾病と病態 1	処方解析概論		
２）高脂血症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2、			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
３）高尿酸血症・痛風の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			疾病と病態 1			
【神経・筋の疾患】						
１）神経・筋に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬理学 1、 疾病と病態 1、 薬物治療学 1			
２）脳血管疾患の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）てんかんの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				処方解析概論		
４）パーキンソン病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
５）アルツハイマー病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
６）以下の疾患について概説できる。重症筋無力症、脳炎・髄膜炎、熱性けいれん、脳腫瘍、一過性脳虚血発作、脳血管性痴呆						
【総合演習】						
１）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。			薬物治療学 2	処方解析概論		
（４）疾患と薬物治療（精神疾患等）						
【精神疾患】						
１）代表的な精神疾患を挙げることができる。			薬理学 1、 疾病と病態 2、 薬物治療学 1			
２）統合失調症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）うつ病、躁うつ病の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。神経症、心身症、薬物依存症、アルコール依存症						
【耳鼻咽喉の疾患】						
１）耳鼻咽喉に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 1、 疾病と病態 2			
２）めまいの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）以下の疾患を概説できる。メニエール病、アレルギー性鼻炎、花粉症、副鼻腔炎、中耳炎			免疫学、 薬物治療学 1、 疾病と病態 2			
【皮膚疾患】						
１）皮膚に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 2、 免疫学、 疾病と病態 2			
２）アトピー性皮膚炎の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
３）皮膚真菌症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。蕁麻疹、薬疹、水疱症、乾癬、接触性皮膚炎、光線過敏症					薬物治療学 2 免疫学、 疾病と病態 2	
【眼疾患】						
１）眼に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 2、 疾病と病態 2			
２）緑内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				処方解析概論		
３）白内障の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
４）以下の疾患を概説できる。結膜炎、網膜症						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【骨・関節の疾患】						
1）骨、関節に関する代表的な疾患を挙げることができる。			薬物治療学 2、 疾病と病態 2			
2）骨粗鬆症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。				処方解析概論		
3）慢性関節リウマチの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2 免疫学、 疾病と病態 2			
4）以下の疾患を概説できる。変形性関節症、骨軟化症			薬物治療学 2、 疾病と病態 2			
【アレルギー・免疫疾患】						
1）代表的なアレルギー・免疫に関する疾患を挙げることができる。		疾病と病態（総論）	薬物治療学 2、 免疫学、 疾病と病態 2、 薬物治療学 1			
2）アナフィラキシーショックの病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。			薬物治療学 2 免疫学、 薬物治療学 1			
3）自己免疫疾患（全身性エリテマトーデスなど）の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
4）後天性免疫不全症の病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。						
【移植医療】						
1）移植に関連した病態生理、適切な治療薬、およびその使用上の注意について説明できる。	生化学 1		薬物治療学 2 免疫学			
【緩和ケアと長期療養】						
1）癌性疼痛に対して使用される薬物を列挙し、使用上の注意について説明できる。			薬理学 1、 薬物治療の個別化、 薬物治療学 1	処方解析概論		
2）長期療養に付随する合併症を列挙し、その薬物治療について説明できる。						
【総合演習】						
1）指定された疾患例について必要な情報を収集し、適切な薬物治療法を考案することができる。（技能）			薬物治療学 2			
（5）病原微生物・悪性新生物と戦う						
【感染症】						
1）主な感染症を列挙し、その病態と原因を説明できる。		微生物学 1	疾病と病態 2	疾病と病態 2、 感染症・がんの治療薬		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【抗菌薬】						
1）抗菌薬を作用点に基づいて分類できる。		微生物学 1	医薬化学、 天然物薬品学	感染症・がんの治療 薬		
2）代表的な抗菌薬の基本構造を示すことができる。						
3）代表的なβ-ラクタム系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。			薬物治療学 2			
4）テトラサイクリン系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
5）マクロライド系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
6）アミノ配糖体系抗菌薬を抗菌スペクトルに基づいて分類し、有効な感染症を列挙できる。						
7）ピリドンカルボン酸系抗菌薬の抗菌スペクトルと、有効な感染症を列挙できる。						
8）サルファ薬（ST合剤を含む）の有効な感染症を列挙できる。						
9）代表的な抗結核薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
10）細菌感染症に関係する代表的な生物学的製剤を挙げ、その作用機序を説明できる。						
11）代表的な抗菌薬の使用上の注意について説明できる。						
12）特徴的な組織移行性を示す抗菌薬を列挙できる。						
【抗原虫・寄生虫薬】						
1）代表的な抗原虫・寄生虫薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学 2		感染症・がんの治療 薬		
【抗真菌薬】						
1）代表的な抗真菌薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学 2	天然物薬品学	感染症・がんの治療 薬		
【抗ウイルス薬】						
1）代表的な抗ウイルス薬を列挙し、作用機序および臨床応用を説明できる。		微生物学 2	薬物治療学 2 免疫学	感染症・がんの治療 薬		
2）抗ウイルス薬の併用療法において考慮すべき点を挙げ、説明できる。			薬物治療学 2			
【抗菌薬の耐性と副作用】						
1）主要な化学療法薬の耐性獲得機構を説明できる。				感染症・がんの治療 薬		がんの診断と治療
2）主要な化学療法薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
【悪性腫瘍の病態と治療】						
1）悪性腫瘍の病態生理、症状、治療について概説できる。		疾病と病態（総論）	薬物治療学 2	感染症・がんの治療 薬		がんの診断と治療
2）悪性腫瘍の治療における薬物治療の位置づけについて概説できる。						
3）化学療法薬が有効な悪性腫瘍を、治療例を挙げて説明できる。						
【抗悪性腫瘍薬】						
1）代表的な抗悪性腫瘍薬を列挙できる。				感染症・がんの治療 薬		がんの診断と治療
2）代表的なアルキル化薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
3）代表的な代謝拮抗薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
4）代表的な抗腫瘍抗生物質を列挙し、作用機序を説明できる。			天然物薬品学			
5）抗腫瘍薬として用いられる代表的な植物アルカロイドを列挙し、作用機序を説明できる。			医薬化学			
6）抗腫瘍薬として用いられる代表的なホルモン関連薬を列挙し、作用機序を説明できる。						
7）代表的な白金錯体を挙げ、作用機序を説明できる。						
8）代表的な抗悪性腫瘍薬の基本構造を示すことができる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【抗悪性腫瘍薬の耐性と副作用】						
1）主要な抗悪性腫瘍薬に対する耐性獲得機構を説明できる。				感染症・がんの治療薬		がんの診断と治療
2）主要な抗悪性腫瘍薬の主な副作用を列挙し、その症状を説明できる。						
3）副作用軽減のための対処法を説明できる。						
C15 薬物治療に役立つ情報						
（1）医薬品情報						
【情報】						
1）医薬品として必須の情報を列挙できる。			医薬品情報学、 薬学情報科学・演習			
2）医薬品情報に関わっている職種を列挙し、その役割を説明できる。		実践社会薬学				
3）医薬品の開発過程で得られる情報の種類を列挙できる。			医薬品情報学			
4）医薬品の市販後に得られる情報の種類を列挙できる。		実践社会薬学				
5）医薬品情報に関係する代表的な法律と制度について概説できる。			医薬品情報学、 薬学情報科学・演習			
【情報源】						
1）医薬品情報源の一次資料、二次資料、三次資料について説明できる。			医薬品情報学、 薬学情報科学・演習			
2）医薬品情報源として代表的な二次資料、三次資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報学			
3）厚生労働省、製薬企業などの発行する資料を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
4）医薬品添付文書（医療用、一般用）の法的位置づけと用途を説明できる。						
5）医薬品添付文書（医療用、一般用）に記載される項目を列挙し、その必要性を説明できる。						
6）医薬品インタビューフォームの位置づけと用途を説明できる。						
7）医療用医薬品添付文書と医薬品インタビューフォームの使い分けができる。（技能）				医療薬学実習		
【収集・評価・加工・提供・管理】						
1）目的（効能効果、副作用、相互作用、薬剤鑑別、妊婦への投与、中毒など）に合った適切な情報源を選択し、必要な情報を検索、収集できる。（技能）			医薬品情報学、 薬学情報科学・演習	医療薬学実習		
2）医薬品情報を質的に評価する際に必要な基本的項目を列挙できる。						
3）医薬品情報を目的に合わせて適切に加工し、提供できる。（技能）			薬学情報科学・演習	医療薬学実習		
4）医薬品情報の加工、提供、管理の際に、知的所有権、守秘義務に配慮する。（知識・態度）			医薬品情報学、 薬学情報科学・演習			
5）主な医薬品情報の提供手段を列挙し、それらの特徴を説明できる。						
【データベース】						
1）代表的な医薬品情報データベースを列挙し、それらの特徴を説明できる。			医薬品情報学、 薬学情報科学・演習			
2）医学・薬学文献データベース検索におけるキーワード、シソーラスの重要性を理解し、適切に検索できる。（知識・技能）			薬学情報科学・演習			
3）インターネットなどを利用して代表的な医薬品情報を収集できる。（技能）				医療薬学実習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【EBM（Evidence-Based Medicine）】						
1）EBMの基本概念と有用性について説明できる。			生物統計学、 医薬品情報学		実践EBM	
2）EBM実践のプロセスを概説できる。						
3）臨床研究法（ランダム化比較試験、コホート研究、症例対照研究など）の長所と短所を概説できる。						
4）メタアナリシスの概念を理解し、結果を評価できる。（知識・技能）						
5）真のエンドポイントと代用のエンドポイントの違いを説明できる。						
6）臨床適用上の効果指標（オッズ比、必要治療数、相対危険度など）について説明できる。					実践EBM、 医療統計と演習	
【総合演習】						
1）医薬品の採用、選択に当たって検討すべき項目を列挙できる。			薬学情報科学・演習、 医薬品情報学	医療薬学実習	実践EBM	
2）医薬品に関する論文を評価、要約し、臨床上の問題を解決するために必要な情報を提示できる。（知識・技能）			薬学情報科学・演習			
（2）患者情報						
【情報と情報源】						
1）薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。		実践社会薬学	医薬品情報学	患者情報		
2）患者情報源の種類を列挙し、それぞれの違いを説明できる。						
【収集・評価・管理】						
1）問題志向型システム（POS）を説明できる。			医薬品情報学	患者情報		
2）薬歴、診療録、看護記録などから患者基本情報を収集できる。（技能）		実践社会薬学				
3）患者、介護者との適切なインタビューから患者基本情報を収集できる。（技能）						
4）得られた患者情報から医薬品の効果および副作用などを評価し、対処法を提案する。（知識・技能）						
5）SOAPなどの形式で患者記録を作成できる。（技能）						
6）チーム医療において患者情報を共有することの重要性を感じとる。（態度）						
7）患者情報の取扱いにおいて守秘義務を遵守し、管理の重要性を説明できる。（知識・態度）			薬学情報科学・演習			
（3）テーラーメイド薬物治療を目指して						
【遺伝的素因】						
1）薬物の作用発現に及ぼす代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。	生化学 1			調剤学1、 薬物治療の個別化、 医療薬学実習		がんの診断と治療
2）薬物動態に影響する代表的な遺伝的素因について、例を挙げて説明できる。						
3）遺伝的素因を考慮した薬物治療について、例を挙げて説明できる。						
【年齢的要因】						
1）新生児、乳児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。	生命科学概論			調剤学1、 薬物治療の個別化		
2）幼児、小児に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3）高齢者に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
【生理的要因】						
1）生殖、妊娠時における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				調剤学1		がんの診断と治療
2）授乳婦に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3）栄養状態の異なる患者（肥満など）に対する薬物治療で注意すべき点を説明できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【合併症】						
1）腎臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				調剤学1 薬物治療の個別化 医療薬学実習		
2）肝臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。						
3）心臓疾患を伴った患者における薬物治療で注意すべき点を説明できる。				調剤学1 薬物治療の個別化		がんの診断と治療
【投与計画】						
1）患者固有の薬動学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）				医療薬学実習、 薬物治療の個別化		
2）ポピュレーションファーマコキネティクスの概念と応用について概説できる。						
3）薬動力学的パラメーターを用いて投与設計ができる。（知識・技能）						
4）薬物作用の日内変動を考慮した用法について概説できる。				薬物治療の個別化		
【医薬品をつくる】						
C16 製剤化のサイエンス						
（1）製剤材料の性質						
【物質の溶解】						
1）溶液の濃度と性質について説明できる。			薬剤学	薬物治療の個別化、 調剤学 2		
2）物質の溶解とその速度について説明できる。						
3）溶解した物質の膜透過速度について説明できる。						
4）物質の溶解に対して酸・塩基反応が果たす役割を説明できる。						
【分散系】						
1）界面の性質について説明できる。			薬剤学	薬物治療の個別化、 調剤学 2		
2）代表的な界面活性剤の種類と性質について説明できる。						
3）乳剤の型と性質について説明できる。						
4）代表的な分散系を列挙し、その性質について説明できる。						
5）分散粒子の沈降現象について説明できる。						
【製剤材料の物性】						
1）流動と変形（レオロジー）の概念を理解し、代表的なモデルについて説明できる。				薬物治療の個別化、 調剤学 2		
2）高分子の構造と高分子溶液の性質について説明できる。						
3）製剤分野で汎用される高分子の物性について説明できる。						
4）粉体の性質について説明できる。			薬剤学			
5）製剤材料としての分子集合体について説明できる。						
6）薬物と製剤材料の安定性に影響する要因、安定化方法を列挙し、説明できる。			製剤学			
7）粉末X線回折測定法の原理と利用法について概略を説明できる。						
8）製剤材料の物性を測定できる。（技能）			薬剤学実習			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目						
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	
（2）剤形をつくる							
【代表的な製剤】							
1）代表的な剤形の種類と特徴を説明できる。			製剤学	調剤学1、 薬物治療の個別化、 医療薬学実習、 調剤学2			
2）代表的な固形製剤の種類と性質について説明できる。							
3）代表的な半固形製剤の種類と性質について説明できる。							
4）代表的な液状製剤の種類と性質について説明できる。							
5）代表的な無菌製剤の種類と性質について説明できる。							
6）エアゾール剤とその類似製剤について説明できる。					調剤学1、 調剤学2		
7）代表的な製剤添加物の種類と性質について説明できる。					調剤学1、 薬物治療の個別化、 医療薬学実習、 調剤学2		
8）代表的な製剤の有効性と安全性評価法について説明できる。							
【製剤化】							
1）製剤化の単位操作および汎用される製剤機械について説明できる。			製剤学	調剤学1、 医療薬学実習、 調剤学2			
2）単位操作を組み合わせて代表的製剤を調製できる。（技能）			製剤学、 薬剤学実習				
3）汎用される容器、包装の種類や特徴について説明できる。			製剤学				
【製剤試験法】							
1）日本薬局方の製剤に関連する試験法を列挙できる。			製剤学	調剤学1、 医療薬学実習、 調剤学2			
2）日本薬局方の製剤に関連する代表的な試験法を実施し、品質管理に適用できる。（技能）			薬剤学実習				
（3）DDS（Drug Delivery System：薬物送達システム）							
【DDSの必要性】							
1）従来の医薬品製剤の有効性、安全性、信頼性における主な問題点を列挙できる。			薬剤学、 製剤学	調剤学1、 医療薬学実習			
2）DDSの概念と有用性について説明できる。							
【放出制御型製剤】							
1）放出制御型製剤（徐放性製剤を含む）の利点について説明できる。			薬剤学、製剤学	薬物治療の個別化			
2）代表的な放出制御型製剤を列挙できる。							
3）代表的な徐放性製剤における徐放化の手段について説明できる。							
4）徐放性製剤に用いられる製剤材料の種類と性質について説明できる。							
5）経皮投与製剤の特徴と利点について説明できる			薬剤学				
6）腸溶製剤の特徴と利点について説明できる。			薬剤学、製剤学				
【ターゲティング】							
1）ターゲティングの概要と意義について説明できる。			薬剤学、製剤学	薬物治療の個別化			
2）代表的なドラッグキャリアーを列挙し、そのメカニズムを説明できる。							
【プロドラッグ】							
1）代表的なプロドラッグを列挙し、そのメカニズムと有用性について説明できる。			薬剤学、製剤学	薬物治療の個別化			
【その他のDDS】							
1）代表的な生体膜透過促進法について説明できる。			薬剤学	薬物治療の個別化			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
C17 医薬品の開発と生産						
（１）医薬品開発と生産のながれ						
【医薬品開発のコンセプト】						
１）医薬品開発を計画する際に考慮すべき因子を列挙できる。	生命科学概論		創薬化学	調剤学 2	医薬品の開発	
２）疾病統計により示される日本の疾病の特徴について説明できる。						
【医薬品市場と開発すべき医薬品】						
１）医療用医薬品で日本市場および世界市場での売上高上位の医薬品を列挙できる。	生命科学概論			調剤学 2	医薬品の開発	
２）新規医薬品の価格を決定する要因について概説できる。		ヒューマニズム薬学入門 2	創薬化学			
３）ジェネリック医薬品の役割について概説できる。						
４）希少疾病に対する医薬品（オーファンドラッグ）開発の重要性について説明できる。						医薬品の開発
【非臨床試験】						
１）非臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	生命科学概論	ヒューマニズム薬学入門 2	薬物動態学、創薬化学		医薬品の開発	
【医薬品の承認】						
１）臨床試験の目的と実施概要を説明できる。	生命科学概論	ヒューマニズム薬学入門 2、実践社会薬学	医薬品情報学、創薬化学	調剤学 2	医薬品の開発	
２）医薬品の販売承認申請から、承認までのプロセスを説明できる。						
３）市販後調査の制度とその意義について説明できる。						
４）医薬品開発における国際的ハーモナイゼーション（ICH）について概説できる。						
【医薬品の製造と品質管理】						
１）医薬品の工業的規模での製造工程の特色を開発レベルのそれと対比させて概説できる。	生命科学概論			調剤学 2	医薬品の開発	
２）医薬品の品質管理の意義と、薬剤師の役割について説明できる。						
３）医薬品製造において環境保全に配慮すべき点を列挙し、その対処法を概説できる。						
【規範】						
１）GLP（Good Laboratory Practice）、GMP（Good Manufacturing Practice）、GCP（Good Clinical Practice）、GPMSP（Good Post-Marketing Surveillance Practice）の概略と意義について説明できる。	生命科学概論	ヒューマニズム薬学入門 2	医薬品情報学	薬剤師と法律、調剤学 2	医薬品の開発	
【特許】						
１）医薬品の創製における知的財産権について概説できる。	生命科学概論	ヒューマニズム薬学入門 2			医薬品の開発	
【薬害】						
１）代表的な薬害の例（サリドマイド、スモン、非加熱血液製剤、ソリブジンなど）について、その原因と社会的背景を説明し、これらを回避するための手段を討議する。（知識・態度）	生命科学概論					
（２）リード化合物の創製と最適化						
【医薬品創製の歴史】						
１）古典的な医薬品開発から理論的な創薬への歴史について説明できる。	生命科学概論		分子細胞生物学、創薬化学			

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【標的生体分子との相互作用】						
1）医薬品開発の標的となる代表的な生体分子を列挙できる。	生命科学概論		分子細胞生物学、 創薬化学			
2）医薬品と標的生体分子の相互作用を、具体例を挙げて立体化学的観点から説明できる。						
3）立体異性体と生物活性の関係について具体例を挙げて説明できる。						
4）医薬品の構造とアゴニスト活性、アンタゴニスト活性との関係について具体例を挙げて説明できる。						
【スクリーニング】						
1）スクリーニングの対象となる化合物の起源について説明できる。	生命科学概論		分子細胞生物学、 創薬化学			
2）代表的なスクリーニング法を列挙し、概説できる。						
【リード化合物の最適化】						
1）定量的構造活性相関のパラメーターを列挙し、その薬理活性に及ぼす効果について概説できる。	生命科学概論		分子細胞生物学、 創薬化学			
2）生物学的等価性（バイオアイソスター）の意義について概説できる。						
3）薬物動態を考慮したドラッグデザインについて概説できる。						
（3）バイオ医薬品とゲノム情報						
【組換え体医薬品】						
1）組換え体医薬品の特色と有用性を説明できる。	生命科学概論		分子細胞生物学、天然物薬品学		創薬ゲノム科学	がんの診断と治療
2）代表的な組換え体医薬品を列挙できる。						
3）組換え体医薬品の安全性について概説できる。			分子細胞生物学			
【遺伝子治療】						
1）遺伝子治療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）	生命科学概論		分子細胞生物学		創薬ゲノム科学	
【細胞を利用した治療】						
1）再生医療の原理、方法と手順、現状、および倫理的問題点を概説できる。（知識・態度）	生命科学概論		分子細胞生物学		創薬ゲノム科学	がんの診断と治療
【ゲノム情報の創薬への利用】						
1）ヒトゲノムの構造と多様性を説明できる。	生命科学概論		分子細胞生物学、 バイオインフォマティクス		創薬ゲノム科学	がんの診断と治療
2）バイオインフォマティクスについて概説できる。						
3）遺伝子多型（欠損、増幅）の解析に用いられる方法（ゲノミックサザンプロット法など）について概説できる。			分子細胞生物学			
4）ゲノム情報の創薬への利用について、創薬ターゲットの探索の代表例（イマチニブなど）を挙げ、ゲノム創薬の流れについて説明できる。			分子細胞生物学、 バイオインフォマティクス、 創薬化学			
【疾患関連遺伝子】						
1）代表的な疾患（癌、糖尿病など）関連遺伝子について説明できる。	生命科学概論		分子細胞生物学		創薬ゲノム科学	がんの診断と治療
2）疾患関連遺伝子情報の薬物療法への応用例を挙げ、概説できる。						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（４）治験						
【治験の意義と業務】						
１）治験に関してヘルシンキ宣言が意図するところを説明できる。	生命科学概論		分子細胞生物学、 創薬化学、 医薬品情報学		医薬品の開発	
２）医薬品創製における治験の役割を説明できる。						
３）治験（第Ⅰ、Ⅱ、およびⅢ相）の内容を説明できる。						
４）公正な治験の推進を確保するための制度を説明できる。			分子細胞生物学、 医薬品情報学			
５）治験における被験者の人権の保護と安全性の確保、および福祉の重要性について討議する。 （態度）						
６）治験業務に携わる各組織の役割と責任を概説できる。						
【治験における薬剤師の役割】						
１）治験における薬剤師の役割（治験薬管理者など）を説明できる。	生命科学概論		医薬品情報学	調剤学 2	医薬品の開発	
２）治験コーディネーターの業務と責任を説明できる。						
３）治験に際し、被験者に説明すべき項目を列挙できる。						
４）インフォームド・コンセントと治験情報に関する守秘義務の重要性について討議する。（態度）						
（５）バイオスタティスティクス						
【生物統計の基礎】						
１）帰無仮説の概念を説明できる。	生命科学概論	統計学・推計学	生物統計学		医療統計と演習	
２）パラメトリック検定とノンパラメトリック検定の使い分けを説明できる。						
３）主な二群間の平均値の差の検定法（t-検定、Mann-Whitney U検定）について、適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
４） χ^2 検定の適用できるデータの特性を説明し、実施できる。（知識・技能）						
５）最小二乗法による直線回帰を説明でき、回帰係数の有意性を検定できる。（知識・技能）						
６）主な多重比較検定法（分散分析、Dunnett検定、Tukey検定など）の概要を説明できる。						
７）主な多変量解析の概要を説明できる。						
【臨床への応用】						
１）臨床試験の代表的な研究デザイン（症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験）の特色を説明できる。	生命科学概論		生物統計学		医療統計と演習	
２）バイアスの種類をあげ、特徴を説明できる。						
３）バイアスを回避するための計画上の技法（盲検化、ランダム化）について説明できる。						
４）リスク因子の評価として、オッズ比、相対危険度および信頼区間について説明し、計算できる。 （知識・技能）						
５）基本的な生存時間解析法（Kaplan-Meier曲線など）の特徴を説明できる。						がんの診断と治療
C18 薬学と社会						
（１）薬剤師を取り巻く法律と制度						
【医療の担い手としての使命】						
１）薬剤師の医療の担い手としての倫理的責任を自覚する。（態度）				医療薬学実習、 調剤学2		
２）医療過誤、リスクマネジメントにおける薬剤師の責任と義務を果たす。（態度）				医療薬学実習		

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
【法律と制度】						
1）薬剤師に関連する法令の構成を説明できる。				薬剤師と法律		
2）薬事法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。		実践社会薬学				
3）薬剤師法の重要な項目を列挙し、その内容を説明できる。						
4）薬剤師に関わる医療法の内容を説明できる。						
5）医師法、歯科医師法、保健師助産師看護師法などの関連法規と薬剤師の関わりを説明できる。						
6）医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を概説できる。				薬剤師と法律、 調剤学2、 患者情報		
7）製造物責任法を概説できる。				薬剤師と法律、 調剤学2		
【管理薬】						
1）麻薬及び向精神薬取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。				薬剤師と法律、 調剤学2		
2）覚せい剤取締法を概説し、規制される代表的な医薬品を列挙できる。						
3）大麻取締法およびあへん法を概説できる。						
4）毒物及び劇物取締法を概説できる。						
【放射性医薬品】						
1）放射性医薬品の管理、取扱いに関する基準（放射性医薬品基準など）および制度について概説できる。	薬系実験安全学			調剤学2		
2）代表的な放射性医薬品を列挙し、その品質管理に関する試験法を概説できる。						がんの診断と治療
（2）社会保障制度と薬剤経済						
【社会保障制度】						
1）日本における社会保障制度のしくみを説明できる。				薬剤師と社会		
2）社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。						
3）介護保険制度のしくみを説明できる。						
4）高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。						
【医療保険】						
1）医療保険の成り立ちと現状を説明できる。				薬剤師と社会		
2）医療保険のしくみを説明できる。						
3）医療保険の種類を列挙できる。						
4）国民の福祉健康における医療保険の貢献と問題点について概説できる。						
【薬剤経済】						
1）国民医療費の動向を概説できる。				薬剤師と社会		
2）保険医療と薬価制度の関係を概説できる。						
3）診療報酬と薬価基準について説明できる。						
4）医療費の内訳を概説できる。						
5）薬物治療の経済評価手法を概説できる。						
6）代表的な症例をもとに、薬物治療を経済的な観点から解析できる。（知識・技能）						

薬学教育モデル・コアカリキュラム（SBOs）	該 当 科 目					
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
（3）コミュニティファーマシー						
【地域薬局の役割】						
1）地域薬局の役割を列挙できる。				セルフメディケーションとOTC		
2）在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。				薬剤師と社会		
3）学校薬剤師の役割を説明できる。						
【医薬分業】						
1）医薬分業のしくみと意義を説明できる。		実践社会薬学		薬剤師と社会		
2）医薬分業の現状を概説し、将来像を展望する。（知識・態度）						
3）かかりつけ薬局の意義を説明できる。						
【薬局の業務運営】						
1）保険薬剤師療養担当規則および保険医療養担当規則を概説できる。				薬剤師と社会		
2）薬局の形態および業務運営ガイドラインを概説できる。						
3）医薬品の流通のしくみを概説できる。						
4）調剤報酬および調剤報酬明細書（レセプト）について説明できる。						
【OTC薬・セルフメディケーション】						
1）地域住民のセルフメディケーションのために薬剤師が果たす役割を討議する。（態度）				セルフメディケーションとOTC		
2）主な一般用医薬品（OTC薬）を列挙し、使用目的を説明できる。				医療薬学実習、セルフメディケーションとOTC		
3）漢方薬、生活改善薬、サプリメント、保健機能食品について概説できる。				セルフメディケーションとOTC、調剤学 2		

（基礎資料３－２）実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目

【注】 １ 実務実習モデル・コアカリキュラムのＳＢＯｓに該当する科目名または実習項目名を実施学年の欄に記入してください。

２ 同じ科目名・項目名が連続する場合はセルを結合して記入することもできます。

３ 「（７）の事前学習のまとめ」において大学でＳＢＯｓの設定がある場合は、記入してください。必要ならば、行を適宜追加してください。

実務実習モデル・コアカリキュラム（実務実習事前学習）ＳＢＯｓ	該 当 科 目		
	３ 年	４ 年	５ 年
D 実務実習教育			
（I）実務実習事前学習			
（1）事前学習を始めるにあたって			
《薬剤師業務に注目する》			
1. 医療における薬剤師の使命や倫理などについて概説できる。		調剤学1、 薬剤師と法律	
2. 医療の現状をふまえて、薬剤師の位置づけと役割、保険調剤について概説できる。			
3. 薬剤師が行う業務が患者本位のファーマシューティカルケアの概念にそったものであることについて討議する。（態度）		医療薬学実習、 調剤学1	
《チーム医療に注目する》			
4. 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。			最新薬剤師業務
5. チーム医療における薬剤師の役割を説明できる。			
6. 自分の能力や責任範囲の限界と他の医療従事者との連携について討議する。（態度）		医療薬学実習	
《医薬分業に注目する》			
7. 医薬分業の仕組みと意義を概説できる。		薬剤師と社会	
（2）処方せんと調剤			
《処方せんの基礎》			
1. 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。		調剤学1、 医療薬学実習、 処方解析概論、 薬剤師と法律	
2. 処方オーダーリングシステムを概説できる。		調剤学1、 医療薬学実習、 処方解析概論	
3. 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。			
4. 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。		調剤学1、 医療薬学実習、 薬剤師と法律	
5. 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。（知識・技能）		調剤学1、 医療薬学実習	
6. 不適切な処方せんの処置について説明できる。			

《医薬品の用法・用量》				
7.	代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。		調剤学1、 医療薬学実習、 薬物治療の個別化	
8.	患者に適した剤形を選択できる。（知識・技能）			
9.	患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量について説明できる。			
10.	患者の特性に適した用量を計算できる。（技能）			
11.	病態（腎、肝疾患など）に適した用量設定について説明できる。			
《服薬指導の基礎》				
12.	服薬指導の意義を法的、倫理的、科学的根拠に基づいて説明できる。		調剤学1、 医療薬学実習	
《調剤室業務入門》				
13.	代表的な処方せん例の鑑査をシミュレートできる。（技能）		調剤学1、 医療薬学実習	
14.	処方せん例に従って、計数調剤をシミュレートできる。（技能）			
15.	処方せん例に従って、計量調剤をシミュレートできる。（技能）			
16.	調剤された医薬品の鑑査をシミュレートできる。（技能）			
17.	処方せんの鑑査の意義とその必要性について討議する。（態度）			
（3）疑義照会				
《疑義照会の意義と根拠》				
1.	疑義照会の意義について、法的根拠を含めて説明できる。		医療薬学実習、 薬剤師と法律	
2.	代表的な配合変化の組合せとその理由を説明できる。		薬剤師と社会 処方解析概論	
3.	特定の配合によって生じる医薬品の性状、外観の変化を観察する。（技能）		医療薬学実習	
4.	不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。			
《疑義照会入門》				
5.	処方せんの問題点を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性を討議する。（態度）		医療薬学実習	
6.	代表的な医薬品について効能・効果、用法・用量を列挙できる。			
7.	代表的な医薬品について警告、禁忌、副作用を列挙できる。			
8.	代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。			
9.	疑義照会の流れを説明できる。			
10.	疑義照会をシミュレートする。（技能・態度）			
（4）医薬品の管理と供給				
《医薬品の安定性に注目する》				
1.	医薬品管理の意義と必要性について説明できる。	実践社会薬学		
2.	代表的な剤形の安定性、保存性について説明できる。		医療薬学実習	

《特別な配慮を要する医薬品》				
3.	毒薬・劇薬の管理および取扱いについて説明できる。		調剤学1、 医療薬学実習	
4.	麻薬、向精神薬などの管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		調剤学1、 医療薬学実習	
5.	血漿分画製剤の管理および取扱いについて説明できる。		調剤学1、 医療薬学実習	
6.	輸血用血液製剤の管理および取扱いについて説明できる。			
7.	代表的な生物製剤の種類と適応を説明できる。			
8.	生物製剤の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。		医療薬学実習	
9.	麻薬の取扱いをシミュレートできる。（技能）			
10.	代表的な放射性医薬品の種類と用途を説明できる。	放射性医薬品学実習	医療薬学実習、 調剤学2	
11.	放射性医薬品の管理と取扱い（投薬、廃棄など）について説明できる。	放射性医薬品学実習	医療薬学実習	
《製剤化の基礎》				
12.	院内製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。		医療薬学実習	
13.	薬局製剤の意義、調製上の手続き、品質管理などについて説明できる。			
14.	代表的な院内製剤を調製できる。（技能）			
15.	無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。（知識・技能）		調剤学1、医療薬学実習	
16.	抗悪性腫瘍剤などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的な手技を実施できる。（技能）		医療薬学実習、調剤学2	
《注射剤と輸液》				
17.	注射剤の代表的な配合変化を列挙し、その原因を説明できる。		医療薬学実習	
18.	代表的な配合変化を検出できる。（技能）		調剤学1、医療薬学実習	
19.	代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応を説明できる。			
20.	体内電解質の過不足を判断して補正できる。（技能）			
《消毒薬》				
21.	代表的な消毒薬の用途、使用濃度を説明できる。		医療薬学実習	
22.	消毒薬調製時の注意点を説明できる。		医療薬学実習、 調剤学2	
（5）リスクマネジメント				
《安全管理に注目する》				
1.	薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。	実践社会薬学	薬剤師と社会 調剤学2 医療薬学実習	
2.	誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。		調剤学2	
3.	院内感染の回避方法について説明できる。		医療薬学実習	
《副作用に注目する》				
4.	代表的な医薬品の副作用の初期症状と検査所見を具体的に説明できる。		医療薬学実習	

《リスクマネジメント入門》			
5.	誤りを生じやすい調剤例を列举できる。		調剤学 2
6.	リスクを回避するための具体策を提案する。(態度)		
7.	事故が起こった場合の対処方法について提案する。(態度)		医療薬学実習
(6) 服薬指導と患者情報			
《服薬指導に必要な技能と態度》			
1.	患者の基本的権利、自己決定権、インフォームド・コンセント、守秘義務などについて具体的に説明できる。		医療薬学実習
2.	代表的な医薬品の服薬指導上の注意点を列举できる。		
3.	代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列举できる。		
4.	インフォームド・コンセント、守秘義務などに配慮する。(態度)		
5.	適切な言葉を選び、適切な手順を経て服薬指導する。(技能・態度)		医療薬学実習、 コミュニケーション論
6.	医薬品に不安、抵抗感を持つ理由を理解し、それを除く努力をする。(知識・態度)		
7.	患者接遇に際し、配慮しなければならない注意点を列举できる。		医療薬学実習
《患者情報の重要性に注目する》			
8.	服薬指導に必要な患者情報を列举できる。		医療薬学実習、 コミュニケーション論
9.	患者背景、情報（コンプライアンス、経過、診療録、薬歴など）を把握できる。(技能)		医療薬学実習、 患者情報
10.	医師、看護師などとの情報の共有化の重要性を説明できる。		医療薬学実習
《服薬指導入門》			
11.	代表的な医薬品について、適切な服薬指導ができる。(知識・技能)		医療薬学実習
12.	共感的態度で患者インタビューを行う。(技能・態度)		医療薬学実習、 コミュニケーション論
13.	患者背景に配慮した服薬指導ができる。(技能)		
14.	代表的な症例についての服薬指導の内容を適切に記録できる。(技能)		医療薬学実習
(7) 事前学習のまとめ			
			医療薬学実習

人材育成等に関する目的

薬学部は「医薬分子をとおして人類の健康を守る」志をもった優れた人材を育成することを基本理念とします。薬学科は、ヒューマニティと研究心にあふれた高度な薬剤師の育成、生命創薬科学科は、先端創薬科学を担う研究者の育成を目指します。両学科は共同して、知性に富み、倫理観と豊かな人間性を備え、総合的な生命科学としての薬学を担い、人類の健康と疾病克服に尽力できる人材を育成することを目的としています。

カリキュラムポリシー

1. 「『医薬分子をとおして人類の健康を守る』志を持った優れた人材を育成する」という基本理念に基づいて、各学科が定める教育目標を実現するための教育課程を編成する。
2. 2つの学科の緊密な連携のもと、本学の伝統である実力主義的教育方針に基づき、医療薬学と創薬科学を含む総合ライフサイエンスとしての薬学を担う人材育成を図る教育を実践する。
3. 最先端の薬学研究にさまざまなアプローチから取り組む体制を構築し、かつこれを支える4つの学問領域(創薬科学、生命薬学、環境・衛生薬学、医療薬学)を設定の上で、これらの各領域を基礎からしっかりと学ぶことができる充実したカリキュラムを展開する。
4. 「基礎科目」では、医薬・創薬に共通する薬学に必須の学問と、薬学を支える基礎的な技能を修得するための授業科目を効果的に配置し、「専門科目」との接続を図る。
5. 「専門科目」では、講義の他に、多くの実験、実習、演習等の授業科目を重点的かつ効果的に組み合わせることで、それぞれの学科の教育目標を実現するために専門分野を深化させ、他の授業科目との関連や学問探求の方法を学び、かつ人間性の陶冶や問題発見・解決能力を育成し、本学部の教育理念の実現を図る。
6. 「一般科目」では、「医療薬学と創薬科学を含む総合ライフサイエンスとしての薬学を担う人材育成」という目的を達するために、専門分野の修得のみでなく、人命の尊重とヒューマニティの育成や文明に対する理解という幅広い教養教育を通して、薬学に携わる者の基礎的な学問が修得できるよう、授業科目を展開する。
7. 自身の専門分野を超えて幅広い教養教育を通して、薬学に携わる者の基礎的な学問が修得できるよう、他学部・他学科間の履修を可能とし、学生の学習意欲の向上と多様な学習ニーズに応えることで、より幅広い視野と意欲を持った人材の育成を図る。

(基礎資料4) カリキュラムマップ

分野	大分類	コース	一般目標
一般科目			「医療薬学と創薬科学を含む総合ライフサイエンスとしての薬学を担う人材の育成」という目的を達成するために必要となる「人命の尊重とヒューマニティの育成」や「文明に対する幅広い理解」

英 語	人 間 科 学	留 学 生 対 象
英 語 講 読 1 英 語 表 現 1	A ド イ ツ 語 1 A ド イ ツ 語 2 A フ ラ ン ス 語 1 A フ ラ ン ス 語 2 A 中 国 語 1 A 中 国 語 2 English Communication A English Communication B English Communication C 実践薬学英語 倫理学1 心理学1 経済学1 社会学1 倫理学2 心理学2 経済学2 社会学2 哲学1 科学史1 法学1 哲学2 科学史2 法学2 健康・スポーツ科学 健康スポーツ実践1 健康スポーツ実践2 スポーツ方法実践1 スポーツ方法実践2 シーズンスポーツ(実技) セミナーハウス特別講義	日 本 事 情 日 本 語 A 日 本 語 B 日 本 語 C

薬学専門科目	A 全学年を通して		生命に関わる職業人となることを自覚し、それに相応しい行動・態度を取ることができるようになるために、人との共感的態度を身につけ、信頼関係を醸成し、さらに生涯にわたってそれらを向上させる習慣を身につける。
	B イントロダクション		薬学生としてのモチベーションを高めるために、薬の専門家として身につけるべき基本的知識、技能、態度を修得し、卒業生の活躍する現場などを体験する。
	C 薬学専門教育 [物理系薬学を学ぶ]	C-1 物質の物理的性質	化学物質の基本的性質を理解するために、原子・分子の構造、熱力学、反応速度論などの基本的知識を修得し、それらに応用する技能を身につける。
		C-2 化学物質の分析	物質の状態および相互変換過程を解析できるようにするために、熱力学の基本的知識と技能を修得する。
		C-3 生体分子の姿・かたちをとらえる	複雑な系における物質の状態および相互変換過程を熱力学に基づき解析できるようにするために、溶液および電気化学に関する基本的知識と技能を修得する。
	C 薬学専門教育 [化学系薬学を学ぶ]	C-4 化学物質の性質と反応	化学物質(医薬品および生物物質を含む)の基本的な反応性を理解するために、代表的な反応、分離法、構造決定法などについての基本的知識と、それらを実施するための基本的技能を修得する。
		C-5 ターゲット分子の合成	入手容易な化合物を出発物質として、医薬品を含む目的化合物へ化学変換するために、有機合成法の基本的知識、技能、態度を修得する。
		C-6 生体分子・医薬品を化学で理解する	生体分子の機能と医薬品の作用を化学構造と関連づけて理解するために、それらに関連する基本的知識と技能を修得する。
	C 薬学専門教育 [生物系薬学を学ぶ]	C-7 自然が生み出す薬物	自然界に存在する物質を医薬品として利用するために、代表的な天然物質の起源、特色、臨床応用および天然物質の含有成分の単離、構造、物性、生合成系などについての基本的知識と、それらを活用するための基本的技能を修得する。
		C-8 生命体の成り立ち	生命体の成り立ちを固体、器官、細胞レベルで理解するために、生命体の構造と機能調節などに関する基本的知識、技能、態度を修得する。
		C-9 生命をミクロに理解する	生物をミクロなしレベルで理解するために、細胞の機能や生命活動を支える分子の役割についての基本的知識を修得し、併せてそれらの生体分子を取り扱うための基本的技能と態度を身につける。
	C 薬学専門教育 [健康と環境]	C-10 生体防御	内的、外的要因によって生体の恒常性が崩れた時に生ずる変化を理解するために、生体防御機構とその破綻による疾患、および代表的な外的要因としての病原微生物に関する基本的知識と技能を修得する。
		C-11 健康	人とその集団の健康の維持、向上に貢献できるようにするために、実業と健康、現代社会における疾病とその予防に関する基本的知識、技能、態度を修得する。
		C-12 環境	人の健康にとってより良い環境の維持と向上に貢献できるようにするために、化学物質の人への影響、および生活環境や地球生態系と人の健康との関わりについての基本的知識、技能、態度を修得する。
	C 薬学専門教育 [薬と疾病]	C-13 薬の効くプロセス	医薬品の作用する過程を理解するために、代表的な薬物の作用、作用機序、および体内での運命に関する基本的知識と態度を修得し、それらに応用する基本的技能を身につける。
		C-14 薬物治療	疾病に伴う症状と臨床検査値の変化などの確かな患者情報を取得し、患者個々に応じた薬の選択、用法・用量の設定および各々の医薬品の「使用上の注意」を考慮した適正な薬物治療に参画できるようにするために、薬物治療に関する基本的知識と技能を修得する。
		C-15 薬物治療に役立つ情報	薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供するために、医薬品情報ならびに患者から得られる情報の収集、評価、加工などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的技能と態度を身につける。
	C 薬学専門教育 [医薬品をつくる]	C-16 製剤化のサイエンス	製剤化の方法と意義を理解するために、薬物と製剤材料の物性、医薬品への加工、および薬物送達システムに関する基本的知識と技能を修得する。
		C-17 医薬品の開発と生産	将来、医薬品開発と生産に参画できるようにするために、医薬品開発の各プロセスについての基本的知識を修得し、併せてそれらを実施する上で求められる適切な態度を身につける。
	C 薬学専門教育 [薬学と社会]	C-18 薬学と社会	社会において薬剤師が果たすべき責任、義務等を正しく理解できるようにするために、薬学を取り巻く法律、制度、経済および薬局業務に関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的技能と態度を身につける。
	D 実務実習教育 [病院・薬局薬剤師]	D-1 病院・薬局に行く前に	卒業後、医療に参画できるようにするために、「病院・薬局で学ぶ」に先立って、大学内で調剤、服薬説明などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。
	E 卒業実習教育	E1 総合薬学研究	薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して、新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養う。
		E2 総合薬学演習	新しい医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展に以下に貢献してきたかを理解するために、革新的な疾患あるいは画期的な現代医薬品を取り上げて調査し、考察する。その過程を通して医薬品を多面的に評価する能力を身につける。

科目関連図／ヒューマニズム関連科目参考

科目関連図／物理系薬学関連科目参考

科目関連図／化学系薬学関連科目参考

科目関連図／生物系薬学関連科目参考

科目関連図／衛生薬学関連科目参考

科目関連図／薬理学・薬物治療学関連科目参考

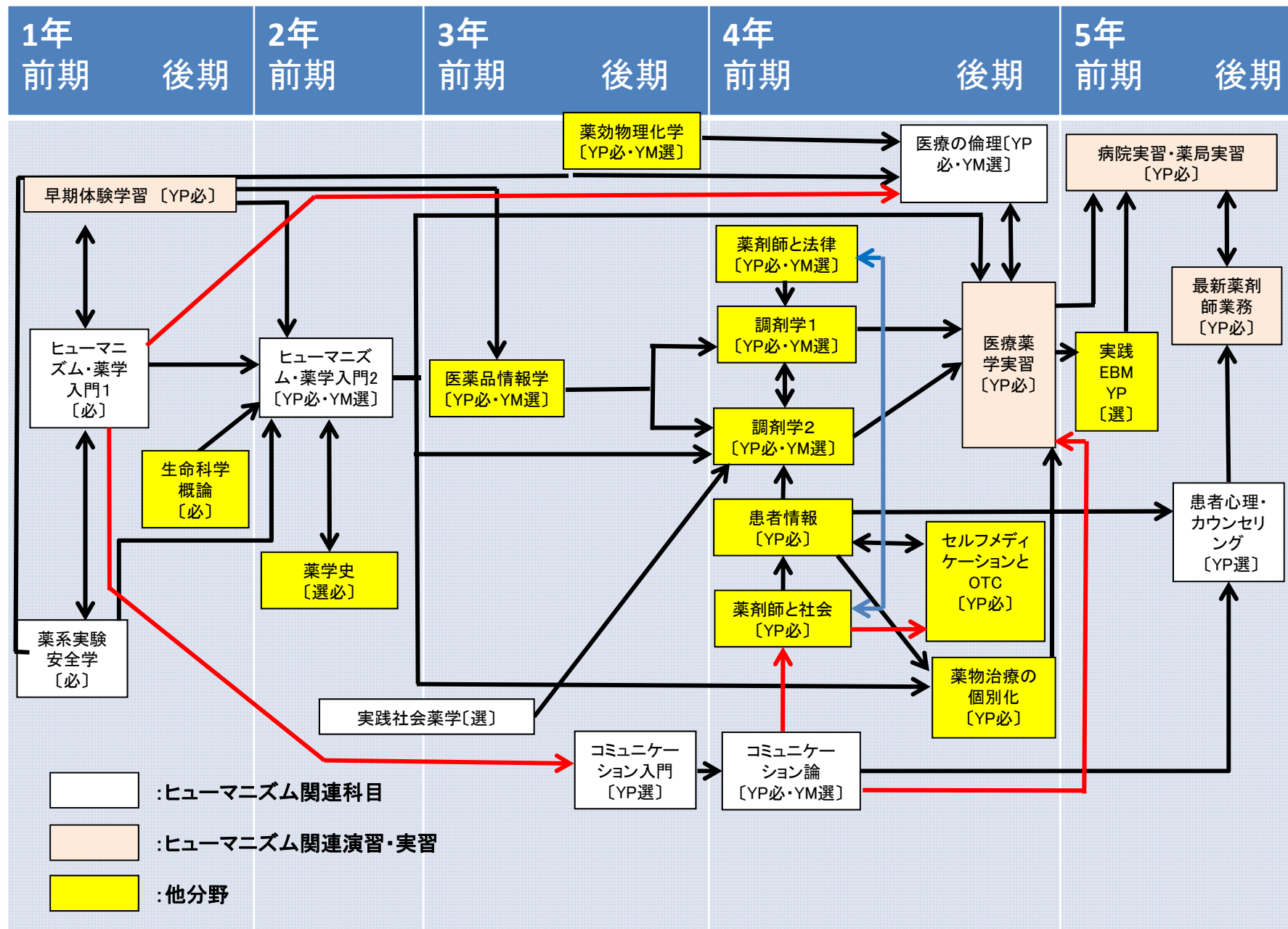
科目関連図／薬剤学関連科目参考

科目関連図／薬剤師実務関連科目参考
科目関連図／薬事関係法規関連科目参考

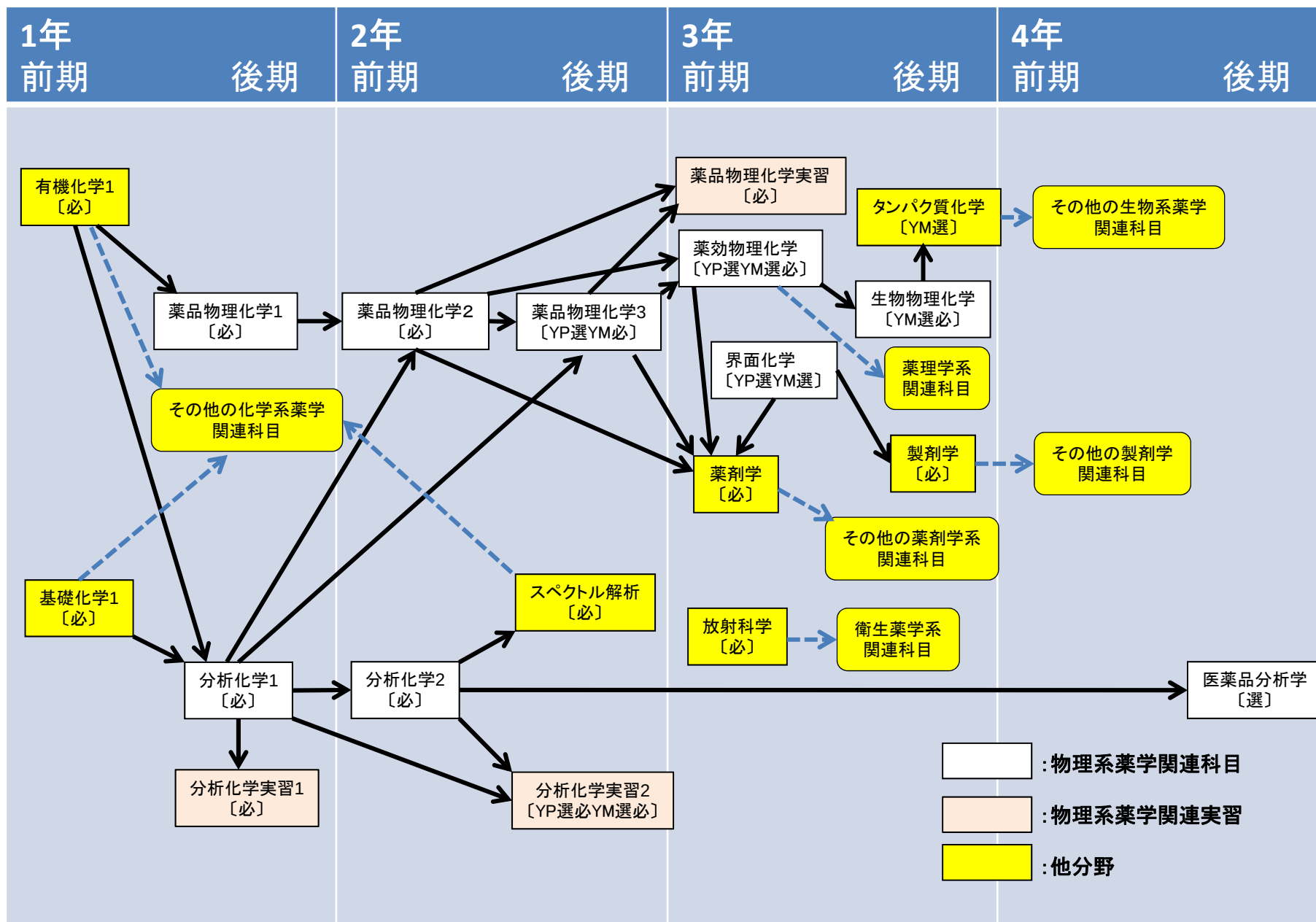
薬学総合研究

薬学総合演習

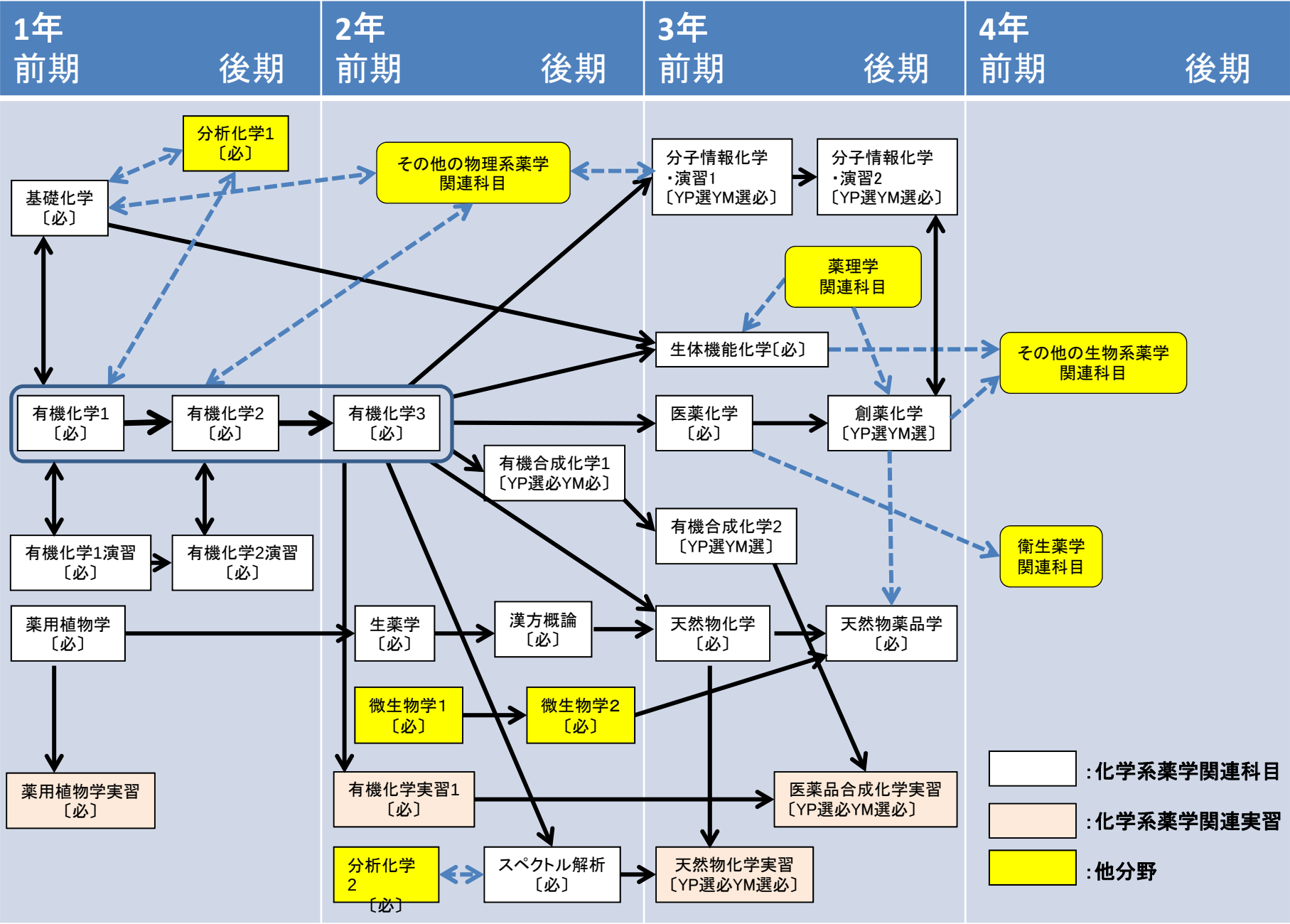
科目関連図/ヒューマニズム関連科目



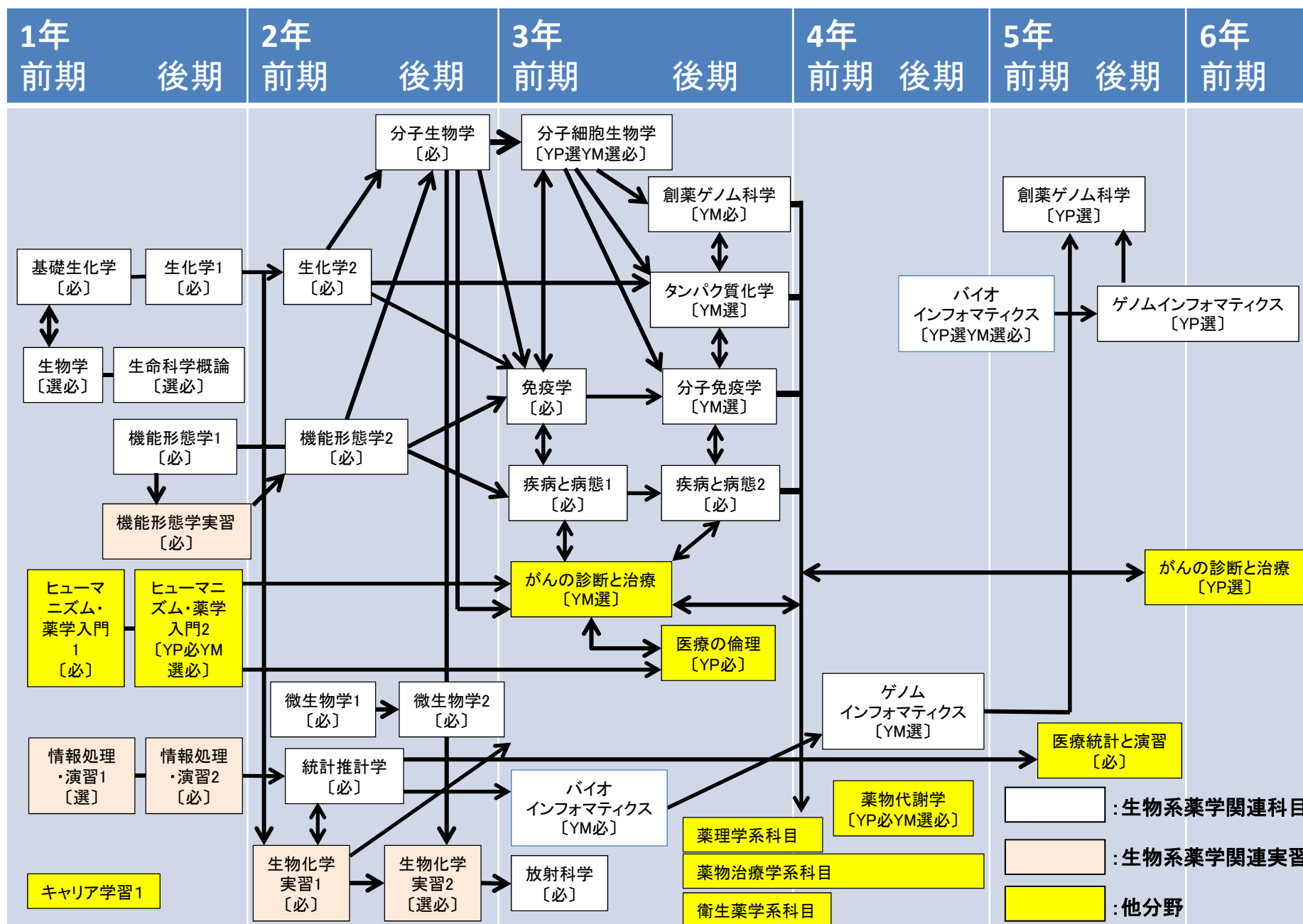
科目関連図/物理系薬学関連科目



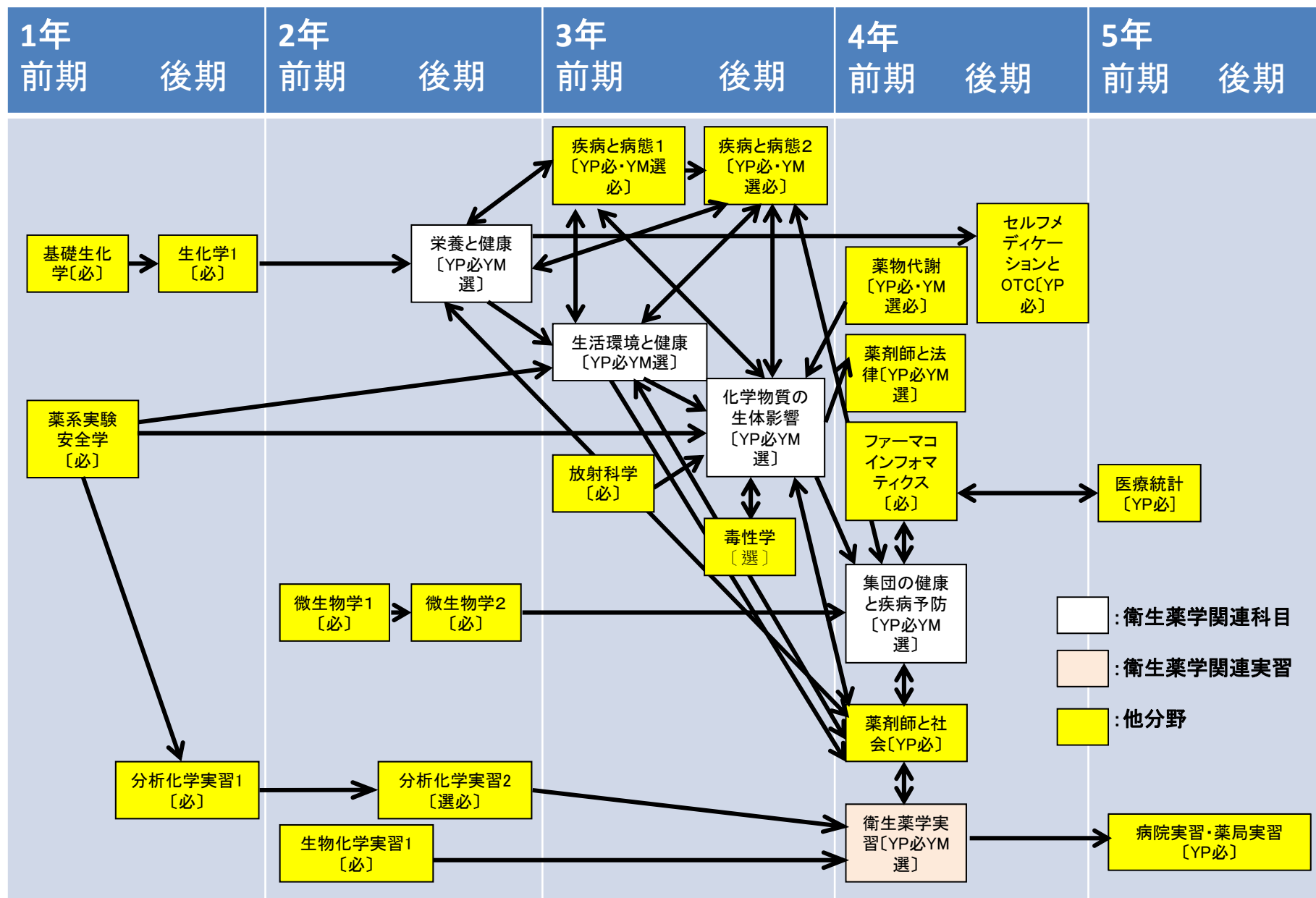
科目関連図/化学系薬学関連科目



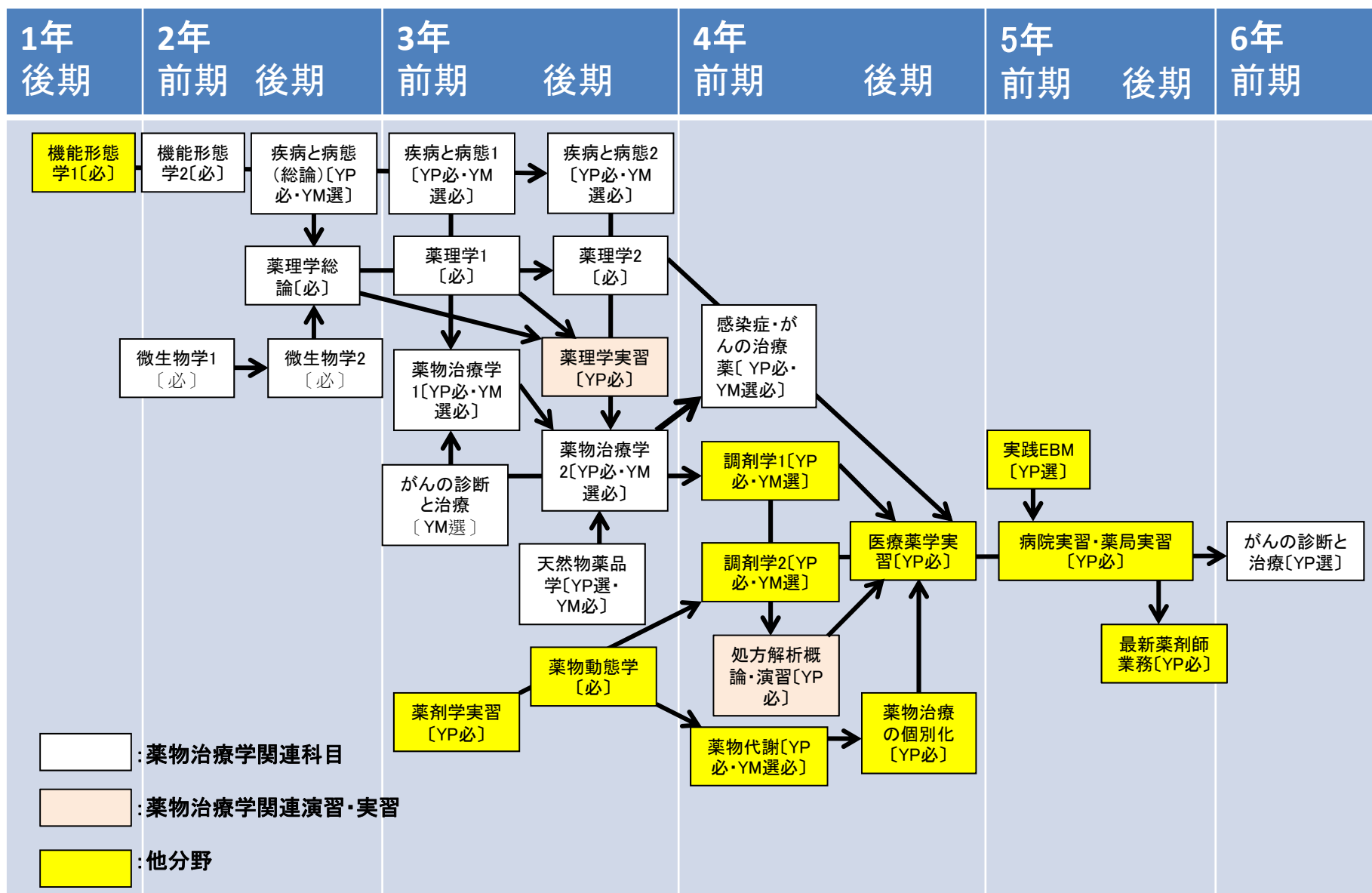
科目関連図/生物系薬学関連科目



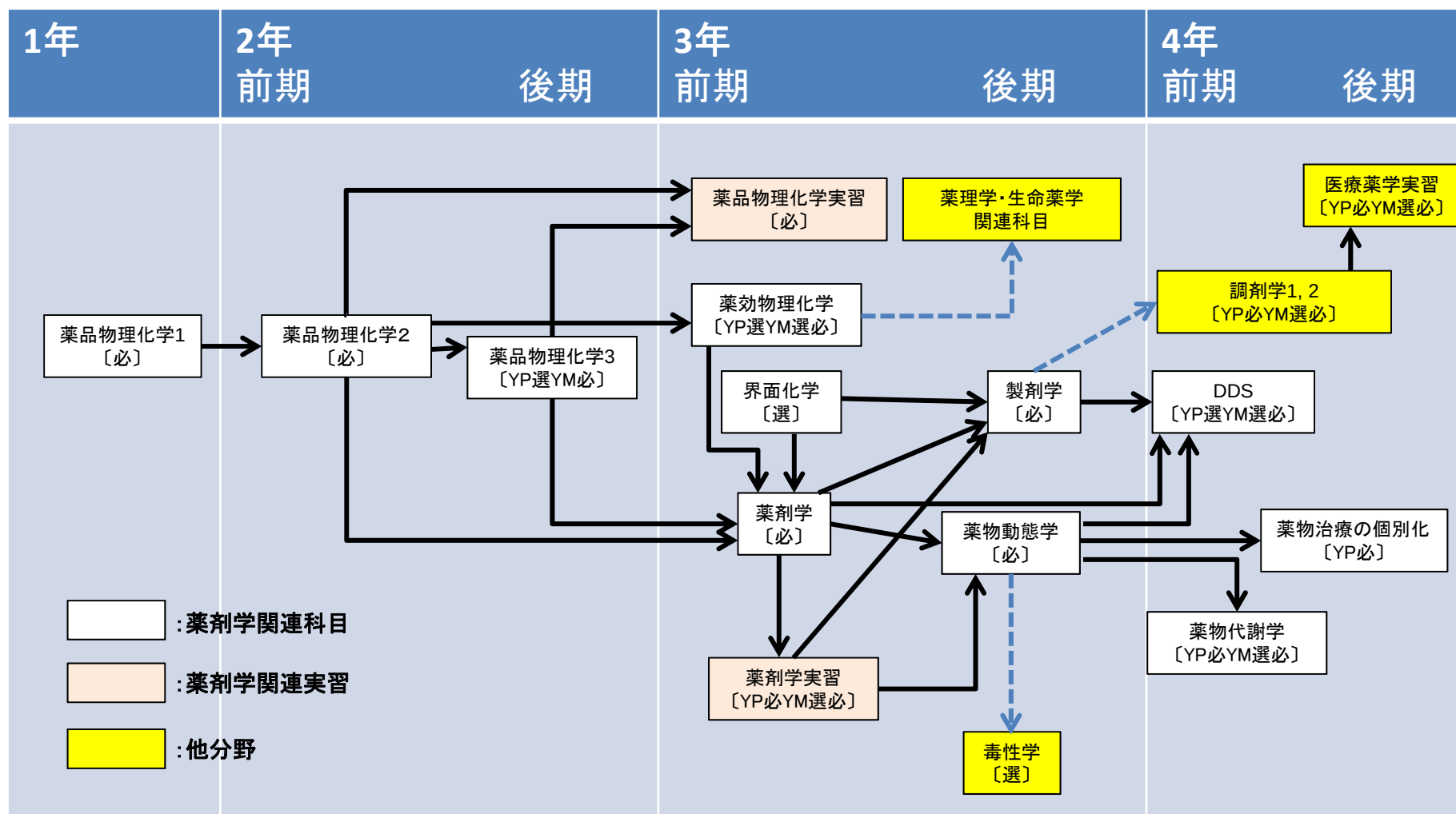
科目関連図/衛生薬学関連科目



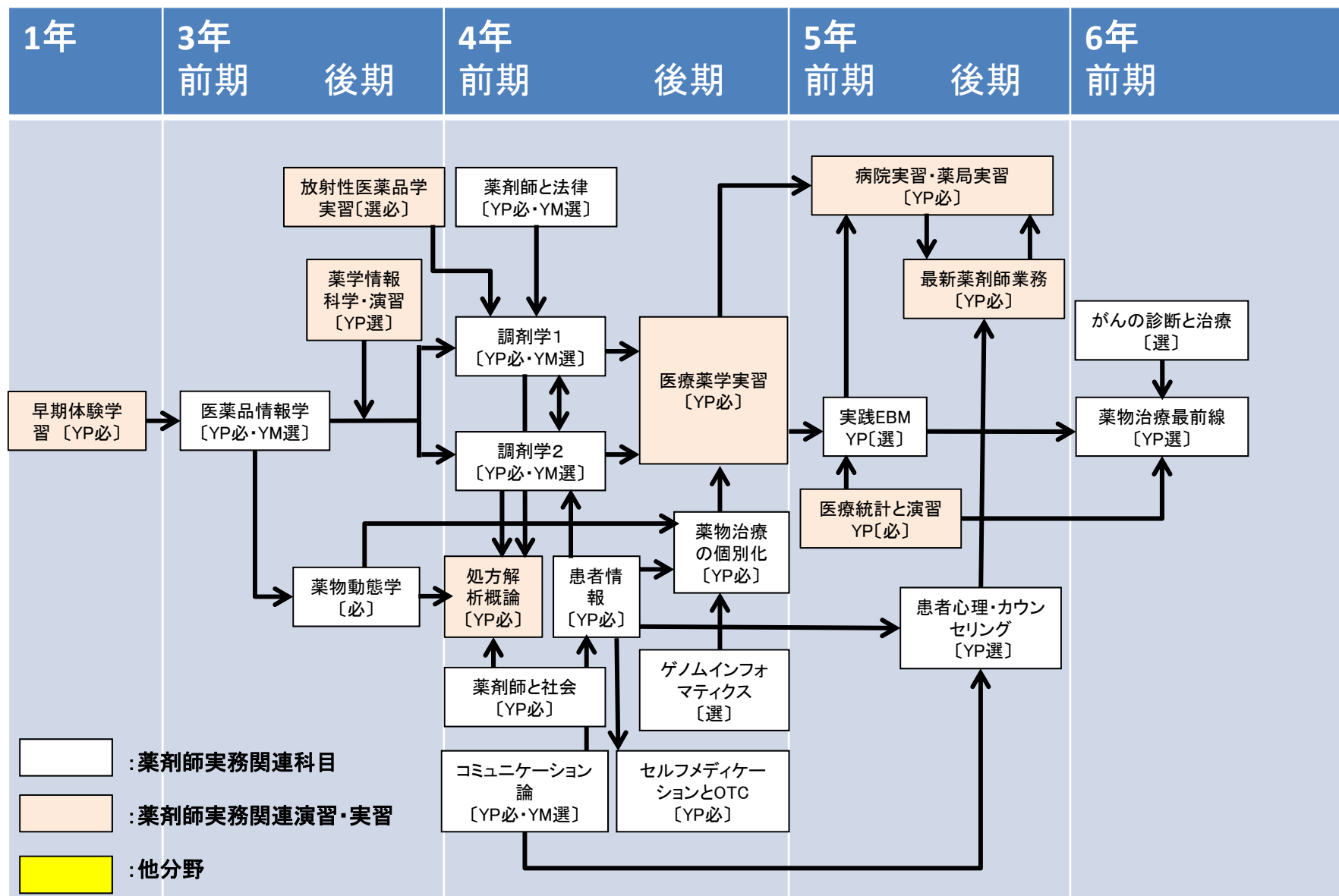
科目関連図/薬物治療学関連科目



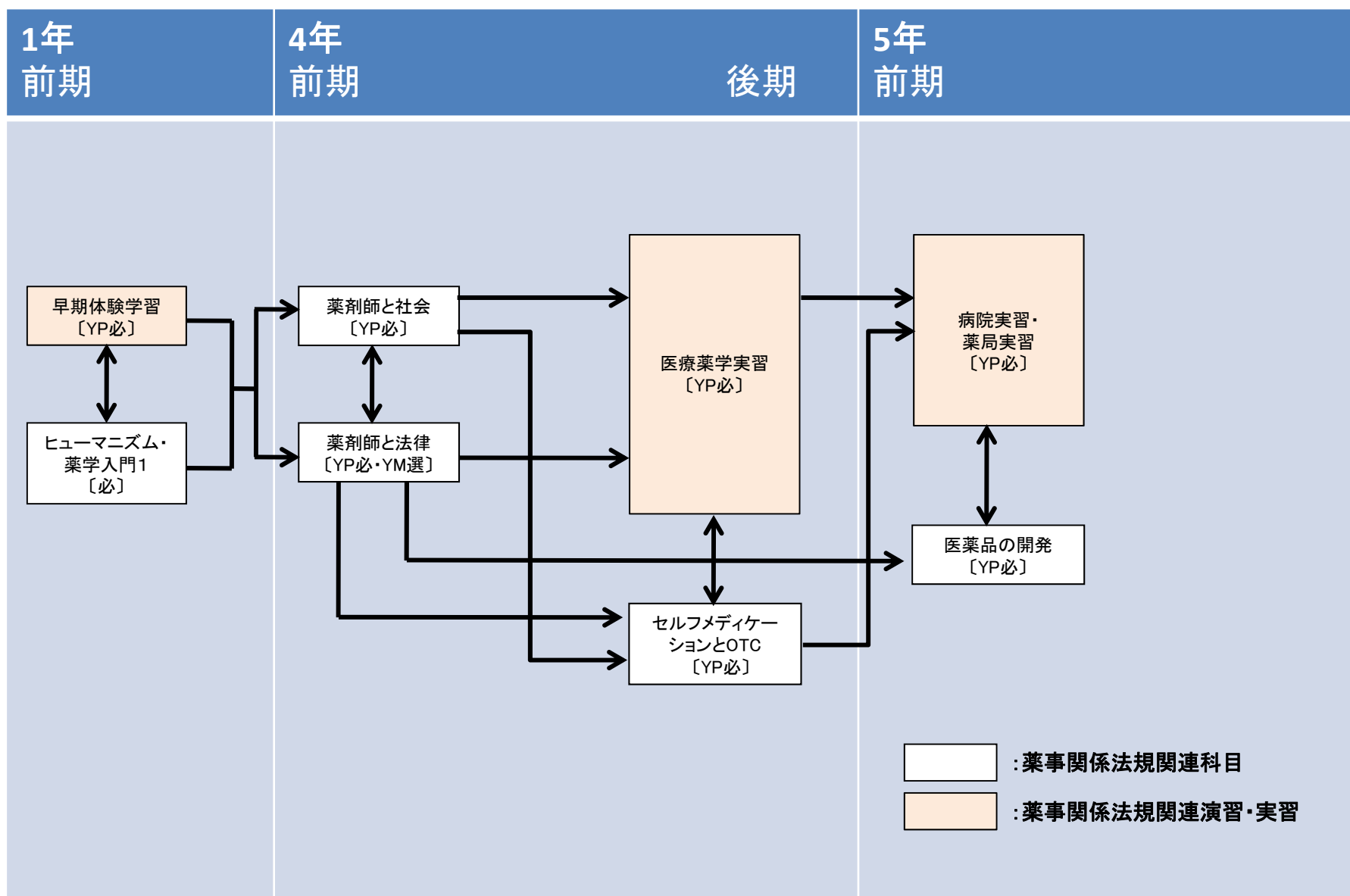
科目関連図/薬剤学関連科目



科目関連図/薬剤師実務関連科目



科目関連図/薬事関係法規関連科目



(基礎資料5) 語学教育の要素

科目名	開講年生	要素			
		読み	書き	聞く	話す
英語表現 1	1		○	○	○
英語講読 1	1	○		○	
英語表現 2	2		○	○	○
英語講読 2	2	○		○	
A ドイツ語 1	1	○	○	○	○
A ドイツ語 2	1	○	○	○	○
A フランス語 1	1	○	○	○	○
A フランス語 2	1	○	○	○	○
A 中国語 1	1	○	○	○	○
A 中国語 2	1	○	○	○	○
B ドイツ語	2	○	○	○	○
B フランス語	2	○	○	○	○
B 中国語	2	○	○	○	○
English Communication A	1		○	○	○
English Communication B	2		○	○	○
English Communication C	2～3		○	○	○
実践薬学英语	3	○	○	○	○

[注] 要素欄の該当するものに○印をお付けください。

(基礎資料6)4年次の実務実習事前学習のスケジュール

平成26年度 医療薬学実習スケジュール(9月24日～11月13日)

85名 (A41名、B班44名、A1,A2,B1およびB2はそれぞれ20～22名)

月日 (3、4、5限目)	曜日	グループ(表)	裏1	裏2	表のLS(責任者)	裏1のLS(責任者)	裏2のLS(責任者)
9月24日	水	A1A2B1B2			1. 事前学習を始めるにあたって(望月)		
9月25日	木	A1A2B1B2					
9月26日	金	A1A2B1B2			2. 医薬品情報(佐藤)		
9月29日	月	A1A2B1B2					
9月30日	火	A1A2	B1B2		3. 処方せんと調剤(花輪)	6. 医薬品の管理と供給(青山・嶋田) 注射剤	
10月1日	水	A1A2	B1B2				
10月2日	木	表のLSは休み	B1B2	A1A2			薬歴(鹿村)
10月3日	金	A1A2	B1B2				
10月6日	月	A1A2	B1B2				
10月7日	火	B1B2	A1A2				
10月8日	水	B1B2	A1A2				
10月9日	木	表のLSは休み	A1A2	B1B2			薬歴(鹿村)
10月10日	金	B1B2	A1A2				
10月13日	月	B1B2	A1A2				
10月14日	火	A1A2		B1B2	筆記試験と解説、実技訓練		調剤鑑査(根岸)
10月15日	水	B1B2		A1A2			
10月16日	木	A1A2B1B2			7. リスクマネジメント(鹿村)		
10月17日	金	A1A2B1B2			4. 疑義照会(上村)		
10月20日	月	A1A2					
10月21日	火	B1B2					
10月22日	水	A1A2B1B2			5. 服薬指導と患者情報(後藤)		
10月23日	木	A1A2					
10月24日	金	B1B2					
10月27日	月	B1B2	A1		6. 医薬品の管理と供給(嶋田) 軟膏剤	5. 服薬指導と患者情報(後藤)	
10月28日	火	B1B2	A2				
10月29日	水	A1A2	B1				
10月30日	木	A1A2	B2				
10月31日	金	A1A2B1B2			7. リスクマネジメント(小茂田)		
11月3日	月	A1A2B1B2					
11月4日	火	B1B2	A1A2		6. 医薬品の管理と供給(青山)	10. フィジカルアセスメント(高澤)	
11月5日	水	A1A2	B1B2				
11月6日	木	A1A2B1B2			9. 臨床薬剤師業務 中心静脈栄養プログラミング(小茂田)		
11月7日	金	A1A2			11. 事前学習のまとめ(嶋田)		
11月10日	月	A1A2					
11月11日	火	B1B2					
11月12日	水	B1B2					
11月13日	木	A1A2B1B2			8. TDM(下村)		

LS:実務実習モデル・コアカリキュラムにおける学習方略 裏1、裏2:同時に異なる実習が実施される場合に、表の実習に対して裏と記載した。

(基礎資料 7) 学生受入状況について

※平成27年度 入試(26年度実施)は、入学手続期間二次手続締切日(3/24)までとした。

学科名	入試の種類		平成22年度 入試(21年度 実施)	平成23年度 入試(22年度 実施)	平成24年度 入試(23年度 実施)	平成25年度 入試(24年度 実施)	平成26年度 入試(25年度 実施)	平成27年度 入試(26年度 実施)	募集定員数に 対する入学者 数の比率(6 年間の平均)
薬	一般入試 (B方式)	受験者数	1,253	1,233	1,378	1,505	1,662	1,392	116.5
		合格者数	283	317	270	290	292	313	
		入学者数(A)	46	52	59	62	65	71	
		募集定員数(B)	46	46	46	46	61	61	
		A/B*100(%)	100.0	113.0	128.3	134.8	106.6	116.4	
	大学入試センター 入試(A方式)	受験者数	556	745	704	846	892	877	102.8
		合格者数	169	152	179	184	231	225	
		入学者数(A)	12	3	10	14	22	12	
		募集定員数(B)	10	10	10	10	15	15	
		A/B*100(%)	120.0	30.0	100.0	140.0	146.7	80.0	
	指定校推薦	受験者数	23	21	22	11	15	17	113.6
		合格者数	23	21	22	11	15	17	
		入学者数(A)	23	21	22	11	15	17	
		募集定員数(B)	16	16	16	16	16	16	
		A/B*100(%)	143.8	131.3	137.5	68.8	93.8	106.3	
	留学生入試	受験者数	0	0	0	0	1	1	0
		合格者数	0	0	0	0	0	0	
		入学者数(A)	0	0	0	0	0	0	
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		A/B*100(%)	0	0	0	0	0	0	
	帰国生徒入試	受験者数	5	3	4	2	2	1	0
		合格者数	3	2	2	1	0	0	
		入学者数(A)	2	1	0	0	0	0	
		募集定員数(B)	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	
		A/B*100(%)	0	0	0	0	0	0	
	C方式 (大学入試セン ター試験+ 本学独自試験 併用)	受験者数	67	94	146	118	120	182	83.3
		合格者数	21	27	38	22	23	24	
		入学者数(A)	3	2	13	7	7	8	
		募集定員数(B)	8	8	8	8	8	8	
		A/B*100(%)	37.5	25.0	162.5	87.5	87.5	100.0	
学 科 計		受験者数	1,904	2,096	2,254	2,482	2,692	2,470	111.8
		合格者数	499	519	511	508	561	579	
		入学者数(A)	86	79	104	94	109	108	
		募集定員数(B)	80	80	80	80	100	100	
		A/B*100(%)	107.5	98.8	130.0	117.5	109.0	108.0	

(※1)「若干名」は除いて算出。

- [注] 1 「編入学試験」は、この表には記入しないでください。
- 2 実施している全種類の入試が網羅されるように「入試の種類」の名称を記入し、適宜欄を設けて記入してください。
なお、該当しない入試方法の欄は削除してください。
- 3 入試の種類ごとに「募集定員数(B)に対する入学者数(A)」の割合を算出してください。
- 4 「留学生入試」に交換留学生は含めないでください。
- 5 各入学(募集)定員が若干名の場合は「若干名」と記入してください。
- 6 6年制が複数学科で構成されている場合は、「学部合計」欄を設けて記入してください。
- 7 薬科学科との一括入試の場合は、欄外に「(備考)〇年次に・・・を基に学科を決定する。なお、薬学科の定員は△△△名」と注を記入してください。

(基礎資料8) 教員・事務職員数

①設置基準において、必要な6年制薬学科の教員数 * 1	24	名
②設置基準において、必要な実務家教員数 * 2	4	名

* 1 大学設置基準 第2条別表第一、イ備考四

* 2 大学設置基準 別表第一、イ十号

(教員の部)	教授		准教授		専任講師		嘱託助教		助手	備考
教養教育										主に理工学部の教員が担当
語学教育										主に理工学部の教員が担当
薬学基礎教育	11				4		9			教授11名には嘱託教授(専任扱)1名を含む TA: 13 薬学科兼担(所属は生命創薬科学科)教員は次のとおり 教授8名 准教授2名 嘱託助教7名 なお、この人数は左表には含まれていない。
専門薬学教育	3(2)		2(1)		3(1)		2			()の総計4名が実務家教員
実務実習教育	4(4)									()の総計4名がみなし教員
小計	18(6)		2(1)		7(1)		11			
専任教員数	38(8)									
(事務職員の部)	局長	部長	次長	課長	課長補佐	係長	主任	事務職員	その他の職種	備考
大学業務関連		1		1		1	3	5(1)	2	事務職員5名のうち1名が非常勤 その他の職種2名のうち2名が技術員
法人業務関連	1									
小計	1	1		1		1	3	5(1)	2	
事務職員数	14									

[注] 1 主に担当する科目(業務)で算出し、重複しないように注意してください。

2 該当する場合は、()内に実務家教員、見なし教員または特任等の数を記入し、「備考」欄にその内訳を記入してください。(例示: 6(2)=6名のうち2名が特任)

3 該当する場合は、()内に臨時・嘱託事務職員数を記入してください。(例示: 3(1)=3名のうち1名が嘱託事務職員)

4 「その他の職種」の欄に記入した数については、「備考」にその職種名を記入してください。

5 専任教務補助員(例えば、いわゆる副手、実験補助員等)、ティーチング・アシスタント(TA)、リサーチ・アシスタント(RA)については、「備考」欄にその各々の名称と人数を記入してください。

(基礎資料 9) 専任教員年齢構成

薬学科

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教 授 ※みなし教員4名、嘱託教授1名を含む	1	3	10(3)	4			18(3)
	5.6%	16.7%	55.5%	22.2%	%	%	100%
准教授				2			2
	%	%	%	100%	%	%	100%
専任講師			3	1(1)	3(1)		7(2)
	%	%	42.9%	14.2%	42.9%	%	100%
助教		1(1)		1(1)	6(1)	3(2)	11(5)
	%	9.0%	%	9.0%	54.5%	27.5%	100%
合計	1	4(1)	13(3)	8(2)	9(2)	3(2)	38(10)
	2.6%	10.5%	34.2%	21.1%	23.7%	7.9%	100%
定年年齢	65 歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 () に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

(基礎資料 9) 専任教員年齢構成

薬学部全体

※本学薬学部は学部を構成する2学科合同で教員人事を実行していることから
学部全体の専任教員年齢構成を下表のとおり示す。

職位	70歳代	60歳代	50歳代	40歳代	30歳代	20歳代	計
教 授 ※みなし教員4名、 嘱託教授1名を含む	1	4	15(3)	6			26(3)
	3.8%	15.4%	57.7%	23.1%	%	%	100%
准教授			1	3			4
	%	%	25%	75%	%	%	100%
専任講師			3	1(1)	3(1)		7(2)
	%	%	42.9%	14.2%	42.9%	%	100%
助教		1(1)		2(2)	10(2)	5(2)	18(7)
	%	5.6%		11.1%	55.5	27.8%	100%
合計	1	5(1)	19(3)	12(3)	13(3)	5(2)	55(12)
	1.8%	9.1%	34.6%	21.8%	23.6%	9.1%	100%
定年年齢	65 歳						

[注] 1 上段には人数、下段には%を記入してください。

2 ()に女性の数を記入してください。(例示: 2(1) = 2名のうち1名が女性)

3 「定年年齢」には、規定された定年退職年齢を記入してください。

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏 名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	科目名	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学位及 び学位称号	
									毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計				
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
薬学科	薬物治療学	教授 (実務家)	あおやま たかお 青山 隆夫	男	57	2004.10.1	2004.10.1	ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0	12.7	東京理科大学 薬学部 製薬学科 卒業 (薬学博士)	
								調剤学1	0.8						0.8	0.0			
								薬物治療学2		1.5					0.0	1.5			
								病院実習(Ⅰ期)				2.5		2.5	0.0				
								病院実習(Ⅱ期)					3.7	0.0	3.7				
								薬局実習(Ⅰ期)				6.1		6.1	0.0				
								薬局実習(Ⅱ期)					2.5	0.0	2.5				
								早期体験学習				0.3	0.3	0.3	0.3				
								医療薬学実習					6.6	0.0	6.6				
								薬物治療の個別化		0.5				0.0	0.5				
特別講義2		1コマ				0.0	1コマ												
計						10.2	15.1												
薬学科	生薬学	教授	あさだ よしひさ 浅田 善久	男	63	2009.4.1	2009.4.1	ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0	7.1	千葉大学 大学院 薬学研究科 修士課程 修了 (薬学博士)	
								生薬学	1.5						1.5	0.0			
								薬用植物学実習				3.9		3.9	0.0				
								漢方概論		1.5				0.0	1.5				
								薬用植物学	1.5					1.5	0.0				
								病院実習(Ⅰ期)				2.5		2.5	0.0				
								病院実習(Ⅱ期)					0.1	0.0	0.1				
								薬局実習(Ⅰ期)				0.1		0.1	0.0				
								薬局実習(Ⅱ期)					2.5	0.0	2.5				
								特別講義1		0.1				0.0	0.1				
特別講義2		1コマ				0.0	1コマ												
計						10.0	4.2												
薬学科	応用薬理学	教授	いそはま よういちろう 磯濱 洋一郎	男	49	2013.4.1	2013.4.1	ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0	5.9	熊本大学 大学院 薬学研究科 博士後期 課程 中退 博士(薬学)	
								疾病と病態1	0.3						0.3	0.0			
								生物統計学	1.0						1.0	0.0			
								薬理学2		1.5					0.0	1.5			
								病院実習(Ⅰ期)				0.1		0.1	0.0				
								病院実習(Ⅱ期)					2.5	0.0	2.5				
								薬局実習(Ⅰ期)				2.5		2.5	0.0				
								薬局実習(Ⅱ期)					0.1	0.0	0.1				
								機能形態学1		1.5				0.0	1.5				
								薬理学実習					1.8	0.0	1.8				
特別講義2		1コマ				0.0	1コマ												
計						4.4	7.4												
薬学科	衛生化学	教授	いちばら がく 市原 学	男	51	2014.4.1	2014.4.1	ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0	3.2	名古屋大学 大学院 医学系研究科 単位取得退学 博士(医学)	
								集団の健康と疾病予防	1.5						1.5	0.0			
								栄養と健康		1.5					0.0	1.5			
								衛生薬学実習				2.4		2.4	0.0				
								早期体験学習				0.2	0.2	0.2	0.2				
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ				
								計							4.6	1.7			
								薬理学1	1.5						1.5	0.0			
								薬理学総論		1.5					0.0	1.5			
								早期体験学習				0.2	0.2	0.2	0.2				
病院実習(Ⅰ期)				1.3		1.3	0.0												
病院実習(Ⅱ期)					1.3	0.0	1.3												
薬局実習(Ⅰ期)				1.3		1.3	0.0												
薬局実習(Ⅱ期)					1.3	0.0	1.3												
特別講義1		0.1				0.0	0.1												
薬理学実習					1.8	0.0	1.8												
特別講義2		1コマ				0.0	1コマ												
計						4.3	6.2												
薬学科	環境健康学	教授	かじ としゆき 銀治 利幸	男	59	2010.4.1	2010.4.1	生活環境と健康	1.5						1.5	0.0	7.6	富山医科 薬科大学 大学院 薬学研究科 博士後期 課程 修了 (薬学博士)	
								生物化学実習1				4.5		4.5	0.0				
								化学物質の生体影響		1.5					0.0	1.5			
								衛生薬学実習				2.4		2.4	0.0				
								病院実習(Ⅰ期)				0.1		0.1	0.0				
								病院実習(Ⅱ期)					1.3	0.0	1.3				
								薬局実習(Ⅰ期)				3.7		3.7	0.0				
								薬局実習(Ⅱ期)					0.1	0.0	0.1				
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ				
								計						12.2	2.9				
薬学科	医療安全学	教授 (実務家)	こもだ まさよ 小茂田 昌代	女	59	2006.4.1	2007.4.1	調剤学2	0.8						0.8	0.0	10.0	千葉大学 医学部 薬学 博士課程 修了 博士(医薬学)	
								ヒューマニズム・薬学入門1	0.7						0.7	0.0			
								疾病と病態2		1.5					0.0	1.5			
								患者情報	0.8						0.8	0.0			
								早期体験学習				0.2	0.2	0.2	0.2				
								病院実習(Ⅰ期)				4.9		4.9	0.0				
								病院実習(Ⅱ期)					0.1	0.0	0.1				
								薬局実習(Ⅰ期)				0.1		0.1	0.0				
								薬局実習(Ⅱ期)					2.5	0.0	2.5				
								薬物治療最前線	0.4					0.4	0.0				
医療薬学実習					6.6	0.0	6.6												
最新薬剤師業務		1.1				0.0	1.1												
特別講義2		1コマ				0.0	1コマ												
計						7.9	12.0												
薬学科	生化学・分子生物学	教授	たぬま せいいち 田沼 靖一	男	62	1991.4.1	1992.5.1	ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0	4.3	東京大学 大学院 薬学系研究科 博士課程 修了 (薬学博士)	
								生化学2	0.8						0.8	0.0			
								分子細胞生物学	0.8						0.8	0.0			
								免疫学	0.3						0.3	0.0			
								分子生物学		1.5					0.0	1.5			
								生命科学概論		0.5					0.0	0.5			
								生化学化実習2					1.2	0.0	1.2				
								早期体験学習				0.3	0.3	0.3	0.3				
								生化学1		0.8				0.0	0.8				
								医療の倫理		0.1				0.0	0.1				
創薬ゲノム科学		1.5				0.0	1.5												
特別講義2		1コマ				0.0	1コマ												
計						2.7	5.9												

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職 年月日	現職就任 年月日	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	コミュニケーション学	嘱託教授 (みなし・実務家)	ごとう けいこ 後藤 恵子	女	59	2006.4.1	2006.4.1	ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0	共立薬科大学 薬学部 卒業	
								ヒューマニズム・薬学入門1	0.6						0.6	0.0		
								コミュニケーション論	1.5						1.5	0.0		
								病院実習(Ⅰ期)				0.1		0.1	0.0			
								病院実習(Ⅱ期)					0.1	0.0	0.1			
								薬局実習(Ⅰ期)				1.3		1.3	0.0			
								薬局実習(Ⅱ期)					2.5	0.0	2.5			
								医療薬学実習					4.8	0.0	4.8			
								コミュニケーション入門		1.0				0.0	1.0			
								患者心理・カウンセリング		0.8				0.0	0.8			
特別講義2		1コマ				0.0	1コマ											
計												4.0	9.2	6.6				
薬学科	薬局管理学	嘱託教授 (みなし・実務家)	しかむら よしあき 鹿村 恵明	男	49	2008.10.1	2008.10.1	薬剤師と社会	0.9						0.9	0.0	昭和薬科大学 薬学部 薬学科 卒業	
								早期体験学習					0.1	0.1	0.1	0.1		
								病院実習(Ⅰ期)					0.1		0.1	0.0		
								病院実習(Ⅱ期)					0.1		0.0	0.1		
								薬局実習(Ⅰ期)				0.1		0.1	0.0			
								薬局実習(Ⅱ期)					2.5	0.0	2.5			
								医療薬学実習					4.5	0.0	4.5			
								セルフメディケーションとOTC		0.8				0.0	0.8			
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ			
								計										
薬学科	医薬品評価学	准教授 (実務家)	しまだ しゅうじ 嶋田 修治	男	47	2006.4.1	2006.4.1	ヒューマニズム・薬学入門1	0.4						0.4	0.0	富山医科大学 薬科大学 大学院 薬学研究科 博士後期 課程 修了 博士(薬学)	
								薬剤師と法律	1.0						1.0	0.0		
								調剤学1	0.6						0.6	0.0		
								実践EBM	0.8						0.8	0.0		
								早期体験学習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								病院実習(Ⅰ期)					1.3		1.3	0.0		
								病院実習(Ⅱ期)						6.1	0.0	6.1		
								薬局実習(Ⅰ期)				4.9		4.9	0.0			
								薬局実習(Ⅱ期)					0.1	0.0	0.1			
								薬物治療最前線	0.4					0.4	0.0			
								医療薬学実習					6.6	0.0	6.6			
								特別講義1		0.1				0.0	0.1			
								特別講義2		2コマ				0.0	2コマ			
計												9.6	13.1	11.4				
薬学科	臨床薬学	准教授	ねざし けんいち 根岸 健一	男	44	2010.10.1	2010.10.1	実践薬学英語	0.5						0.5	0.0	北里大学 大学院 薬学研究科 博士課程 修了 博士(臨床薬学)	
								医薬品情報学	0.2						0.2	0.0		
								薬剤師と法律	0.5						0.5	0.0		
								処方解析概論	0.4						0.4	0.0		
								早期体験学習					0.2	0.2	0.2	0.2		
								病院実習(Ⅰ期)					2.5		2.5	0.0		
								病院実習(Ⅱ期)					4.9		0.0	4.9		
								薬局実習(Ⅰ期)				2.5		2.5	0.0			
								薬局実習(Ⅱ期)					1.3	0.0	1.3			
								薬物治療最前線	0.8					0.8	0.0			
								医療薬学実習					7.2	0.0	7.2			
								薬学情報科学・演習		1.0				0.0	1.0			
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ			
計												7.6	14.6	11.1				
薬学科	有機薬化学	講師	いなみ けいこ 稲見 圭子	女	43	2008.10.1	2008.10.1	有機化学実習					1.8		1.8	0.0	共立薬科大学 大学院 薬学研究科 博士後期 課程 修了 博士(薬学)	
								医薬化学	0.7						0.7	0.0		
								医療品合成化学実習					2.7		0.0	2.7		
								有機化学3	1.5						1.5	0.0		
								有機化学1演習			1.5				1.5	0.0		
								病院実習(Ⅰ期)					1.3		1.3	0.0		
								病院実習(Ⅱ期)						2.5	0.0	2.5		
								薬局実習(Ⅰ期)					2.5		2.5	0.0		
								薬局実習(Ⅱ期)						1.3	0.0	1.3		
								情報処理・演習2		0.6					0.0	0.6		
								有機化学2		1.0					0.0	1.0		
								特別講義1		0.1					0.0	0.1		
								有機化学2演習				1.3			0.0	1.3		
								最新薬剤師業務		0.9					0.0	0.9		
特別講義2		1コマ					0.0	1コマ										
計												9.3	10.4	9.9				
薬学科	医薬品情報学	講師	さとう つぐみち 佐藤 嗣道	男	51	2013.4.1	2013.4.1	ヒューマニズム・薬学入門1	0.5						0.5	0.0	東京医科大学 歯科大学 大学院 医学系研究科 博士課程 修了 博士(医学)	
								ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0		
								医療品情報学	1.3						1.3	0.0		
								生物統計学	0.6						0.6	0.0		
								医療統計と演習			1.1				1.1	0.0		
								病院実習(Ⅰ期)					0.1		0.1	0.0		
								病院実習(Ⅱ期)						2.5	0.0	2.5		
								病院実習(Ⅲ期)						1.2	0.0	1.2		
								薬局実習(Ⅰ期)					1.3		1.3	0.0		
								薬局実習(Ⅱ期)						0.1	0.0	0.1		
								医療薬学実習					7.2	0.0	7.2			
								薬学情報科学・演習		1.0				0.0	1.0			
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ			
計												5.4	12.0	8.7				
薬学科	有機分析化学	講師	さの あきら 佐野 明	男	59	1980.4.1	2008.4.1	ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0	東京理科大学 大学院 薬学研究科 修士課程 修了 (薬学博士)	
								実践薬学英語	0.5						0.5	0.0		
								分析化学実習2						2.4	0.0	2.4		
								医薬品分析学		1.5					0.0	1.5		
								分析化学実習1					4.5	0.0	4.5			
								特別講義1		0.1				0.0	0.1			
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ			
計												1.0	8.5	4.8				

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏名	(性別)	(年齢)	就職年月日	現職就任年月日	授業科目								年間平均毎週授業時間数	最終学歴及び学位称号		
								科目名	毎週授業時間数										
									講義		演習		実験・実習・実技		計				
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
生命創薬科学科	分子病理・代謝学	教授	ひがみ よしかず 樋上 賀一	男	53	2007. 4. 1	2007. 4. 1	機能形態学2	1.0						1.0	0.0	長崎大学 大学院 医学研究 科 博士課程 修了 博士（医学）		
								疾病と病態1	0.9						0.9	0.0			
								疾病と病態（総論）		1.5					0.0	1.5			
								機能形態学実習					3.6		3.6	0.0			
								病院実習（Ⅰ期）					2.5		2.5	0.0			
								病院実習（Ⅱ期）						1.3	0.0	1.3			
								薬局実習（Ⅰ期）					1.3		1.3	0.0			
								薬局実習（Ⅱ期）						2.5	0.0	2.5			
								特別講義2		1コマ					0.0	1コマ			
計							9.3	5.3	7.3										
生命創薬科学科	分子病理学	教授	ふかい ふみお 深井 文雄	男	62	1985. 10. 1	2004. 4. 1	ヒューマニズム・薬学入門2	0.5						0.5	0.0	東京理科大学 大学院 理学研究 科 修士課程 修了 （理学博士）		
								生物学	0.8						0.8	0.0			
								分子細胞生物学	0.8						0.8	0.0			
								生命科学概論		0.5					0.0	0.5			
								生物化学実習2						2.4	0.0	2.4			
								病院実習（Ⅰ期）					2.5		2.5	0.0			
								病院実習（Ⅱ期）						1.3	0.0	1.3			
								薬局実習（Ⅰ期）					1.3		1.3	0.0			
								薬局実習（Ⅱ期）						1.3	0.0	1.3			
特別講義2		1コマ					0.0	1コマ	5.7										
計							5.9	5.5	5.7										
生命創薬科学科	生命情報科学	教授	みやざき さとる 宮崎 智	男	50	2004. 4. 1	2006. 4. 1	統計学・推計学	1.5						1.5	0.0	東京理科大学 大学院 理工学研究 科 博士課程 中退 博士（理学）		
								放射性医薬品学実習					3.0		3.0	0.0			
								情報処理・演習1			1.5				0.0	1.5			
								ゲノムインフォマティクス	1.5						1.5	0.0			
								病院実習（Ⅰ期）				1.3			1.3	0.0			
								病院実習（Ⅱ期）					1.3		0.0	1.3			
								薬局実習（Ⅰ期）					2.5		2.5	0.0			
								薬局実習（Ⅱ期）						1.3	0.0	1.3			
								情報処理・演習2			1.0				0.0	1.0			
バイオインフォマティクス		1.5					0.0	1.5											
特別講義2		1コマ					0.0	1コマ	8.2										
計							9.8	6.6	8.2										
生命創薬科学科	有機化学	教授	わだ たけし 和田 猛	男	52	2013. 4. 1	2013. 4. 1	有機合成化学2	1.5						1.5	0.0	東京工業大学 大学院 総合理工学研究科 博士課程 修了 （理学博士）		
								有機合成化学1		1.5					0.0	1.5			
								特別講義2		0.5コマ					0.0	0.5コマ			
								計							1.5	1.5		1.5	
生命創薬科学科	分子医科学	准教授	あきもと かずのり 秋本 和憲	男	47	2012. 4. 1	2012. 4. 1	免疫学	0.4						0.4	0.0	東京理科大学 大学院 薬学研究 科 博士後期課程 修了 博士（薬学）		
								生物化学実習2					2.4		0.0	2.4			
								生化学1		0.8					0.0	0.8			
								特別講義2		1コマ					0.0	1コマ			
								がんの診断と治療	1.0						1.0	0.0			
								計							1.4	3.2		2.3	
生命創薬科学科	遺伝子制御学	准教授	うちうめ ふみあき 内海 文彰	男	52	1993. 4. 1	2010. 4. 1	生化学2	0.8						0.8	0.0	東京大学 大学院 医学系研究科 博士課程 修了 博士（医学）、 博士（薬学）		
								生物化学実習1					4.5		4.5	0.0			
								実践薬学英语	0.5						0.5	0.0			
								免疫学	0.3						0.3	0.0			
								放射性医薬品学実習					3.0		3.0	0.0			
								特別講義2		1コマ					0.0	1コマ			
								病院実習（Ⅰ期）				0.1			0.1	0.0			
								病院実習（Ⅱ期）						0.1	0.0	0.1			
								薬局実習（Ⅰ期）					2.5		2.5	0.0			
薬局実習（Ⅱ期）						1.3	0.0	1.3											
計							11.7	1.4	6.6										
生命創薬科学科	微生物薬品化学	嘱託助教	いざわ ますみ 伊澤 真澄	男	31	2011. 4. 1	2011. 4. 1	生物化学実習1					4.5		4.5	0.0	東京理科大学 大学院 理工学研究科 博士後期課程 修了 博士（理学）		
								衛生薬学実習					2.4		2.4	0.0			
								計							6.9	0.0		3.5	
生命創薬科学科	分子病理学	嘱託助教	いよだ たくや 伊豫田 拓也	男	38	2011. 4. 1	2011. 4. 1	生物化学実習1					4.5		4.5	0.0	東邦大学 大学院 理学研究科 博士後期課程 修了 博士（理学）		
								生物化学実習2						2.4	0.0	2.4			
								計							4.5	2.4		3.5	
生命創薬科学科	有機化学	嘱託助教	いわた りんたろう 岩田 倫太郎	男	29	2013. 4. 1	2013. 4. 1	天然物化学実習					2.4		2.4	0.0	東京大学 大学院 新領域創成科学研究科 博士後期課程 修了 博士（生命科学）		
								特別講義2		0.5コマ					0.0	0.5コマ			
								計							2.4	0.0		1.2	
薬学科	臨床分析科学	嘱託助教	おがわ しょうじろう 小川 祥二郎	男	34	2012. 4. 1	2012. 4. 1	分析化学実習1					4.5	0.0	4.5	日本大学 大学院 総合基礎科学研究科 博士後期課程 修了 博士（理学）			
								医薬品合成化学実習						2.7	0.0		2.7		
								計							0.0		7.2	3.6	

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏 名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
								前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
薬学科	医療デザイン学	嘱託助教	かわの やよい 河野 弥生	女	43	2013.4.1	2013.4.1	薬剤学実習				1.5		1.5	0.0		星薬科大学 大学院 薬学研究科 修士課程 修了 博士（薬学）	
								医療薬学実習					7.8	0.0	7.8			
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ			
								計						1.5	7.8			
生命創薬科学科	生命情報科学	嘱託助教	くおん よんで 権 娟大	女	48	2010.8.1	2010.8.1	有機化学実習				3.5		3.5	0.0		奈良先端 科学技術 大学院大学 情報科学 研究科 博士課程 修了 博士（工学）	
								天然物化学実習				2.4		2.4	0.0			
								情報処理・演習1		1.5				1.5	0.0			
								計						7.4	0.0			
薬学科	衛生化学	嘱託助教	さくらい としひろ 櫻井 敏博	男	36	2014.4.1	2014.4.1	分析化学実習1					4.5	0.0	4.5		東京薬科大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）	
								衛生薬学実習				2.4		2.4	0.0			
								計						2.4	4.5			
薬学科	生化学・分子生物学	嘱託助教	さとう あきら 佐藤 聡	男	34	2014.4.1	2014.4.1	生物化学実習1				4.5		4.5	0.0		岡山大学 大学院 医歯薬学 総合研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）	
								生物化学実習2					2.4	0.0	2.4			
								計						4.5	2.4			
生命創薬科学科	量子物理化学	嘱託助教	しまだ ようすけ 島田 洋輔	男	29	2013.4.1	2013.4.1	薬品物理化学実習				4.2		4.2	0.0		東京理科大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）	
								分析化学実習2					2.4	0.0	2.4			
								計						4.2	2.4			
薬学科	薬物治療学	嘱託助教	しもむら ひとし 下村 斉	男	36	2011.6.1	2011.6.1	医療薬学実習					7.8	0.0	7.8		千葉大学 大学院 薬学研究科 博士前期課程 修了 修士（臨床薬学）	
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ			
								計						0.0	7.8			
生命創薬科学科	分子病理・代謝学	嘱託助教	すどう ゆか 須藤 結香	女	31	2013.4.1	2013.4.1	機能形態学実習				3.3		3.3	0.0		長崎大学 大学院 医歯薬学 総合研究科 博士課程 修了 博士（医学）	
								生物化学実習2					2.4	0.0	2.4			
								計						3.3	2.4			
薬学科	薬品物理化学	嘱託助教	たけうち いっせい 竹内 一成	男	28	2014.4.1	2014.4.1	薬品物理化学実習				4.2		4.2	0.0		東京理科大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）	
								分析化学実習2					2.4	0.0	2.4			
								計						4.2	2.4			
薬学科	衛生薬学	嘱託助教	たばた まさこ 田畑 真佐子	女	62	1976.4.1	1976.4.1	生物化学実習1				4.5		4.5	0.0		東京理科大学 薬学部 薬学科卒業 （薬学博士）	
								分析化学実習2					2.4	0.0	2.4			
								分析化学実習1					4.5	0.0	4.5			
								衛生薬学実習					2.4	2.4	0.0			
								特別講義1		0.1				0.0	0.1			
								計						6.9	7.0			
薬学科	薬理学	嘱託助教	つねおか やよい 恒岡 弥生	女	30	2014.4.1	2014.4.1	機能形態学実習				3.3		3.3	0.0		東邦大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）	
								薬理学実習					1.8	0.0	1.8			
								特別講義2		1コマ				0.0	1コマ			
								計						3.3	1.8			
生命創薬科学科	生物有機化学	嘱託助教	ひさまつ ようすけ 久松 洋介	男	34	2012.4.1	2012.4.1	有機化学実習				1.8		1.8	0.0		名古屋市立大学 大学院 薬学研究科 博士後期課程 修了 博士（薬学）	
								医薬品合成化学実習					2.7	0.0	2.7			
								計						1.8	2.7			
薬学科	応用薬理学	嘱託助教	ほりえ いちろう 堀江 一郎	男	30	2013.10.1	2013.10.1	機能形態学実習				3.3		3.3	0.0		熊本大学 大学院 薬学教育部 分子機能薬学専攻 博士後期課程 修了 博士（薬学）	
								薬理学実習					1.8	0.0	1.8			
								最新薬剤師業務		0.9				0.0	0.9			
								計						3.3	2.7			

所属学科	所属講座等	職名	ふりがな 氏 名	(性別)	(年齢)	就 職 年 月 日	現職就任 年 月 日	授 業 科 目								年間平均毎週 授業時間数	最終学歴及 び学位称号	
								科目名	毎週授業時間数									
									講義		演習		実験・実習 ・実技		計			
									前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期			後期
薬学科	DDS・製 剤設計学	嘱託助教	ほりぐち みちこ 堀口 道子	女	29	2012. 4. 1	2012. 4. 1	薬剤学実習					1.5		1.5	0.0	九州大学 大学院 薬学府 博士後期 課程 修了 博士学 士	
								薬理学実習						1.8	0.0	1.8		
								計						1.5	1.8			
薬学科	環境健康学	嘱託助教	よしだ えいこ 吉田 映子	女	29	2014. 4. 1	2014. 4. 1	分析化学実習 2					2.4	0.0	2.4	筑波大学 大学院 人間総合 科学研究 科 生命シス テム医学 専攻 修了 博士学 士		
								分析化学実習 1					4.5	0.0	4.5			
								衛生薬学実習				2.4		2.4	0.0			
								計						2.4	6.9			

- [注] 1 「所属学科」には、（ ）に兼任の学科名を記入してください。
- 2 「所属講座等」には、所属講座または研究室、センター名などを記入してください。
- 3 「授業科目」欄については、セメスター制の場合を例示していますが、通年制の場合、3学期制の場合等は、適宜、欄を修正して記入してください。
- 4 「毎週授業時間数」は、時間割編成上のいわゆるコマではなく、実質時間数を記入してください。（例：1コマ90分授業の場合の実質時間数は1.5時間）
- 5 1授業科目を複数の教員で担当する場合は、当該授業時間数を担当者数で除して毎週授業時間数を算出してください。（例：実習科目「□□□□」は担当教員2名で前後期各6.0時間の場合、6.0時間を2で除す。） また、担当時間数が明らかな場合はそれを考慮して時間数を算出してください。（例：前期の講義科目「○○○○」で○○教員が担当時間3.0時間、◇◇教員が担当時間1.5時間と明らかな場合）
- 6 「年間平均毎週授業時間数」欄には、各専任教員ごとの前期と後期の担当授業時間の合計を2で割った年間平均の時間数を記入してください。
- 7 卒業研究は授業科目から除外して作成してください。

(基礎資料11) 卒業研究の配属状況

4年生の在籍学生数	85 名
5年生の在籍学生数	77 名
6年生の在籍学生数	86 名※

※卒業研究配属学生数12名との差異は、卒業研究の単位修得済みの留年生が12名いるため。

(注) 所属が生命創薬科学科の教員は、YMとした。

	配属講座など	指導教員数	4年生 配属学生数	5年生 配属学生数	6年生 配属学生数	合計
1	青山研究室 (薬物治療学)	2	5	7	8	20
2	浅田研究室 (生薬学)	1	1	2	3	6
3	磯濱研究室 (応用薬理学)	2	2	2	0	4
4	市原研究室 (衛生化学)	2	2	0	0	2
5	稲見研究室 (有機薬化学)	1	0	3	1	4
6	岡研究室 (薬理学)	2	2	2	3	7
7	鍛冶研究室 (環境健康学)	2	3	3	4	10
8	小茂田研究室 (医療安全学)	1	6	5	6	17
9	佐藤研究室 (医薬品情報学)	1	5	1	0	6
10	佐野研究室 (有機分析化学)	1	2	0	0	2
11	嶋田研究室 (医薬品評価学)	1	6	6	8	20
12	高澤研究室 (医療分子生物学)	1	4	4	0	8
13	田沼研究室 (生化学・分子生物学)	2	2	0	0	2
14	月本研究室 (放射線生命科学)	1	2	0	0	2
15	根岸研究室 (臨床薬学)	1	5	6	7	18
16	花輪研究室 (医療デザイン学)	2	5	7	4	16
17	東研究室 (臨床分析科学)	2	3	3	3	9
18	廣田研究室 (生物薬理学)	1	0	2	4	6
19	牧野研究室 (薬品物理化学)	2	3	3	3	9
20	望月研究室 (薬化学)	1	2	0	2	4
21	山下研究室 (DDS・製剤設計学)	2	3	3	3	9
22	吉澤研究室 (疾患薬理学)	1	5	1	0	6
23	和田(浩)研究室 (資源植物化学)	1	1	1	1	3
YM	24 青木研究室 (生物有機化学)	2	2	2	2	6
YM	25 秋本研究室 (分子医科学)	1	3	0	0	3
YM	26 内海研究室 (遺伝子制御学)	1	1	0	2	3
YM	27 内呂研究室 (創薬合成化学)	1	1	0	0	1
YM	28 後藤(了)研究室 (量子物理化学)	2	2	2	2	6
YM	29 早川研究室 (微生物薬品化学)	2	0	3	0	3
YM	30 樋上研究室 (分子病理・代謝学)	2	3	3	3	9
YM	31 深井研究室 (分子病態学)	2	0	3	3	6
YM	32 宮崎研究室 (生命情報科学)	2	2	3	2	7
YM	33 和田(猛)研究室 (有機化学)	2	2	0	0	2
	合 計	50	85	77	74	236

- [注] 1 卒業研究を実施している学年にあわせ、欄を増減して作成してください。
- 2 指導教員数には担当する教員(助手を含む)の数を記入してください。
- 3 講座制をとっていない大学は、配属講座名を適宜変更して作成してください。

(基礎資料12) 講義室等の数と面積

キャンパス	講義室等	室数	総面積(m ²) (A)	専用・共用 の別	収容人員 (総数)	利用学生 総数 (B)	利用学生1人当 り面積(m ²) (A/B)	備 考
野田キャンパス (全学共通)	講義室	45	6,626.57	共用	5,999	6,236	1.06	薬学部生命創薬科学科(学生数434) 理工学部(学生数5248)
	ターミナル室	2	470.20	共用	—	6,236	0.08	薬学部生命創薬科学科(学生数434) 理工学部(学生数5248)
	自習室	1	130.06	共用	—	6,236	0.02	図書館
野田キャンパス (薬学部専用)	講義室	9	2,083.17	専用	1,980	988	2.11	13号館、14号館及び16号館
	ゼミ室	4	272.66	専用	140	988	0.28	15号館
	実習室	8	2,016.17	専用	—	988	2.04	14号館
	ホール	1	414.12	専用	500	988	0.42	1311教室
	生薬標本室	1	80.97	専用	—	988	0.08	15号館
	医療薬学情報教育室 及び医薬品情報室	2	153.32	専用	—	554	0.28	15号館
	SDG室	10	269.13	専用	—	554	0.49	16号館
	医療薬学資料室及び演習室	3	176.31	専用	—	554	0.32	16号館
	プレナリーセッション室	1	198.11	専用	—	554	0.36	16号館
	模擬薬局	5	982.36	専用	—	554	1.77	16号館(病棟実習室、臨床講義 室、調剤実習室、製剤実習室、 無菌調剤実習室)
	薬用植物園	1	2,500.00	専用	—	554	4.51	薬用植物園

- [注] 1 6年制薬学教育において使用するキャンパスごとに記入してください。
- 2 全学で全ての施設を共用している場合は、「キャンパス」欄に「全学共通」と記入してください。
- 3 共有・全学共通の場合は備考欄にその学部名(学生数)を記載し、「利用学生総数(B)」欄にもその数を含めて記入してください。
- 4 「利用学生1人当たり面積」は、小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位まで記入してください。
- 5 例示のように適宜行を追加して作成してください。

(基礎資料13) 学生閲覧室等の規模

図書室（館）の名称	学生閲覧室 座席数（A）	学生収容 定員数（B）	収容定員に対する 座席数の割合（%） $A/B * 100$	その他の 自習室の名称	その他の 自習室の座席数	その他の 自習室の整備状況	備 考
野田図書館 （薬学図書室を含む）	780	7,464	10%				学生収容定員数 学部：6,236名 大学院：1,228名
計	780	7,464	10%				

- [注] 1 「学生収容定員（B）」には、当該施設を利用している全ての学部・大学院学生等を合計した学生収容定員数を記入してください。
- 2 「備考」欄には学生収容定員（B）の内訳を、学部・大学院等ごとに記入してください。
- 3 「その他の自習室の整備状況」欄には情報処理末端をいくつ設置しているか等を記載してください。

(基礎資料14) 図書、資料の所蔵数及び受け入れ状況

図書館の名称	図書の冊数 (数)		定期刊行物の種類 (種類)		視聴覚資料の 所蔵数 (点数)	電子ジャー ナルの種類 (種類)	過去3年間の図書受け入れ状況			備 考
	図書の冊数	開架図書の 冊数(内)	内国書	外国書			平成23年度	平成24年度	平成25年度	
野田図書館 (薬学図書室を含む)	446,616	353,259	1,203	2,289	3,160	11,173	13,420	11,116	8,811	(電子ジャーナルの他に 電子媒体資料) 電子ブック:14,600種類 オンラインデータベー ス:8種類
計	446,616	353,259	1,203	2,289	3,160	11,173	13,420	11,116	8,811	

- [注] 1 雑誌等ですでに製本済みのものは図書の冊数に加えても結構です。
- 2 開架図書の冊数(内)は、図書の冊数のうち何冊かを記入してください。
- 3 視聴覚資料には、マイクロフィルム、マイクロフィッシュ、カセットテープ、ビデオテープ、CD・LD・DVD、スライド、映画フィルム、CD-ROM等を含めてください。
- 4 電子ジャーナルが中央図書館で集中管理されている場合は、中央図書館にのみ数値を記入し、備考欄にその旨を注記してください。
- 5 視聴覚資料の所蔵数については、タイトル数を記載してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬物治療学	職名 教授 (実務家)	氏名 青山 隆夫
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	平成21年3月30日 (2009)	薬学テキストシリーズ「薬物治療学」(朝倉書店) 青山隆夫ら(執筆)	
	平成21年2月10日 (2009)	ビジュアル薬剤師実務シリーズ3「病院調剤と医薬品管理の基本」(羊土社) 青山隆夫ら(執筆)	
	平成22年4月25日 (2010)	「疾患と治療薬」第6版改訂(南江堂) 青山隆夫ら(執筆)	
	平成23年3月24日 (2011)	「薬学生のための臨床実習マニュアル」(医学評論社) 青山隆夫ら(執筆)	
	平成24年6月15日 (2012)	「病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅳ」(南江堂) 青山隆夫ら編、同執筆	
	平成24年4月15日 (2012)	「病態を理解して組み立てる薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅴ」(南江堂) 青山隆夫ら編、同執筆	
	平成25年10月10日 (2013)	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ上「薬剤師業務の基本 知識・態度」(羊土社) (2013) 青山隆夫ら編	
	平成25年10月10日 (2013)	新ビジュアル薬剤師実務シリーズ下「薬剤師業務の基本 技能」(羊土社) (2013) 青山隆夫ら編、執筆	
	平成26年10月10日 (2014)	臨床現場で実践する薬学研究のススメ(南山堂) (2014) 青山隆夫ら(執筆)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成21年5月	関東地区調整機構の活動とお願い 第3回薬剤師のためのワークショップinやまなし、富士吉田	
	平成21年5月	関東地区調整機構の活動とお願い 第8回関東・千葉ブロック認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ、千葉	
	平成21年7月	関東地区調整機構の取組み (社)千葉県薬剤師会・関東地区調整機構共催 平成21年度認定実務実習指導薬剤師養成講習会、千葉	
	平成21年8月	関東地区調整機構の取組み (社)千葉県薬剤師会・関東地区調整機構共催 平成21年度認定実務実習指導薬剤師養成講習会、千葉	
	平成21年8月	関東地区調整機構の活動とお願い 第9回関東・千葉ブロック認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ、千葉	
	平成21年8月	薬学6年制における研究についての教育－医療の質の向上に繋がる喜びを伝える－ 日本病院薬剤師会関東ブロック第39回学術大会、長野	
	平成21年9月	関東地区調整機構の取組み 薬学教育改革とモデル・コアカリキュラム (社)千葉県薬剤師会・関東地区調整機構共催 平成21年度認定実務実習指導薬剤師養成講習会、千葉	

平成21年9月	薬学教育改革とモデル・コアカリキュラム (社)千葉県薬剤師会・関東地区調整機構共催 平成21年度認定実務実習指導薬剤師養成講習会、千葉
平成21年9月	関東地区調整機構の活動とお願い 第8回関東・埼玉ブロック認定実務実習指導 薬剤師養成ワークショップ、伊奈
平成21年10月	関東地区調整機構の取組み (社)長野県薬剤師会・関東地区調整機構共催 平成21年度認定実務実習指導薬剤師養成講習会、松本、Oct, 2009
平成21年10月	薬学教育改革とモデル・コアカリキュラム (社)長野県薬剤師会・関東地区調整機構共催 平成21年度認定実務実習指導薬剤師養成講習会、松本
平成21年10月	実務実習 モデル・コアカリキュラムを知る－ 病院実習を知る－ (社)長野県薬剤師会・関東地区調整機構共催 平成21年度認定実務実習指導薬剤師養成講習会、松本
平成21年12月	関東地区調整機構の活動とお願い 第10回関東・千葉ブロック認定実務実習指導 薬剤師養成ワークショップ、野田
平成22年2月	関東地区調整機構の取組み (社)神奈川県薬剤師会・関東地区調整機構共催 平成21年度認定実務実習指導薬剤師養成講習会、横浜
平成22年5月	関東地区調整機構の活動とお願い 第11回関東・千葉ブロック認定実務実習指導 薬剤師養成ワークショップ、習志野
平成22年6月	実務実習 モデル・コアカリキュラムを知る－ 病院実習を知る－ (社)千葉県薬剤師会・千葉県病院薬剤師会・ 関東地区調整機構共催 平成22年度認定実務実 習指導薬剤師養成講習会、千葉
平成22年8月	初めての長期実務実習を振り返る！ その2 病薬アワー（ラジオNIKKEI放送日平成22年8月30 日）
平成22年8月	関東地区調整機構の活動とお願い 第12回関東・千葉ブロック認定実務実習指導 薬剤師養成ワークショップ、船橋
平成22年11月	6年制長期実務実習の第Ⅰ期が終了して 全国自治体病院薬剤師部長会、東京
平成24年3月	第97回薬剤師国家試験における試験問題の領域 別分類 第12回実務家教員連絡会議、札幌
平成24年10月	シンポジウム「薬学・薬剤師教育の充実、薬剤 師職能の向上、医療薬学の発展のために臨床 系・実務家教員は何をすべきか？」 第22回日本医療薬学会年会、新潟
平成24年10月	パネルディスカッション「医療薬学の将来展 望」 第22回日本医療薬学会年会、新潟
平成25年7月	シンポジウム「薬の専門家としての薬剤師の立 ち位置を考える」 学校教育・学術活動の立場から 医療薬学フォーラム2013／第21回クリニカルファーマーシ ンポジウム、金沢

	平成25年9月	シンポジウム「医療系・実務家教員が橋渡しする医療薬学の新しい展開」 第23回日本医療薬学会年会、仙台	
	平成26年6月	シンポジウム「薬学教育6年制における卒業研究－医療薬学分野の現状と課題－」 医療薬学フォーラム2014／第22回クリニカルファーマーセッション、東京	
4 その他教育活動上特記すべき事項	平成21年2月	あなたの薬は大丈夫？ 薬と食品の微妙な関係 東京理科大学公開講座講師2008年後期、東京	
	平成21年3月	医療系論文の執筆から投稿、掲載までのお作法と秘訣 講師、平成20年度第2回日本医薬品情報学会フォーラム、東京	
	平成21年9月	くすりと食品の相性 東京理科大学夢工房講師、野田	
	平成21年10月	ナルコレプシー（過眠症）とメチルフェニデートの適正使用 つくば薬剤師会研修会講師、つくば	
	平成22年1月	くすりと食品の相性 葛飾区市民講座講師、東京	
	平成22年2月	セルフメデシケーション ーどうやって薬を選びますかー 東京理科大学公開講座講師2009年後期、東京	
	平成22年4月	薬剤師の研究への取り組み方ー論文作成、発表方法 独立行政法人国立病院機構関東甲信越ブロック研修会講師、東京	
	平成22年7月	薬物間相互作用（drug interaction）ーくすりと食品の相性ー 夢ナビライブ講師、東京	
	平成22年10月	「飲み合わせ」って何？ー薬・食品・サプリメントの微妙な関係ー 悠ゆう大学講師、朝霞	
	平成23年7月	薬物間相互作用（drug interaction）ーくすりと食品の相性ー 夢ナビライブ講師、東京	
	平成25年7月	薬物間相互作用（drug interaction）ーくすりと食品の相性ー 夢ナビライブ講師、東京	
	平成25年10月	薬物間相互作用（drug interaction）ーくすりと食品の相性ー 平成25年度東京理科大学こうよう会宮城支部講演会講師、仙台	
	平成26年7月	薬物間相互作用（drug interaction）ーくすりと食品の相性ー 夢ナビライブ講師、東京	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
新生児インシュリン-グルコース（GI）療法における投与セットへのインスリン吸着の検討	共著	2009	医療薬学35(12) 839-845
アスピリンの抗血小板作用に及ぼすロキソプロフェンナトリウムの影響とその回避方法	共著	2011	医療薬学37(2) 69-77
Influence of Nonsteroidal Anti-inflammatory Drugs on the Antiplatelet Effects of Aspirin in Rats.	共著	2011	Bio. Pharm. Bull. 34(2) 233-7
ビスホスホネート製剤とミネラルウォーターとの相互作用-ラットにおけるアレンドロネート経口投与時の吸収への影響-	共著	2011	薬学雑誌131(10) 1509-18

薬局薬剤師における薬学的疑義照会の医療経済学的研究	共著	2012	薬学雑誌132(6) 753-61
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
下村斉、青野崇宏、木暮聖、山本陽介、宮嶋篤志、廣田孝司、島徹、今中景子、辰巳浩一郎、橋本修、増山英則、青山隆夫、「肺MAC症治療薬の薬物相互作用の経時的変化と治療効果に関する検討」		2014年4月	第54回日本呼吸器学会学術講演会、大阪
下大川安津沙、下村斉、吾郷耕彦、青山隆夫、「新生児へのインスリン微量持続投与時における投与セットへの吸着に関する研究－総合ビタミン剤を用いた吸着防止法の検討－」		2014年6月	医療薬学フォーラム2014／第22回クリニカルファーマシーシンポジウム、東京
吉澤一巳、佐藤知世、弓長藤佳、田代真弓、高橋彩夏、青山隆夫、「抗がん剤誘発副作用モデル動物に対する抗うつ薬 mirtazapine の影響」		2014年7月	第130 回日本薬理学会関東支部会、東京
小野愛莉、下村斉、馬島徹、今中景子、増山英則、青山隆夫、「肺MAC症治療薬におけるクラリスロマイシンとフルオロキノロンの相互作用に関する研究」		2014年8月	日本病院薬剤師会関東ブロック第44回学術大会、大宮
大野貴之、下村斉、青山隆夫、「硝酸イソソルビドテープの後発品の品質に関する研究」		2014年9月	第24回日本医療薬学会年会、名古屋
福島仁志、伊東晃尚、下村斉、赤木祐貴、青山隆夫、「ビスホスホネート製剤とミネラルウォーターとの相互作用（6）－ラットにおけるミノドロネート経口投与時の吸収の変化－」		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会、東京
下村斉、清水麻衣子、高橋香緒理、今中景子、馬島徹、増山英則、佐藤嗣道、青山隆夫、「肺MAC症の多剤併用療法における薬物相互作用と副作用発現状況」		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会、東京
荒井花奈、下村斉、今中景子、福田元、馬島徹、増山英則、佐藤嗣道、青山隆夫、「結核患者におけるリファンピシンと糖尿病治療薬との薬物相互作用に関する後ろ向き調査研究」		2015年3月	日本薬学会第135年会、神戸
中込野乃花、下村斉、青山隆夫、「注射薬の持続静脈内投与時の光安定性に対するラインの遮光性の影響に関する研究－新規遮光ラインの開発－」		2015年3月	日本薬学会第135年会、神戸
柴原由季、下村斉、青山隆夫、「慢性裂肛に対するλ-カラギーナンを落ちいた徐放性ジルチアゼム（DTZ）クリームの開発－徐放性DTZクリームの効果に関するラットを用いた検討－」		2015年3月	日本薬学会第135年会、神戸
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成18年9月～	薬学臨床教員系教員連絡会 世話人（会長 平成22～23年度）		
～平成22年3月	厚生労働省 薬剤師試験委員		
～平成22年3月	日本医療薬学会代議員 出版委員会委員		
～平成22年3月	日本医療薬学会代議員 編集委員会委員		
～平成23年3月	東京大学薬学部 非常勤講師		
～平成24年3月	日本医療薬学会代議員 認定薬剤師試験実行小委員会委員		
～平成24年3月	日本医療薬学会代議員 認定試験問題小委員会委員		
平成21年4月～平成25年3月	薬学教育協議会病院・薬局実務実習関東地区調整機構 大学委員（副委員長：平成21～22年度）		
平成21年4月～	慶応義塾大学薬学部 非常勤講師		
平成21年4月～	千葉県薬剤師会薬事情報センター研究部門 研究員		
平成21年10月～平成22年3月 平成26年10月～平成27年3月	筑波大学大学院 非常勤講師		
平成22年4月～平成26年3月	筑波大学附属病院臨床研究倫理審査委員会委員及び筑波大学附属病院利益相反委員会委員		
平成22年4月～	日本医療薬学会 代議員		
平成22年4月～	東京医療保健大学 非常勤講師		

平成22年4月～	日本医療薬学会 認定薬剤師認定制度委員会 委員長（平成26年4月～）
平成22年10月～平成23年3月	特定非営利活動法人医療教育研究所 「質問管理」委員
平成23年4月～平成27年3月	一般社団法人薬学教育評価機構 評価実施委員
平成23年4月～	高崎健康福祉大学非常勤講師
平成24年4月～平成26年3月	日本医療薬学会 医療薬学教育委員会 委員長
平成24年4月～	埼玉県病院薬剤師会生涯研修センター評価委員会委員
平成24年4月～	日本医療薬学会 理事
平成24年4月～	日本医療薬学会 学術貢献賞・奨励賞等選考委員会委員
平成24年4月～	日本医療薬学会 論文賞選考委員会委員
平成25年11月～平成27年3月	公益財団法人日本薬剤師研修センター JPALSWebテスト問題作成委員
平成26年4月～	日本医療薬学会 企画・シンポジウム委員会 委員長
平成26年4月～	日本薬学会 医薬科学部会 世話人

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 生薬学	職名 教授	氏名 浅田 善久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成21年4月～ 平成27年3月	生薬成分の生合成などは、有機化学的な考え方を使いながら、自分で生合成が考えられるように説明している。生薬成分の構造式は生合成的関係と構造の特徴を捉えて覚えやすい様に説明している。また、覚える項目に関しては、自分自身で考えた覚え方に基づいて説明している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年4月～ 平成27年3月	授業はプリント中心で行っているため、薬用植物学、生薬学、漢方概論のプリントを毎年内容を追加しながら作成し、配布している。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年8月	東京理科大学-早稲田塾連携「スーパー生命創薬科学ワークショップ」にて講師を担当
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Prenylflavonoids from <i>Glycyrrhiza uralensis</i> and their protein tyrosine phosphatase-1B inhibitory activities.	共著	2010年	Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters, 2010, 20(18), 5398-5401
Stelleralides A-C, Novel Potent Anti-HIV Daphnane-Type Diterpenoids from <i>Stellera chamaejasme</i> L.	共著	2011年	Organic Letters, 2011, 13(11), 2904-2907
Labdane-type diterpenoids from hairy root cultures of <i>Coleus forskohlii</i> , possible intermediates in the biosynthesis of forskolin.	共著	2012年	Phytochemistry, 2012, 79, 141-146
Isolation, Structure Determination, and Anti-HIV Evaluation of Tiglliane-Type Diterpenes and Biflavonoid from <i>Stellera chamaejasme</i> .	共著	2013年	Journal of Natural Products, 2013, 76(5), 852-857
Cytotoxic activity of two natural sesquiterpene lactones, isobutyrolyplenolin and arnicolide D, on human colon cancer cell line HT-29.	共著	2014年	Natural Product Research, 2014, 28(12), 914-916
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
<i>Centipeda minima</i> から単離したarnicolide Dと isobutyrolyplenolin の細胞毒性について		2015年3月27日	日本薬学会第135年会（神戸市）
III 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～平成24年3月	漢方薬・生薬認定薬剤師研修における薬用植物園実習を担当		
平成26年10月～平成27年3月	国立大学法人 筑波大学 非常勤講師		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 応用薬理学	職名 教授	氏名 磯濱 洋一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年4月～平成26年9月	生物統計学の授業では独自に作成した資料をもとに講義を実施し、受講生の理解を促した。また生物学領域で汎用される検定法については、授業中に受講生自身のPCを用いて実施する演習を行うなど、使える知識とすることを心掛けた。なお、アンケートによる学生の評価では、7つの設問中6つの項目で平均4.5（5点満点）以上の高評価を得ている。	
	平成26年10月～平成27年3月	薬理学2の授業では、生理学や病態生理学の内容を一部、織り交ぜながら薬物の作用をイメージしやすいように工夫した。授業ではできる限り板書を行い、受講生自身のノートを作成するように心掛けた。なお、アンケートによる学生の評価は7項目の全てで4点以上、6項目で4.5点以上の高評価であった。	
	平成26年10月～平成27年3月	機能形態学1の授業で受講生の理解を深めるために独自の資料を数多く作成し、配布した。解剖学的内容の解説のため、意識的にスライドを多く用いた。なお、アンケートでは7項目中6項目で4.3以上の高評価であった。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25(2013)年3月15日	藤原道弘監修「パートナー機能形態学 改訂第2版」第9章呼吸器系, 南江堂	
	平成25(2013)年3月15日	重信弘毅編集「パートナー薬理学 第2版」第9章呼吸器系に作用する薬物, 南江堂	
	平成24(2012)年1月10日	赤池昭紀編集「最新薬理学」第7章呼吸器系に作用する薬, 廣川書店	
	平成24(2012)年1月10日	赤池昭紀編集「最新薬理学」第7章呼吸器系に作用する薬, 廣川書店	
	平成24(2012)年3月23日	日本薬学会編, 「薬学用語辞典」	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	4		
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Aquaporin 5 increases keratinocyte-derived chemokine expression and NF-κB activity through ERK activation.	共著	2014年6月13日	Biochem Biophys Res Commun, 2014, 448(4):355-360
Nitric oxide mediates selective degeneration of hypothalamic orexin neurons through dysfunction of protein disulfide isomerase.	共著	2013年7月13日	J Neurosci, 2013, 33(31):12557-12568
MRI-based analysis of intracerebral hemorrhage in mice reveals relationship between hematoma expansion and the severity of symptoms.	共著	2013年7月2日	PLoS One, 2013: 8(7), e67691

Phosphorylation of epidermal growth factor receptor at serine 1047 by MAP kinase-activated protein kinase-2 in cultured lung epithelial cells treated with flagellin.	共著	2013年1月15日	Arch Biochem Biophys, 2013, 529(2):75-85
Induction of epithelial-mesenchymal transition by flagellin in cultured lung epithelial cells.	共著	2012年12月15日	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2012, 303(12): L1057-69.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
礪濱洋一郎（招待講演）， 利水作用とアクアポリン		平成26年5月10日	領域別漢方セミナー脳神経外科と漢方（和歌山県）
江川奈生，坂本唯真，堀江一郎，礪濱洋一郎，水チャネル aquaporin 5によるERK活性化および炎症応答亢進作用		平成26年6月14-15日	第9回トランスポーター研究会（愛知県）
藤川 みか，堀江 一郎，礪濱 洋一郎，Aquaporin-3 発現増加物質による皮膚疾患治療に関する基礎的研究（優秀発表賞受賞）		平成26年6月14-15日	第9回トランスポーター研究会（愛知県）
礪濱洋一郎（招待講演）， 利水作用とアクアポリン		平成26年7月10日	第14回神戸大学漢方セミナー（兵庫県）
礪濱洋一郎（招待講演）， 利水作用とアクアポリン		平成26年7月16日	第4回漢方ネットワークミーティング（神奈川県）
礪濱洋一郎（招待講演）， 利水作用とアクアポリン		平成26年7月17日	第101回御茶ノ水耳鼻咽喉科治療研究会（東京都）
江川奈生，堀江一郎，坂本唯真，蔣 志侠，中島賢治，和田篤敬，礪濱洋一郎，清肺湯による気道分泌促進作用の機序としてのアクアポリン5機能促進作用（優秀発表賞受賞）		平成26年8月30日	第31回和漢医薬学会大会（千葉県）
礪濱洋一郎（ランチョンセミナー，招待講演）， 利水作用とアクアポリン-漢方薬の特長的作用を支える標的分子		平成26年9月6日	第34回婦人科漢方研究会学術集会（青森県）
礪濱洋一郎（招待講演）， 利水作用とアクアポリン-漢方薬の特長的作用を支える標的分子		平成26年9月12日	兵庫医科大学第8回漢方医学セミナー（兵庫県）
Yoichiro Isohama, Yuima Sakamoto, Nao Egawa and Ichiro Horie（シンポジウム）Increased Cytokine Expression by Aquaporin 5 -A New Insight into Cell Type Selective Regulation in Inflammatory Response-		平成26年9月16日	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asian Countries（東京都）
礪濱洋一郎（シンポジウム・オーガナイザー）， QOL 低下の原因となる水分代謝異常を是正する五苓散の作用特性を支える分子：アクアポリン		平成26年10月4日	第8回緩和医療薬学会（愛媛県）
江川奈生，堀江一郎，蔣志侠，荒井哲也，和田篤敬，礪濱洋一郎，清肺湯は細胞膜のアクアポリン5を増加させ水輸送を促進する（優秀発表賞受賞）		平成26年10月11日	第131回日本薬理学会関東部会（神奈川県）
礪濱洋一郎（シンポジウム）， アクアポリン5の新機能に着目した細胞種選択的な炎症反応の制御		平成26年12月8日	第12回東京理科大学DDSセンターシンポジウム
植竹沙織，櫻井拓弥，窪田佑紀，堀江一郎，礪濱洋一郎，蜂蜜の鎮咳作用に関する薬理学的研究（優秀発表賞受賞）		平成26年12月5日	第16回応用薬理シンポジウム（宮城県）
礪濱洋一郎（招待講演）， 漢方の分子薬理～利水作用とアクアポリン		平成27年1月31日	調剤漢方フォーラム（大阪府）
礪濱洋一郎（ランチョンセミナー，招待講演）， アクアポリン機能調節を介した五苓散の脳浮腫抑制作用		平成27年2月1日	第33回筑波脳神経外科研究会学術集会（茨城県）
礪濱洋一郎（招待講演）， 漢方薬のユニークな作用を担う薬理学的標的分子		平成27年2月13日	大分県病院薬剤師会2月例会（大分県）
礪濱洋一郎（招待講演）， 漢方薬のユニークな作用を担う薬理学的標的分子		平成27年3月17日	サイエンス漢方セミナー（長野県）
堀江一郎，今野真理子，礪濱洋一郎，骨髓由来免疫抑制細胞に対する十全大補湯および補中益気湯の作用		平成27年3月18-20日	第88回日本薬理学会年会（愛知県）
礪濱洋一郎（招待講演）， 漢方薬のユニークな作用を担う薬理学的標的分子		平成27年3月28日	東海7大学医学教育連絡協議会主催東海漢方セミナー（愛知県）

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成21年4月～平成23年3月	和漢医薬学会 理事
平成21年4月～	肺サーファクタント分子病態研究会 世話人, 監事
平成21年4月～	日本薬理学会 学術評議員
平成21年4月～	日本東洋医学会 編集委員
平成21年4月～	日本肺サーファクタント・界面医学会 理事
平成21年4月～	日本薬剤師研修センター 非常勤講師
平成21年4月～	宮崎大学医学部 非常勤講師
平成22年4月～	気道分泌研究会 監事
平成22年4月～平成23年4月	日本肺サーファクタント・界面医学会 例会長
平成22年4月～平成30年3月	日本薬理学会 JPS Advisory Board
平成23年4月～	和漢医薬学会 副編集委員長
平成24年4月～	日本東洋医学会 代議委員
平成24年4月～	熊本大学薬学部 非常勤講師
平成25年4月～	日本東洋医学会 学術教育委員
平成26年4月～	筑波大学医学部 非常勤講師
平成26年4月～平成27年3月	肺サーファクタント分子病対研究会 例会長

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 衛生化学	職名 教授	氏名 市原 学
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年4月	「2化学的健康障害要因とその対策-33. 感作性物質 34. 生殖毒性物質」 産業保健マニュアル/南山堂	
	平成25年5月	「5. 4. 4生殖次世代影響」産業安全保健ハンドブック /労働科学研究所	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Hippocampal phosphoproteomics of F344 rats exposed to 1-bromopropane.	共著	2015	Toxicology and Applied Pharmacology 282(2):151-60
Cholangiocarcinoma among offset colour proof-printing workers exposed to 1,2-dichloropropane and/or dichloromethane.	共著	2013	Occupational and Environmental Medicine 70:508-10
A case of severe neurotoxicity associated with exposure to 1-bromopropane, an alternative to ozone-depleting or global-warming solvents.	共著	2012	Archives of Internal Medicine
Increased susceptibility of Nrf2-null mice to 1-bromopropane-induced hepatotoxicity.	共著	2010	Toxicological Sciences 115:596-606
Methylation of dimethyltin in mice and rats.	共著	2008	Chemical Research in Toxicology 21:467-71
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
市原佐保子、李衛華、尾村誠一、藤谷雄二、平工雄介、久永直見、丁訓誠、小林隆弘、市原学 「中国酸化チタン粒子取扱工場労働者に対する心肺機能を中心とした調査研究」		2014. 5	第87回日本産業衛生学会
呉文亭、市原学、及川（多田）佐枝子、鈴木悠加、常杰、橋本直純、長谷川好規、ガバザ コリナ、ガバザ エステバン、市原 佐保子 「ナノ酸化亜鉛が、ブレオマイシンによって誘導されるマウスの肺線維症に与える影響」		2014. 5	第84日本衛生学会
セサ ラドワ、呉文亭、市原 佐保子、橋本直純、長谷川好規、伊東健、山本雅之、カメル エミリ、市原学 「酸化亜鉛ナノ粒子が誘導する肺炎症におけるNrf2の関与」		2014. 5	第84日本衛生学会
ブラニッチ サンドラ、市原 佐保子、島田康人、田中利男、呉文亭、ポーランド ソニア、トラン ラン、市原学 「マウスと遺伝子改変ゼブラフィッシュにおけるシリカナノ粒子の生態分布と影響」		2014. 5	第84日本衛生学会

張靈逸、宗才、鯉淵典之、市原 佐保子、藤田博美、内藤久雄、加藤昌志、市原学 「ラット脳脊髄液中甲状腺ホルモンレベルの変化への1BP曝露の影響」	2014. 5	第84日本衛生学会
鈴木悠加、市原学、宗才、及川（多田）佐枝子、出岡淑、市原佐保子 「単層、二層カーボンナノチューブによる動脈硬化症への影響とその作用機序の検討」	2014. 5	第84日本衛生学会
及川（多田）佐枝子、市原学、鈴木悠加、出岡淑、三島隆、市原佐保子 「酸化亜鉛ナノ粒子の血管内皮前駆細胞に対する影響」	2014. 5	第84日本衛生学会
宗才、黄晋彦、エドウィンガーナー、張靈逸、張堯、市原学 「1-アミノベンゾトリアゾールの投与は1-ブロモプロパン曝露による肝障害を減弱」	2014. 5	第84日本衛生学会
Wenting Wu, Gaku Ichihara, Naozumi Hashimoto, Yoshinori Hasegawa, Yasuhiko Hayashi, Masashi Kato, Saeko Tada-Oikawa, Yuka Suzuki, Jie Chang1, Corina N. D'Alessandro-Gabazza, Esteban C. Gabazza, Sahoko Ichihara「Synergistic effect of exposure to zinc oxide nanoparticle on inflammatory response to bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice」	2014. 7	第41回日本毒性学会 学術年会
Radwa Sehsah, Wenting Wu, Sahoko Ichihara, Naozumi Hashimoto, Yoshinori Hasegawa, Ken Ito, Masayuki Yamamoto, Emily Kamel, Gaku Ichihara「Involvement of Nrf-2 in zinc oxide nanoparticles-induced pulmonary inflammation」	2014. 7	第41回日本毒性学会 学術年会
市原学「Animal models for mechanistic studies on biological effects of manufactured nanomaterials」	2014. 8	第3回工業用ナノマテリアル のリスク管理研究会 The Third Workshop on the Risk Management of Engineered Nanomaterials
Sandra Vranic, Sahoko Ichihara, Yasuhito Shimada, Toshio Tanaka, Wenting Wu, Sonja Boland, Lang Tran and Gaku Ichihara 「Biodistribution and effects of SiO ₂ NPs in mice and in a transgenic model of Zebra fish (Danio rerio)」	2014. 8	IUMRS-ICA2014
市原学、呉文亭、Radwa Sehsah, Esteban C Gabazza、伊東健、山本雅之、市原佐保子「工業ナノマテリアルの生態影響機序解明のための動物モデル」	2014. 9	日本薬学会環境・衛生部会 学術年会 フォーラム2014：衛生薬 学・環境トキシコロジー
市原学「2-ジクロロプロパンの発がん性 発症機序から」	2014. 11	第42回 産業中毒・生物学的 モニタリング研究会
宗才、黄晋彦、エドウィンガーナー、張靈逸、張堯、市原佐保子、市原学「1-ブロモプロパン神経毒性のマウスモデルの確立」	2014. 11	第42回 産業中毒・生物学的 モニタリング研究会
宗 才、黄 晋彦、エドウィン ガーナー、張 靈逸、張 堯、加藤昌志、市原佐保子、市原 学「1-ブロモプロパン神経毒性のマウスモデルの確立」	2015. 2	第14回分子予防環境医学 研究会
鈴木悠加、市原 学、及川(多田)佐枝子、村上理彦、出岡 淑、市原佐保子「単球の血管内皮細胞への接着能に及ぼす酸化チタンナノ粒子の影響」	2015. 2	第14回分子予防環境医学 研究会
Lingyi Zhang, Shinji Kumagai, Shinya Toyokuni, Hisao Naito, Sahoko Ichihara, Gaku Ichihara「Animal models for cholangiocarcinoma induced by chemicals associated with the offset printing」	2015. 3	SOT 54th Annual Meeting and ToxExpo
Chin-Yen Huang, Edwin Garner, Cai Zong, Lingyi Zhang, Xiao Zhang, Sahoko Ichihara, Gaku Ichihara「Administration of 1-aminobenzotriazole reduces adverse effects of 1-bromopropane on epididymal sperm.」	2015. 3	SOT 54th Annual Meeting and ToxExpo

Cai Zong, Edwin Garner, Chin-Yen Huang, Lingyi Zhang, Xiao Zhang, Shinya Toyokuni, Sahoko Ichihara, Gaku Ichihara 「Establishment of mouse model for neurotoxicity of 1-bromopropane, an alternative to ozone-depleting solvents」	2015.3	SOT 54th Annual Meeting and ToxExpo
宗才、黄晋彦、エドウィンガーナー、張靈逸、張堯、櫻井敏博、加藤昌志、市原佐保子、市原学「1-ブロモプロパン神経毒性のマウスモデルの確立」	2015.3	第85回日本衛生学会学術総会
宗才、黄晋彦、エドウィンガーナー、張靈逸、張堯、市原佐保子、市原学「1-ブロモプロパン神経毒性のマウスモデルの確立」	2015.3	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成21年	内閣府「ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤研究開発」タスクフォース委員	
平成21年～平成22年	日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員	
平成21年	産業技術総合研究所「ナノリスク研究のあり方に関する識者のご意見を伺う会」委員	
平成24年～平成25年	第6回国際ナノテクノロジー労働環境衛生シンポジウム日本委員会委員長(6th International Symposium on Nanotechnology, Occupational and Environmental Health (NanOE6), Oct 28-31, Nagoya, Japan	
平成21年～平成27年	日本衛生学会評議員	
平成21年～平成27年	日本産業衛生学会評議員	
平成21年	日本産業衛生学会 許容濃度委員会 起案委員	
平成21年	日本衛生学会誌 Environmental Health Perspectives 編集委員	
平成22年～平成27年	韓国 Occupational Safety and Health Research Institute発行 Safety and Health at Work誌 編集委員	
平成24年～平成27年	独立行政法人 労働安全衛生研究所発行 Industrial Health誌 編集委員	
	エジプト カイロ大学 Journal of Advanced Research誌 Editorial Advisory Board	
	日本産業衛生学会 Journal of Occupational Health誌 編集委員	
平成25年12月～平成27年11月	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費委員会専門委員	
平成26年4月～平成25年6月	WHO International Agency for Research on Cancer (IARC) Member of IARC Monographs Working Group for volume 110.	
平成26年4月～平成26年3月	公益社団法人 日本産業衛生学会 許容濃度等に関する委員会 委員	
平成26年6月～平成28年3月	独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 分野横断的公募事業に係る事前書面審査員（ピアレビュー）	
平成26年6月～平成28年3月	一般社団法人 電子情報技術産業協会 半導体技術ロードマップ専門委員会 専門部会特別委員	
平成26年7月～平成28年3月	医療法人 偕行会 非常勤医師・顧問	
平成26年7月～平成27年3月	名古屋大学 招へい教員（非常勤講師）	
平成26年8月	独立行政法人 物質・材料研究機構 先端材料プロセスユニット 講師	
平成27年	Nature Publishing Group Scientific Report 編集委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬理学	職名 教授	氏名 岡 淳一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2007年度後期～ 2008年度前期～ 2009年度後期～	薬理学総論における講義追加資料の作成・配付 薬理学1における講義追加資料の作成・配付 薬理学実習におけるコンピューター解析システムの活用による作用解析と理解度の向上	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年4月20日 2011年10月31日 2013年3月15日	薬剤師国家試験対策5, 6(日本医薬アカデミー)-分担執筆 最新基礎薬理学 第3版(廣川書店)-編集・分担執筆 パートナー 薬理学 改訂第2版(南江堂)-分担執筆	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年8月1日 2010年3月	薬学部における専門教育とFDについて 理大科学フォーラム 26 通巻302号, 22-23. 薬学部FD活動基本方針～薬学教育第三者評価に向けた対策～ 理大 FD通信 第13号	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2007年10月1日～2011年12月31日 2010年2月11日 2010年11月23日	薬学部FD幹事長 第12回薬学教育改革大学人会議アドバンストワークショップ「新薬学制度における薬学研究・教育の将来展望-博士後期課程、博士課程のあり方」出席 第14回薬学教育改革大学人会議アドバンストワークショップ「新薬学教育制度における学士力、博士力を考える」出席	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) The influence of juvenile diabetes on memory and hippocampal plasticity in rats: Improving effects of glucagon-like peptide-1.	共著	2009年5月	Neuroscience Research 64(1), 67-74.
(論文) Immunohistochemical determination of the site of hypotensive effects of glucagon-like peptide-2 in the rat brain.	共著	2012年1月	Neuroscience 212, 140-148.
(論文) Glucagon-like peptide-2 but not imipramine exhibits antidepressant-like effects in ACTH-treated mice.	共著	2013年3月	Behavioral Brain Research 243, 153-157.
(論文) Glucagon-like peptide-1 protects synaptic and learning functions from neuroinflammation in rodents.	共著	2014年2月	Journal of Neuroscience Research 92(4), 446-454.
(特許) 中枢作用性ペプチド誘導体、点鼻剤、抗うつ剤、及び認知障害改善剤	共著	2014年9月出願	特願2014-184436.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
GLP-2経鼻投与用製剤の中枢作用		2014年7月	第130回日本薬理学会関東部会

GLP-2の抗うつ作用メカニズムの解明	2014年7月	第130回日本薬理学会関東支部会
Changes in hippocampal synaptic functions and protein expression in monosodium glutamate-treated obese mice during development of glucose intolerance.	2014年9月	第37回日本神経科学大会
高グルコースが神経細胞のPKAに与える影響	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
Monosodium glutamate誘発肥満マウスの糖尿病発症過程におけるグルタミン酸受容体発現変化	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
強制水泳試験を用いた釣藤散の抗うつ様作用の検討	2014年10月	第131回日本薬理学会関東支部会
Improving effects of chitosan on the brain malfunction in rodent's disease models.	2015年3月	第88回日本薬理学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
1985年4月～	日本薬理学会 学術評議員	
2009年12月～2011年3月	厚生労働省 医道審議会専門委員(薬剤師分科会)	
2012年4月～	日本薬学会 薬理系薬学部会 常任世話人	
2014年3月～	日本薬理学会 理事	
2014年4月～	日本薬理学会 財務委員会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 環境健康学	職名 教授	氏名 鍛冶 利幸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年4月～ 現在	講義録をしっかりと整備し、時間をかけて準備を行い、明快な板書を心がけた。自ら編集・執筆した教科書をもとに、さらに分かりやすい講義を心がけた。学生からの評価は良好である。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年 (2011) 4月15 日 平成23年 (2011) 4月15 日 平成24年 (2012) 1月10 日 平成25年 (2013) 3月30 日	鍛冶利幸・佐藤雅彦 編集, コンパス衛生薬学—健康と環境— (第1版), 南江堂 佐藤政男・中川靖一・川嶋洋一・鍛冶利幸・名取泰博・工藤なをみ 共著, 衛生薬学 (第3版), 南江堂 井手速雄・鍛冶利幸・永沼 章 編集, 日本薬学会編 健康と環境 (第2版), 東京化学同人 永沼 章, 姫野誠一郎, 平塚 明 編集, 衛生薬学—健康と環境— (第5版), 丸善出版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成18年8月～ 現在	編集・執筆した教科書は全国の薬学部で広く使われている。また、薬学教育協議会衛生薬学担当教員会議の役員や厚生労働省医道審議会の委員を歴任するなど、全国の衛生薬学の教育に貢献した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Role of aquaporin 9 in cellular accumulation of arsenic and its cytotoxicity in primary mouse hepatocytes.	共著	2009年6月	Toxicology and Applied Pharmacology, 2009, 237 (2), 232–236.
(論文) Lead induces the expression of endoplasmic reticulum chaperones GRP78 and GRP94 in vascular endothelial cells via the JNK-AP-1 pathway.	共著	2010年4月	Toxicological Sciences, 2010, 114 (2), 378–386.
(論文) S-Mercuration of rat sorbitol dehydrogenase by methylmercury causes its aggregation and the release of the zinc ion from the active site.	共著	2012年11月	Archives of Toxicology, 2012, 86 (11), 1693–1702.
(論文) Bis(L-cysteinato)zincate(II) as a coordination compound that induces metallothionein gene transcription without inducing cell-stress-related gene transcription.	共著	2012年12月	Journal of Inorganic Biochemistry, 2012, 117, 140–146.
(論文) Glutathione-mediated reversibility of covalent modification of ubiquitin carboxyl-terminal hydrolase L1 by 1,2-naphthoquinone through Cys152, but not Lys4.	共著	2014年5月	Chemico-Biological Interactions, 2014, 214, 41–48.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
原崇人, 新開泰弘, 山本千夏, 熊谷嘉人, 鍛冶利幸, 血管内皮細胞においてビグリカンはTGF- β と協調してALK5経路を介しシンデカン-4の発現を抑制する	2014年5月	第15回Pharmacology-Hematologyシンポジウム（名古屋）
村上正樹, 藤江智也, 松村実生, 藤原泰之, 木村朋紀, 安池修之, 山本千夏, 佐藤雅彦, 鍛冶利幸, 血管内皮細胞においてメタロチオネイン遺伝子の発現を誘導する有機アンチモン化合物	2014年7月	第41回日本毒性学会学術年会（神戸）
中浴静香, 郡久美子, 山本千夏, 安池修之, 鍛冶利幸, 有機ビスマス化合物の毒性発現に関与する遺伝子	2014年7月	第41回日本毒性学会学術年会（神戸）
上原茜, 山本千夏, 鍛冶利幸, 血管内皮細胞において亜鉛は金属輸送体ZIP8の発現抑制を介してカドミウムの細胞毒性を防御する	2014年7月	第41回日本毒性学会学術年会（神戸）
田中美帆, 栗田賢, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, 培養ヒト脳微小血管内皮細胞の線溶系に対するメチル水銀の毒性発現	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
笹岡智子, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, メチル水銀に曝露した培養ヒト脳微小血管周皮細胞におけるアルドース還元酵素の発現誘導	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
櫻井健太, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, メチル水銀による培養ヒト脳微小血管周皮細胞のVEGF発現誘導メカニズム	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
村上正樹, 藤江智也, 木村朋紀, 藤原泰之, 安池修之, 山本千夏, 鍛冶利幸, 有機アンチモン化合物を用いた血管内皮細胞のメタロチオネイン遺伝子発現機構解析	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
原崇人, 鍛冶利幸, ビグリカンはTGF- β 1と協調してALK5経路を介しシンデカン-4の発現を抑制する	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
中浴静香, 郡久美子, 山本千夏, 安池修之, 鍛冶利幸, 有機ビスマス化合物の毒性発現に関与する遺伝子の探索	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
下村正裕, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, TGF- β 1による血管内皮細胞の亜鉛輸送体ZIP8の発現上昇	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
上原茜, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, カドミウムの内皮細胞毒性に対する亜鉛の防御機構への金属輸送体発現の関与	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
藤江智也, 中寛史, 藤原泰之, 鍛冶利幸, 銅錯体を活用した血管内皮細胞のメタロチオネイン誘導機構の解析	2014年9月	フォーラム2014：衛生薬学・環境トキシコロジー（つくば）
鍛冶利幸, メチル水銀の血管毒性を介在する細胞内シグナル伝達	2014年12月	環境省・メチル水銀ミーティング（東京）
櫻井健太, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, メチル水銀による脳微小血管組織の透過性亢進に関わるVEGF発現誘導メカニズム	2014年12月	環境省・メチル水銀ミーティング（東京）
原崇人, 吉田映子, 藤原泰之, 山本千夏, 鍛冶利幸, 内皮細胞のビグリカンはTGF- β シグナルを介してシンデカン-4の発現を抑制する	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸）
藤江智也, 中寛史, 吉田映子, 藤原泰之, 山本千夏, 鍛冶利幸, 銅錯体による血管内皮細胞のメタロチオネイン発現誘導機構解析	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸）
吉田映子, 櫻井健太, 山本千夏, 鍛冶利幸, 培養ヒト脳周皮細胞におけるメチル水銀のVEGF発現誘導メカニズム	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸）

Ⅲ 学会および社会における主な活動

平成17年1月～平成23年12月	The Journal of Toxicological Sciences 誌 Associate Editor
平成18年4月～平成24年3月	日本薬学会環境・衛生部会常任世話人
平成18年8月～平成24年3月	厚生労働省薬剤師国家試験委員会委員
平成22年1月～現在	日本毒性学会理事
平成22年3月～平成26年3月	厚生労働省医道審議会専門委員
平成22年4月～平成23年3月	薬学教育協議会衛生薬学担当教員会議幹事
平成22年9月～平成23年10月	日本薬学会環境・衛生部会 フォーラム2011：衛生薬学・環境トキシコロジー実行委員長
平成23年4月～平成25年3月	薬学教育協議会衛生薬学担当教員会議 委員長
平成24年4月～現在	日本薬学会環境・衛生部会 部会長

平成24年4月～平成26年3月	日本薬学会関東支部幹事
平成25年8月～平成26年3月	筑波大学非常勤講師
平成26年1月 ～ 現在	The Journal of Toxicological Sciences 誌 Editor-in-Chief
平成26年4月 ～ 現在	東邦大学客員教授
平成26年5月 ～ 現在	厚生労働省医道審議会臨時委員
平成26年7月 ～ 現在	第42回日本毒性学会学術年会長
平成26年11月 ～ 現在	東京薬科大学客員教授

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 医療安全学	職名 教授 (実務家)	氏名 小茂田 昌代
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年4月～平成26年3月	「高度な薬剤師養成のためのAcademic Detailing構築に関する教育研究」において、基礎薬学を臨床に活用する教育の充実に貢献した。
		平成26年4月～	「Academic Detailing Database部門」の立ち上げに尽力し、高度な薬剤師としてアカデミック・ディテ일러育成を支援するシステムの開発に取り組んでいる。
		平成26年4月～	PBL演習やSDG演習の評価にルブリックピア評価、また教員によるルブリックを導入した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年4月10日	新人薬剤師・薬学生のための医療安全学入門ー調剤過誤防止から副作用の早期回避までー、小茂田昌代編集、医学アカデミー
		平成21年度	薬学生・薬剤師育成のための模擬患者 (SP) 研修の方法と実践、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会編集、じほう
		平成21年度	病院薬剤師業務推進実例集ー「病院薬剤師のあるべき業務と役割」の実践にむけてー、社団法人日本病院薬剤師会監修、社団法人日本病院薬剤師会中小病院委員会編、薬ゼミ情報教育センター
		平成21年度	現場の疑問を解決！簡易懸濁法Q & A Part2-実践編ー薬剤ごとの留意点・投与工夫・服薬支援ー、倉田なおみ・簡易懸濁法研究会監修、株式会社じほう
		平成23年度	疥癬とその対策、薬剤師のための感染制御テキスト第2版、監修日本病院薬師会、薬事日報社
		平成23年度	薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム（調剤事故発生時の初期対応ーその時あなたは どうする？ー）、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会監修、羊土社
		平成24年度	薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅳ、一般社団法人 日本医療薬学会、南江堂
		平成25年度	16. 新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 薬剤師業務の基本～知識・態度～上巻 院内における医療安全管理、感染制御、過去に学ぶ調剤過誤の例、羊土社
		平成25年度	17. ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション-後藤恵子・井手口直子編-日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会監修、小茂田 昌代、南山堂
		平成25年度	小茂田 昌代、橋本薫、青山隆夫、土谷隆紀、嶋田修治他：薬剤師のための疾患別薬物療法Ⅳ、一般社団法人 日本医療薬学会、南江堂
		平成25年度	小茂田 昌代：薬効カー72の分子標的と薬の作用ー、オーム社
		平成25年度	調剤事故発生時の対応、日経BP社、日経ドラッグインフォメーション
		平成26年度	「院内における医療安全管理」、「感染制御」、「過去に学ぶ調剤過誤の例」、新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 薬剤師業務の基本～知識・態度～上巻、羊土社：

3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成26年度	葛飾区男女平等推進センター，東京理科大学連携講座「好き」をカタチにする進路選択のススメ～知りたい！聞きたい！理工系ガール～，東京，2013.3.16	
	平成26年度	第2回日本臨床腫瘍薬学会学術大会2013，乳がん外来で薬剤師の職能を発揮しよう！－薬剤師に何ができるか、何が求められているか－，東京	
	平成26年度	慶應義塾大学大学院薬学研究科がんプロフェッショナルセミナー，「乳癌外来臨床薬剤師の役割～米国の現状と日本の今後～」，小茂田 昌代，2013.10.24，東京	
	平成26年度	Masayo Komoda1) (Fac. Pharm. Sci., Tokyo Univ. Sci. 1), Division of Academic Detailing Database2)) : DEVELOPMENT OF ACADEMIC DETAILING DATABASE TO SUPPORT CLINICAL PHARMACIST. the 3rd International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences 2014. 2014. 8. 12, Malaysia	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年4月～平成24年3月	順天堂大学「実践的・横断的がん生涯教育センターの創設」事業の連携校担当者としてがん医療教育に貢献した。	
	平成21年4月～平成23年4月	「戦略的大学連携支援プログラム実施運営委員会「医療チーム立脚型教育プログラム」分科会メンバーとしてプログラム構築に貢献した。	
	平成24年3月～	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン順天堂大学「実践的・横断的がん生涯教育センターの創設」事業の連携校担当者として「臨床研究合宿」に参加し、がん医療教育に貢献している。	
	平成26年10月～	薬学部FD担当野田分科会委員	
	平成26年10月	本学FD活動：薬学の特色ある教育「副作用の早期回避実習」を撮影し動画をLETUS配信に協力	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Faculty Development of Oncology Expects	共著	平成26年8月5日	Juntendo Medical Journal. 2014; 60(3) : 220-3
取り間違い発見ツール普及活動報告－患者の健康被害発生前に気付くために－	共著	平成26年8月31日	医療の質・安全学会誌. 2014; 9(3) : 216-224
Medical Economic Research on Pharmaceutical Inquiries Made by Hospital Pharmacists about Prescriptions for Inpatients. Ipn. J.	共著	平成26年9月6日	Drug Inform. 2014; 16(2) : 41-52
経鼻チューブを使用した経管投与がストロメクトール®錠の投与量に及ぼす影響	共著	平成26年9月10日	医療薬学. 2014; 40(9) : 515-21
Experimental study of pharmacokinetics of external, whole body bathing application of ivermectin.	共著	平成27年1月	J Dermatol. 2015; 42(1) : 87-9
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
EVALUATION OF THE PRACTICE EXPERIENCE IN PHARMACEUTICAL EDUCATION OF THE TOKYO UNIVERSITY OF SCIENCE THROUGH COMPARISON WITH APPE		平成26年8月12日	the 3rd International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences 2014
DEVELOPMENT OF ACADEMIC DETAILING DATABASE TO SUPPORT CLINICAL PHARMACIST		平成26年8月12日	the 3rd International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences 2014
簡易懸濁法におけるストロメクトール錠の有効性に関する研究－懸濁器具の種類による影響について－		平成26年8月30日	日本病院薬剤師会関東ブロック第44回学術大会
CYP酵素に着目した相互作用チェックから薬剤師の介入を支援するシステムの開発		平成26年8月30日	日本病院薬剤師会関東ブロック第44回学術大会

疥癬治療薬ストロメクトール錠の用法に関する臨床試験【1】－食後投与が有効性および安全性に及ぼす影響－	平成26年9月28日	第24回日本医療薬学会年会
疥癬治療薬ストロメクトール錠の用法に関する臨床試験【2】	平成26年9月28日	第24回日本医療薬学会年会
疥癬新規治療法イベルメクチン全身浴法の臨床試験(1)－プロトコル作成と忍容性評価－	平成26年12月5日	第35回日本臨床薬理学会学術総会
疥癬新規治療法イベルメクチン全身浴法の臨床試験(2)－ヒト角層および血漿中イベルメクチン濃度の測定－	平成26年12月5日	第35回日本臨床薬理学会学術総会
活性酸素消去作用を持つ健康食品の服用者アンケートによる生理活性作用・副作用の推定	平成27年3月26日	日本薬学会第135年会
ラット唾液中アミラーゼ活性を指標とした抗がん剤誘発催吐作用の評価	平成27年3月26日	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成13年4月～平成18年3月	日本病院薬剤師会 療養病床特別担当委員	
平成13年5月～平成19年3月	千葉県病院薬剤師会 中小病院委員長	
平成14年5月～平成16年4月	日本病院薬剤師会 学術第四小委員会委員	
平成14年5月～平成20年3月	日本薬剤師会 事故防止対策委員会委員（平成18年より副委員長）	
平成15年4月～平成16年3月	厚生労働省医薬安全部会規格ワーキング委員	
平成15年4月～平成25年3月	千葉県薬剤師会調剤過誤プロジェクトリーダー（平成19年より委員）	
平成15年4月～	日本医療薬学会認定 指導薬剤師	
平成19年4月～平成23年3月	千葉県病院薬剤師会中小病院委員会リスクマネジメント委員	
平成20年4月～平成27年3月	日本皮膚科学会 疥癬診断ガイドライン作成委員	
平成24年4月～	医療の質・安全性学会 評議員	
平成24年6月～	日本緩和医療薬学会 評議員	
平成26年4月～	簡易懸濁法研究会 理事	
平成26年5月～	日本医薬品安全性学会 理事	
平成26年9月～	日本アブライドセラピューティクス学会 組織委員会委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 生化学・分子生物学	職名 教授	氏名 田沼 靖一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年4月～ 平成27年3月	「創薬ゲノム科学」の講義の中で、動画解説だけではなく、分子設計手法の実践的演習を取り入れ、学生の創薬に対する知識を深めるように工夫した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年 4月15日	「第3版 分子生物学」田沼靖一 編著、丸善出版
		平成21年 4月25日	「生化学」田沼靖一・林秀徳・本島清人編著、朝倉書店
		平成21年 12月10日	「クラーク 分子生物学」田沼靖一監訳、丸善
		平成25年 4月24日	「東京理科大学坊ちゃん科学シリーズ 第4巻 生命科学がひらく未来」田沼靖一、村上康文、秋本和憲、内海文彰 共著、東京書籍
		平成25年 9月10日	「基礎コース 細胞生物学」田沼靖一 他共著、東京化学同人
		平成26年 2月28日	「薬学生のための基礎シリーズ6 基礎生命科学」田沼靖一 他共著、培風館
		平成26年 3月5日	「第4版 マクマリー 生物有機化学 生化学編」田沼靖一他共著、丸善出版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Structure-activity relationships of the thujaplicins for inhibition of human tyrosinase.	共著	2014年11月	Bioorg Med Chem. 1;22(21):6193-200.
PARP1 gene expression is downregulated by knockdown of PARG gene.	共著	2013年5月	Oncol Rep. 29:1683-1688
A new protocol to discover novel anti-aging compounds.	共著	2012年10月	Pharmaceutica Analytica Acta. 3(7):166
Discovery of a new type inhibitor of human glyoxalase I by myricetin-based 4-point pharmacophore.	共著	2011年5月	Bioorg Med Chem Lett. 21:4337-42
The release of high mobility group box 1 in apoptosis is triggered by nucleosomal DNA fragmentation.	共著	2010年2月	Arch Biochem Biophys. 506:188-193
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
西野圭祐、小島周二、田沼靖一、月本光俊「悪性黒色腫での放射性惹起DNA損傷修復におけるATP受容体及びTRPチャンネルの関与」		2014年・7月	放射線基礎セミナー
土岐勇介、小島周二、竹之内敬人、木谷裕、田沼靖一、月本光俊「肝マクロファージ/kupffer細胞におけるP2X7受容体の機能解析」		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
若澤直人、小島周二、田沼靖一、月本光俊「破骨細胞の分化におけるP2受容体の関与」		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
久保木貴広、小島周二、田沼靖一、月本光俊「骨髄由来肥満細胞におけるP2X7受容体活性化の機能解析」		2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会

中西加奈、月本光俊、田沼靖一、小島周二「ナノシリカ粒子による樹状細胞からのIL-1 β 産生におけるP2X7受容体の関与」	2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
宇都宮沙代、小島周二、田沼靖一、月本光俊「神経膠芽腫の γ 線細胞応答におけるP2受容体及びTRPチャンネルの関与」	2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
森夏樹、小島周二、田沼靖一、月本光俊「亜致死損傷からの回復（SLD回復）におけるP2Y12受容体の関与」	2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
井山翔太、小島周二、田沼靖一、月本光俊「パロキセチンによるP2X7受容体活性促進作用」	2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
佐々木理恵、高井英里奈、小島周二、田沼靖一、月本光俊「 γ 線による肺がん細胞の遊走能亢進におけるVRPV1チャンネルの関与」	2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
稲田将大、片山鈴花、中根裕美、田村溪、高澤涼子、原泰志、安部良、吉森篤史、四ノ宮成祥、田沼靖一、秋本和憲「ヒト乳癌ALDH ^{high} 細胞に対するMET阻害剤の効果」	2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
中根裕美、菊地恵梨子、片山鈴花、稲田将大、鈴木悠平、小玉大地、嶋田奈実、原泰志、安部良、吉森篤史、田沼靖一、高澤涼子、秋本和憲「Basal-like型乳癌細胞株から単離したALDH ^{high} 細胞に対する新規Glyoxalase I (GLOI) 阻害剤TLSC702の増殖抑制効果」	2014年・10月	第58回日本薬学会関東支部大会
内海文彰、小路昂一郎、田沼靖一「レスベラトロールによるヒトTP53およびE2F4遺伝子発現制御	2014年・11月	第37回日本分子生物学会年会
佐藤 聡、大見 拓也、山本 朗央、金 恵淑、田沼 靖一、綿矢 有佑「ネクローシスとアポトーシスの細胞死制御機構の解析」	2014年・11月	第37回日本分子生物学会年会
嶋田 奈実、高澤 涼子、田沼 靖一「がん併用化学療法を指向したGlyoxalase I 阻害剤との併用剤開発のための新規標的分子の探索」	2014年・11月	第37回日本分子生物学会年会
柴崎 浩之、西岡 隼哉、衛藤 慎一、高澤 涼子、田沼 靖一「神経細胞のアポトーシスにおけるOmi/HtrA2によるGSK-3 β 限定分解の生理的役割」	2014年・11月	第37回日本分子生物学会年会
清水 美来、松本 真悠子、高木 基樹、新家 一男、田沼 靖一、並木 秀男、胡桃坂 仁志、大木 理恵子「癌抑制遺伝子p53活性を増強する新規抗癌剤の創製」	2014年・11月	第37回日本分子生物学会年会
柴崎 由梨、荻野 暢子、佐藤 聡、田沼 靖一「NAD ⁺ 生合成経路を標的とする新規がん剤開発のための基礎的研究」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
新藤 実香、佐藤 聡、山本 洋平、荒井 隆雄、赤崎 安晴、市村 幸一、田沼 靖一「Temozolomide (TMZ) と有効な併用を可能にするTMZ耐性神経膠芽腫に対する60methylguanine-DNA methyltransferase (MGMT) 阻害剤の創製」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
西野 圭祐、田沼 靖一、月本 光俊「悪性黒色腫での放射線惹起DNA損傷修復におけるP2 受容体およびTRP チャンネルの関与」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
佐々木 理恵、高井 英里奈、小島 周二、田沼 靖一、月本 光俊「 γ 線照射後のがん細胞運動能亢進におけるTRPV1 チャンネルの関与」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
高澤 涼子、田中 ひかり、高田 兼市、松岡 立己、菊地 恵梨子、嶋田 奈実、吉森 篤史、秋本 和憲、田沼 靖一「スチルベン骨格化合物によるhuman Glyoxalase I 阻害の解析」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
久保木 貴広、田沼 靖一、月本 光俊「骨髄由来肥満細胞におけるP2X7 受容体を介した炎症性サイトカイン産生」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
中西 加奈、月本 光俊、田沼 靖一、小島 周二「シリカナノ粒子曝露樹状細胞でのATP シグナリングを介した炎症性サイトカインの産生」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
佐藤 聡、大見 拓也、山本 朗央、金 恵淑、益谷 美都子、田沼 靖一、綿矢 有佑「ネクローシスとアポトーシスを制御するMicroRNAの探索研究」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
井山 翔太、田沼 靖一、月本 光俊「パロキセチンによるP2X7 受容体活性増強作用と炎症増悪化の可能性」	2015年・3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成19年4月～	日本薬学会 評議委員	
平成21年6月～	日本がん分子標的治療学会 評議員	
平成24年8月～平成25年3月	筑波大学グローバル教育院 客員教授	
平成16年4月～	人間総合科学大学 客員教授	

平成21年4月～	日本学術振興会 特別研究員等審査会専門委員 国際事業委員会書面審査員
平成21年4月～平成22年3月	独立行政法人 理化学研究所 審査委員
平成21年4月～平成22年4月	文部科学省 科学技術・学術審議会学術分科会
平成26年4月～平成27年3月	公益財団法人 中山人間科学振興財団の選考委員（専門）
平成22年4月～平成24年3月	中部大学 生命健康科学部 客員教授

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 医療デザイン学	職名 教授	氏名 花輪 剛久
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2012～2014年度	調剤学2、薬学情報科学、薬物治療の個別化、医薬品情報学：講義に重要箇所を空欄にした資料を配布し、講義中にパワーポイント若しくは板書にて示す当該箇所を記入させる方式を取り入れた。これにより板書の手間賃書略できるのと同時に、学生側も講義に集中可能となった。	
	2013～2014年度	薬学情報科学：各学生が独自に収集した医薬品情報に基づき、SGDを実施し、医薬品の採用プロセスを学んだ。	
	2012～2014年度	処方解析概論：処方せんに記載された処方内容から、病気や病状を推測させ、提示した症例に最も適した処方提案を行わせ、その評価を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2014年2月1日 2014年3月1日	院内製剤学、京都廣川書店 医療薬学用語集、株式会社 じほう	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年4月	実務薬学実習、東京理科大学科学教養誌科学フォーラム	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2013年6月20日	千葉県立成東高等学校 ミニ大学講師	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Evaluation of Community Pharmacist Training on Patients' Non-Verbal Communication	共著	2015年2月	Jpn. J. Pharm. Health Care Sci.,
プロゲステロン腔用坐剤の院内製剤に関する実態調査	共著	2013年12月	日本病院薬剤師会雑誌
(S)-1-(4-Dimethylaminophenylcarbonyl)-3-aminopyrrolidine: A derivatization reagent for enantiomeric separation and sensitive detection of chiral carboxylic acids by LC/ESI-MS/MS	共著	2013年12月	JOURNAL OF CHROMATOGRAPHY B-ANALYTICAL TECHNOLOGIES IN THE BIOMEDICAL AND LIFE SCIENCES
空気押出型ゼリー剤の試飲調査（第2報）—高齢患者における空気押出型ゼリー剤の服用指示と製剤サイズの与える影響—	共著	2013年11月	医療薬学
持続的血液濾過透析施行患者におけるテイコプラニンのタンパク結合率の変動—低アルブミン血症患者との比較—	共著	2013年6月	YAKUGAKU ZASSHI
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
特異値分解法を用いた保水性とゲル化能を持つキシログルカンの赤外線スペクトル定量法		2014年12月	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム
リボフラビンの光分解による共存薬物への影響		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
”患者に優しい製剤の開発”—大学から医療現場へ—		2014年11月	第20回創剤フォーラム若手研究会
ロペラミドを用いた口内炎治療用口腔内フィルムの苦味マスキングとその調製		2014年9月	第24回日本医療薬学会年会

Development and characterization of oral spray for stomatitis containing Irsogladine Maleate	2014年8月	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asian Countries
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
2015年2月1日～2017年1月31日	日本薬学会 代議員	
2014年6月16日～2016年5月15日	製剤機械技術学会 評議員	
2014年4月1日～2016年3月31日	日本薬剤学会 評議員	
2014年4月1日～2015年3月31日	日本薬学会 ファルマシアアドバイザー	
2013年4月1日～2014年3月31日	日本薬学会 ファルマシア委員	
2013年3月25日～2015年3月24日	日本薬学会 代議員	
2011年4月～2013年3月	日本医療薬学会 代議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 臨床分析科学	職名 教授	氏名 東 達也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		特になし	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) A novel Cookson-type reagent for enhancing sensitivity and specificity in assessment of infant vitamin D status using liquid chromatography/tandem mass spectrometry	共著	2013年11月	Rapid Communication in Mass Spectrometry, Vol. 27, No. 21
(論文) (S)-1-(4-Dimethylaminophenylcarbonyl)-3-aminopyrrolidine: A derivatization reagent for enantiomeric separation and sensitive detection of chiral carboxylic acids by LC/ESI-MS/MS	共著	2013年12月	Journal of Chromatography B, vol. 940
(論文) Enantioselective determination of ibuprofen in saliva by liquid chromatography/tandem mass spectrometry with chiral electrospray ionization-enhancing and stable isotope-coded derivatization	共著	2014年9月	Journal of Pharmaceutical and Biomedical Analysis, Vol. 98
(論文) Development and validation of a method for determination of plasma 25-hydroxyvitamin D3 3-sulfate using liquid chromatography/tandem mass spectrometry	共著	2014年10月	Journal of Chromatography B, vol. 969
(論文) Analysis of urinary vitamin D3 metabolites by liquid chromatography/tandem mass spectrometry with ESI-enhancing and stable isotope-coded derivatization	共著	2014年10月	Analytical and Bioanalytical Chemistry, vol. 406, No. 26
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
低分子化合物のLC/ESI-MS/MS用誘導体化: 検出感度の向上と構造微小差の弁別		2014年10月	第39回日本医用マスペクトル学会年会
A method for determination of urinary vitamin D3 metabolites based on LC/ESI-MS/MS with ESI-enhancing and stable isotope-coded derivatization		2014年12月	APCE2014 (14th Asia-Pacific International Symposium on Microscale Separations and Analysis)
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～現在	日本医用マスペクトル学会評議員		
平成26年4月～現在	日本分析化学会関東支部常任幹事		

平成26年12月～現在	日本臨床化学会栄養専門委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 生物薬剤学	職名 教授	氏名 廣田 孝司
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		講義用に独自のプリント作成 講義用に独自のパワーポイント作成	
2 作成した教科書、教材、参考書		なし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		なし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Experimental study of pharmacokinetics of external, whole body bathing application of ivermectin	共著	2015	J Dermatol, 42(1):87-89
Effect of postnatal dexamethasone treatment on mRNA expression profiles of genes related to alveolar development in an emphysema model in mice	共著	2014	J Toxicol Sci. 39(4):665-670
経鼻チューブを使用した経管投与がストロメクトール®錠の投与量に及ぼす影響	共著	2014	医療薬学, 40巻, pp 515-521
Disruption of elastic lamellae in the aorta by D-penicillamine and its effect on vaso-regulation in rats	共著	2013	J Toxicol Sci. 38(5):707-717
Disruption of elastic lamellae in aorta and dysfunction of vaso-regulation by rofecoxib in rats. (2013)	共著	2013	J Toxicol Sci. 38(5):719-729
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
疥癬新規治療法イベルメクチン全身浴法の臨床試験② -ヒト角層および血漿中イベルメクチン濃度の測定-		2014年12月	日本臨床薬理学会
R-αリポ酸-γシクロデキストリン包接体のヒト経口吸収性		2014年10月	日本臨床栄養学会
all-trans-retinoic acidによる肺胞回復効果が得られる最短投与期間の検討		2014年10月	日本薬学会関東支部大会
Dexamethasone誘発肺気腫モデル作製における経日的X線CT解析		2014年10月	日本薬学会関東支部大会
Rofecoxibおよび他Coxib系抗炎症剤が生体脂質の酸化に及ぼす影響		2014年10月	日本薬学会関東支部大会
疥癬治療薬ストロメクトール錠の用法に関する臨床試験【2】 —食後投与が血漿および角層中イベルメクチン濃度推移に及ぼす影響—		2014年9月	日本医療薬学会
γシクロデキストリン包接によるR-αリポ酸の吸収性向上に関する臨床研究		2014年9月	シクロデキストリンシンポジウム
γ-シクロデキストリン包接化は小腸内でR-α-リポ酸の吸収量を増大させる		2014年5月	日本薬剤学会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
2011年11月～現在	日本薬物動態学会評議員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬品物理化学	職名 教授	氏名 牧野 公子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年4月～6月 平成26年4月～9月 平成26年10月～平成27年1月	薬品物理化学実習において、実習手順に関する資料を事前に学生に配布し、学生の事前学習と実習時間の短縮化に寄与した。 薬品物理化学IIにおいて、その日に講義した内容について小テストを行い、理解度を確認した。 薬品物理化学IIIにおいて、その日に講義した内容について小テストを行い、理解度を確認した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成4年3月 平成11年4月 平成20年9月 平成26年4月	生物物理化学 三共出版 物性物理化学 南江堂 物理化学テキスト 廣川書店 平成26年度薬品物理化学実習 実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Enhanced transdermal delivery of estradiol using combination of PLGA nanoparticles and iontophoresis.	共著	平成24年	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces, 97, 84-89
Novel iontophoretic administration method for local therapy of breast cancer.	共著	平成25年	Journal of Controlled Release, 168, 298-306
Nondestructive Analysis of Structure and Components of Tablet Coated with Film by the Usage of Terahertz Time-Domain Reflection Spectroscopy.	共著	平成26年	J. Pharmaceutical Sciences, 103, 256-261
Surfactant free preparation of PLGA nanoparticles: The combination of antisolvent diffusion with preferential salvation.	共著	平成26年	Colloids and Surfaces A: Physicochemical and Engineering Aspects, 457, 88-93
Nanoparticles for transdermal drug delivery system (TDDS)	共著	平成26年	Colloid and Interface Science in Pharmaceutical Research and Development 1st Edition, 2014, 131-147, Chapter 7
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
テラヘルツ時間領域反射分光法を利用したフィルムコーティング錠の非破壊検査		平成26年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
金ナノ粒子のPEG修飾が与える生体内挙動への影響		平成26年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
浸透圧ポンプ錠の薬物放出制御因子の解明		平成26年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会

薬物内包ナノ粒子とイオンフォレシスを組み合わせた経皮吸収製剤の開発	平成26年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) を利用した肺がん治療用経肺投与製剤の開発	平成26年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
The entropy of fusion of indomethacin and lidocaine mixture from DSC measurement and computational chemistry	平成26年8月20日～22日	Computational Science Workshop (CSW2014)
Chemometric Application of Singular Value Decomposition (SVD) for the Simultaneous Analysis of Multicomponent spectra of UV/Vis, FTIR, THz-TDS, and XRPD	平成26年8月20日～22日	Computational Science Workshop (CSW2014)
テラヘルツ時間領域反射分光法を利用したフィルムコーティング錠の非破壊検査	平成26年9月5日	第65回コロイドおよび界面化学討論会
テラヘルツ時間領域分光法とX線回折法を利用したニフェジピン-ポリビニルピロリドン固体分散体の結晶化度の推定	平成26年9月10日	日本油化学会第53回年会
Nondestructive analysis of structure and components of tablet coated with film by the usage of terahertz time-domain reflection spectroscopy	平成26年9月16日	Fifth Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalant in Asian Countries
The effect of Am80 acid on inflammation in elastase-induced emphemsema	平成26年9月16日	Fifth Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalant in Asian Countries
Determination of Live Mycobacterium tuberculosis by Quantitative PCR	平成26年9月16日	Fifth Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalant in Asian Countries
Effective antitumor activity of inhaled Lipid A nanalog combined with chemotherapeutic agent	平成26年9月16日	Fifth Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalant in Asian Countries
特異値分解を用いた多成分混合系の非破壊的スペクトル解析法	平成26年9月21日～24日	第8回分子科学討論会
テラヘルツ時間領域分光法とX線回折法を利用したニフェジピン-ポリビニルピロリドン固体分散体の結晶化度の推定	平成26年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
Thermodynamic analysis and Reaction Rate of the complex of 1,4-Dihydropyridine and Cyclodextrin	平成26年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
二層型浸透圧錠の溶出特性と薬物放出機序の解明	平成26年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
エストラジオール内包経皮吸収型ナノ粒子の開発と薬効評価	平成26年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成18年7月～	日本DDS学会 評議員	
平成22年8月～平成23年2月	日本化学会コロイドおよび界面化学部会 委員	

平成22年12月～	野田市 環境審議会委員
平成25年4月～	日本油化学会 オレオナノサイエンス部会部会長
平成26年4月～	特定非営利活動法人システム薬学研究機構 理事長

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 DDS・製剤設計学	職名 教授	氏名 山下 親正
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成24年9月～現在	製剤学の講義において、製剤の製造に使用する打錠機等の製造機械の動画を見せることにより、より深く学生が理解できるように配慮している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年3月	NEW パワーブック物理製剤学・製剤学第2版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成24年10月～平成26年9月	薬学部FD幹事長として、FD関係に携わった。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Rhythmic control of the ARF-MDM2 pathway by ATF4 underlies circadian accumulation of p53 in malignant cells,	共著	2013年4月	Cancer Research, 2013. 73:2639-2649
P I 3 キナーゼ阻害剤を含む医薬組成物、ビタミンD受容体に作用する化合物を含む医薬組成物、凍結乾燥組成物、凍結乾燥組成物の製造方法、及び経肺投与用医薬組成物	共著	2104年6月	PCT/JP/084310, 2014
Pulmonary administration of integrin-nanoparticles regenerates collapsed alveoli	共著	2014年8月	Jouranl of Controlled release, 187(2014), 167-174
中枢作用性ペプチド誘導体、点鼻製剤、抗うつ剤及び認知障害改善剤	共著	2014年9月	特願014-184436, 2014
Pulmonary administration of Am 80 regenerates collapsed alveoli	共著	2014年12月	Jouranl of Controlled release, 196(2014), 154-160
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
軽部皓充、堀口道子、山下親正、肺がん幹細胞モデルの構築と新規肺がん治療法の検討		2014年5月	日本薬剤学会第29年会
秋田智后、堀口道子、首藤紘一、寺田弘、山下親正、レチノイン酸誘導体の肺がん細胞増殖抑制効果の検討		2014年5月	日本薬剤学会第29年会

堀口道子、山下親正、肺胞再生を目指した新規吸入剤の開発	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
秋田智后、堀口道子、首藤紘一、寺田弘、山下親正、レチノイン酸誘導体の肺がん細胞増殖抑制効果の検討	2014年7月	第30回日本DDS学会
軽部皓充、堀口道子、山下親正、肺がん幹細胞モデルの構築と新規肺がん治療法の検討	2014年7月	第30回日本DDS学会
堀口道子、山下親正、インテグリンナノ粒子を用いた肺胞再生効果の検討	2014年7月	第30回日本DDS学会
Hitomi Sakai, Michiko Horiguchi, Koichi Shudo, Hiroshi Terada, kimiko Makino, Chikamasa Yamashita, Pulmonary administration of Am80 regenerates collapsed alveoli	2014年9月	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
Tomomi Akita, Michiko Horiguchi, Koichi Shudo, Hiroshi Terada, Chikamasa Yamashita, Effects of a Retinoic Acid Derivative on Cell Growth Inhibition in Lung Cancer	2014年9月	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
Yusuke Nakao, Ryuji Nakamura, Chihiro Ozawa, Sachie Hamada, Michiko Horiguchi, Junichiro Oka, Chikamasa, Yamashita Development of a nasal formulation for the GLP-2 delivery to the brain	2014年9月	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
Michiko Horiguchi, Chikamasa Yamashita, Development of the new therapeutic drug for COPD	2014年9月	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
Hiromitsu Karube, Michiko Horiguchi, Chikamasa Yamashita, Establishment of refractory lung cancer cell model and consideration of treatment for refractory lung cancer	2014年9月	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
後藤 歩、堀口 道子、山下 親正、スルファサラジンによる細胞増殖抑制効果の検討	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
廣川菜衣、堀口道子、伊豫田拓也、深井文雄、山下親正、TNIIA2ペプチドの新規COPD治療薬としての有用性の検討	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
亀山あずさ、堀口道子、首藤紘一、寺田弘、牧野公子、山下親正、分化誘導剤と化学療法剤の併用による肺がんに対する新規治療法の検討	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
野上菜里、石橋由布子、宮本佳保里、堀口道子、野堀恭平、花田雄志、金井靖、山下親正、新規ペプチドの粉末吸入製剤化とその評価	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
中尾優介、中村龍治、堀口道子、濱田幸恵、岡淳一郎、山下親正、Glucagon-like Peptide-2の中枢移行性を目指した点鼻製剤の開発	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
小島央子、大磯裕輝、堀口道子、山下親正、肺気腫モデルマウスにおけるレチノイン酸の肺胞修復効果の検討	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
Yuki Fujiwara, Hitoshi Ando, Michiko Horiguchi, Chikamasa Yamashita, Akio Fujimura, Factor X activity has daily rhythmicity in rats	2014年11月	第21回日本時間生物学会学術大会
Hiromitsu Karube, Michiko Horiguchi, Chikamasa Yamashita, Establishment of refractory lung cancer cell model and consideration of treatment for refractory lung cancer	2014年11月	第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム

Masashi Yano, Hiromitsu Karube, Yukari Tsubata, Chisato Suzuki, Ayumi Goto, Michiko Horiguchi, Chikamasa Yamashita, Takashi Isobe, A clinical study on activity of NAMPT and SIRT1 gene expression in neutropenia with cancer chemotherapy	2014年11月	第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム
Ken Shimada, Kentaro Ushijima, Michiko Horiguchi, Akio Fujimura, Chikamasa Yamashita, Pulmonary administration of curcumin prevents for B16F10 melanoma lung metastasis and invasion	2014年11月	第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム
軽部皓充、堀口道子、山下親正、難治性肺がん細胞モデルの確立と新規治療法の検討	2014年11月	第37回 日本分子生物学会年会
本村知己、大磯裕輝、堀口道子、山下親正、肺気腫モデルマウスにおける阻害剤X封入リポソームの肺胞修復効果の検討	2014年12月	第5回東京理科大学総合研究機構 戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
阿部香織、廣川茉衣、堀口道子、山下親正、肺気腫モデルマウスにおけるVitaminX封入カチオン性リポソームの有用性の検討	2014年12月	第5回東京理科大学総合研究機構 戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
柳澤実里、堀口道子、山下親正、PI3K阻害剤による肺がん細胞増殖抑制効果の検討	2014年12月	第5回東京理科大学総合研究機構 戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
堀口道子、山下親正、肺胞再生治療の実現に向けて	2014年12月	第5回東京理科大学総合研究機構 戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
(招待講演) 山下親正、吸入剤・吸入デバイスの現状と課題、第14回医薬品添加剤セミナー、東京	2015年2月	医薬品添加剤協会セミナー
(招待講演) 山下親正、吸入剤・吸入デバイスの現状と課題、第14回医薬品添加剤セミナー、大阪	2015年2月	医薬品添加剤協会セミナー
大磯裕輝、堀口道子、山下親正、慢性閉塞性肺疾患(COPD)モデルマウスを用いたレチノイン酸の肺胞修復効果と予防効果	2015年3月	日本薬学会第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成20年5月～平成28年4月	日本薬剤学会評議員	
平成20年5月～平成28年4月	日本薬剤学会経肺性製剤FG世話人	
平成22年5月～平成28年4月	日本薬剤学会製剤技師認定委員会委員	
平成20年5月～平成29年3月	独立行政法人医薬品医療機器総合機構専門委員	
平成25年7月～平成29年6月	国家公務員採用総合職試験専門委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬化学	職名 嘱託教授	氏名 望月 正隆
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 有機化学1, 2, 3および有機化学1, 2演習 医薬化学	平成26年4月～平成27年3月 平成26年4月～平成27年3月	講義と同時進行で演習形式の講義を行っている。演習講義では問題をテスト形式で解かせることで、徹底した復習形式に重点を置き、有機化合物の系統的な理解を目指している。 基礎化学や有機化学を復習しながら、それらの知識と関連した医薬品の特徴を紹介することで、臨床で使っている医薬品と基礎学問との連携を意識して講義を進めている。	
2 作成した教科書、教材、参考書 望月 正隆, 稲見 圭子, 「有機化学の基礎」, 東京化学同人 青木 伸 編「ベーシック薬学教科書シリーズ 無機化学」, 化学同人	平成25年3月 平成23年3月	有機化学の反応について電子の動きとエネルギー図を用いて、詳細に解説しており、系統的に有機化学を学ぶことができる。 薬学生に必要な無機化学のエッセンスが書かれた教科書である。演習問題もあり、理解しやすく工夫されている。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第24回 日本医療薬学会年会 3 rd AASP Pharmacy Deans Forum	平成26年9月 平成26年6月	“新モデルコアカリキュラムに向けた現モデルカリキュラムの実習評価”について、シンポジウムにて発表した。 “Overview and Evaluation of New Pharmacy Education in Japan”というテーマで、日本の薬学教育の概略をシンポジウムにて発表した。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む) 有限責任中間法人 薬学教育協議会 理事長 一般社団法人 薬学教育協議会 代表理事 特定非営利活動法人 薬学共用試験センター 理事長 (至平成20年6月30日 以後は副理事長) 一般社団法人 薬学教育評価機構 総合評価評議員 一般社団法人 薬剤師認定制度認証機構 理事 財団法人 日本薬剤師研修センター 理事 全国薬科大学長・薬学部長会議 会長 (至平成20年3月31日 以後は顧問) 一般社団法人 日本私立薬科大学協会副会長・学長協議会会長 (至平成20年3月31日 以後は参与)	平成14年7月～20年12月 平成20年12月～現在 平成18年10月～現在 平成21年3月～現在 平成16年5月～現在 平成17年2月～現在 平成16年11月～現在 平成14年5月～現在	実務実習を始め、日本の薬学教育に関する問題点を解決に向けて努力した。 薬学共用試験制度を確立し、運用する一員として薬学教育に寄与した。 薬学教育評価に関与した。 薬剤師の生涯研修に寄与した。 薬剤師の生涯研修に寄与した。 日本の薬学教育全般について寄与した。 日本の薬学教育全般について寄与した。	

Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
K. Inami, M. Suzuki, A. Shimizu, M. Furukawa, M. Morita, M. Mochizuki, Substituent effect on the radical scavenging activity of 6-chromanol derivatives.	共著	2014年9月	<i>RSC Adv.</i> , 4, 43882-43889
J. Tatsuzaki, Y. Jinwei, Y. Kojo, Y. Mine, S. Ishikawa, M. Mochizuki, K. Inami, Antimutagenicity screening of extracts from medicinal and edible plants against <i>N</i> -methyl- <i>N</i> -nitrosourea by the Ames assay.	共著	2014年4月	<i>Genes and Environ.</i> , 36 (2), 39-46
K. Inami, M. Takada, K. Itoh, S. Ishikawa, M. Mochizuki, Assessment of the antimutagenic effects of aqueous extracts from herbal medicines against <i>N</i> -nitroso- <i>N</i> -alkylureas induced mutagenicity using the umu test.	共著	2014年2月	<i>Genes and Environ.</i> , 36 (2), 33-38
K. Inami, S. Kondo, Y. Ono, C. Saso, M. Mochizuki, Transnitrosation of alicyclic <i>N</i> -nitrosamines containing a sulfur atom.	共著	2013年11月	<i>Bioorg. Med. Chem.</i> , 21, 7853-7857
K. Inami, K. Yoshimitsu, H. Seino, M. Mochizuki, Ruthenium porphyrin and oxidant convert <i>N</i> -nitrosodialkylamines into direct-acting mutagen in the Ames assay.	共著	2013年6月	<i>Toxicol. Res.</i> , 2 (6), 397-402
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
野村 昌吾, 稲見 圭子, 望月 正隆, 環内に窒素原子を含むアスコルビン酸類縁体の抗酸化活性上昇の検討		2015年3月	日本薬学会 第135年会
浅田 卓也, 稲見 圭子, 望月 正隆, <i>N</i> -Nitrosomorpholine と活性酸素種から生じる変異原の構造解明		2015年3月	日本薬学会 第135年会
谷川 綾香, 稲見 圭子, 望月 正隆, 鶏血藤中の <i>N</i> -methyl- <i>N</i> -nitrosourea に対する抗変異 原性成分の探索		2015年3月	日本薬学会 第135年会
相澤 聖也, 稲見 圭子, 立崎 仁, 望月 正隆, メチルニトロソ尿素に対する大豆抽出物の抗変異原性機構		2014年12月	日本環境変異原学会 第43回大会
今井 貴大, 稲見 圭子, 望月 正隆, DNA 塩基を認識するクロスリンク・インターカレート剤の合成と活性		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
中山 優, 稲見 圭子, 望月 正隆, シトクロム P450 化学モデルによる <i>N</i> -nitrosamine の還元的脱ニトロソ化		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
岩田 有央, 稲見 圭子, 望月 正隆, Benzodiazine 類縁体の DNA クロスリンク活性		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
林 緑人, 稲見 圭子, 望月 正隆, Dihydrobenzofuran 骨格を有する新規抗酸化剤のラジカル捕捉活性		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
野村 昌吾, 稲見 圭子, 望月 正隆, 環内に窒素原子を含むアスコルビン酸類縁体の合成と抗酸化活性		2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成21年3月～現在	一般社団法人 薬学教育評価機構 総合評価評議員		
平成20年12月～現在	一般社団法人 薬学教育協議会 代表理事		
平成20年11月～平成26年11月	厚生労働省 医道審議会 薬剤師分科会会長		
平成19年1月～平成25年1月	厚生労働省大臣官房 厚生科学審議会 委員		
平成19年1月～平成25年1月	厚生労働省 薬事・食品衛生審議会 会長		
平成18年10月～現在	特定非営利活動法人 薬学共用試験センター 理事長 （至平成20年6月30日 以後は副理事長）		
平成17年2月～現在	財団法人 日本薬剤師研修センター 理事		
平成16年11月～現在	全国薬科大学長・薬学部長会議 会長 （至平成20年3月31日 以後は顧問）		
平成16年5月～現在	一般社団法人 薬剤師認定制度認証機構 理事		

平成14年6月～現在	一般社団法人 日本私立薬科大学協会副会長・学長協議会会長 (至平成20年3月31日 以後は参与)
平成7年12月～現在	厚生労働省 変異原性試験等結果検討委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬局管理学	職名 嘱託教授 (みなし・実務家)	氏名 伊集院 一成
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年6月～	ゲストスピーカーの招聘	
	平成22年9月～	OTC薬の新たな教育手法として、「POP広告作成」、少人数によるグループディスカッション(SGD)の導入	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年3月10日	「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本(知識・態度)」、(株)羊土社	
	平成25年3月10日	「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本(技能)」、(株)羊土社	
	平成26年3月10日	「薬の選び方を学び実践する OTC薬入門〔改訂第3版〕」、(株)薬ゼミ情報教育センター	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
薬局の在庫管理に対するFUMI理論の応用に関する研究	共著	2009年2月	社会薬学, 27(2), 7-16
薬局薬剤師における薬学的疑義照会の意識調査	共著	2011年10月	YAKUGAKU ZASSHI, 131(10), 1509-1518
薬局薬剤師における薬学的疑義照会の医療経済学的研究	共著	2012年6月	YAKUGAKU ZASSHI, 132(6), 753-761
シミュレーターを使用した添付文書の文字色による認識性の研究	共著	2012年8月	YAKUGAKU ZASSHI, 132(8), 945-951
薬局薬剤師における疑義照会の作業時間に関する調査	共著	2012年12月	社会薬学, 31(2), 17-25
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
訪問薬剤管理業務に関する薬剤師の意識調査		2014年9月15日	日本社会薬学会第33年会
多摩直下型地震に対する事業継続計画(BCP)の策定による職員間の災害対応の意識変化		2014年9月14日	日本社会薬学会第33年会
薬剤師に求められる医療倫理-初期仏教の慈悲の観念より-		2014年9月15日	日本社会薬学会第33年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成年月～平成年月			
平成22年4月～	西東京市教育委員会 学校薬剤師		
平成22年4月～	特定非営利活動法人ヘルスヴィジランス研究会 副理事長		
平成22年4月～	株式会社田無薬品 田無本町調剤薬局にて保険薬剤師兼務		
平成22年4月～平成24年3月	(社)東京都薬剤師会 理事		
平成23年4月～	西東京市薬剤師会 副会長		

平成25年4月～	(一社) 西武薬剤師会 理事
平成25年10月～	日本薬剤師会 JPALS問題作成委員会 委員
平成27年1月25日	「多剤処方や不適切処方の原因と回避策」の為に医師と薬剤師の合同会議

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧									
大学名	東京理科大学	講座名	薬局管理学	職名	嘱託教授 (みなし・実務家)	氏名	上村 直樹		
Ⅰ 教育活動									
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫				平成21年6月～		ゲストスピーカーの招聘			
				平成22年9月～		OTC薬の新たな教育手法として、「マンダラート」、「POP広告作成」、「模擬顧客とのOTC薬販売ロールプレイ」の導入			
2 作成した教科書、教材、参考書				平成25年3月10日		「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本（知識・態度）」、(株)羊土社			
				平成25年3月10日		「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本（技能）」、(株)羊土社			
				平成26年3月10日		「薬の選び方を学び実践する OTC薬入門〔改訂第3版〕」、(株)薬ゼミ情報教育センター			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				平成21年7月19日		「医療現場（病診と薬局）における医薬品情報学に関する実態調査から浮かび上がってくるもの。」第12回日本医薬品情報学会総会・学術大会			
				平成22年4月24日		「薬剤師に求められるプロフェッショナルスタンダードとは」第1回日本アプライド・セラピュー ティクス学会学術大会			
				平成22年7月24日		「生活習慣病領域のスイッチOTC化に向けた薬剤師の職能研究と再教育」第13回日本医薬品情報学会学術			
				平成23年3月31日		「OTC薬・セルフメディケーションに関する新たな教育手法の導入とその有用性の検討」日本薬学会第131年会			
				平成24年9月25日		「チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス」日本学術会議・日本薬学会主催シンポジウム			
				平成25年7月21日		「生涯学習によって信頼される薬剤師 へ」第21回クリニカルファーマシーシンポジウム			
				平成25年11月3日		「日本薬剤師会が進める生涯学習システムJPALS」第53回北陸信越薬剤師大会			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)				平成26年3月9日		「千葉6大学SP合同研修会」タスクフォース、理科大16号館			
				平成26年6月15日		「東京都薬剤師会 登録販売者研修会」、講師、社会教育会館			
Ⅱ 研究活動									
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月（西暦でも可）		発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	
医薬品情報学研究のあり方-ワークショップにおけるKJ法に基づく問題抽出と解析-				共 著		2009年11月		医薬品情報学 Vol.11 No.2 76-87(2009)	
規格違いPTP薬剤の外観上の差異に関する調査と調剤インシデントによる差異の有効性評価の試み				共 著		2010年10月		薬学雑誌 vol.130 No.3 389-396(2010)	
薬局薬剤師における薬学的疑義照会の意識調査				共 著		2011年8月		薬学雑誌, vol.131: 1509-18(2011)	
Press Through Packaging(PTP)の視認性に関する官能試験を用いた客観的評価-ユーザーによるPTPシート認識行動評価-				共 著		2012年4月		日本包装学会誌, 2012; 21: 295-301.	

薬局薬剤師における薬学的疑義照会の医療経済的研究	共著	2012年6月	AKUGAKU ZASSHI, 132(6), 753-761
薬局薬剤師における疑義照会の作業時間に関する調査	共著	2012年12月	社会薬学, 31(2), 17-25
ポリスチレンスルホン酸系薬剤に対する併用薬剤の吸着特性	共著	2014年1月	医療薬学, 40(1), 47-53
「PMDA医薬品副作用データベース」をりようした漢方製剤の副作用解析	共著	2014年6月	医薬品情報学 Vol. 16 No. 1 16-22(2014)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
「CUDの観点からみた一般用医薬品添付文書の視認性の検討その1」		2014年3月28～30日	日本薬学会第134年会
「CUDの観点からみた一般用医薬品添付文書の視認性の検討その2」		2014年6月28～29日	医療薬学フォーラム2014/ 第22回クリニカルファーマシーシンポジウム
「PTPシートの視認性に関する客観的評価」		2014年7月12～13日	第17回日本医薬品情報学会 学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成16年7月1日～	株式会社ファーマック 代表取締役		
平成20年4月1日～	公益社団法人 東京都薬剤師会 副会長		
平成23年4月1日～	公益社団法人 日本薬剤師会 理事		
平成22年4月1日～	厚生労働省 薬剤師国家試験委員会 委員		
平成24年4月1日～	公益社団法人 神奈川県薬剤師会 倫理委員会 委員長		
平成24年11月22日～	東京都社会保険診療報酬請求書審査委員会 学識経験者審査委員選考協議会 委員		
平成26年9月1日～	社会保険診療報酬支払基金東京支部 参与		
平成24年4月1日～	東京都保険者協議会 委員		
平成24年4月1日～	東京都保健医療公社 評議員		
平成24年9月11日～	北多摩西部地域保健医療協議会 委員		
平成25年7月18日～	公益社団法人 日本薬学会 薬学教育委員会 委員		
平成26年4月1日～	公益社団法人 日本医療薬学会 代議員、医療薬学教育委員会 委員		
平成16年4月1日～	日本医薬品情報学会(JASDI) 理事		
平成15年4月1日～	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 理事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 コミュニケーション学	職名 嘱託教授 (みなし・実務家)	氏名 後藤 恵子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成22年度前期より	ヒューマニズム薬学入門1において、授業の最初の2コマを用い、スモールディスカッションに参加する態度・姿勢を身につけるための導入教育を実施した。
		平成22年度前期	コミュニケーション論授業終了時に毎週アンケートをとり、フリーコメントから学生の興味関心の持ち様を把握し、翌週の授業に反映させたり、来期授業組み立ての参考とした。
		平成26年(2014) 4月～平成27年1月	学生のレポート評価等に、ルーブリック評価を導入した
		平成26年(2014) 11月～	医療薬学実習まとめの試験終了後、復習のために、LS5の演習動画を配信し、自己の振り返りに役立てた
		平成26年7月10～17日、平成27年1月14～19日	コミュニケーション論、コミュニケーション入門の授業において、反転授業を実施した
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年(2009) 7月20日	薬学生のためのヒューマニティー・コミュニケーション学習(南江堂)
		平成23年(2011) 10月1日	後藤恵子責任編集 薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム(羊土社)
		平成26年(2014) 4月5日	後藤恵子編集 ファーマシューティカルケアのための医療コミュニケーション(南山堂)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成26年(2014) 9月27日	後藤恵子「シンポジウム「今考えよう! あなたのコミュニケーション」患者一人ひとりの価値観と向き合うために 健康と病いの語りの教育的活用を」(第24回日本医療薬学会年会)
		平成26年(2014) 10月26日	後藤恵子「学生・指導薬剤師・大学 良好な実習を支えるコミュニケーション」第2回認定実務実習指導薬剤師アドバンスWS in 千葉
		平成27年(2015) 2月8日	後藤恵子「心に響くフィードバックを考える」平成26年度 千葉6大学SP合同研修会
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年度～現在	模擬患者参加型教育を積極的に導入してきた
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Keiko Goto, Izumi Shinozaki, Tomoyo Ishihara, Fusao Kaiho, Takehisa Hanawa, An Evaluation of Community Pharmacist Training on Patients' Non-Verbal Communication	共著	平成24年(2016) 2月	Japan Journal of Health Care And Sciences
ファーマシューティカルケア実現に向けて、コミュニケーション教育はどうあるべきか?	単著	平成21年(2009) 3月	医薬ジャーナル45(3)

スタンダード薬学シリーズ 薬と疾病Ⅲ 薬物治療(2)および薬物治療に役立つ情報	共著	平成24年(2012) 12月14日	東京化学同人
見て分かる 図解臨床調剤学	共著	平成23年(2011) 11月1日	南山堂
服薬アドヒアランスとプラセボ効果に配慮した服薬指導	単著	平成24年(2012) 12月	薬局63(12)
在宅医療における薬剤師の医療コミュニケーションスキル	単著	平成24年(2012) 8月	薬局63 (9)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
佐藤(佐久間)りか、竹内登美子、後藤恵子、射場典子「「認知症の語り」ウェブページ利用者の声ー「あなたのひと言」アンケート分析結果報告ー」		2014年5月18日	第40回日本保健医療社会学会
佐藤(佐久間)りか、後藤恵子、管野摂子、武藤香織「「当事者の語り」の社会資源化をめぐるジレンマー健康と病いの語りデータベースの構築を通じて感じることー」		2015年5月18日	第41回日本保健医療社会学会
西中川 遥, 佐藤圭太, 土田隼之祐, 根岸健一, 後藤恵子「残薬確認に対する薬局薬剤師の意識と実態に関するプレ調査」		2015年5月25日	第8回日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会大会
後藤恵子「自分を知ることから始めよう! タイプ別アプローチで苦手を克服」		2015年10月10日	東京都多摩川立川保健所薬事講習会
後藤恵子、竹内登美子、佐藤(佐久間)りか、射場典子、別府宏国「若年性認知症本人の体験をウェブページに」		2015年12月1日	第33回日本認知症学会学術集会
後藤恵子、花輪剛久、甲府市薬剤師会役員「異文化体験学習を通して、薬剤師・医療従事者の目指す姿を考える」		2015年12月23日	甲府市薬剤師会主催 中高生公開講座(ワークショップ)
後藤恵子「クレームを回避する 薬剤師の行動マナー」		2015年1月30日	平成26年度 山形県病院薬剤師会庄内ブロック研修会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成21年4月～現在	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会 会長		
平成21年1月～現在	特定非営利活動法人「健康と病いの語りディベックス・ジャパン」理事		
平成17年10月～平成22年9月	特定非営利活動法人ヘルスカウンセリング学会 理事		
平成19年4月～現在	東京都薬剤師会 生涯学習特別委員会 委員		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬局管理学	職名 嘱託教授 (みなし・実務家)	氏名 鹿村 恵明
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫	平成21年6月～	ゲストスピーカーの招聘	
	平成22年9月～	OTC薬の新たな教育手法として、「マンダラート」、「POP広告作成」、「模擬顧客とのOTC薬販売ロールプレイ」の導入	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成25年3月10日	「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上 薬剤師業務の基本（知識・態度）」、(株)羊土社	
	平成25年3月10日	「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ 下 調剤業務の基本（技能）」、(株)羊土社	
	平成26年3月10日	「薬の選び方を学び実践する OTC薬入門〔改訂第3版〕」、(株)薬ゼミ情報教育センター	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	平成23年3月13日	「OTC医薬品販売時の対応におけるSC（Simulated Customer：模擬顧客）を活用した薬剤師教育と学習効果」、日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会第4回大会	
	平成23年3月31日	OTC薬・セルフメディケーションに関する新たな教育手法の導入とその有用性の検討	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年7月19日～20日	「第4回認定実務実習指導薬剤師ワークショップ in 栃木」、タスクフォース、獨協医科大学	
	平成22年7月18日～19日	「平成22年度第3回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師ワークショップ（東京・栃木）」、タスクフォース、慶応義塾大学薬学部	
	平成22年7月15日～16日	「平成24年度第8回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（国際医療福祉大学主催）」、タスクフォース、帝京大学薬学部板橋キャンパス	
	平成25年12月8日	「平成25年度 認定実務実習指導薬剤師アドバンスワークショップ」（栃木県薬剤師会主催）、タスクフォース、獨協医科大学	
	平成27年2月8日	「平成26年度 認定実務実習指導薬剤師アドバンスワークショップ」、タスクフォース、獨協医科大学	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
薬局薬剤師における薬学的疑義照会の意識調査	共著	2011年10月	YAKUGAKU ZASSHI, 131(10), 1509-1518
OTC医薬品販売時の対応に関する模擬顧客（Simulated Customer:SC）を活用した薬剤師教育と学習効果	共著	2012年5月	日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会, 10(1), 25-32
薬局薬剤師における薬学的疑義照会の医療経済学的研究	共著	2012年6月	AKUGAKU ZASSHI, 132(6), 753-761
薬局薬剤師における疑義照会の作業時間に関する調査	共著	2012年12月	社会薬学, 31(2), 17-25
Medical Economic Research on Pharmaceutical Inquiries Made by Hospital Pharmacists about Prescriptions for Inpatients	共著	2014年8月	医薬品情報学, 16(2), 41-52
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
「医師に対する薬剤師が行う薬学的疑義照会の意識調査」		2014年6月28～29日	医療薬学フォーラム2014/第22回クリニカルファーマシーシンポジウム

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成16年4月1日～平成24年3月31日	社団法人 栃木県薬剤師会 常務理事
平成17年9月～	有限会社グッドファーマシー エムズ薬局にて薬局薬剤師兼務
平成20年1月1日～平成24年3月31日	日本医療薬学会 医療教育委員会委員
平成22年4月1日～	日本医薬品情報学会 OTC情報委員会委員
平成22年4月1日～	特定非営利活動法人 セルフメディケーション推進協議会 理事
平成22年4月1日～平成24年6月30日	社団法人日本薬剤師会 一般用医薬品委員会委員
平成23年5月～	公益社団法人薬剤師認定制度認証機構 薬剤師認定制度委員
平成24年4月～	公認スポーツファーマシスト推進委員
平成24年4月1日～平成24年6月30日、平成26年6月21日～	一般社団法人栃木県薬剤師会 常務理事
平成24年9月11日～	公益社団法人日本薬剤師会 医療保険委員会委員
平成25年3月27日～	一般社団法人日本医療薬学会 代議員
平成26年7月13日～	一般社団法人日本医薬品情報学会 代議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 医薬品評価学	職名 准教授 (実務家)	氏名 嶋田 修治
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年4月15日 2012年6月15日 2013年4月1日	薬事法規・制度・倫理マニュアル改訂10版 南山堂 病態を理解して組み立てる 薬剤師のための 疾患別薬物療法Ⅳ 免疫疾患／骨・関節 疾患／血液・造血器疾患／内分泌・代謝疾 患 南江堂 薬事法規・制度・倫理マニュアル改訂11版 南山堂	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成26年4月 から	柏市立柏病院薬剤科にて毎週一回（火曜日 午後）臨床能力維持のために研修を行い、 その内容について学生の教育に活用してい る。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Influence of nonsteroidal anti-inflammatory drugs on the antiplatelet effects of aspirin in rats.	共著	2011年2月	Bio Pharm Bull. 34(2)
ゾシン配合点滴静注用バッグ4.5の有用性に関する 実験的研究－混合調製に要する時間、利便性、保管 性および廃棄性からの検討－	単著	2015年4月	新薬と臨牀. 64(4)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
小濱萌衣、嶋田修治 「非心原性脳梗塞慢性期に使用すべき最適な 抗血小板薬の評価」		平成26年・8月	日本病院薬剤師会関東 ブロック第44回学術大 会
岡本奈美、嶋田修治 「ドライアイ治療薬の有効性の評価」		平成26年・8月	日本病院薬剤師会関東 ブロック第44回学術大 会
繁田紘子、嶋田修治 「急性鼻副鼻腔炎における抗菌薬の有効性の 評価」		平成26年・8月	日本病院薬剤師会関東 ブロック第44回学術大 会
永井淑恵、嶋田修治 「うつ病に対するSt. John's wortの有効性の 評価」		平成26年・8月	日本病院薬剤師会関東 ブロック第44回学術大 会

山下浩平、嶋田修治 「腎移植後サイトメガロウイルス感染症の予防に対する抗ウイルス薬の早期投与法と予防投与法との有効性の評価」	平成26年・9月	第24回日本医療薬学会年会
岩野友香、嶋田修治 「前立腺肥大症と過活動膀胱を合併する患者に対する選択的 α 1アドレナリン受容体拮抗薬と抗コリン作用薬の併用療法の評価」	平成26年・9月	第24回日本医療薬学会年会
細田拓矢、嶋田修治 「レストレスレッグス症候群に対する治療薬の有効性の評価」	平成26年・9月	第24回日本医療薬学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成22年1月～平成24年3月	日本薬剤師会 薬価基準検討会 委員	
平成24年4月～平成26年3月	日本薬剤師会 薬価基準検討会 委員	
平成26年4月～	日本医療薬学会 認定薬剤師制度委員会 委員	
平成26年4月～	日本薬剤師会 薬価基準検討会 委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 臨床薬学	職名 准教授	氏名 根岸 健一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2011～2014年度 2013～2014年度	薬学情報科学・演習：各学生が独自に収集した医薬品情報が記載されたホームページを作成させ、その内容についてプレゼンテーションしてもらった。 処方解析概論：処方せんに記載された処方内容から、病気や病状を推測させ、提示した症例に最も適した処方提案を行わせ、その評価を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2010年4月30日	薬学生の薬学生・薬剤師のための疾患別 薬物療法管理マニュアル、株式会社 じほう	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2009年3月26日 2010年6月 2014年4月	より記憶に残る早期体験学習内容の考察、日本薬学会第129年会 病院実務実習の問題点の解析と改善策の提案、日本病院薬剤師会雑誌 薬剤師国家試験と薬学科卒業生進路、東京理科大学科学教養誌科学フォーラム	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2012年9月20日	静岡県立磐田南高等学校 ミニ大学講師	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
The prevention of Decubitus Ulcers as the disease	単著	2009年12月	YAKUGAKU ZASSHI-JOURNAL OF THE PHARMACEUTICAL SOCIETY OF JAPAN
調剤薬局を対象とした喘息予防・管理ガイドラインの認知度および現状に関するアンケート調査	共著	2009年12月	日本アレルギー学会誌
ユビキタス・インターネットを活用したアレルギー疾患の自己管理および生活環境改善支援システム、遠隔教育システム、患者登録・長期観察システムに関する研究 薬剤師用遠隔教育プログラムの作成と実証試験に関する研究	共著	2012年3月	厚生労働科学研究費補助金（免疫アレルギー疾患等予防・治療研究事業）総括研究報告書
シミュレーターを使用した添付文書の文字色による視認性の研究	共著	2012年8月	YAKUGAKU ZASSHI-JOURNAL OF THE PHARMACEUTICAL SOCIETY OF JAPAN
薬局薬剤師における疑義照会の作業時間に関する調査	共著	2012年12月	Japanese Society of Social Pharmacy
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
PTPシートの視認性に関する客観的評価		2014年7月	日本医薬品情報学会総会・学術大会
薬局の立地条件における処方せんの受け取り状況の検討		2014年10月	第47回日本薬剤師会学術大会
診察待ち時間短縮のための診察順序決定の枠組み		2015年3月	電子情報通信学会総合大会
JADERを用いたデータマイニングによる骨折リスク分析		2015年3月	日本薬学会第135年会
ラットにおけるオランザピン単回投与による血糖値上昇のメカニズム		2015年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
2007年4月1日～2010年3月31日	東京都薬剤師会 生涯特別委員会委員
2008年4月1日～2010年3月31日	東京都薬剤師会 薬学生受入れ施設整備事業特別委員会委員
2010年4月1日～現在	東京都立 保谷高等学校 学校薬剤師
2009年5月3日～4日	第9回東京ブロック指導薬剤師養成ワークショップ・タスクフォース
2009年7月19日～20日	第10回東京ブロック指導薬剤師養成ワークショップ・タスクフォース
2009年8月8日～9日	第11回東京ブロック指導薬剤師養成ワークショップ・タスクフォース
2009年8月29日～30日	第3回群馬県認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ・タスクフォース
2009年9月5日～6日	第12回東京ブロック指導薬剤師養成ワークショップ・タスクフォース
2010年5月2日～3日	第2回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ・タスクフォース
2010年7月18日～19日	第3回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ・タスクフォース
2011年8月20日～21日	第7回関東地区調整機構認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）・タスクフォース
2014年8月22日～23日	第8回関東地区調整機構主催認定実務実習指導薬剤師養成ワークショップ（薬学教育者ワークショップ）・タスクフォース
2014年9月1日～現在	日本医薬品安全性学会 評議員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 有機薬化学	職名 講師	氏名 稲見 圭子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫		平成26年4月～平成27年3月 平成26年4月～平成27年3月	有機化学1, 2, 3および有機化学1, 2演習講義と同時進行で演習形式の講義を行っている。演習講義では問題をテスト形式で解かせることで、徹底した復習形式に重点を置き、有機化合物の系統的な理解を目指している。 医薬化学 基礎化学や有機化学を復習しながら、それらの知識と関連した医薬品の特徴を紹介することで、臨床で使っている医薬品と基礎学問との連携を意識して講義を進めている。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成25年3月 平成23年3月	望月 正隆, 稲見 圭子, 「有機化学の基礎」, 東京化学同人 有機化学の反応について電子の動きとエネルギー図を用いて、詳細に解説しており、系統的に有機化学を学ぶことができる。 青木 伸 編「ベーシック薬学教科書シリーズ 無機化学」, 化学同人 薬学生に必要な無機化学のエッセンスが書かれた教科書である。演習問題もあり、理解しやすく工夫されている。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
K. Inami, M. Suzuki, A. Shimizu, M. Furukawa, M. Morita, M. Mochizuki, Substituent effect on the radical scavenging activity of 6-chromanol derivatives.	共著	2014年9月	RSC Adv. , 4, 43882-43889
J. Tatsuzaki, Y. Jinwei, Y. Kojo, Y. Mine, S. Ishikawa, M. Mochizuki, K. Inami, Antimutagenicity screening of extracts from medicinal and edible plants against N-methyl-N-nitrosourea by the Ames assay.	共著	2014年4月	Genes and Environ. , 36 (2), 39-46
K. Inami, M. Takada, K. Itoh, S. Ishikawa, M. Mochizuki, Assessment of the antimutagenic effects of aqueous extracts from herbal medicines against N-nitroso-N-alkylureas induced mutagenicity using the umu test.	共著	2014年2月	Genes and Environ. , 36 (2), 33-38
K. Inami, S. Kondo, Y. Ono, C. Saso, M. Mochizuki, Transnitrosation of alicyclic N-nitrosamines containing a sulfur atom.	共著	2013年11月	Bioorg. Med. Chem. , 21, 7853-7857
K. Inami, K. Yoshimitsu, H. Seino, M. Mochizuki, Ruthenium porphyrin and oxidant convert N-nitrosodialkylamines into direct-acting mutagen in the Ames assay.	共著	2013年6月	Toxicol. Res. , 2 (6), 397-402

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
野村 昌吾, 稲見 圭子, 望月 正隆, 環内に窒素原子を含むアスコルビン酸類縁体の抗酸化活性上昇の検討	2015年3月	日本薬学会 第135年会
浅田 卓也, 稲見 圭子, 望月 正隆, <i>N</i> -Nitrosomorpholine と活性酸素種から生じる変異原の構造解明	2015年3月	日本薬学会 第135年会
谷川 綾香, 稲見 圭子, 望月 正隆, 鶏血藤中の <i>N</i> -methyl- <i>N</i> -nitrosourea に対する抗変異 原性成分の探索	2015年3月	日本薬学会 第135年会
相澤 聖也, 稲見 圭子, 立崎 仁, 望月 正隆, メチルニトロソ尿素に対する大豆抽出物の抗変異原性機構	2014年12月	日本環境変異原学会 第43回大会
今井 貴大, 稲見 圭子, 望月 正隆, DNA 塩基を認識するクロスリンク・インターカレート剤の合成と活性	2014年10月	第58回日本薬学会 関東支部大会
中山 優, 稲見 圭子, 望月 正隆, シトクロム P450 化学モデルによる <i>N</i> -nitrosamine の還元的脱ニトロソ化	2014年10月	第58回日本薬学会 関東支部大会
岩田 有央, 稲見 圭子, 望月 正隆, Benzodiazine 類縁体の DNA クロスリンク活性	2014年10月	第58回日本薬学会 関東支部大会
林 緑人, 稲見 圭子, 望月 正隆, Dihydrobenzofuran 骨格を有する新規抗酸化剤のラジカル捕捉活性	2014年10月	第58回日本薬学会 関東支部大会
野村 昌吾, 稲見 圭子, 望月 正隆, 環内に窒素原子を含むアスコルビン酸類縁体の合成と抗酸化活性	2014年10月	第58回日本薬学会 関東支部大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成26年1月～現在	日本環境変異原学会 評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 医薬品情報学	職名 講師	氏名 佐藤 嗣道
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成25年4月～ 平成27年3月	「医療統計と演習」において、計算式に値を代入すると解析ができるエクセルファイルを毎回作成し、学生の研究や社会に出てからの統計解析に利用できるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成22 (2010) 年9月25日	景山茂、久保田潔 (編) . 薬剤疫学の基礎と実践. 医薬ジャーナル社.
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			なし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Resolving a Double Standard for Risk Management of Thalidomide: An Evaluation of Two Different Risk Management Programmes in Japan	共著	2010年1月1日	Drug Safety 2010; 33 (1): 35-45.
Multi-country rapid adverse drug event assessment: the Asian Pharmacoeepidemiology Network (AsPEN) antipsychotic and acute hyperglycaemia study	共著	2013年5月21日	Pharmacoeepidemiology and Drug Safety 2013; 22: 915-924.
Claims-Based Definition of Death in Japanese Claims Database: Validity and Implications	共著	2013年5月31日	PLoS ONE 2013; 8 (5): e66116.
A Prospective Stratified Case-Cohort Study on Statins and Multiple Adverse Events in Japan	共著	2014年5月8日	PLoS ONE 2014; 9 (5): e96919.
Epidemiology of psoriasis and palmoplantar pustulosis: a nationwide study using the Japanese national claims database	共著	2015年1月14日	BMJ Open 2015; 5: e006450.
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
佐藤 嗣道「バイアスの例と対処法」		2014年6月29日	医療薬学フォーラム2014・第22回クリニカルファーマシーシンポジウム (東京都江東区)
小野愛莉, 下村斉, 馬島徹, 今中景子, 増山英則, 佐藤嗣道, 青山隆夫「肺MAC症治療薬におけるクラリスロマイシンとフルオロキノロンの相互作用に関する研究」		2014年8月30日	日本病院薬剤師会関東ブロック第44回学術大会 (さいたま市)
下村斉, 清水麻衣子, 高橋香緒理, 今中景子, 馬島徹, 増山英則, 佐藤嗣道, 青山隆夫「肺MAC症の多剤併用療法における薬物相互作用と副作用発現状況」		2014年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会 (町田市)
Yukari Kamijima, Nobuhiro Ooba, Tsugumichi Sato, Kiyoshi Kubota. "Epidemiology of Psoriasis in Japan: Results from a Descriptive Study Using National Database"		2014年10月27日	30th International Conference on Pharmacoeepidemiology & Therapeutic Risk Management (Taipei)
Nobuhiro Ooba, Soko Setoguchi, Tsugumichi Sato, Kiyoshi Kubota. "Risk of New-Onset Diabetes in Users of Lipid Lowering Drugs (LLDs)"		2014年10月27日	30th International Conference on Pharmacoeepidemiology & Therapeutic Risk Management (Taipei)
荻野守弥、川根梨奈、木内希、田代大将、長谷川春菜、高橋悠一、北條春輝、佐藤嗣道「利用しやすい患者向け医薬品ガイド改訂版の検討と試作」		2015年3月26日	日本薬学会第135年会 (神戸市)

荒井花奈, 下村齊, 今中景子, 福田元, 馬島徹, 増山英則, 佐藤嗣道, 青山隆夫「結核患者におけるリファンピシンと糖尿病治療薬との薬物相互作用に関する後ろ向き調査研究」		2015年3月26日	日本薬学会第135年会（神戸市）
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成19年2月～平成24年10月	日本薬剤疫学会 JSS（スタチン系薬剤に関する薬剤疫学研究）プロジェクト 委員		
平成20年4月～平成26年3月	日本薬剤師会 職能対策委員会—DEM事業検討会 副委員長		
平成20年4月～	日本社会薬学会 常任幹事		
平成20年6月～	財団法人いしずえ（平成25年4月より公益財団法人いしずえ） 理事長		
平成20年11月～	日本薬剤疫学会 理事		
平成21年4月～	日本薬剤疫学会 治療リスク管理タスクフォース 委員（平成26年10月より座長）		
平成21年4月～平成22年7月	厚生労働省「医薬品の安全対策等における医療関係データベースの活用方策に関する懇談会」構成員		
平成22年4月～	日本社会薬学会 編集委員（平成22年～24年：委員長）		
平成21年1月～	日本薬剤疫学会 レセプト情報等の利活用に向けた特別委員会 委員		
平成23年4月～	レギュラトリーサイエンス学会 運営委員		
平成24年10月～平成26年9月	日本薬剤疫学会 適正なリスク管理計画実施のためのガイドライン作成タスクフォース 委員		
平成25年4月～平成26年3月	厚生労働省「医療情報データベース基盤整備事業推進検討会」構成員		
平成26年7月～	日本病院薬剤師会 編集委員会 特別委員		
平成26年9月～	日本薬剤師会 医療安全・DEM委員会 委員		
平成26年10月～平成27年3月	筑波大学 非常勤講師		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 有機分析化学	職名 講師	氏名 佐野 明
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			特になし
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21年～26年 各年8月	分析化学実習 1 実習書
		平成21年～26年 各年10月	分析化学実習 2 実習書
		平成21年9月	薬学CBTコアカリ 1 人と薬 (CBT対策参考書、 全498ページ中4ページ担当)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特になし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			特になし
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
Comparison of the migration behavior of nano- particles based on polyethylene glycol and silica using micellar electrokinetic chromatography	共著	2015	J. Sep. Sci., 38, 468-74
Simultaneous analysis of nanoparticles and small molecules by high-performance liquid chromatography using a silica monolithic column	共著	2014	Analyst, 139, 4453-57
Relationship between tissue hydroxyl radical and oxidatively modified macromolecules levels	共著	2014	Geriatr Gerontol Int., 14, 498-507
Evaluation of cyanocobalamin in multivitamin tablets and their standard reference material 3280 by HPLC with visible detection	共著	2012	J. AOAC Int., 95, 1609- 13
Small mesh size hydrogel for functional photocontrol of encapsulated enzymes and small molecules	共著	2012	Anal. Chem., 84, 1374-79
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
モノリスカラムを用いたナノ粒子と低分子化合物の同時分離法の開発		2014年・6月	第21回クロマトグラフィー シンポジウム
HPLC用注九シリカチタニアナノコンポジット粒子型充填剤の調製と評価		2015年・3月	日本薬学会第135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成年月～平成年月		特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 医療分子生物学	職名 講師	氏名 高澤 涼子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年4月～ 平成27年3月	基礎生化学および機能形態学2において、講義資料をPowerPointで作成し、講義前に学生へ配信することで、学生の予習・復習を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成19年(2007年)11月23日	「クラーク 分子生物学」(邦訳), David P. Clark著, 田沼靖一監訳, 丸善出版
		平成23年(2011年)11月23日	「第3版 分子生物学」, 田沼靖一編著, 丸善出版
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
"Structure-based design of dipeptide derivatives for the human neutral endopeptidase."	共著	2011年10月	Bioorg. Med. Chem. 19: 5935-5947, 2011
"Discovery of a new type inhibitor of human glyoxalase I by myricetin-based 4-point pharmacophore."	共著	2011年7月	Bioorg. Med. Chem. Lett. 21: 4337-4342, 2011
"Amyloid Precursor Protein Binding Protein Fe65 Is Cleaved by Caspases during DNA Damage-Induced Apoptosis."	共著	2011年2月	Biol. Pharm. Bull. 34: 290-294, 2011
"The release of high mobility group box 1 in apoptosis is triggered by nucleosomal DNA fragmentation."	共著	2011年2月	Arch. Biochem. Biophys. 506: 188-193, 2011.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
高澤涼子(招待講演)「副作用の少ない制がん剤の創製を目指した創薬研究について」		2014年10月	第8回日本緩和医療薬学会年会
真辺友香, 阿部英明, 佐藤聡, 高澤涼子, 田沼 靖一「UV照射による細胞死へのポリ(ADP-リボース)代謝の影響」		2014年10月	第87回日本生化学会大会
小川夏実, 佐藤聡, 吉森篤史, 高澤涼子, 田沼靖一「HMGB1/RAGE相互作用を阻害する新規低分子化合物の創製」		2014年10月	第87回日本生化学会大会
嶋田奈実, 高澤涼子, 田沼靖一「がん併用化学療法を指向した Glyoxalase I 阻害剤との併用剤開発のための新規標的分子の探索」		2014年11月	第37回日本分子生物学会年会
柴崎浩之, 西岡隼哉, 衛藤慎一, 高澤涼子, 田沼靖一「神経細胞のアポトーシスにおけるOmi/HtrA2によるGSK-3 β 限定分解の生理的役割」		2014年11月	第37回日本分子生物学会年会
高澤涼子, 田中ひかり, 高田兼市, 松岡立己, 菊地恵梨子, 嶋田奈実, 吉森篤史, 秋本和憲, 田沼靖一「スチルベン骨格化合物による human Glyoxalase I 阻害の解析」		2015年3月	日本薬学会第135年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成24年4月～平成25年2月	筑波大学大学院 非常勤講師
平成25年4月～5月	早稲田大学人間科学部 非常勤講師
平成26年4月～5月	早稲田大学人間科学部 非常勤講師

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 放射線生命科学	職名 講師	氏名 月本 光俊
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年4月 ～8月	放射科学は、物理、化学、生物にまたがり、習得知識の範囲が広いとため、途中で理解が追いつかなくなってしまう学生を減らすために、事前配布したスライドを用いて約20分説明後、頭を整理する時間を5分間設け、その後、直ちに練習問題を5分間行うというサイクルを90分中で3回行い、各自が授業中に理解、定着できるように工夫している。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2011年5月20日	(教科書) 放射化学・放射性医薬品学 (朝倉書店)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称
(論文) Involvement of SLC17A9-dependent vesicular exocytosis in the mechanism of ATP release during T cell activation.	共著	2010年6月	Journal of Biological Chemistry 285(23):17406-16
(論文) Autocrine regulation of TGF-β1-induced cell migration by exocytosis of ATP and activation of P2 receptors in human lung cancer cells.	共著	2012年11月	Journal of Cell Science 125(Pt21): 5051-60
(論文) Autocrine regulation of macrophage activation via exocytosis of ATP and activation of P2Y11 receptor.	共著	2013年4月	PLoS One. 8(4):e59778.
(論文) TGF-β1 downregulates COX-2 expression leading to decrease of PGE2 production in human lung cancer A549 cells, which is involved in fibrotic response to TGF-β1.	共著	2013年10月	PLoS One. 8(10): e76346.
(論文) Autocrine signaling via release of ATP and activation of P2X7 receptor influences motile activity of human lung cancer cells	共著	2014年9月	Purinergic Signalling 10(3):487-97
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
月本光俊「ATP受容体研究と放射線生物学の融合」 (招待講演)		2014年 4月 19日	ミニシンポジウム「分子毒性学の現状と未来」 (静岡)
月本光俊「放射線生物影響におけるブリナージック・シグナリングの発見とがん治療への応用」 (招待講演)		2014年 5月 15日	日本薬学会北陸支部 特別講演会 (石川)
佐々木理恵、高井英里奈、小島周二、田沼靖一、月本光俊「γ線照射後のがん細胞運動能亢進におけるTRPV1チャネルの関与」		2015年 3月25日～ 3月 28日	日本薬学会第135年会 (兵庫)
西野圭祐、田沼靖一、月本光俊「悪性黒色腫での放射線惹起DNA損傷修復におけるP2受容体およびTRPチャネルの関与」		2015年 3月25日～ 3月 28日	日本薬学会第135年会 (兵庫)

井山翔太、田沼靖一、月本光俊「パロキセチンによるP2X7受容体活性増強作用と炎症増悪化の可能性」	2015年 3月25日～ 3月 28 日	日本薬学会第135年会（兵庫）
久保木貴広、田沼靖一、月本光俊「骨髄由来肥満細胞におけるP2X7受容体を介した炎症性サイトカイン産生」	2015年 3月25日～ 3月 28 日	日本薬学会第135年会（兵庫）
中西加奈、月本光俊、田沼靖一、小島周二「シリカナノ粒子曝露樹状細胞でのATPシグナリングを介したIL-1 β およびIL-18産生」	2015年 3月25日～ 3月 28 日	日本薬学会第135年会（兵庫）
河野鮎美、早川昭光、小島周二、月本光俊、坂本光「ATPシグナリングに着目したUVA誘導性酸化ストレス発現機構の解明」	2015年 3月25日～ 3月 28 日	日本薬学会第135年会（兵庫）
田中晴菜、河野鮎美、小島周二、月本光俊、坂本光「UVA誘導性ケラチノサイト分化異常へのATPシグナリングの関与」	2015年 3月25日～ 3月 28 日	日本薬学会第135年会（兵庫）
小島周二、根岸祐介、月本光俊、竹之内敬人、木谷裕、武田健「シリカナノ粒子曝露肝クッパー細胞でのATPシグナリングを介したIL-1 β 産生」	2015年 3月25日～ 3月 28 日	日本薬学会第135年会（兵庫）
中西加奈、月本光俊、田沼靖一、小島周二「ナノシリカ粒子による樹状細胞からのIL-1 β 産生におけるP2X7受容体の関与」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
久保木貴広、小島周二、田沼靖一、月本光俊「骨髄由来肥満細胞におけるP2X7受容体活性化の機能解析」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
若澤直人、小島周二、田沼靖一、月本光俊「破骨細胞の分化におけるP2受容体の関与」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
土岐勇介、小島周二、竹之内敬人、木谷 裕、田沼靖一、月本光俊「肝マクロファージ/kupffer細胞におけるP2X7受容体の機能解析」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
井山翔太、小島周二、田沼靖一、月本光俊「パロキセチンによるP2X7受容体活性促進作用」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
西野圭祐、小島周二、田沼靖一、月本光俊「悪性黒色腫での放射線惹起DNA損傷修復におけるP2容体およびTRPチャネルの関与」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
佐々木理恵、高井英里奈、小島周二、田沼靖一、月本光俊「 γ 線による肺がん細胞の遊走能亢進におけるTRPV1チャネルの関与」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
森 夏樹、小島周二、田沼靖一、月本光俊「亜致死損傷からの回復（SLD回復）におけるP2Y12受容体の関与」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
宇都宮沙代、小島周二、田沼靖一、月本光俊「神経膠芽腫の γ 線細胞応答におけるP2受容体及びTRPチャネルの関与」	2014年 10月 4日	第58回日本薬学会関東支部大会（東京）
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成年月～平成年月	特になし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧									
大学名	東京理科大学	講座名	疾患薬理学	職名	講師 (実務家)	氏名	吉澤 一巳		
I 教育活動									
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				2014年5月 27日		科目：薬物代謝学（ゲストスピーカー招聘） 日本医科大学千葉北総病院薬剤部、実川東洋先生 「PK/PD理論にもとづく抗菌薬の適正使用」			
2 作成した教科書、教材、参考書									
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等									
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)									
II 研究活動									
1. 著書・論文等の名称				単著・ 共著の別		発行または発表の 年月（西暦でも可）		発行所、発表雑誌 (巻・号数) 等の名称	
Inhibitory effects of SA4503 on the rewarding effects of abused drugs.				共著		2014年5月		Addict Biol. 19: 362- 369.	
がん性疲労に対する薬物療法.				共著		2014年4月		日本緩和医療薬学雑誌. 7: 1-6.	
Involvement of dopamine D2 receptor signal transduction in the discriminative stimulus effect of the κ -opioid receptor agonist U- 50,488H in rats.				共著		2013年8月		Behav Pharmacol. 24: 275- 281.	
Usefulness of olanzapine as an adjunct to opioid treatment and for the treatment of neuropathic pain.				共著		2012年1月		Anesthesiology 116: 159- 169.	
Activation of extracellular signal-regulated kinase is critical for the discriminative stimulus effects induced by U-50,488H.				共著		2011年10月		Synapse 65: 1052-1061.	
2. 学会発表（評価対象年度のみ）						発表年・月		学会名	
柳原千賀, 吉澤一巳, 魚森俊喬, 齊藤光江, 小茂田昌代「ラット唾 液中アミラーゼ活性を指標とした抗がん剤誘発催吐作用の評価」						2015年3月		日本薬学会第135年会（神 戸）	
田代真弓, 小藤あずさ, 山田岳史, 内田英二, 吉澤一巳「抗がん剤 誘発食欲不振マウスに対する EPA 強化栄養剤の影響」						2014年10月		第8回日本緩和医療薬学会 （松山）	
佐藤知世, 吉澤一巳, 弓長藤佳, 田代真弓, 高橋彩夏, 青山隆夫 「抗がん剤誘発副作用モデル動物に対する抗うつ薬 mirtazapine の 影響」						2014年7月		第 130 回日本薬理学会関東 部会（品川）	
原島美樹, 河野弥生, 吉澤一巳, 廣木章博, 田口正光, 花輪剛久 「電子線架橋によるハイドロゲル製剤の調製と製剤素材としての可 能性」						2014年5月		日本薬剤学会第 29 年会 （さいたま）	

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成21年4月～	日本緩和医療薬学会 評議員
平成25年5月～	千葉県薬剤師会 薬学生受入委員会 委員
平成25年7月～平成26年3月	筑波大学附属病院薬剤部 病院研修生
平成26年4月～	土浦市医師会附属准看護学院 非常勤講師
平成26年9月～	日本医薬品安全性学会 評議員
平成27年1月～	我孫子聖仁会病院薬剤部 研修生

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 資源植物化学	職名 講師	氏名 和田 浩志
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
生薬「オウゴン」国内市場品の一酸化窒素産生抑制 活性とLC/MSメタボローム解析	共著	2013年8月	生薬学雑誌、67(2)、35-40
New Leishmanicidal Stilbenes from a Peruvian Folk Medicine, Lonchocarpus nicou	共著	2013年9月	Chem. Pharm. Bull., 61(9), 979-982
Relationship between the inhibitory effect of ginger (Zingiber officinale Roscoe) on nitric oxide production and the drying conditions after harvest	共著	2014年4月	Jpn. J. Food Chem. Safety, 21(1), 8-14
異なる土壌水分環境下におけるムラサキ (Lithospermum erythrorhizon Siebold et Zucc.) の生育およびshikonin誘導体含量	共著	2014年8月	生薬学雑誌、68(2)、58-64
『小学館の図鑑 NEO POCKET ネオぽけっと-2 植 物』	共著	2010年6月	小学館
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
III 学会および社会における主な活動			
平成24年4月～	日本生薬学会・関東支部 幹事		
平成21年4月～	公益社団法人東京生薬協会 学術委員		
平成24年4月～	千葉県薬剤師会 日本民間生薬検定講習会 講師		
平成21年4月～	東京生薬協会・東京都薬用植物園主催 薬草観察会 講師		
平成21年4月～	東京都健康安全研究センター主催 薬草教室 講師		
平成22年4月～	東京漢方教育研究センター 薬草観察会 講師		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 生物有機化学	職名 教授	氏名 青木 伸
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年4月～平成27年3月	東京理科大学「教育研究助成金」に採択され、e-learning用の設備拡充と促進に貢献した。
		平成26年10月～平成27年3月	有機化学2および有機化学2演習において、演習の解説動画を作成して学生へ配信し、学生の予習と復習を促した。また、医薬品合成化学実習において操作説明用動画を配信し、学生の事前学習と実習時間の短縮化に寄与した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成21(2009)年5月10日	“マクマリー有機化学-生体反応へのアプローチ-”(邦訳)、McMurry著、柴崎正勝・岩澤伸治・大和田智彦・増野匡彦監訳、東京化学同人
		平成23(2011)年5月10日	青木 伸編集、ベーシック薬学教科書シリーズ第4巻「無機化学」、化学同人
		平成24(2012)年3月23日	日本薬学会編、“薬学用語辞典”
		平成27(2015)年1月25日	マクマリー生物有機化学 基礎化学編 第4版(原書第7版)”(邦訳)(菅原二三男監訳、丸善)
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19(2007)年から毎年	東京理科大学-早稲田塾連携「スーパー生命創薬科学ワークショップ」(高校生を招待し合宿形式の創薬体験ワークショップ)を主催
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
“Selective Hydrolysis of Phosphate Monoester by a Supramolecular Phosphatase Formed by Self-assembly of a Bis(Zn ²⁺ -cyclen) Complex, Cyanuric Acid and Copper in Aqueous Solution (Cyclen = 1,4,7,10-Tetraazacyclododecane)”	共著	2011年9月21日	Inorganic Chemistry, 2011, 50 (20), 10113-10123
“Design and Synthesis of Luminescent Cyclometalated Iridium(III) Complex Having N,N-Diethylamino Group that Stains Acidic Intracellular Organelles and Induces Cell Death by Photoirradiation”	共著	2012年11月12日	Inorganic Chemistry, 2012, 51 (23), 12697-12706
“The Selective Capture and Collection of Live Target Cells Using a Silicon Wafer Device Modified with Antibodies via a Photocleavable Linker”	共著	2012年9月11日	Langmuir, 2012, 28 (36), 13118-13126
“Asymmetric Aldol Reactions between Acetone and Benzaldehydes Catalyzed by Chiral Zn ²⁺ Complexes of Aminoacyl 1,4,7,10-Tetraazacyclododecane: Fine Tuning of Amino-Acid Side Chains and a Revised Reaction Mechanism”	共著	2013年7月18日	Chemistry- An Asian Journal, 2013, 8 (21), 2125-2135
Design and Synthesis of 8-Hydroxyquinoline-based Radioprotective Agents”	共著	2014年7月24日	Bioorganic and Medicinal Chemistry, 2014, 22 (15), 3891-3905

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
福本 健人、伊藤 太基、栗原 正幸、青木 伸「ヌクレオシドの0-グリコシル化反応によるdisaccharide nucleosideの合成」	2014年5月17日	第67回有機合成化学協会関東支部シンポジウム（横浜シンポジウム）
河野 弥生、平野 愛、竹村 裕、伊藤 雅昭、青木 伸、花輪 剛久「大腸癌切除術後の縫合部補強用粘膜付着製剤の調製」	2014年5月20-22日	日本薬剤学会第29年会（埼玉県）
青木 伸、宮澤 有哉、久松 洋介、鈴木 麻美、米田 翔、田中 亮「長鎖アルキル基を導入した複核亜鉛錯体の自己集積による疎水性超分子ホスファターゼの構築とリン酸加水分解活性」	2014年5月31日-6月1日	第12回ホストゲスト化学シンポジウム（東京都）
久松 洋介、渋谷 愛、鈴木 希美、宮澤 有也、Mohd Zulkefeli、鈴木 麻美、田中 亮、城 始勇、青木 伸「シクロメタレート型イリジウム錯体—ペプチドハイブリッドによるがん細胞のイメージングと細胞死誘導」	2014年6月11-13日	第9回日本ケミカルバイオロジー学会（大阪府）
青木 伸、久松 洋介、中川 朗宏、神戸 彩、河野 雅弘「塩基性基をもつシクロメタレート型イリジウム錯体の光化学的特性と細胞死誘導活性」	2014年6月14-15日	第24回金属の関与する生体関連反応シンポジウム（京都市）
青木 伸「シクロメタレート型イリジウム錯体の位置選択的反応の発見とバイオケミカルツールへの応用」	2014年7月11日	お茶の水女子大学大学院理学研究科セミナー
Shin Aoki, Yosuke Hisamatsu, Akihiro Nakagawa, Ai Shibuya, Aya Kando, Hiroshi Tanaka, Nozomi Suzuki "Design and Synthesis of Cyclometalated Iridium Complexes as Photochemical and Biomedical Tools"	2014年7月13-18日	26th International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC2014) (Sapporo)
Aya Kando, Akihiro Nakagawa, Yosuke Hisamatsu, and Shin Aoki "Design and Synthesis of Red-Color Emitting Cyclometalated Iridium(III) Complexes and Their Biological Applications as pH Probes and Singlet Oxygen Sensitizers."	2014年7月13-18日	26th International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC2014) (Sapporo)
Yukiko Nishiura, Yosuke Hisamatsu, Tomohiro Tanaka, Toshihiro Suzuki, Ryo Abe, and Shin Aoki, "Design, Synthesis and Evaluation of ¹¹ B NMR Probes of d-Block Metal Ions"	2014年7月13-18日	26th International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC2014) (Sapporo)
青木 伸「シクロメタレート型イリジウム錯体の位置選択的反応の発見とバイオケミカルツールへの応用」	2014年7月11日	お茶の水女子大学大学院理学研究科セミナー
Shin Aoki (Plenary lecture) "Chemistry and Biomedical Applications of Hydroxyquinoline Derivatives"	2014年8月11-12日	3rd International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences 2014 (iPoPS2014) (Malaysia)
Yuto Mukai, Shinya Ariyasu, Reisa Takeda, and Masanori Hayase, Toshihiro Suzuki, and Shin Aoki "Design and Synthesis of 8-Quinolinylnyl Sulfonate Derivatives That Undergo Photolysis with Visible Light and Application to Photocleavable Linker for the Isolation of Living Cells"	2014年8月11-12日	3rd International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences 2014 (iPoPS2014) (Malaysia)
Hiroshi Tanaka, Yosuke Hisamatsu, Ai Shibuya, Nozomi Suzuki, Toshihiro Suzuki, Ryo Abe and Shin Aoki "Design and Synthesis of TRAIL-mimics Based on C3-Symmetric Iridium Complexes"	2014年8月11-12日	3rd International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences 2014 (iPoPS2014) (Malaysia)
Aya Kando, Akihiro Nakagawa, Shinsuke Moromizato, Hiroki Ohwada, Yosuke Hisamatsu, and Shin Aoki "Design and Synthesis of Red-Color Emitting Cyclometalated Iridium(III) Complexes and Their Biological Applications as Cell Imaging Probes and Singlet Oxygen Sensitizers"	2014年8月11-12日	3rd International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences 2014 (iPoPS2014) (Malaysia)
Yukiko Nishiura, Tomohiro Tanaka, Yosuke Hisamatsu, and Shin Aoki "Design and Synthesis of o-Carborane Derivatives as ¹¹ B NMR Probes of d-Block Metal Ions"	2014年8月11-12日	3rd International Postgraduate Conference on Pharmaceutical Sciences 2014 (iPoPS2014) (Malaysia)
久松 洋介、鈴木 希美、渋谷 愛、田中 裕志、犬飼 岳史、鈴木 利宙、安部 良、青木 伸「ペプチドを導入したトリスシクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計・合成と生物活性評価」	2014年9月11-13日	第8回バイオ関連化学シンポジウム（岡山市）

鈴木 希美、久松 洋介、渋谷 愛、田中 裕志、鈴木 利宙、安部 良、青木 伸「塩基性ペプチドを導入したトリスシクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計・合成と細胞死誘導活性評価」	2014年9月11-13日	第8回バイオ関連化学シンポジウム(岡山市)
久松 洋介、鈴木 希美、渋谷 愛、田中 裕志、犬飼 岳史、鈴木 利宙、安部 良、青木 伸「塩基性ペプチドを連結した水溶性トリスシクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計・合成と細胞死誘導活性の評価」	2014年9月18-20日	錯体化学会第64回討論会(東京都)
神戸彩、大和田紘喜、諸見里真輔、中川彰宏、久松洋介、河野雅弘、青木伸「pH依存的な発光特性と細胞死誘導活性を備えた赤色発光性シクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計と合成」	2014年9月18-20日	錯体化学会第64回討論会(東京都)
森田 明典、高橋一平、青木伸、王冰、有安真也、笹谷めぐみ、田中 薫、谷本 圭司、細井義夫、永田靖、稲葉俊哉「新規アポトーシス抑制剤KH-3の放射線防護活性評価」	2014年10月1-3日	日本放射線影響学会第57回大会(鹿児島市)
浅沼哲雄、森田明典、小野田貴祥、有安真也、王冰、澤晶子、田中薫、高橋一平、根井充、稲葉俊哉、青木伸「8-キノリノール誘導体AS-2のp53依存性アポトーシス抑制機構」	2014年10月1-3日	日本放射線影響学会第57回大会(鹿児島市)
小野田貴祥、森田明典、浅沼哲雄、有安真也、澤晶子、王冰、田中薫、根井充、青木伸「新規放射線防護剤候補化合物の活性評価」	2014年10月1-3日	日本放射線影響学会第57回大会(鹿児島市)
青木 伸(シンポジウム招待講演)「疾病の診断と治療のための有機・無機システムの設計と構築ー東京理科大学における異分野連携ー」	2014年10月4日	第56回日本薬学会関東支部大会(町田市)
久松洋介、鈴木希美、渋谷愛、田中裕志、犬飼岳史、鈴木利宙、安部良、青木伸「塩基性ペプチドを導入した両親媒性トリスシクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計・合成と生物活性評価」	2014年10月4日	第56回日本薬学会関東支部大会(町田市)
神戸彩、諸見里真輔、中川彰宏、久松洋介、鈴木利宙、安部良、青木伸「pH依存的な発光特性を備えた赤色発光性シクロメタレート型イリジウム錯体の設計と合成および細胞死誘導活性評価」	2014年10月4日	第56回日本薬学会関東支部大会(町田市)
西浦由紀子、田中智博、久松洋介、青木伸「o-carboraneを有する金属検出用 ¹¹ B NMRプローブの設計・合成と機能評価」	2014年10月4日	第56回日本薬学会関東支部大会(町田市)
戸上翔太郎、岡田正人、有安真也、大和田勇人、青木伸「機械学習によるin silico 阻害活性予測に基づく新規亜鉛酵素阻害剤の設計と合成」	2015年10月4日	第56回日本薬学会関東支部大会(町田市)
伊藤太基、福本健人、栗原正幸、青木伸「Disaccharide Nucleosidesの合成を目的としたヌクレオシドのO-グリコシル化反応」	2014年10月4日	第56回日本薬学会関東支部大会(町田市)
Shin Aoki (Invited lecture) "Design and Synthesis of 8-Hydroxyquinoline Derivatives for the Diagnosis and Treatment of Cancer"	2014年10月20-22日	4th World Conference on Cancer Science and Therapy (WCCST2014), Chicago, USA
向井祐人、有安真也、竹田礼紗、早瀬仁則、安部良、青木伸「可視光で切断可能な8-キノリノールスルホン酸エステル誘導体の設計・合成および目的細胞回収用デバイスへの応用」	2014年11月10-11日	第40回反応と合成の進歩シンポジウム(仙台市)
Masato Okada, Hayato Ohwada, Ahin Soki, "Docking Score Calculation Using Machine Learning with an Enhanced Inhibitor Database"	2014年11月10-12日	5th International Conference on Computational Systems-Biology and Bioinformatics 2014 (CSBio2014) (Singapore)
戸上翔太郎、岡田正人、有安真也、大和田勇人、青木伸「機械学習によるin silicoスクリーニングを用いた新規亜鉛酵素阻害剤の設計と合成及び阻害活性評価」	2014年11月26-28日	第32回メディスナルケミストリーシンポジウム(神戸市)
川崎隆広、青木伸、鈴木利宙、安部良、田中、平田岳史「同位体効果を用いた鉄の代謝評価法の開発」	2014年11月26-28日	日本質量分析学会同位体比部会2014(つくば市)

友田哲平、杉浦洋介、相川直幸、青木伸、安盛敦雄「ガボールフィルタにより抽出した特徴量空間を用いた血液細胞解析システムの開発」	2014年12月17-18日	2014年映像情報メディア学会冬季大会（野田市）
Tadasuke Itoh, Hayato Ohwada, Ahin Soki "Combining Two Machine Learning Methods for Predicting Protein-Ligand Docking Using Structured Data and Unstructured Data"	2015年3月9-11日	7th International Conference on Bioinformatics and Computational Biology (BICoB 2015), Honolulu, USA
青木伸（招待講演）「亜鉛酵素・タンパクを標的とする新薬剤の開発」	2015年3月26-28日	日本薬学会第135年会（神戸市）
久松洋介、渋谷愛、鈴木希美、鈴木利宙、安部良、青木伸「塩基性ペプチドを導入したカチオン性両親媒性トリスシクロメタレート型イリジウム錯体の細胞死誘導に関する構造活性相関とメカニズム解析」	2015年3月26-28日	日本薬学会第135年会（神戸市）
田中智博、西浦由希子、久松洋介、荒木力太、西道隆臣、安部良、青木伸「金属イオンおよび錯体によるホウ素クラスターの水中分解反応の発見と応用」	2015年3月26-28日	日本薬学会第135年会（神戸市）
澤本泰宏、田中智博、久保田昭、前田彩、梅澤雅和、久松洋介、玉井郁巳、坂口謙吾、青木伸「放射線増感剤Sulfoquinovosyl acylglycerol (SQAG) およびその誘導体の新合成ルートと放射線増感作用機構の解析」	2015年3月26-28日	日本薬学会第135年会（神戸市）
竹田礼沙、向井祐人、松本和恵、安部良、青木伸「8-キノリノールの光分解反応を利用した光応答性細胞分離磁気ビーズの開発」	2015年3月26-28日	日本薬学会第135年会（神戸市）
米田翔、久松洋介、宮澤有哉、宮内美樹、Mohd Zulkefeli、青木伸「疎水性二核金属錯体と有機アニオンと銅イオンによる超分子の設計と合成およびホスファターゼ活性」	2015年3月26-28日	日本薬学会第135年会（神戸市）
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成22年4月～平成26年3月	早稲田大学先進理工学部 非常勤講師	
平成23年3月～	Universiti Teknologi MARA (UiTM), Malaysia客員教授	
平成24年1月～	The Editorial Board of ISRN Spectroscopy (ISRN: International Scholarly Research Network)	
平成24年2月～	複合系の光機能研究会 世話人	
平成25年3月～平成29年2月	日本化学会 生体機能関連化学部会 幹事	
平成25年5月～	ホスト・ゲスト・超分子化学研究会 幹事	
平成25年6月～	日本ケミカルバイオロジー学会 世話人	
平成26年2月～平成28年1月	有機合成化学協会代議員	
平成26年4月～平成26年9月	お茶の水大学大学院人間文化創成科学研究科理学専攻 非常勤講師	
平成26年9月～	The Editorial Board of International Review of Molecular Sciences (Pak Publishing Group)	
平成27年4月～平成29年3月	日本薬学会関東支部幹事	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 創薬合成化学	職名 教授	氏名 内呂 拓実
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成21年4月～現在 平成21年4月～現在	医薬化学教育の可視化推進（分子情報化学2・演習の開講） 理解度チェックシートの導入による評価法の改善（創薬化学）	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年2月	日本薬学会編 スタンダード薬学シリーズⅡ 3 化学系薬学 「Ⅰ. 化学物質の性質と反応」 東京化学同人（分担執筆）	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成21年10月～現在 平成21年10月～平成26年9月 平成26年10月～現在	薬学部生命創薬科学科 教務幹事 薬学部カリキュラム検討委員会 委員長 薬学部教務委員会 委員長	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Total Synthesis of Diaporthichalasin by Using the Intramolecular Diels-Alder Reaction of an α, β -Unsaturated γ -Hydroxylactam in Aqueous Media	共著	2013年6月	Chem. Asian. J., 8(6), 1243-1252.
First total synthesis of oteromycin utilizing one-pot four-step cascade reaction strategy	共著	2013年11月	Tetrahedron Lett., 54(6), 506-511.
Total synthesis of myceliothermophins A-E	共著	2012年11月	Tetrahedron Lett., 53(38), 5167-5170.
Synthetic studies of GKK1032s: the asymmetric synthesis of the decahydrofluorene skeleton via a novel cyclization of silyl enol ether and sequential retro Diels-Alder and intramolecular Diels-Alder reactions	共著	2011年11月	Tetrahedron Lett., 52(47), 6242-6245.
Total Synthesis of Hirsutellone B via Ullmann-Type Direct 13-Membered Macrocyclization	共著	2011年10月	Org. Lett., 13(23), 6268-6271.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
抗腫瘍性物質GKK1032A2の全合成研究		平成26年5月17日	第67回 有機合成化学協会 関東支部シンポジウム（横浜）
抗原虫活性物質Ascosalipyrrolidinone Aの全合成研究		平成26年5月17日	第67回 有機合成化学協会 関東支部シンポジウム（横浜）
強配位性単座配位子を用いるUllmannエーテル化反応の開発		平成26年5月17日	第67回 有機合成化学協会 関東支部シンポジウム（横浜）
Ullmann-type C-O Coupling Reaction of Sterically Hindered Secondary Alcohols by Using Excess Amount of Strongly Coordinating Monodentate Ligand		平成26年7月17日	International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC 2014)

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成21年4月～平成24年3月	日本薬学会関東支部 運営委員
平成24年4月～平成25年3月	日本薬学会関東支部 執行部委員

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 量子物理化学	職名 教授	氏名 後藤 了
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書	平成27年3月19日 平成26年8月5日 平成26年4月5日	エピソード物理化学第2版(後藤了、小暮健太郎) 創薬・創剤のための分子科学—医薬品・タンパク質から量子論まで—(後藤了、島田洋輔、永田俊治) 薬剤学実験法必携マニュアル1 物理薬剤学(日本薬剤学会出版委員会)	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Colloid and Interface Science in Pharmaceutical Research and Development (H. Ohshima, K. Makino)	共著	2014	Elsevier
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Thermodynamic analysis and Reaction Rate of the complex of 1,4-Dihydropyridine and Cyclodextrin		平成26年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム 第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム(神楽坂)
特異値分解法を用いた保水性とゲル化能を持つキシログルカンの赤外線スペクトル定量法		平成26年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム 第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム(神楽坂)
リボフラビンの光分解による共存薬物への影響		平成26年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会(町田)
吸着作用によるコンゴーレッド凝集機構の解明		平成26年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会(町田)

アミロイド結合性を有するコンゴーレッドの会合体形成メカニズムの検討	平成26年9月24日	第8回分子科学討論会（東広島）
特異値分解を用いた多成分混合系の非破壊的スペクトル解析法	平成26年9月23日	第8回分子科学討論会（東広島）
インドメタシンの疎水性変動に対する局所麻酔薬の構造活性相関	平成26年9月22日	第8回分子科学討論会（東広島）
イブプロフェンとリドカインにおける分子間相互作用とその融解挙動	平成26年9月16日	第23回有機結晶シンポジウム（船橋）
界面におけるコンゴーレッドの凝集体形成条件の探索	平成26年9月5日	第65回コロイドおよび界面化学討論会（神楽坂）
Chemometric Application of Singular Value Decomposition (SVD) for the Simultaneous Analysis of Multicomponent spectra of UV/Vis, FTIR, THz-TDS, and XRPD	平成26年8月21日	Computational Science Workshop (CSW2014) (Tsukuba)
The entropy of fusion of indomethacin and lidocaine mixture from DSC measurement and computational chemistry	平成26年8月21日	Computational Science Workshop (CSW2014) (Tsukuba)
インドメタシンの油水分係数を補強する局所麻酔薬の構造活性相関	平成26年8月1日	サマースクール 土・水・生命環境とコロイド界面現象2014（つくば）
イブプロフェンとイブプロフェン-リドカイン共融混合物の溶解性とDSCを用いた溶解度評価	平成26年3月28日	日本薬学会第134年会（熊本）
イブプロフェンとイブプロフェン-リドカイン共融混合物の溶解性とDSCを用いた溶解度評価	平成26年3月10日	東京理科大学総合研究機構平成25年度界面科学研究部門シンポジウム（神楽坂）
局所麻酔薬によるインドメタシンの疎水性変化	平成25年12月16日	第4回東京理科大学総合研究機構戦略的物質科学研究基盤センターシンポジウム 第11回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム（神楽坂）
コンゴーレッドの平衡混合系におけるスペクトルの成分解析手法の探索	平成25年9月27日	第7回分子科学討論会（京都）
種々の局所麻酔薬によるインドメタシンの疎水性変化の分子構造的要因	平成25年9月26日	第7回分子科学討論会（京都）
Solubilization effect of forming amorphous complex between indomethacin and lidocaine	平成25年9月4日	2nd international postgraduate conference on pharmaceutical sciences (iPoPS2013) (Malaysia)
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成25年4月～	日本油化学会誌編集委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 微生物薬品化学	職名 教授	氏名 早川 洋一
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年4月 平成26年10月	微生物学1、微生物学2、天然物薬品学、感染症・がんの治療薬の授業において、授業用スライドのPowerPointファイルと授業内容のまとめのWordファイルを学生が自由にダウンロードして利用できるようにしている。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年4月 平成26年10月	微生物学1、微生物学2、天然物薬品学、感染症・がんの治療薬の授業において、授業用スライドのPowerPointファイルと授業内容のまとめのWordファイルを作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	平成22年10月 13日 平成23年7月2 日	高校生を対象とした模擬講義「微生物がつくる薬」を実施した。	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文) Cloning and characterization of a gene cluster for hatomarubigin biosynthesis in <i>Streptomyces</i> sp. strain 2238-SVT4.	共著	2010年6月	Applied and Environmental Microbiology Vol. 76 No. 13
(論文) Hatomarubigin E, a biosynthetic intermediate of hatomarubigins C and a substrate of HrbU O-methyltransferase.	共著	2010年12月	The Journal of Antibiotics Vol. 63 No. 12
(論文) Cloning and heterologous expression of the thioviridamide biosynthesis gene cluster from <i>Streptomyces olivoviridis</i> .	共著	2013年11月	Applied and Environmental Microbiology Vol. 79 No. 22
(論文) Indanostatin, a new neuroprotective compound from <i>Streptomyces</i> sp.	共著	2013年12月	The Journal of Antibiotics Vol. 66 No. 12
(論文) Actinopyrone D, a new downregulator of the molecular chaperone GRP78 from <i>Streptomyces</i> sp.	共著	2014年12月	The Journal of Antibiotics Vol. 67 No. 12
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Prodigiosin類の環化遺伝子に関する研究		平成27年3月	日本薬学会 第135年会
<i>Streptomyces</i> sp. RAI364株が生産する二次代謝産物の研究		平成27年3月	日本薬学会 第135年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成21年6月～平成27年6月	日本がん分子標的治療学会 評議員		
平成27年2月～平成29年1月	日本薬学会 関東支部幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 分子病理・代謝学	職名 教授	氏名 樋上 賀一
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			学部による授業評価以外に、15回目に学生による授業評価を行い授業改善を行った。
2 作成した教科書、教材、参考書			授業用スライドおよびハンドアウトの作製
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
2. 分子生物学からみた老化、2.6 代謝制御	共著	2010	東京大学出版、新老年学第3版(大内尉義、秋山弘子編) pp62-67
Differential responses of white adipose tissue and brown adipose tissue to caloric restriction in rats. Okita N, Hayashida Y, Kojima Y, Fukushima M, Yuguchi K, Mikami K, Yamauchi A, Watanabe K, Noguchi M, Nakamura M, Toda T, Higami Y	共著	2012	Mech Ageing Dev. 133:255-66.
Caloric restriction-associated remodeling of rat white adipose tissue: effects on the growth hormone/insulin-like growth factor-1 axis, sterol regulatory element binding protein-1, and macrophage infiltration. Chujo Y, Fujii N, Okita N, Konishi T, Narita T, Yamada A, Haruyama Y, Tashiro K, Chiba T, Shimokawa I, Higami Y.	共著	2013	Age (Dordr) 35:1143-56.
Inhibitory effect of p53 on mitochondrial content and function during adipogenesis. Okita N, Ishikawa N, Mizunoe Y, Oku M, Nagai W, Suzuki Y, Matsushima S, Mikami K, Okado H, Sasaki T, Higami Y.	共著	2014	Biochem Biophys Res Commun. 446:91-7.
Chronological analysis of caloric restriction-induced alteration of fatty acid biosynthesis in white adipose tissue of rats. Okita N, Tsuchiya T, Fukushima M, Itakura K, Yuguchi K, Narita T, Hashizume Y, Sudo Y, Chiba T, Shimokawa I, Higami Y.	共著	2015	Exp Gerontol 63:59-66.

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
Srebp1cを介したカロリー制限による脂肪組織での代謝リモデリングと抗老化・寿命延伸効果	2014年4月	第103回日本病理学会総会
ROS-associated lysosomal dysfunction impairs autophagy flux and adipokine profile in adipocytes	2014年6月	2014 Spring Conference of the Korean Society for Gerontology and The 13th Kprea-Japan Gerontologist Joint Meeting
Caloric restriction enhances mitochondrial biogenesis and suppresses oxidative stress via a master transcription factor of fatty acid biosynthesis, Srebp-1c, in mice white adipose tissue	2014年6月	2014 Spring Conference of the Korean Society for Gerontology and the 13th Korea-Japan Gerontologist Joint Meeting
Lipid metabolism in cancer cachexia and caloric restriction in adipose tissue, effects of Rikkunshito	2014年6月	第37回日本基礎老化学会
脂肪細胞における新規肥満応答性E3 ユビキチンリガーゼWWP1 による分化制御	2014年8月	第19回アディポサイエンスシンポジウム
カロリー制限におけるSrebp1cを介したde novo 脂肪酸合成とミトコンドリアバイオジェネシス、酸化ストレスの関連	2014年10月	第36回日本基礎老化学会シンポジウム
肥大化した脂肪細胞のオートファジーにおけるリソソーム機能障害	2014年11月	第8回オートファジー研究会
カロリー制限による抗老化・寿命延長効果にSrebp-1が及ぼす影響	2014年12月	第14回日本ミトコンドリア学会年会
Srebp-1c plays an important role for metabolic remodeling of white adipose tissue, and anti-aging and pro-longevity actions of caloric restriction,	2015年3月	Asian Aging Core for Longevity 2015
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成4年4月～平成27年3月	日本病理学会評議員	
平成20年4月～平成27年3月	公立御調総合病院非常勤医師	
平成24年4月～平成27年3月	日本基礎老化学会理事	
平成25年4月～平成27年9月	早稲田大学人間科学部非常勤講師	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 分子病態学	職名 教授	氏名 深井 文雄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		～平成27年3月	生物学、生化学1では、自ら編集したプリントを使って講義をしている。この資料は主に世界的名著として有名な“THE CELL”から英語のままの図を引用し、technical termに早期に慣れるように配慮している。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成11年12月	病態生理・生化学I, II -病態を理解するための基礎生理・生化学-、共立出版(井上圭三。富田基郎編) 分担執筆
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成19年から毎年	東京理科大学-早稲田塾連携「スーパー生命創薬化学ワークショップ」(高校生を対象とし、生命創薬科学を受講することから開始し、そこで得た知識に基づいて合宿形式で創薬研究を体験すると共に、プレゼンテーションで発表まで実践するワークショップ)を主催。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Apoptotic death of hematopoietic tumor cells through potentiated and sustained adhesion to fibronectin via VLA-4.	共著	2010年9月	<i>J. Biol. Chem.</i> 285: 7006-7015
Eukaryotic translation elongation factor 1A induces anoikis by triggering cell detachment.	共著	2012年8月	<i>J. Biol. Chem.</i> 287: 16037-16046
Potentiated activation of VLA-4 and VLA-5 accelerates proplatelet-like formation.	共著	2012年11月	<i>Ann. Hematol.</i> 91: 1633-1643
A novel mechanism underlying the basic defensive response of macrophages against Mycobacterium infection.	共著	2014年3月	<i>J. Immunol.</i> 192: 4254-4262
Tenascin-C-derived Peptide TNIIIA2 Highly Enhances Cell Survival and PDGF-dependent Cell Proliferation through Potentiated and Sustained Activation of Integrin $\alpha 5 \beta 1$.	共著	2014年6月	<i>J. Biol. Chem.</i> 289: 17699-17708
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
結核菌(BCG)感染により誘導されるマクロファージ細胞死におけるBimの役割		2013年3月	日本薬学会第133年会
がん細胞の基底膜下浸潤および転移におけるテネイシンCの関与		2013年3月	日本薬学会第133年会
急性骨髄性白血病細胞における接着依存性薬剤耐性獲得機構の究明		2013年3月	日本薬学会第133年会
タンパク質翻訳伸長因子eEF1A1のフィブロネクチン由来反接着性ペプチド結合部位の解析		2013年3月	日本薬学会第133年会
テネイシンCによるマクロファージの機能調節		2013年3月	日本薬学会第133年会
$\beta 1$ インテグリン活性化ペプチドを用いた神経芽腫分化誘導療法に関する基礎的検討		2013年3月	日本薬学会第133年会
テネイシン-C 由来のインテグリン活性化ペプチドによる神経膠芽腫細胞の増殖、移動の過剰増強		2013年6月	日本生化学会関東支部会

悪性腫瘍細胞のアノキス耐性獲得におけるオートファジーの役割	2013年6月	日本生化学会関東支部会
Crucial role of beta 1 integrin activation in retinoic acid-induced differentiation of neuroblastoma cells	2013年6月	日本結合組織学会・マトリックス研究会合同学術会議
Differentiation-induction therapy of neuroblastoma by a peptide derived from tenascin-C through beta1-integrin activation	2013年6月	日本結合組織学会・マトリックス研究会合同学術会議
Tenascin-C peptide induces cellular senescence in normal human fibroblasts through beta1-integrin activation	2013年6月	日本結合組織学会・マトリックス研究会合同学術会議
Regulation of macrophage functions by tenascin-C	2013年6月	日本結合組織学会・マトリックス研究会合同学術会議
Implication of antiadhesive site of fibronectin molecule in tumor cell migration and invasion.	2013年6月	日本結合組織学会・マトリックス研究会合同学術会議
Induction of cellular senescence by a peptide derived from tenascin-C	2013年6月	日本結合組織学会・マトリックス研究会合同学術会議
テネイシンC由来ペプチドを用いた新規神経芽腫分化誘導療法に関する基礎研究	2013年9月	第1回 MatriCell フォーラム
テネイシンC由来のインテグリン活性化ペプチドによる神経芽腫細胞の増殖・移動の過剰促進	2013年9月	第1回 MatriCell フォーラム
テネイシンC由来ペプチドによるマクロファージ機能調節	2013年9月	第1回 MatriCell フォーラム
テネイシン-C 由来のインテグリン活性化ペプチドによる神経芽腫細胞の増殖・移動の過剰増強	2013年9月	第1回 MatriCell フォーラム
大腸がん細胞の悪性化および炎症性大腸発がんにおけるテネイシンCの関与	2013年9月	第1回 MatriCell フォーラム
テネイシンC由来ペプチドを用いた新規神経芽腫分化誘導療法に関する基礎研究	2013年9月	第1回 MatriCell フォーラム
神経芽腫細胞の分化誘導とインテグリン活性化ペプチド TNIIIA2	2013年11月	生命分子機能研究会2013学術集会
白血病治療薬FLT3チロシンキナーゼ阻害剤によって誘導されるオートファジーの機能解析	2013年11月	日本分子生物学会
The Tenascin-C -derived Peptide TNIIIA2 Induces Cellular Senescence in Human Fibroblasts, which Elicits Deregulated Proliferation of Premalignant Epithelial Cells	2013年11月	4th Asia-Pacific International Peptide Symposium
The Role of Tenascin-C-derived Peptide TNIIIA2 in the Regulation of Macrophage Activities	2013年11月	4th Asia-Pacific International Peptide Symposium
Tenascin-C derived peptide TNIIIA2 induces cellular senescence in human fibroblasts, which elicits deregulated proliferation of premalignant epithelial cells.	2013年11月	4th Asia-Pacific International Peptide Symposium
Involvement of Tenascin-C in Malignant Transformation of Colon Cancer Cells and Colitis-Associated Carcinogenesis	2013年11月	4th Asia-Pacific International Peptide Symposium
The tenascin-C derived peptide TNIIIA2 induces cellular senescence in human fibroblasts, which elicits deregulated proliferation of premalignant epithelial cells	2013年11月	4th Asia-Pacific International Peptide Symposium
細胞足場としての利用を目指した多糖複合フィルムの作製と評価	2014年4月	つくば医工連携フォーラム2014
多糖複合フィルム上における線維芽細胞の接着・増殖挙動の解析	2014年7月	第63回高分子学会年次大会
細胞膜上に発現したタンパク質翻訳伸長因子 eEF1A の、腫瘍細胞の移動・浸潤・転移への関与	2014年7月	第46回日本結合組織学会学術大会/第61回マトリックス研究会大会・合同学術集会

タンパク質翻訳伸長因子 eEF1A の細胞膜発現機構と膜 eEF1A の生理的役割	2014年7月	第46回日本結合組織学会学術大会/第61回マトリックス研究会大会・合同学術集会
悪性腫瘍細胞の増殖および浸潤におけるオートファジーの役割	2014年7月	第46回日本結合組織学会学術大会/第61回マトリックス研究会大会・合同学術集会
腸前がん病変由来細胞の長期培養方法の確立	2014年6月	第21回日本がん予防学会総会
beta1インテグリン活性化ペプチド TNIIIA2 による神経芽腫細胞の分化促進	2014年6月	第73回日本癌学会学術総会
テネイシンC由来ペプチドによる細胞老化誘導およびその腫瘍形成・悪性化への関与	2014年6月	第73回日本癌学会学術総会
がん細胞の悪性形質発現におけるオートファジーの役割	2014年6月	第73回日本癌学会学術総会
テネイシンC由来ペプチドはインテグリン活性化に基づいて神経膠芽腫細胞の増殖、移動能を過剰に増強する	2014年6月	第73回日本癌学会学術総会
Long-term culture method for precancerous lesion-derived cells	2014年9月	第73回日本癌学会学術総会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成21年4月～継続中	日本化学工業協会 LRI外部有識者（発がん部門）	
平成21年5月～平成23年3月	独立行政法人 科学技術振興機構 産学連携展開部	
平成21年4月～継続中	日本生化学会代議員	
平成21年4月～継続中	日本結合組織学会評議員	
平成21年4月～平成24年3月	日本結合組織学会編集委員	
平成21年4月～継続中	日本再生医療学会評議員	
平成21年4月～平成22年4月	テネイシンフォーラム代表幹事	
平成23年4月～継続中	MatriCellフォーラム代表幹事	
平成24年5月	日本学術会議パネラー	
平成25年4月～継続中	（独）科学技術振興機構 評価者	
平成25年4月～継続中	公益財団法人千葉県産業振興センター 外部有識者	
平成25年4月～継続中	日本薬学会代議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 生命情報科学	職名 教授	氏名 宮崎 智
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成16年4月	統計学推計学にパソコン演習を導入 バイオインフォマティクスでネットオンライン 演習を開始
2 作成した教科書、教材、参考書		平成24年1月 平成26年4月	基礎統計 薬学生のための基礎シリーズ4 情報リテラシー 薬学生のための基礎シリーズ8
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成22年10月	「ICTを活用した薬学長期実務実習支援システム の研究開発」 明治薬科大学 I T コンソーシアム
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		2013年11月 26日 2013年6月 1日	日本私立薬科大学協会教育賞 受賞 情報知識学会 永年会員受賞
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Implication of bidirectional promoters containing duplicated GGAA motifs of mitochondrial function-associated genes	共著	2013年	AIMS Molecular Science1- 26, 1
医薬品の構造式を起点としたADME予測モデルの構築	共著	2013年6月	情報処理学会研究報告バイ オ情報学34巻3号、1-5
情報科学的手法によるnon-coding RNAの遺伝的発現 制御の解析	共著	2013年6月	情報処理学会研究報告バイ オ情報学34巻2号、1-6
Detection of Key Residues Involving Functional Divergence Into the Translation Elongation Factor Tu/1A Family Using Quantitative Measurements for Specific Conservation of Protein Subfamilies	共著	2014年1月	Journal of Computer Science and Systems Biology, 54-61, 2-7
Identification of the interaction region between hemagglutinin components of the botulinum toxin complex	共著	2014年4月	International Journal of Biological Macromolecules, 284- 288, 65
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
平成25年度薬学共用試験OSCE報告、平成25年度薬学共用試験CBT報告		2014年7月18日	第46回日本医学教育学会 大会
薬学共用試験CBTの結果解析、薬学共用試験OSCEの結果解析、薬学共 用試験-CBT/OSCEの現状と課題		2014年3月27日	日本薬学会第134年会
カロリー制限を施したラットのDNAマイクロアレイデータを用いた発 現変動遺伝子の同定方法の検討		2014年3月27日	農芸化学会2014年東京 大会
バイオインフォマティクス手法によるシスエレメント配列一次構造 の網羅的解析		2014年3月27日	日本薬学会第134年会
micro-RNA geneとprotein-coding geneのプロモーター領域の比較		2014年3月27日	日本薬学会第134年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成20年4月1日～平成26年3月31日	独立行政法人理化学研究所バイオリソースセンター バイオリソース検討委員会委員
平成20年7月1日～平成27年現在	特定非営利活動法人薬学共用試験センター 運営委員会副院長、システム検討委員会委員長、理事
平成20年5月19日～平成21年3月31日	社団法人日本薬学会 薬学教育改革大学人会議
平成20年4月1日～平成21年3月31日	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構新領域融合研究センター 共同研究員
平成22年4月1日～平成27年現在	学習院大学 非常勤講師
平成24年4月1日～平成25年2月28日	筑波大学大学院人間総合科学研究科 非常勤講師
平成25年8月1日～平成26年3月31日	筑波大学グローバル教育院 非常勤講師
平成20年8月1日～平成22年3月31日	独立行政法人情報処理推進機構 情報処理技術者試験委員会
平成20年6月17日～平成21年3月31日	国立遺伝学研究所 GBIF日本ノード委員会委員

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 有機化学	職名 教授	氏名 和田 猛
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2013年12月23日	有機合成化学１：学習効果点検項目（理論編）を配布し、講義の中で解説した。本講義で習得すべき重点項目を確認し、学習効果を高めた。	
	2014年1月14日	有機合成化学２：学習効果点検項目（反応編）を配布し、講義の中で解説した。本講義で習得すべき重点項目を確認し、学習効果を高めた。	
	2014年1月23日	本試験で正答率の低かった問題に対して補足資料を作成し、全学生に補足解説資料を作成して配信した。資料の作成に関して、講義内容、参考図書、原著論文から具体的な反応事例を示し、理解を深めさせた。	
	2015年1月19日	講義で取り扱った内容の理解をさらに深めるため、関連する有機化合物の分子軌道係数、電子密度、静電ポテンシャル図を作成、配信し、講義での補足説明と学生自身による考察を試みさせた。	
2 作成した教科書、教材、参考書	2009年10月1日	ブルース有機化学（第5版） [上]	
	2014年11月30日	ブルース有機化学（第7版） [上]	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
（著書）複合糖質の科学と最新応用技術	共著	2009年	シーエムシー出版
（著書）フルオラスケミストリーの基礎と応用	共著	2010年	シーエムシー出版
（著書）RNA工学の基礎と応用	共著	2010年	シーエムシー出版
（著書）核酸医薬の最前線《普及版》	共著・監修	2014年10月	シーエムシー出版
（著書）ブルース有機化学 第7版（上）	共著	2014年11月	化学同人
（論文）Stereocontrolled Solid-phase Synthesis of Oligonucleoside H-phosphonates by an Oxazaphospholidine Approach	共著	2009年	Angew. Chem. Int. Ed. 48, 496-499
（論文）Agmatine-conjugated cytidine in a tRNA anticodon is essential for AUA decoding in archaea	共著	2010年	Nat. Chem. Biol. 6, 277-282
（論文）Stereocontrolled synthesis of oligonucleotide analogs containing chiral internucleotidic phosphorus atoms	共著	2011年	Chem. Soc. Rev. 40, 5829-5843

(論文) Stereocontrolled Solid-Phase Synthesis of Phosphorothioate Oligoribonucleotides Using 2' -O-(2-Cyanoethoxymethyl)-Nucleoside 3' -O-Oxazaphospholidine Monomers	共著	2012年	<i>J. Org. Chem.</i> 77, 7913-7922
(論文) Solid-phase Synthesis of P-Boronated Oligonucleotides by the H-Boranophosphonate Method	共著	2014年	<i>J. Org. Chem.</i> 79, 3465-3472
2. 学会発表 (評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
RNA Duplex-Selective Binding of Oligodiaminogalactose Derivatives		2014年8月	XXI ROUND TABLE ON NUCLEOSIDES, NUCLEOTIDES AND NUCLEIC ACIDS
Artificial cationic oligopeptides as carriers for nucleic acid therapeutics		2014年8月	XXI ROUND TABLE ON NUCLEOSIDES, NUCLEOTIDES AND NUCLEIC ACIDS
Properties of Cationic Peptides with Shorter Side Chain Lengths which Bind to A-Type Nucleic Acid Duplexes		2014年8月	XXI ROUND TABLE ON NUCLEOSIDES, NUCLEOTIDES AND NUCLEIC ACIDS
リン原子の立体を制御したPO/PSキメラDNAオリゴマーの自動固相合成		2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
トコフェロール結合アンチセンスオリゴヌクレオチドの開発		2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
二重鎖型核酸医薬への応用を指向した人工オリゴジアミノ糖の開発		2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
2' -O-CEM保護H-ボラノホスホネート法によるボラン修飾型RNA類縁体の固相合成		2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
リン原子の立体制御によるホスホロチオエートアンチセンスDNAの高活性化		2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
核酸医薬の高活性化を目指した新規カチオン性人工ペプチドの合成		2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
New Synthetic Approaches to Oligonucleotide Therapeutics		2014年10月	OTS Annual Meeting 2014
Artificial cationic oligopeptides as carriers for nucleic acid therapeutics		2014年10月	Asian 3 Roundtable on Nucleic Acids 2014
Properties of nucleic acid duplex binding peptides which control the nuclease activity		2014年10月	第51回ペプチド討論会
Double-stranded RNA binding properties of oligodiaminogalactose derivatives		2014年11月	第41回国際核酸化学シンポジウム (ISNAC 2014 The 41th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2014)
Synthesis and Properties of Guanidyl Group-containing Oligodiaminosaccharide Derivatives Binding to Nucleic Acid Duplexes		2014年11月	第41回国際核酸化学シンポジウム (ISNAC 2014 The 41th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2014)

Stereocontrolled Synthesis of PO/PS Chimeric Oligodeoxyribonucleotides by the Oxazaphospholidine Approach	2014年11月	第41回国際核酸化学シンポジウム (ISNAC 2014 The 41th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2014)
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成17年4月～現在	フルオラス科学研究会 評議委員	
平成17年4月～現在	アンチセンスDNA/RNA研究会 運営委員	
平成19年10月	第5回国際核酸化学シンポジウム 実行委員	
平成21年4月～平成21年3月	日本化学会代議員	
平成21年4月～平成24年3月	化学オリンピック日本委員会 委員	
平成21年～現在	Oligonucleotides誌 編集委員	
平成22年～平成24年	日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員	
平成24年～現在	公益財団法人 総合工学振興財団 評議員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 分子医科学	職名 准教授	氏名 秋本 和憲
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年4月～平成27年3月	大学のアンケートとは別に、毎回の講義で授業改善に向けたアンケートを行った。その結果を毎回の講義で学生にフィードバックするとともに講義の質を高めることに成功した。
		平成26年4月～平成27年3月	全ての担当講義において、講義スライドをwebシステムで配信し、講義の予習・復習を促した。
2 作成した教科書、教材、参考書		平成23年(2011)11月	翻訳後修飾のプロテオミクス 6章 翻訳後修飾の機能解析の方法 6.8 秋本和憲、大野茂男 講談社
		平成23年(2011)11月	翻訳後修飾のプロテオミクス 3章 翻訳後修飾解析のための試料調整 3.2. 秋本和憲、永坂恵子、岡山明子、川上隆雄 講談社
		平成25年(2013)4月	東京理科大学坊っちゃん科学シリーズ 4 『生命科学がひらく未来』第3章細胞の仕組みとその運命 秋本和憲 東京理科大学出版センター編 東京書籍
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成26年(2014)11月17日	柏市立逆井中学校(五味田校長)の職場体験の一環で2年生生徒に講義と研究室見学を行った。(引率片山教諭)
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
aPKC λ/ι promotes growth of prostate cancer cells in an autocrine manner through transcriptional activation of interleukin-6	共著	2009年	PNAS 106, 16369-16374 (2009)
High Expression of Atypical Protein Kinase C λ/ι in Gastric Cancer as a Prognostic Factor for Recurrence	共著	2010年	ANNALS OF SURGICAL ONCOLOGY 17, 81-88 (2010)
The co-expression of aPKC λ/ι and IL-6 in prostate cancer tissue correlates with biochemical recurrence	共著	2011年	CANCER SCIENCE 102, 1576 - 1581 (2011)
High expression of KIBRA in low atypical protein kinase C-expressing gastric cancer correlates with lymphatic invasion and poor prognosis.	共著	2013年	CANCER SCIENCE 104, 259 - 265 (2013)
Proteomic analysis of proteins related to prognosis of lung adenocarcinoma	共著	2014年	JOURNAL OF PROTEOME RESEARCH 13, 4686 - 4694 (2014)

2. 学会発表（評価対象年度のみ）	発表年・月	学会名
岡山明子、宮城洋平、尾下文浩、西真由子、中村圭靖、長嶋洋治、 秋本和憲、梁明秀、平野久 プロテオミクス解析による肺腺癌予後関連タンパク質の検出	2014年7月17日～7月18日	日本プロテオーム学会 2014年会（つくば市）
中根裕美、菊池恵梨子、片山鈴花、稲田将大、鈴木悠平、野池芽衣、 小玉大地、嶋田奈実、原泰志、安部良、吉森篤史、田沼靖一、 高澤涼子、秋本和憲 Basal-like 型乳癌細胞株から単離した ALDHhigh 細胞に対する 新規 Glyoxalase I (GLO I) 阻害剤 TLSC702 の増殖抑制効果	2014年10月4日	第58回 日本薬学会 関東支部大会（町田市）
稲田将大、片山鈴花、中根裕美、田村 溪、高澤涼子、原泰志、 安部良、吉森篤史、四ノ宮成祥、田沼靖一、秋本 和憲 ヒト乳癌ALDHhigh細胞 に対するMET阻害剤の効果	2014年10月4日	第58回 日本薬学会 関東支部大会（町田市）
大原 有樹、鈴木 忠樹、中野 哲郎、齊藤 慎二、相内 章、 秋本 和憲、長谷川 秀樹 低毒性型合成二本鎖RNA uPICを用いた経鼻インフルエンザ ワクチンの開発	2014年11月10日～ 11月12日	第62回日本ウイルス学会 （横浜市）
高澤涼子、田中ひかり、高田兼市、松岡立己、菊地恵梨子、 嶋田奈実、吉森篤史、秋本和憲、田沼靖一 スチルベン骨格化合物によるhuman Glyoxalase I阻害の解析	2015年3月25日～ 3月28日	日本薬学会 第135回 年会（神戸市）
秋本和憲 「がん幹細胞の代謝制御機構の解明とそれを標的とした創薬への 展開」～がん幹細胞を標的とした創薬研究～	2015年1月14日	横浜市立大学大学院 セミナー（横浜市）
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成24年4月1日～平成26年3月31日	公立大学法人横浜市立大学医学部 客員准教授	
平成24年6月19日～	かわさき市民アカデミー2012年度前期いのちの科学コース 講師	
平成24年7月24日～	国立感染症研究所 講師	
平成24年10月10日～	国立大学法人 大阪大学大学院医学系研究科 講師	
平成26年4月1日～平成28年3月31日	公立大学法人横浜市立大学医学部 客員准教授	
平成26年10月1日～平成27年3月31日	国立大学法人 筑波大学 非常勤講師	
平成27年1月14日～	公立大学法人横浜市立大学大学院 非常勤講師	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 遺伝子制御学	職名 准教授	氏名 内海 文彰
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		特になし	
2 作成した教科書、教材、参考書		「第4章 生命科学の発展」東京理科大学出版センター編、東京理科大学坊ちゃん科学シリーズ 第4巻 生命科学がひらく未来、pp. 137-174. 東京書籍、2013年 4月24日	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Helicases and human diseases	共著	2015年2月	Front. Genet., 6, 39.
Alteration in transcriptional state, as a first step in cancer development	共著	2014年12月	Pharm. Anal. Acta., 5, e166.
Application of DEAE-dextran to an efficient gene transfer system	共著	2014年1月	Nova Science Publishers, Inc. Dextran: Chemical Structure, Application and Potential Side Effects, pp. 143-156
Implication of bidirectional promoters containing duplicated GGAA motifs of mitochondrial function-associated genes.	共著	2013年12月	AIMS Mol. Sci. 1, 1-26.
The putative implications of duplicated GGAA-motifs located in the human interferon regulated genes (ISGs)	共著	2013年5月	iConcept, Press Ltd., Genomics I-Humans, Animals and Plants, pp. 87-105
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
内海 文彰、田沼 靖一「Characterization of the 5' -flanking regions of the human TP53 and E2F4 genes and their response to Resveratrol」パシフィコ横浜		2014年9月26日	第73回日本癌学会学術総会
内海 文彰、小路 昂一郎、田沼 靖一「Characterization of the 5' -flanking region of the human TP53 gene and its response to Resveratrol」あいち健康プラザ		2014年6月27日	第37回日本基礎老化学会大会
III 学会および社会における主な活動			
平成年月～平成年月	特になし		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近 6 年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近 6 年間の代表的な著書・論文等、5 つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 微生物薬品化学	職名 嘱託助教	氏名 伊澤 真澄
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Functional analysis of hatomarubigin biosynthesis genes and production of a new hatomarubigin using a heterologous expression system.	共著	2014. 2	JOURNAL OF ANTIBIOTICS, 67(2)
Cloning and heterologous expression of the thioviridamide biosynthesis gene cluster from Streptomyces olivoviridis.	共著	2013. 11	APPLIED AND ENVIRONMENTAL MICROBIOLOGY, 79(22)
Indanostatin, a new neuroprotective compound from Streptomyces sp.	共著	2013. 12	JOURNAL OF ANTIBIOTICS, 66(12)
Actinopyrone D, a new downregulator of the molecular chaperone GRP78 from Streptomyces sp.	共著	2014. 12	JOURNAL OF ANTIBIOTICS, 67(12)
Mycolic acid-containing bacteria activate heterologous secondary metabolite expression in Streptomyces lividans.	共著	2015. 3	JOURNAL OF ANTIBIOTICS, accepted
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Prodigiosin類の環化遺伝子に関する研究		2015. 3	日本薬学会
Streptomyces sp. RAI364株が生産する二次代謝産物の研究		2015. 3	日本薬学会
III 学会および社会における主な活動			
平成年月～平成年月			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 分子病態学	職名 嘱託助教	氏名 伊豫田 拓也
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2011年より毎年 2014年	東京理科大学-早稲田塾連携「スーパー生命創薬化学ワークショップ」をオペレート。 オープンキャンパスにて模擬実習をオペレート。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Eukaryotic translation elongation factor 1A induces anoikis by triggering cell detachment.	共著	2012年 5月	Journal of Biological Chemistry, 2012, 287(19), 16037-16046.
Lysophosphatidic acid induces early growth response-1 (Egr-1) protein expression via protein kinase cdelta-regulated extracellular signal-regulated kinase (erk) and c-jun n-terminal kinase (jnk) activation in vascular smooth muscle cells.	共著	2012年 6月	Journal of Biological Chemistry, 2012, 287(27), 22635-22642.
Pretreatment of donor islets with the Na(+)/Ca(2+) exchanger inhibitor improves the efficiency of islet transplantation.	共著	2013年 8月	American Jouenal of Transplantation, 2013, 13(8), 2154-2160.
Tenascin-C-derived Peptide TNIIIA2 Highly Enhances Cell Survival and PDGF-dependent Cell Proliferation through Potentiated and Sustained Activation of Integrin alpha5/beta1.	共著	2014年 5月	Journal of Biological Chemistry, 2014, 289(25), 17699-17708.
A Novel Mechanism Underlying the Basic Defensive Response of Macrophages against Mycobacterium Infection.	共著	2014年 5月	Journal of Immunology, 2014, 192(9), 4254-4262.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
多糖複合フィルム上における線維芽細胞の接着・増殖挙動の解析		2014年 5月 30日	第63回高分子学会年次大会
細胞膜上に発現したタンパク質翻訳伸長因子 eEF1A の、腫瘍細胞の移動・浸潤・転移への関与		2014年 6月 5-7日	第46回日本結合組織学会学術大会/第61回マトリックス研究会大会・合同学術集会
タンパク質翻訳伸長因子 eEF1A の細胞膜発現機構と膜 eEF1A の生理的役割		2014年 6月 5-7日	第46回日本結合組織学会学術大会/第61回マトリックス研究会大会・合同学術集会
悪性腫瘍細胞の増殖および浸潤におけるオートファジーの役割		2014年 6月 5-7日	第46回日本結合組織学会学術大会/第61回マトリックス研究会大会・合同学術集会

テネascinC由来ペプチドはインテグリン活性化に基づいて神経膠芽腫細胞の増殖、移動能を過剰に増強する	2014年 6月 25-27日	第18回 日本がん分子標的治療学会
beta1インテグリン活性化ペプチド TNIIIA2 による神経芽腫細胞の分化促進	2014年 6月 25-27日	第18回 日本がん分子標的治療学会
テネascinC由来ペプチドによる細胞老化誘導およびその腫瘍形成・悪性化への関与	2014年 6月 25-27日	第18回 日本がん分子標的治療学会
がん細胞の悪性形質発現におけるオートファジーの役割	2014年 6月 25-27日	第18回 日本がん分子標的治療学会
コンドロイチン硫酸／キトサン複合フィルム上での細胞接着・増殖挙動の解析	2014年 7月 24日	第24回 バイオ・高分子シンポジウム
多糖複合フィルムへの線維芽細胞の接着性評価と制御方法の検討	2014年 7月 28日	第43回 医用高分子シンポジウム
beta1インテグリン活性化に基づく新規分化誘導療法に関する基礎的検討	2014年 9月 7日	第2回 MatriCell フォーラム
動脈硬化病態進展におけるテネascinC由来ペプチド	2014年 9月 7日	第2回 MatriCell フォーラム
テネascinC由来ペプチド TNIIIA2 による細胞老化誘導およびその腫瘍形成・悪性化への関与	2014年 9月 7日	第2回 MatriCell フォーラム
大腸発がんおよび大腸がんの悪性化進展におけるテネascinCの関与	2014年 9月 7日	第2回 MatriCell フォーラム
神経膠芽腫の悪性化に伴うテネascinCの関与およびそれに基づく新規治療法の提案	2014年 9月 7日	第2回 MatriCell フォーラム
熱プレス法により作製したコンドロイチン硫酸／キトサン複合フィルム上での細胞培養	2014年 9月 11日	第8回 バイオ関連化学シンポジウム
Role of the tenascin-C-derived peptide TNIIIA2 in the formation of atherosclerotic foam cell	2014年 9月 16-17日	The Fifth Indo-Japan International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asian Countries
Integrin activation by the tenascin C-derived peptide TNIIIA2 enhances proliferation and migration in glioblastoma cells	2014年 9月 16-17日	The Fifth Indo-Japan International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asian Countries
細胞膜上に発現したタンパク質翻訳伸長因子 eEF1A の腫瘍細胞移動・浸潤・転移への関与	2014年 10月 4日	第58回 日本薬学会関東支部大会
タンパク質翻訳伸長因子 eEF1A の細胞膜発現とその生理機構	2014年 10月 4日	第58回 日本薬学会関東支部大会
コンドロイチン硫酸／キトサンフィルムに対するNIH3T3細胞の接着性および増殖性評価	2014年 10月 15日	第4回 CSJ化学フェスタ
Cell adhesion-mediated drug resistance (CAM-DR) in acute myelogenous leukemia cells and its abrogation by the anti-adhesive peptide FNIIII4	2014年 10月 23日	第51回 ペプチド討論会
Role of the tenascin-C-derived peptide TNIIIA2 in the formation of atherosclerotic foam cell	2014年 10月 23日	第51回 ペプチド討論会
Interaction of Fibroblast with Polysaccharide Composite Films Obtained by Hot-Press Technique	2014年 12月 5日	The 10th International Polymer Conference
テネascinC由来ペプチド TNIIIA2 による細胞老化誘導およびその腫瘍形成・悪性化進展への関与	2014年 12月 8日	第5回 東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム・第12回 東京理科大学薬学 DDS 研究センターシンポジウム
テネascinC由来のペプチドはインテグリンの活性化を介して神経膠芽腫細胞の悪性化進展を増強する	2014年 12月 8日	第5回 東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム・第12回 東京理科大学薬学 DDS 研究センターシンポジウム

テネイシンCを介したマクロファージ機能調節と炎症関連病態の形成	2014年 12月 8日	第5回 東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム・第12回 東京理科大学薬学 DDS 研究センターシンポジウム
Behavior of Fibroblast and Tumor Cells on Chondroitin Sulfate C/Chitosan Composite Films	2014年 12月 12日	第24回日本MRS年次大会
テネイシン C 分子内領域による動脈硬化病態調節	2015年 3月 25-28日	日本薬学会第135年会
$\beta 1$	2015年 3月 25-28日	日本薬学会第135年会
	2015年 3月 25-28日	日本薬学会第135年会
	2015年 3月 25-28日	日本薬学会第135年会

Ⅲ 学会および社会における主な活動

平成20年4月～ 日本トランスポーター研究会 幹事

[注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。

4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。

5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 有機化学	職名 嘱託助教	氏名 岩田 倫太郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成25年4月～ 平成27年3月	有機化学実習、天然物化学実習等を通じて指導を行った。いずれも実験の授業であるため、特に、安全面への意識については厳しく指導した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Synthesis and properties of vitamin E analog- conjugated neomycin for delivery of RNAi drugs to liver cells	共 著	平成27年2月	BIOORGANIC & MEDICINAL CHEMISTRY LETTERS, 2015, 25, p815-819
Chimeric Antisense Oligonucleotide Conjugated to α-Tocopherol	共 著	平成27年1月	MOLECULAR THERAPY – NUCLEIC ACIDS. 2015, 4, e220
Synthesis and properties of double-stranded RNA-bindable oligodiaminogalactose derivatives conjugated with vitamin E	共 著	平成26年2月	BIOORGANIC & MEDICINAL CHEMISTRY, 2014, 22, p1394-1403
Synthesis and properties of cationic oligopeptides with different side chain lengths that bind to RNA duplexes	共 著	平成25年4月	BIOORGANIC & MEDICINAL CHEMISTRY, 2013, 21, p1717-1723
Synthesis of Oligodiaminosaccharides Having alpha-Glycoside Bonds and Their Interactions with Oligonucleotide Duplexes	共 著	平成23年6月	JOURNAL OF ORGANIC CHEMISTRY, 2011, 76, p5895-5906
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
Synthesis and Properties of Novel Oligocationic Peptides which Bind to A-type Nucleic Acid Duplexes		2013年11月	第50回ペプチド討論会及び 4th Asia-Pacific international Peptide Symposium
A型二重鎖核酸結合性オリゴジアミノガラクトースの合成とその性質		2014年3月	日本化学会第94春季年会
核酸医薬を標的とした新規カチオン性人工ペプチドの合成		2014年3月	日本化学会第94春季年会
RNA Duplex-Selective Binding of Oligodiaminogalactose Derivatives		2014年8月	XXI ROUND TABLE ON NUCLEOSIDES, NUCLEOTIDES AND NUCLEIC ACIDS
Properties of Cationic Peptides with Shorter Side Chain Lengths which Bind to A-Type Nucleic Acid Duplexes		2014年8月	XXI ROUND TABLE ON NUCLEOSIDES, NUCLEOTIDES AND NUCLEIC ACIDS

トコフェロール結合アンチセンスオリゴヌクレオチドの開発	2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
核酸医薬の高活性化を目指した新規カチオン性人工ペプチドの合成	2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
二重鎖型核酸医薬への応用を指向した人工オリゴジアミノ糖の開発	2014年9月	アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム2014
Double-stranded RNA binding properties of oligodiaminogalactose derivatives	2014年11月	The 41th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2014
Properties of Nucleic Acid Duplex Binding Peptides which Affect the Nuclease Activity	2014年11月	The 41th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2014
Synthesis and Properties of Guanidyl Group-containing Oligodiaminosaccharide Derivatives Binding to Nucleic Acid Duplexes	2014年11月	The 41th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2014
RNA二重鎖結合性分子とビタミンEを組み合わせたsiRNAキャリア分子の開発	2015年1月	第26回ビタミンE研究会
Leishmania 由来糖鎖構造を模倣した 2-フッ化糖 1-リン酸誘導体の合成	2015年3月	日本化学会第95春季年会
立体制御したホスホロチオエート型核酸とカチオン性人工ペプチドとの相互作用解析	2015年3月	日本化学会第95春季年会
グアニジル基を有するオリゴジアミノガラクトース誘導体の合成および核酸二重鎖との相互作用	2015年3月	日本化学会第95春季年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 臨床分析科学	職名 嘱託助教	氏名 小川 祥二郎
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年11月 20日-平成26年 12月19日	『医薬品合成化学実習』において、実験操作手順・注意点を解説した動画を作成・配信を行った。本教材は受講学生の事前学習資料として積極的に活用され、実習時間の短縮にも繋がった。	
2 作成した教科書、教材、参考書		特になし	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		特になし	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		特になし	
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Analysis of Urinary Vitamin D ₃ Metabolites by Liquid Chromatography/ Tandem Mass Spectrometry with ESI-enhancing and Stable Isotope-coded Derivatization	共 著	2014年10月	<i>Anal. Bioanal. Chem.</i> , 2014, 406 (26), 6647-6654.
Enantioselective Determination of Ibuprofen in Saliva by Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry with Chiral Electrospray Ionization-enhancing and Stable Isotope-coded Derivatization	共 著	2014年9月	<i>J. Pharm. Biomed. Anal.</i> , 2014, 98 (9), 387-392.
(S)-1-(4-Dimethylaminophenylcarbonyl)-3-aminopyrrolidine: A Derivatization Reagent for Enantiomeric Separation and Sensitive Detection of Chiral Carboxylic Acids by LC/ESI-MS/MS	共 著	2013年12月	<i>J. Chromatogr. B Analyt. Technol. Biomed. Life Sci.</i> , 2013, 940 , 7-14.
A Novel Cookson-type Reagent for Enhancing Sensitivity and Specificity in Assessment of Infant Vitamin D Status Using Liquid Chromatography/Tandem Mass Spectrometry	共 著	2013年11月	<i>Rapid Commun. Mass Spectrom.</i> , 2013, 25 (11), 2453-2460.
An Efficient Synthesis of 7 α ,12 α -Dihydroxy-4-cholesten-3-one And Its Biological Precursor 7 α -Hydroxy-4-cholesten-3-one: Key Intermediates in Bile Acid Biosynthesis	共 著	2013年9月	<i>Steroids</i> , 2013, 78 (9), 927-937.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
カルボン酸用新規ESI増強重水素標識試薬の合成とLCにおける同位体効果の評価		2015年3月	日本薬学会第135回年会
A method for determination of urinary vitamin D ₃ metabolites based on LC/ESI-MS/MS with ESI-enhancing and stable isotope-coded derivatization		2014年12月	14th Asia-Pacific International Symposium on Microscale Separations and Analysis

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成年月～平成年月	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 医療デザイン学	職名 嘱託助教	氏名 河野 弥生
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
注射剤・経口製剤に代わる新しい薬剤投与デバイスの開発	共著	2014年7月	技術情報協会
酪酸菌製剤によるwarfarin作用減弱が疑われた1例	共著	2014年6月	胸部外科(67巻・6号)
抗体医薬品の現状と課題-医療の現場より-	共著	2014年1月	薬剤学(74巻・1号)
Preparation and Characterization of Radiation-modified Hydrogel based on Methylcellulose, Hydroxypropylcellulose and Hydroxypropylmethylcellulose	共著	2013年11月	Proceedings of AAPS Annual Meeting 2013
Preparation and Evaluation of Taste Masked Orally Disintegrating Tablets with Granules Made by the Wet Granulation Method.	共著	2010年12月	YAKUGAKU ZASSHI(130巻)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
電子線架橋によるハイドロゲル製剤の調製と製剤素材としての可能性		2015年1月	TRセンター第1回公開セミナー/研究交流会
”患者に優しい製剤の開発”-大学から医療現場へ-		2014年11月	第20回創剤フォーラム若手研究会
湿式ビーズ粉碎による難溶性薬物の微粒子化		2014年12月	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム, 第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
特異値分解法を用いた保水性とゲル化能を持つキシログルカンの赤外線スペクトル定量法		2014年12月	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム, 第13回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
湿式ビーズ粉碎による難溶性薬物の微粒子化		2014年11月	第20回創剤フォーラム若手研究会

リボフラビンの光分解による共存薬物への影響	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
簡易懸濁法において安定な分散系を得るための分散媒の検討	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会
ロペラミドを用いた口内炎治療用口腔内フィルムの苦味マスキングとその調製	2014年9月	第24回医療薬学会年会
BP剤服用患者における服薬実態調査結果	2014年9月	第24回医療薬学会年会
フッ素コーティングガラスと医薬品の相互作用の検討（1）	2014年6月	医療薬学フォーラム2014
大腸癌切除術後の縫合部補強用粘膜付着製剤の調製	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
電子線架橋によるハイドロゲル製剤の調製と製剤素材としての可能性	2014年5月	日本薬剤学会第29年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成26年5月～現在	日本薬剤学会広報委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 生命情報科学	職名 嘱託助教	氏名 権 娟大
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Genome-wide analysis of long noncoding RNA turnover	共著	2015. 1	Methods in Molecular Biology, 1262:305~320
A novel evaluation measure for identifying drug targets from the biomedical literature	共著	2014. 6	IPSJ Transactions on Bioinformatics, 7:16-23
Detection of key residues involving functional divergence into the translation elongation Factor Tu/1A family using quantitative measurements for specific conservation of protein subfamilies	共著	2014. 1	Journal of Computer Science and Systems Biology, 7(2):54~61
A novel measure for finding disease-specific genes from the biomedical literature	共著	2013. 3	Quantum Bio-Informatics V: Proceedings of the Quantum Bio-Informatics 2011, 409-424
Two-way AIC: detection of differentially expressed genes from large scale microarray meta-dataset	共著	2013. 2	BMC Genomics, 14(S9):1-11
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
JADERを用いたデータマイニングによる骨折リスク分析		2015. 3	日本薬学会
タンパク質活性部位に相補的なアミノ酸対の情報科学的予測法の開発		2015. 3	日本薬学会
副作用データベースを用いた生物医学文献からの標的候補遺伝子抽出手法の評価		2014. 11	日本分子生物学会
MMP-3と相互作用するタンパク質のアミノ酸の同定		2014. 11	日本分子生物学会
翻訳伸長因子Tu/1A タンパク質ファミリーの機能部位の探索		2014. 11	日本分子生物学会
共進化解析を利用した分子間相互作用の予測		2014. 11	日本分子生物学会
Exploration of functional sites of the translation elongation factor Tu/1A protein family		2014. 10	情報計算化学生物学会
複数の構造を用いた多重配列アライメント上のサイトの評価		2014. 10	生物医薬情報学連合大会

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成年月～平成年月	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 衛生化学	職名 嘱託助教	氏名 櫻井 敏博
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	2014年6月～ 2014年7月	衛生学実習において、これまで作成されてこなかった講義資料を作製し、学生の学習意欲と理解度の向上を促した。	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
(論文)RNA-seq analysis of equine conceptus transcripts during embryo fixation and capsule disappearance.	共著	2014年12月	PLoS One (9:e2114414)
(論文)The localization of GATA2 in the nuclear and cytoplasmic regions of ovine conceptuses.	共著	2014年12月	Anim Sci J. (85:981-985)
(論文)Involvement of VCAM1 in the bovine conceptus adhesion to the uterine endometrium.	共著	2014年8月	Reproduction (148:119-127)
(論文)Establishment and characterization of immortalized bovine endometrial epithelial cells.	共著	2014年8月	Anim Sci J. (85:799-804)
(論文)Transcriptional Regulation of Two Conceptus Interferon Tau Genes Expressed in Japanese Black Cattle during Peri-Implantation Period.	共著	2013年11月	PLoS One (8:e80427)
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Ⅲ 学会および社会における主な活動			
平成年月～平成年月			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 生化学・分子生物学	職名 嘱託助教	氏名 佐藤 聡
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年 月 日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成26年4月16日～6月25日 平成26年9月1日～10月22日	生物化学実習1において、学生が効率的に実習が行えるようにテキストを作成し、学生の予習と復習を促すことで、実習内容の理解度を深めた。また、実習中は補足説明も積極的に行い、学生が自ら考え、実習に取り組むように促した。 生物化学実習2において、学生の理解度が深まるようにテキストを作成し、学生の予習と復習を促した。また、実習中は補足説明も積極的に行い、学生が自ら考え、実習に取り組むように促した。
2 作成した教科書、教材、参考書		2015年1月20日	PARP and Carcinogenesis. "PARP Inhibitors for Cancer Therapy" Springer International Publishing Switzerland
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			特記事項なし
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		平成21年6月20日、21日	第19回 薬剤師のためのワークショップ(中国・四国) in 福山に参加した。
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Stage specific activity of synthetic antimalarial endoperoxides, N-89 and N-251, against <i>Plasmodium falciparum</i> .	共著	2015年2月	Parasitology International 64, 113-117, 2015.
Role of Activating Transcription Factor 3 Protein ATF3 in Necrosis and Apoptosis Induced by 5-Fluoro-2'-deoxyuridine.	共著	2014年4月	FEBS Journal 281, 1892-1900, 2014.
New preclinical antimalarial drugs potently inhibit hepatitis C virus genotype 1b RNA replication.	共著	2013年8月	PLOS ONE 8, e72519, 2013.
Plasmodium falciparum endoplasmic reticulum-resident calcium binding protein is a possible target of synthetic antimalarial endoperoxides, N-89 and N-251.	共著	2012年12月	Journal of Proteome Research 11, 5704-5711, 2012.
Antimalarial Activity of Endoperoxide Compound 6-(1,2,6,7-Tetraoxaspiro[7.11]nonadec-4-yl)hexan-1-ol.	共著	2011年9月	Parasitology International 60, 270-273, 2011.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
佐藤 聡, 大見拓也, 山本朗央, 金 恵淑, 田沼 靖一, 綿矢 有佑. 「ネクロシスとアポトーシスの細胞死制御機構の解析」		2014年11月	第37回日本分子生物学会年会(神戸)
藤森浩彰, 佐藤 聡, 平井崇久, 菊原颯太, 岡安隆一, 原田博美, 村上康文, 益谷美都子. 「DNMT3Bは、DSB損傷応答を調節して放射線照射による細胞死を減少させる」		2014年11月	第37回日本分子生物学会年会(神戸)
菊原颯太, 藤森浩彰, 佐藤 聡, 穂積美幸, 伊藤 祐, 平井崇久, 村上康文, 益谷美都子. 「BACE1の機能阻害によるアポトーシス誘導と放射線増感作用」		2014年11月	第37回日本分子生物学会年会(神戸)
金 恵淑, 中村由香, 河本理沙, 金井 薫, 佐藤 聡, 綿矢有佑. 「難治性感染症の制御に関する基礎研究」		2014年10月	第87回日本生化学大会(京都)
真辺友香, 阿部英明, 佐藤 聡, 高澤涼子, 田沼靖一. 「UV照射による細胞死へのポリ(ADP-リボース)代謝の影響」		2014年10月	第87回日本生化学大会(京都)

小川夏実, 佐藤 聡, 吉森篤史, 高澤涼子, 田沼靖一. 「HMGB1/RAGE相互作用を阻害する新規低分子化合物の創製」	2014年10月	第87回日本生化学大会（京都）
田沼靖一, 阿部英明, 大山貴大, 吉森篤史, 佐藤 聡, 内海文彰, 益谷美都子. 「NAD ⁺ -ポリ(ADP-リボース)代謝を標的とした新規制がん剤の創製」	2014年10月	第87回日本生化学大会（京都）
Hye-Sook Kim, Chikako Imada, Makoto Kuramoto, Ken-ichi Ogawara, Akira Sato, Yusuke Wataya, Kazutaka Higaki. 「Improvement of oral absorption behavior of antimalarial candidate of N-251 by self-microemulsifying drug delivery system (SMEDDS) formulation」	2014年10月	2014 FIP BA/BE Symposium The International Pharmaceutical Federation (Korea)
今道祥二, 伊藤 祐, 佐藤 聡, 菊原颯太, 藤森浩彰, 平井崇久, 新井康仁, 今堀良夫, 伊丹 純, 村上康文, 小野公二, 増永慎一郎, 益谷美都子. 「BNCTに対する口腔がん及び悪性黒色種細胞株の応答性の検討」	2014年9月	第73回日本癌学会学術総会（横浜）
Hye-Sook Kim, Yuka Nakamura, Risa Komoto, Akira Sato, Yusuke Wataya, Daniel Adjei Boakye. 「Antimalarial Drug Development of Synthetic N-251 Compound as New Drug」	2014年8月	13th International Congress of Parasitology (ICOPAXIII) (Mexico)
今道祥二, 佐藤 聡, 伊藤 祐, 菊原颯太, 藤森浩彰, 平井崇久, 今堀良夫, 伊丹 純, 村上康文, 小野公二, 櫻井良憲, 田中浩基, 増永慎一郎, 益谷美都子. 「BNCTに対するがん細胞応答の網羅的遺伝子発現解析及びプロテオーム解析」	2014年7月	第11回日本中性子捕捉療法学会学術大会（大阪）
Akira Sato, Tasuku Itoh, Hiroaki Fujimori, Takahisa Hirai, Soichiro Saito, Yasuhito Arai, Yasufumi Murakami, Yoshio Imahori, Jun Itami, Hiroyuki Nakamura, Minoru Suzuki, Koji Ono, Shinichiro Masunaga, Mitsuko Masutani. 「Analysis of cell-death response and DAMPs after boron neutron capture reaction in human cancer cells」	2014年6月	16th International Congress on Neutron Capture Therapy (Finland)
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成年月～平成年月		
	特記事項なし	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 量子物理化学	職名 嘱託助教	氏名 島田 洋輔
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
後藤 了, 島田洋輔, 長田俊治, 創薬・創剤のための 分子科学-医薬品・タンパク質から量子論まで-	共著	2014年8月	廣川書店
Features of heat-induced amorphous complex between indomethacin and lidocaine.	共著	2013年2月	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces, (2013) 102, 590-596.
Yohsuke Shimada, Satoru Goto, Hiromi Uchiro, Keiji Hirota, Hiroshi Terada, Characteristics of amorphous complex formed between indomethacin and lidocaine hydrochlorid".	共著	2013年5月	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces, (2013) 105, 98-105.
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
Yohsuke Shimada, Kimiko Makino, Hiroshi Terada, and Satoru Goto, The entropy of fusion of indomethacin and lidocaine mixture from DSC measurement and computational chemistry		2014年8月	Computational Science Workshop (CSW2014)
Yohsuke Shimada, Satoru Goto, Hiromi Uchiro, Kimiko Makino, Keiji Hirota, and Hiroshi Terada, Solubilization effect of forming amorphous complex between indomethacin and lidocaine		2013年9月	2nd international postgraduate conference on pharmaceutical sciences (iPoPS2013)
III 学会および社会における主な活動			
平成25年4月～	日本油化学会 オレオナノサイエンス部会 幹事		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬物治療学	職名 嘱託助教	氏名 下村 斉
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24年11月14日 平成25年11月13日 平成26年11月13日	医療薬学実習の「治療薬物モニタリング」のLSにおいて、実際の業務に関与する病院薬剤師を外部講師として招き、実臨床を意識した実習を行った。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成24年11月14日 平成25年11月13日 平成26年11月13日	医療薬学実習の「治療薬物モニタリング」のLSにおいて、実臨床の症例をもとに学生の課題を作成した。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) 肺MAC症に対するフルオロキノロン系抗菌薬を含む新規レジメの可能性	単著	平成24年7月	ファルマシア vol. 48 No. 7
(論文) 抗酸菌症治療薬の薬物相互作用と用法用量設定に関する研究	共著	平成25年12月	化学療法研究所紀要 vol. 43
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
(演題名) 肺MAC症治療薬の薬物相互作用の経時的変化と治療効果に関する検討		平成26年4月	第54回日本呼吸器学会学術講演会
(演題名) 肺MAC症治療薬におけるクラリスロマイシンとフルオロキノロンの相互作用に関する研究		平成26年8月	日本病院薬剤師会関東ブロック第44回学術大会
Ⅲ 学会および社会における主な活動			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 分子病理・代謝学	職名 嘱託助教	氏名 須藤 結香
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年4月 ～平成27年3月	機能形態学実習及び生化学実習2において、個々の操作ごとにデモンストレーションを行う事で手技的理解を深め、またレポート以外に班ごとにディスカッション時間を設け、個々の学生の理解を把握出来るように工夫した	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Neurosteroids Allopregnanolone Sulfate and Pregnanolone Sulfate Have Diverse Effect on the α Subunit of the Neuronal Voltage-gated Sodium Channels Nav1.2, Nav1.6, Nav1.7, and Nav1.8 Expressed in Xenopus Oocytes.	共著	2014年9月	Anesthesiology. 121 (3):620-31.
Novel delta opioid receptor agonists with oxazatricyclodecane structure.	共著	2014年1月	ACS Med Chem Lett. 5 (4):368-72.
The endocannabinoid anandamide inhibits voltage-gated sodium channels Nav1.2, Nav1.6, Nav1.7, and Nav1.8 in Xenopus oocytes.	共著	2014年3月	Anesth Analg. 118 (3):554-62.
New cancer cachexia rat model generated by implantation of a peritoneal dissemination-derived human stomach cancer cell line.	共著	2014年2月	Am J Physiol Endocrinol Metab. 306 (4):E373-87.
History of the G Protein-Coupled Receptor (GPCR) Assays From Traditional to a State-of-the-Art Biosensor Assay.	共著	2014年12月	J Pharmacol Sci. 126 (4):302-9.
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
ROS-ASSOCIATED LYSOSOMAL DYSFUNCTION IMPAIRES AUTOPHAGY FLUX AND ADPOKINE PROFILE IN ADIPOCYTES		2014年6月	2014 Spring Conference of the Korean Society for Gerontology and The 13th Kprea-Japan Gerontologist Joint Meeting
Inhibition of autophagy by fatty acids in hepatocyte.		2014年6月	第37回基礎老化学会

Lipid metabolism in cancer cachexia and caloric restriction in adipose tissue, effects of Rikkunshito	2014年6月	第37回基礎老化学会
カロリー制限におけるSrebp1cを介したde novo 脂肪酸合成とミトコンドリアバイオジェネシス、酸化ストレスの関連	2014年10月	日本基礎老化学会・第36回日本基礎老化学会シンポジウム
カロリー制限による抗老化・寿命延長効果にSrebp-1が及ぼす影響	2014年12月	日本ミトコンドリア学会・第14回日本ミトコンドリア学会年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成年月～平成年月		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬品物理化学	職名 嘱託助教	氏名 竹内 一成
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年4月～6月 平成26年11月～12月	薬品物理化学実習において、実習手順に関する資料を事前に学生に配布し、学生の事前学習と実習時間の短縮化に寄与した。 分析化学実習2において、学生に実習計画書（事前レポート）を作成するよう指示を出し、学生の事前学習と実習時間の短縮化に寄与した。	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年4月 平成26年11月	平成26年度薬品物理化学実習 実習書 平成26年度分析化学実習2 実習書	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Estimation of crystallinity of trehalose dihydrate microspheres by usage of terahertz time-domain spectroscopy	共著	2012年9月	Journal of Pharmaceutical Sciences, 101, 3465-3472
Nondestructive analysis of structure and components of tablet coated with film by the usage of terahertz time-domain reflection spectroscopy	共著	2014年1月	Journal of Pharmaceutical Sciences, 103, 256-261
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
テラヘルツ時間領域反射分光法を利用したフィルムコーティング錠の非破壊検査		2014年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
金ナノ粒子のPEG修飾が与える生体内挙動への影響		2014年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
浸透圧ポンプ錠の薬物放出制御因子の解明		2014年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
薬物内包ナノ粒子とイオントフォレシスを組み合わせた経皮吸収製剤の開発		2014年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
ホウ素中性子捕捉療法（BNCT）を利用した肺がん治療用経肺投与製剤の開発		2014年7月30日	第30回日本DDS学界学術集会
Chemometric Application of Singular Value Decomposition (SVD) for the Simultaneous Analysis of Multicomponent spectra of UV/Vis, FTIR, THz-TDS, and XRPD		2014年8月20日～22日	Computational Science Workshop (CSW2014)

テラヘルツ時間領域反射分光法を利用したフィルムコーティング錠の非破壊検査	2014年9月5日	第65回コロイドおよび界面化学討論会
テラヘルツ時間領域分光法とX線回折法を利用したニフェジピン-ポリビニルピロリドン固体分散体の結晶化度の推定	2014年9月10日	日本油化学会第53回年会
Nondestructive analysis of structure and components of tablet coated with film by the usage of terahertz time-domain reflection spectroscopy	2014年9月16日	Fifth Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalant in Asian Countries
The effect of Am80 acid on inflammation in elastase-induced emphemsema	2014年9月16日	Fifth Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalant in Asian Countries
Determination of Live Mycobacterium tuberculosis by Quantitative PCR	2014年9月16日	Fifth Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalant in Asian Countries
Effecive antitumor activity of inhaled Lipid A nanalog combined with chemotherapeutic agent	2014年9月16日	Fifth Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalant in Asian Countries
特異値分解を用いた多成分混合系の非破壊的スペクトル解析法	2014年9月21日～24日	第8回分子科学討論会
テラヘルツ時間領域分光法とX線回折法を利用したニフェジピン-ポリビニルピロリドン固体分散体の結晶化度の推定	2014年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
二層型浸透圧錠の溶出特性と薬物放出機序の解明	2014年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
エストラジオール内包経皮吸収型ナノ粒子の開発と薬効評価	2014年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成26年9月3日～5日	第65回コロイドおよび界面化学討論会 実行委員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 衛生薬学	職名 嘱託助教	氏名 田畑 真佐子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成24、25年度 ～平成26年度	衛生薬学（公衆衛生分野の一部）講義において、事前課題・チェック課題の配信等による自主的学習の促進、評価 衛生薬学他、基礎実習における事前課題、結果の発表・討議形式による自主的学習の促進、評価	
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		OSCE学内評価者、学外評価者（H23）	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称
Pathological study for the effects of in utero and postnatal exposure to diesel exhaust on a rat endometriosis model.	共著	2011	J. Toxicol. Sci., 36(4) 493-498 (2011)
6.5 Induction of TNF Production by Macrophages, 「Bioassay and Bio-informatics - for Environmental Assessment and Medicinal Sciences-」	共著	2011	Kougaku-Tosho, Publishers, Ltd., Tokyo, Japan (ISBN 978-4-7692-0495-4) p145-150 (2011)
Nanoparticles transferred from pregnant mice to their offspring can damage the genital and cranial nerve systems.	共著	2009	J. Health Sci., 55(1) 95-102 (2009)
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
カーボンブラックナノ粒子曝露がN-3系多価不飽和脂肪酸欠乏食を摂取したマウスに及ぼす影響		平成26年9月19, 20日	フォーラム2014衛生薬学・環境トキシコロジー（日本薬学会）
銀ナノ粒子経口曝露による高脂肪食摂取マウス肝臓への影響		平成27年3月28日	日本薬学会135年会
III 学会および社会における主な活動			
平成年月～平成年月			

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「I 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「II 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「III 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 薬理学	職名 嘱託助教	氏名 恒岡 弥生
Ⅰ 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)	平成26年5月 平成26年10月 平成26年12月	パワーポイントを用いて見やすくした。 学生同士やTAと討論する時間を設け、講義内容の理解を深められるようにした。(実習)	
2 作成した教科書、教材、参考書	平成26年5月 平成26年10月 平成26年12月	複数の教科書から図を抜粋しプリントを作成した。小テストや講義中の質疑応答により、講義内容の理解を深められるようにした。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
Ⅱ 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
(論文) Developmental changes in action potential prolongation by K ⁺ -channel blockers in chick myocardium.	共著	平成23年1月	J Pharmacol Sci. 115(2):235-8.
(論文) Electrophysiological effects of the class Ic antiarrhythmic drug pilsicainide on the guinea-pig pulmonary vein myocardium.	共著	平成24年3月	J Pharmacol Sci. 118(4):506-11.
(論文) Electrical activity of the mouse pulmonary vein myocardium.	共著	平成24年7月	J Pharmacol Sci. 119(3):287-92.
(論文) Electrophysiological and pharmacological properties of the pulmonary vein myocardium.	共著	平成25年1月	Biol Pharm Bull. 36(1):2-7.
(論文) Epac1-dependent phospholamban phosphorylation mediates the cardiac response to stresses.	共著	平成26年4月	J Clin Invest. 124(6):2785-801
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
強制水泳試験を用いた釣藤散の抗うつ様作用の検討		平成26年10月	第131回薬理学会関東部会
高グルコースが神経細胞のPKAに与える影響		平成26年10月	第58回薬学会関東支部大会
Monosodium glutamate誘発肥満マウスの糖尿病発症過程におけるグルタミン酸受容体発現変化		平成26年10月	第58回薬学会関東支部大会
モルモット肺静脈心筋の細胞内Ca ²⁺ 依存性電氣的自発活動		平成26年9月	第23回日本バイオイメーシング学会学術集会
ラット肺静脈心筋の電気生理学的性質: 動静脈瘻の影響		平成26年8月	生体機能と創薬シンポジウム2014
モルモット肺静脈心筋において内向き整流性K ⁺ 電流抑制はCa ²⁺ 依存性電氣的自発活動を誘発させる		平成26年8月	次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2014

Ⅲ 学会および社会における主な活動	
平成年月～平成年月	

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 生物有機化学	職名 嘱託助教	氏名 久松 洋介
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)		東京理科大学-早稲田塾連携「スーパー生命創薬科学ワークショップ」(高校生を招待し合宿形式の創薬体験ワークショップ)を行った。	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称
Supramolecular Phosphatases Formed by the Self-Assembly of Bis(Zn2+-cyclen) Complex, Copper(II) and Barbitol Derivatives in Water (Cyclen = 1, 4, 7, 10-Tetraazacyclododecane)	共著	2014	Chemistry An Asian Journal, 9, 2831-2841.
Synthesis and Photochemical Properties of pH Responsive Tris-Cyclometalated Iridium(III) Complexes That Contain a Pyridine Ring on the 2-Phenylpyridine Ligand	共著	2014	Inorganic Chemistry, 53, 409-422.
A Unique pH-Responsive Supramolecular Gel from a Novel Quadruple Zwitterion which Responds to both Acid and Base	共著	2013	Angewandte Chemie International Edition, 52 12550-12554
Design and Synthesis of Luminescent Cyclometalated Iridium(III) Complex Having N,N-Diethylamino Group that Stains Acidic Intracellular Organelles and Induces Cell Death by Photoirradiation	共著	2012	Inorganic Chemistry, 51, 12697-12706
Design and Synthesis of Blue-Color Emitting Cyclometalated Iridium(III) Complexes Based on Regioselective Functionalization	共著	2011	European Journal of Inorganic Chemistry, 35, 5360-5369
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	
久松 洋介、渋谷 愛、鈴木 希美、田中 裕志、鈴木 利宙、安部 良、青木 伸 (ペプチドを連結したトリスシクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計・合成と細胞死誘導活性の評価)		2014年6月	日本ケミカルバイオロジ学会 第9回年会(岡山市)
久松 洋介、鈴木 希美、渋谷 愛、田中 裕志、犬飼 岳史、鈴木 利宙、安部 良、青木 伸 (ペプチドを導入したトリスシクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計・合成と生物活性評価)		2014年9月	第8回バイオ関連化学シンポジウム(岡山市)

久松 洋介、鈴木 希美、渋谷 愛、田中 裕志、犬飼 岳史、鈴木 利宙、安部 良、青木 伸（塩基性ペプチドを連結した水溶性トリスシクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計・合成と細胞死誘導活性の評価）	2014年9月	錯体化学会第64回討論会（東京都）
久松 洋介、鈴木 希美、渋谷 愛、田中 裕志、犬飼 岳史、鈴木 利宙、安部 良、青木 伸（塩基性ペプチドを導入した両親媒性トリスシクロメタレート型イリジウム(III)錯体の設計・合成と生物活性評価）	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会（東京都）
神戸 彩、久松 洋介、中川 朗宏、諸見里 真輔、青木 伸（pH依存的な発光特性を備えた赤色発光性シクロメタレート型イリジウム錯体の設計と合成および細胞死誘導活性評価）	2014年10月	第58回日本薬学会関東支部大会（東京都）
Yosuke Hisamatsu, Nozomi Suzuki, Ai Shibuya, Hiroshi Tanaka, Abdullah-Al Masum, and Shin Aoki（Design and Synthesis of Peptide-Conjugated Tris-cyclometalated Ir(III) Complexes for Staining and Cell Death Induction of Cancer Cells）	2014年11月	Vietnam Malaysia International Chemical Congress 2014（ハノイ）
久松 洋介、渋谷 愛、鈴木 希美、鈴木 利宙、安部 良、青木 伸（塩基性ペプチドを導入したカチオン性両親媒性トリスシクロメタレート型イリジウム錯体の細胞死誘導に関する構造活性相関とメカニズム解析）	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸市）
田中智博、西浦由希子、久松洋介、荒木力太、西道隆臣、安部良、青木伸「金属イオンおよび錯体によるホウ素クラスターの水中分解反応の発見と応用」	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸市）
澤本泰宏、田中智博、久保田昭、前田彩、梅澤雅和、久松洋介、玉井郁巳、坂口謙吾、青木伸「放射線増感剤Sulfoquinovosyl acylglycerol (SQAG) およびその誘導体の新合成ルートと放射線増感作用機構の解析」	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸市）
米田 翔、久松 洋介、宮澤 有哉、宮内 美樹、Mohd Zulkefeli、青木 伸（疎水性二核金属錯体と有機アニオンと銅イオンによる超分子の設計と合成およびホスファターゼ活性）	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸市）
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成年月～平成年月		

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 応用薬理学	職名 嘱託助教	氏名 堀江 一郎
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)	2014年12月 1日	専門職連携教育に関するFD講演会 受講	
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月(西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称
Genetic knockout and pharmacologic inhibition of NCX2 cause natriuresis and hypercalciuria	共著	2015年1月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 456(2), 670-675
Aquaporin 5 increases keratinocyte-derived chemokine expression and NF- κ B activity through ERK activation	共著	2014年6月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 448(4), 355-360
Effects of Krill-derived phospholipid-enriched n-3 fatty acids on Ca ²⁺ regulation system in cerebral arteries from ovariectomized rats	共著	2014年3月	Life Sciences, 100(1), 18-24
Anti-MUC1 antibody inhibits EGF receptor signaling in cancer cells	共著	2011年2月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 405(3), 377-381
Tumor necrosis factor- α decreases aquaporin-3 expression in DJM-1 keratinocytes	共著	2009年9月	Biochemical and Biophysical Research Communications, 387(3), 564-568
2. 学会発表(評価対象年度のみ)		発表年・月	学会名
骨髓由来免疫抑制細胞に対する十全大補湯および補中益気湯の作用		2015年3月	第88回日本薬理学会年会
Aquaporin-3発現増加物質による皮膚疾患治療に関する基礎的研究		2014年6月	第9回トランスポーター研究会年会
III 学会および社会における主な活動			
平成年月～平成年月			
平成27年1月～現在	和漢医薬学会・若手研究者の会 世話人		

- [注]
- 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
 - 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
 - 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
 - 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
 - 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧			
大学名 東京理科大学	講座名 DDS・製剤設計学	職名 嘱託助教	氏名 堀口 道子
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年 月 日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
2 作成した教科書、教材、参考書			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等	2014年11月 20日	第1回先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウムにて薬剤師教育に関する招待講演を行った。	
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)			
II 研究活動			
1. 著書・論文等の名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌 （巻・号数）等の名称
Pulmonary administration of Am80 regenerates collapsed alveoli	共著	2014年12月	JOURNAL OF CONTROLLED RELEASE 196号 154-160
Pulmonary administration of integrin-nanoparticles regenerates collapsed alveoli	共著	2014年8月	JOURNAL OF CONTROLLED RELEASE 187号 167-174
Rhythmic Control of the ARF-MDM2 Pathway by ATF4 Underlies Circadian Accumulation of p53 in Malignant Cells	共著	2013年4月	Cancer Research, 73巻 8号 2639-49
Stress-Regulated Transcription Factor ATF4 Promotes Neoplastic Transformation by Suppressing Expression of the INK4a/ARF Cell Senescence Factors	共著	2012年1月	Cancer Research, 72巻 2号 : 395-401
cAMP-response Element (CRE)-mediated Transcription by Activating Transcription Factor-4 (ATF4) Is Essential for Circadian Expression of the Period2 Gene	共著	2011年9月	Journal of Biological Chemistry, 286巻 37号 :32416-23
2. 学会発表（評価対象年度のみ）		発表年・月	学会名
新規肺胞再生治療薬の開発		2015年2月3日	がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン<ICTと人で繋ぐがん医療維新プラン>トランスレーショナルリサーチセミナー
肺気腫モデルマウスにおける阻害剤X封入リポソームの肺胞修復効果の検討		2014年12月8日	第5回東京理科大学総合研究機構 戦略的物質製剤学研究基盤センターシンポジウム、第12回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム

肺気腫モデルマウスにおけるVitaminX封入カチオン性リポソームの有用性の検討	2014年12月9日	第5回東京理科大学総合研究機構 戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第13回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
肺胞再生治療の実現に向けて	2014年12月10日	第5回東京理科大学総合研究機構 戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第14回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
PI3K阻害剤による肺がん細胞増殖抑制効果の検討	2014年12月11日	第5回東京理科大学総合研究機構 戦略的物理製剤学研究基盤センターシンポジウム、第15回東京理科大学薬学部DDS研究センターシンポジウム
難治性肺がん細胞モデルの確立と新規治療法の検討	2014年11月26日	第37回 日本分子生物学会年会
A clinical study on activity of NAMPT and SIRT1 gene expression in neutropenia with cancer chemotherapy	2014年11月15日	第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム (ycps2014)
Establishment of refractory lung cancer cell model and consideration of treatment for refractory lung cancer	2014年11月16日	第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム (ycps2015)
Pulmonary administration of curcumin prevents for B16F10 melanoma lung metastasis and invasion	2014年11月17日	第8回次世代を担う若手医療薬科学シンポジウム (ycps2016)
Factor X activity has daily rhythmicity in rats	2014年11月8日	第21回日本時間生物学会学術大会
薬学部の強みを生かして -研究マインドを有する医療人・医療ニーズを理解した研究者の育成-	2014年11月8日	第1回先導的薬剤師の未来像を考えるシンポジウム
スルファサラジンによる細胞増殖抑制効果の検討	2014年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会
肺気腫モデルマウスにおけるレチノイン酸の肺胞修復効果の検討	2014年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会
Glucagon-like Peptide-2の中樞移行性を目指した点鼻製剤の開発	2014年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会
新規ペプチドの粉末吸入製剤化とその評価	2014年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会
分化誘導剤と化学療法剤の併用による肺がんに対する新規治療法の検討	2014年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会
TNIIIA2ペプチドの新規COPD治療薬としての有用性の検討	2014年10月4日	第58回日本薬学会関東支部大会
Pulmonary administration of Am80 regenerates collapsed alveoli	2014年9月16日	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
The effect of Am80 acid on inflammation in elastase-induced emphysema	2014年9月16日	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries

Establishment of refractory lung cancer cell model and consideration of treatment for refractory lung cancer	2014年 9月16日	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
Development of a nasal formulation for the GLP-2 delivery to the brain	2014年 9月16日	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
Development of the new therapeutic drug for COPD	2014年 9月16日	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
Effects of a Retinoic Acid Derivative on Cell Growth Inhibition in Lung Cancer	2014年 9月16日	5th Indo-Japanese International Joint Symposium on Overcoming Intractable Infectious Diseases Prevalent in Asia Countries
Development of the New Compounds for Alveolus Reproduction	2014年 8月12日	3rd INTERNATIONAL POSTGRADUATE CONFERENCE ON PHARMACEUTICAL SCIENCES (iPoPS) 2014
レチノイン酸誘導体の肺がん細胞増殖抑制効果の検討	2014年 7月30日	第30回 日本DDS学会学術集会
肺がん幹細胞モデルの構築と新規肺がん治療法の検討	2014年 7月30日	第30回 日本DDS学会学術集会
インテグリンナノ粒子を用いた肺胞再生効果の検討	2014年 7月30日	第30回 日本DDS学会学術集会
GLP-2経鼻投与用製剤の中樞作用	2014年 7月5日	第130回日本薬理学会関東部会
レチノイン酸誘導体による肺がん細胞増殖抑制効果の検討	2014年 5月20日	日本薬剤学会第29年会
肺胞再生を目指した新規吸入剤の開発	2014年 5月20日	日本薬剤学会第29年会
肺がん幹細胞モデルの構築と新規肺がん治療法の検討	2014年 5月20日	日本薬剤学会第29年会
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成26年4月～平成27年3月	横浜市立大学 医学部 非常勤講師	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。

(基礎資料15) 専任教員の教育および研究活動の業績

教育および研究活動の業績一覧									
大学名	東京理科大学	講座名	環境健康学	職名	嘱託助教	氏名	吉田 映子		
I 教育活動									
教育実践上の主な業績				年 月 日		概 要			
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				平成26年4月～現在		担当した実習では、適宜板書を活用しながら、実験方法だけでなく、実験原理、実習内容の意義を説明し、学生の理解、実習内容の習得が向上するよう務めた。			
2 作成した教科書、教材、参考書				平成26年4月		衛生薬学実習テキスト 食品衛生の部 (東京理科大学薬学部)			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等						特になし			
4 その他教育活動上特記すべき事項 (FDを含む)						特になし			
II 研究活動									
1. 著書・論文等の名称				単著・共著の別		発行または発表の年月(西暦でも可)		発行所、発表雑誌(巻・号数)等の名称	
(論文) Detoxification of methylmercury by hydrogen sulfide-producing enzyme in Mammalian cells.				共著		2011年10月		Chem Res Toxicol, 2011, 24(10):1633-5.	
(論文) DNA microarray analysis of human neuroblastoma SH-SY5Y cells exposed to methylmercury.				共著		2011年12月		J Toxicol Sci, 2011, 36(6):843-5.	
(論文) Glutathione adduct of methylmercury activates the Keap1-Nrf2 pathway in SH-SY5Y cells.				共著		2014年10月		Chem Res Toxicol, 2014, 27(10):1780-6.	
(論文) Heparan sulfate chains potentiate cadmium cytotoxicity in cultured vascular endothelial cells.				共著		2014年11月		Arch Toxicol, 2012, 86(11), 1693-1702.	
2. 学会発表(評価対象年度のみ)						発表年・月		学会名	
田中美帆, 栗田賢, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, 培養ヒト脳微小血管内皮細胞の線溶系に対するメチル水銀の毒性発現						2014年9月		フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー(つくば)	
笹岡智子, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, メチル水銀に曝露した培養ヒト脳微小血管周皮細胞におけるアルドース還元酵素の発現誘導						2014年9月		フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー(つくば)	
櫻井健太, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, メチル水銀による培養ヒト脳微小血管周皮細胞のVEGF発現誘導メカニズム						2014年9月		フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー(つくば)	
下村正裕, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, TGF-β1による血管内皮細胞の亜鉛輸送体ZIP8の発現上昇						2014年9月		フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー(つくば)	
上原茜, 吉田映子, 山本千夏, 鍛冶利幸, カドミウムの内皮細胞毒性に対する亜鉛の防御機構への金属輸送体発現の関与						2014年9月		フォーラム2014: 衛生薬学・環境トキシコロジー(つくば)	
吉田映子, 鍛冶利幸, メチル水銀による脳微小血管組織の透過性亢進に関わるVEGF発現誘導メカニズム						2014年12月		環境省・メチル水銀ミーティング(東京)	
原崇人, 吉田映子, 藤原泰之, 山本千夏, 鍛冶利幸, 内皮細胞のピグリカンはTGF-βシグナルを介してシンデカン-4の発現を抑制する						2015年3月		日本薬学会第135年会(神戸)	

藤江智也，中寛史，吉田映子，藤原泰之，山本千夏，鍛冶利幸，銅錯体による血管内皮細胞のメタロチオネイン発現誘導機構解析	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸）
吉田映子，櫻井健太，山本千夏，鍛冶利幸，培養ヒト脳周皮細胞におけるメチル水銀のVEGF発現誘導メカニズム	2015年3月	日本薬学会第135年会（神戸）
Ⅲ 学会および社会における主な活動		
平成年26月7月～現在	第42回日本毒性学会学術年会 年会事務局員	

- [注] 1 各教員ごとに最近6年間の教育活動、研究活動、学会等および社会活動について作成してください。
- 2 基本的に同様の内容であれば、大学独自の様式で作成した業績一覧を提出することができます。
- 3 「Ⅰ 教育活動」は、各項目ごとに年月日順に記入してください。
- 4 「Ⅱ 研究活動」は、最近6年間の代表的な著書・論文等、5つを記入してください。
- 5 「Ⅲ 学会および社会における主な活動」は、就任年月日順に記入してください。